

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第565集

しもなか い  
下中居 I・II 遺跡発掘調査報告書

中山間地域総合整備事業関連遺跡発掘調査

2011

岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター

(財)岩手県文化振興事業団

# 下中居 I・II 遺跡発掘調査報告書

中山間地域総合整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、中山間地域総合整備事業「中居地区」に関連して平成20年度に行われたⅠ・Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代前期後半から中期前半にかけての集落跡、中世末～近世初頭の集落跡、近世墓塚群、採掘跡などが見つかりました。このうち縄文時代の遺構は、住居跡やフラスコ状土坑などが確認されました。本県において、同時期の遺跡は多数存在します。主な調査事例として、盛岡市上八木田遺跡、田野畑村和野Ⅰ遺跡、花巻市天神ヶ丘遺跡、同高畑遺跡、北上市滝ノ沢遺跡、同鳩岡崎遺跡、奥州市宍生寺跡、同大中田遺跡、同大清水上遺跡などが挙げられます。これらの遺跡との比較検討によって、当該期の様相がさらに明らかになっていくことと期待しております。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました県南広域振興局農政部北上農村整備センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成23年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 池田 克典

## 例 言

- 1 本報告書は、花巻市大迫町字外川日第28地割125-1ほかに所在する下中居Ⅰ遺跡と、岩手県花巻市大迫町字外川日第28地割132-1ほかに所在する下中居Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、中山間地域総合整備事業「中居地区」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室（現岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センター）との協議を経て、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の調査成果の概略は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第564集「平成20年度発掘調査報告書」に公表しているが、本書の内容を優先するものとする。
- 4 本遺跡の岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード番号並びに遺跡略号は以下の通りである。  
下中居Ⅰ遺跡 MF00-1013/SNIⅠ-08  
下中居Ⅱ遺跡 MF00-1025/SNIⅡ-08
- 5 発掘調査期間・調査面積（調査対象面積）・調査担当者は、以下のとおりである。  
調査期間 平成20年7月1日～11月17日  
調査面積 下中居Ⅰ遺跡 3,490㎡（本調査区 3,160㎡、確認調査区 330㎡）  
下中居Ⅱ遺跡 560㎡（本調査区 320㎡、確認調査区 240㎡）  
整理期間 平成20年11月1日～平成21年3月31日  
平成21年4月1日～平成21年6月30日  
担当者 米田 寛・佐藤里恵
- 6 野外調査での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は当センター写真撮影を専門とする写真撮影技師が担当した。
- 7 本報告書の執筆はⅠ-1を岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センター、Ⅳ-2-(5)を佐藤、その他のⅡ～Ⅷを米田が担当し、編集・校正は米田が行った。
- 8 出土遺物の鑑定・分析及び業務委託は次の機関に委託した。  
放射性炭素年代測定……………株式会社 加速器分析研究所  
種子化石同定分析……………古代の森研究会  
黒曜石産地同定分析……………株式会社 第四紀地質研究所  
石質鑑定……………花崗岩研究会
- 9 発掘調査・整理作業・報告書作成にあたって以下の方々に御教示・御協力をいただいた。（敬称略）  
中村良幸、千葉 悟、高橋信一郎、菊池 賢（花巻市教育委員会）、千葉正彦（岩手県教育委員会）、神原雄一朗（盛岡市教育委員会）
- 10 本報告書に掲載した地図は、以下の通りである。  
国土交通省国土地理院 1：25,000地形図「大川日」（NK-54-18-7-2）
- 11 本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。



# 目 次

## I 調査に至る経過

- 1 調査経緯 ..... 1
- 2 調査経過 ..... 1

## II 立地と環境

- 1 遺跡の位置 ..... 2
- 2 地理的環境 ..... 2
- 3 歴史的環境 ..... 5
- 4 基本層序 ..... 11

## III 調査方法

- 1 発掘調査の方法 ..... 14
- 2 整理作業の方法 ..... 14
- 3 記載方法と凡例 ..... 15

## IV 下中居 I 遺跡

- 1 概 要 ..... 17
- 2 遺 構
  - (1) 縄文時代の遺構 ..... 17
  - (2) 中世～近世初頭の遺構 ..... 38
  - (3) 近世以降の遺構 ..... 41
  - (4) 時期不明の遺構 ..... 55
- 3 遺 物
  - (1) 縄文土器 ..... 62
  - (2) 土製品 ..... 63
  - (3) 石器 ..... 63
  - (4) 石製品 ..... 64
  - (5) 中世以降の遺物 ..... 64

## V 下中居 II 遺跡

- 1 概 要 ..... 103
- 2 遺 構 ..... 103

3 遺 物	
(1) 縄 文 土 器 .....	110
(2) 土 製 品 .....	111
(3) 石 器 .....	111
(4) 石 製 品 .....	112

## VI 自然科学的分析

1 目的と方法 .....	193
2 下中居 I・II 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定) .....	194
3 下中居 I 遺跡より出土した炭化種実 .....	197
4 下中居 I 遺跡出土の黒曜石産地同定 .....	198

## VII ま と め

1 成 果 概 要 .....	201
2 遺 構 .....	201
3 遺 物 .....	205
報 告 書 抄 録 .....	331

## 図版目次

第1図	遺跡位置図	3	第43図	出土土器 (13)	77
第2図	地形分類図	4	第44図	出土土器 (14)	78
第3図	周辺遺跡分布図	6	第45図	出土土器 (15)	79
第4図	基本土層柱状図	12	第46図	出土土製品 (1)	80
第5図	グリッド設定図	18	第47図	出土土器 (1)	81
第6図	下中居Ⅰ遺跡遺構配置図 (1)	19	第48図	出土土器 (2)	82
第7図	下中居Ⅰ遺跡遺構配置図 (2)	20	第49図	出土土器 (3)	83
第8図	1号竪穴住居跡	21	第50図	出土土器 (4)	84
第9図	2号竪穴住居跡	23	第51図	出土土器 (5)	85
第10図	3号竪穴住居跡	25	第52図	出土土器 (6)	86
第11図	4号竪穴住居跡	27	第53図	出土土器 (7)、土製品 (1)	87
第12図	5号竪穴住居跡	28	第54図	中世以降の遺物	88
第13図	1～3号土坑	34	第55図	下中居Ⅱ遺跡遺構配置図	105
第14図	4～8号土坑	35	第56図	土層断面図	106
第15図	9～14号土坑	36	第57図	出土土器重量分布図 (1)	107
第16図	15～17号土坑、1・2号焼土遺構	37	第58図	出土土器重量分布図 (2)	108
第17図	1号竪穴建物跡	38	第59図	出土土器重量分布図 (3)	109
第18図	2号竪穴建物跡	39	第60図	出土土器 (16)	113
第19図	3号竪穴建物跡	40	第61図	出土土器 (17)	114
第20図	1号掘立柱建物跡	41	第62図	出土土器 (18)	115
第21図	2号掘立柱建物跡、1号柱穴列	42	第63図	出土土器 (19)	116
第22図	1～6号近世墓壇	45	第64図	出土土器 (20)	117
第23図	7～12号近世墓壇	46	第65図	出土土器 (21)	118
第24図	18・19号土坑	48	第66図	出土土器 (22)	119
第25図	1～4号探掘坑	52	第67図	出土土器 (23)	120
第26図	5～8号探掘坑	53	第68図	出土土器 (24)	121
第27図	9号探掘坑	54	第69図	出土土器 (25)	122
第28図	20～25号土坑	59	第70図	出土土器 (26)	123
第29図	26～31号土坑	60	第71図	出土土器 (27)	124
第30図	32～38号土坑	61	第72図	出土土器 (28)	125
第31図	出土土器 (1)	65	第73図	出土土器 (29)	126
第32図	出土土器 (2)	66	第74図	出土土器 (30)	127
第33図	出土土器 (3)	67	第75図	出土土器 (31)	128
第34図	出土土器 (4)	68	第76図	出土土器 (32)	129
第35図	出土土器 (5)	69	第77図	出土土器 (33)	130
第36図	出土土器 (6)	70	第78図	出土土器 (34)	131
第37図	出土土器 (7)	71	第79図	出土土器 (35)	132
第38図	出土土器 (8)	72	第80図	出土土器 (36)	133
第39図	出土土器 (9)	73	第81図	出土土器 (37)	134
第40図	出土土器 (10)	74	第82図	出土土器 (38)	135
第41図	出土土器 (11)	75	第83図	出土土器 (39)	136
第42図	出土土器 (12)	76	第84図	出土土器 (40)	137

第85回	出土土器(41)	138
第86回	出土土器(42)	139
第87回	出土土器(43)	140
第88回	出土土器(44)	141
第89回	出土土器(45)	142
第90回	出土土器(46)	143
第91回	出土土器(47)	144
第92回	出土土器(48)	145
第93回	出土土器(49)	146
第94回	出土土器(50)	147
第95回	出土土器(51)	148
第96回	出土土器(52)	149
第97回	出土土器(53)	150
第98回	出土土器(54)	151
第99回	出土土器(55)	152
第100回	出土土製品(2)	153
第101回	出土土器(8)	154

第102回	出土土器(9)	155
第103回	出土土器(10)	156
第104回	出土土器(11)	157
第105回	出土土器(12)	158
第106回	出土土器(13)	159
第107回	出土土器(14)	160
第108回	出土土器(15)	161
第109回	出土土器(16)	162
第110回	出土土器(17)	163
第111回	出土土器(18)	164
第112回	出土土器(19)	165
第113回	出土土器(20)	166
第114回	出土土器(21)	167
第115回	出土土器(22)、石製品(2)	168
第116回	黒斑とスス・コゲの分布(1)	208
第117回	黒斑とスス・コゲの分布(2)	209

## 表 目 次

表1	周辺の遺跡一覧表	8
表2	下中居Ⅰ遺跡土器観察表	89
表3	下中居Ⅰ遺跡土製品観察表	100
表4	下中居Ⅰ遺跡石器・石製品観察表	100
表5	下中居Ⅰ遺跡中世以降の遺物観察表	102
表6	下中居Ⅱ遺跡土器観察表	169
表7	下中居Ⅱ遺跡土製品観察表	185
表8	下中居Ⅱ遺跡石器・石製品観察表	185

## 写真図版目次

写真図版1	遺跡全景航空写真	213
写真図版2	調査区全景航空写真(1)	214
写真図版3	調査区全景航空写真(2)	215
写真図版4	1号壑穴住居跡(1)	216
写真図版5	1号壑穴住居跡(2)	217
写真図版6	1号壑穴住居跡(3)	218
写真図版7	1号壑穴住居跡(4)	219
写真図版8	2号壑穴住居跡(1)	220
写真図版9	2号壑穴住居跡(2)	221
写真図版10	2号壑穴住居跡(3)	222
写真図版11	3号壑穴住居跡(1)	223
写真図版12	3号壑穴住居跡(2)	224
写真図版13	3号壑穴住居跡(3)	225
写真図版14	4号壑穴住居跡(1)	226
写真図版15	4号壑穴住居跡(2)	227
写真図版16	5号壑穴住居跡(1)	228
写真図版17	5号壑穴住居跡(2)	229
写真図版18	1~4号土坑	230
写真図版19	5~8号土坑	231
写真図版20	9・10号土坑	232
写真図版21	11~14号土坑	233
写真図版22	15・16号土坑	234
写真図版23	17号土坑、1・2号焼上遺構	235
写真図版24	1号壑穴建物跡	236
写真図版25	2号壑穴建物跡	237
写真図版26	3号壑穴建物跡(1)	238
写真図版27	3号壑穴建物跡(2)	239
写真図版28	1号掘立柱建物跡(1)	240
写真図版29	1号掘立柱建物跡(2)	241
写真図版30	2号掘立柱建物跡(1)、1号柱穴列	242

写真図版31	近世墓群	243	写真図版75	出土遺物 (18)	287
写真図版32	1~4号近世墓墳	244	写真図版76	出土遺物 (19)	288
写真図版33	5~8号近世墓墳	245	写真図版77	出土遺物 (20)	289
写真図版34	9~12号近世墓墳	246	写真図版78	出土遺物 (21)	290
写真図版35	18・19号土坑、1・2号探掘坑	247	写真図版79	出土遺物 (22)	291
写真図版36	3~7号探掘坑	248	写真図版80	出土遺物 (23)	292
写真図版37	9号探掘坑	249	写真図版81	出土遺物 (24)	293
写真図版38	20~23号土坑	250	写真図版82	出土遺物 (25)	294
写真図版39	24~27号土坑	251	写真図版83	出土遺物 (26)	295
写真図版40	28~31、34号土坑	252	写真図版84	出土遺物 (27)	296
写真図版41	35~38号土坑	253	写真図版85	出土遺物 (28)	297
写真図版42	柱穴 (1)	254	写真図版86	出土遺物 (29)	298
写真図版43	柱穴 (2)	255	写真図版87	出土遺物 (30)	299
写真図版44	柱穴 (3)	256	写真図版88	出土遺物 (31)	300
写真図版45	柱穴 (4)	257	写真図版89	出土遺物 (32)	301
写真図版46	柱穴 (5)	258	写真図版90	出土遺物 (33)	302
写真図版47	柱穴 (6)	259	写真図版91	出土遺物 (34)	303
写真図版48	柱穴 (7)	260	写真図版92	出土遺物 (35)	304
写真図版49	北京調査区、現地公開	261	写真図版93	出土遺物 (36)	305
写真図版50	下中層Ⅱ遺跡全景	262	写真図版94	出土遺物 (37)	306
写真図版51	1号捨て場 (1)	263	写真図版95	出土遺物 (38)	307
写真図版52	1号捨て場 (2)	264	写真図版96	出土遺物 (39)	308
写真図版53	1号捨て場 (3)	265	写真図版97	出土遺物 (40)	309
写真図版54	1号捨て場 (4)	266	写真図版98	出土遺物 (41)	310
写真図版55	1号捨て場 (5)	267	写真図版99	出土遺物 (42)	311
写真図版56	1号捨て場 (6)	268	写真図版100	出土遺物 (43)	312
写真図版57	1号捨て場 (7)	269	写真図版101	出土遺物 (44)	313
写真図版58	出土遺物 (1)	270	写真図版102	出土遺物 (45)	314
写真図版59	出土遺物 (2)	271	写真図版103	出土遺物 (46)	315
写真図版60	出土遺物 (3)	272	写真図版104	出土遺物 (47)	316
写真図版61	出土遺物 (4)	273	写真図版105	出土遺物 (48)	317
写真図版62	出土遺物 (5)	274	写真図版106	出土遺物 (49)	318
写真図版63	出土遺物 (6)	275	写真図版107	出土遺物 (50)	319
写真図版64	出土遺物 (7)	276	写真図版108	出土遺物 (51)	320
写真図版65	出土遺物 (8)	277	写真図版109	出土遺物 (52)	321
写真図版66	出土遺物 (9)	278	写真図版110	出土遺物 (53)	322
写真図版67	出土遺物 (10)	279	写真図版111	出土遺物 (54)	323
写真図版68	出土遺物 (11)	280	写真図版112	出土遺物 (55)	324
写真図版69	出土遺物 (12)	281	写真図版113	出土遺物 (56)	325
写真図版70	出土遺物 (13)	282	写真図版114	出土遺物 (57)	326
写真図版71	出土遺物 (14)	283	写真図版115	出土遺物 (58)	327
写真図版72	出土遺物 (15)	284	写真図版116	出土遺物 (59)	328
写真図版73	出土遺物 (16)	285	写真図版117	出土遺物 (60)	329
写真図版74	出土遺物 (17)	286	写真図版118	出土遺物 (61)	330

## I 調査に至る経過

### 1 調査経緯

下中居Ⅰ並びに下中居Ⅱ遺跡は、「中山間地域総合整備事業中居地区」のは場整備に伴い、その事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。本地区は花巻市大迫総合支所の東南東約2キロメートルに位置している。現況農地は、小区画不整形であるうえに耕作道路の幅員も狭小であることから、効率的な農作業が出来ない状況である。また、現況水路は、老朽化による漏水で用水不足が生じている他、堆積土砂の撤去等維持管理にも支障を来たしている状況にある。このため、区画整理（A=20.6ha）を行い、農作業の効率化及び生産性の向上を図る。また、漏水が著しい農業用水路を整備（L=2.1km）し、用水不足の解消や維持管理の節減を図るものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、県南広域振興局農林部農村整備室から平成19年6月8日付け花総農整第116-5号、平成19年10月9日付け花総農整第116-8号、平成19年11月2日付け花総農整第116-10号「中山間地域総合整備事業中居地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に試掘調査依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成19年7月17・18日、10月26・29日、11月15・16・29・30日の延べ8日間試掘調査を実施した。この結果、埋蔵文化財が確認されたことから、発掘調査が必要になる旨を平成19年12月10日付け教生第1072号「中山間地域総合整備事業中居地区における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答してきた。

このため、農村整備室より平成20年2月21日付け花総農整第116-24号「埋蔵文化財保護に係る工法協議について」により、保護盛土工法による箇所と発掘調査による箇所について協議を行った。この回答が平成20年3月4日付け教生第1426号「埋蔵文化財保護に係る工法協議について」により、調整を経て、平成20年6月26日付けで当農村整備室と財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

なお、岩手県南広域振興局農林部農村整備室は、岩手県広域振興局再編に伴い、平成22年度より岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センターとして事業継続がなされている。

（岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センター）

### 2 調査経過

発掘調査は平成20年7月1日から開始した。総調査面積4050㎡のうち、下中居Ⅰ遺跡が3490㎡（本調査区3160㎡ 確認調査区330㎡）、下中居Ⅱが560㎡（本調査区320㎡ 確認調査区240㎡）である。調査は台風などの自然災害を被ることもなく進展した。10月18日（土）には地元住民・県民向けに現地公開を行った。10月22日には県教育委員会生涯学習文化課による終了確認検査を受けた。当初の予定よりも多くの遺構・遺物が確認されたため、調査期間を11月12日まで延長した。11月12日に遺物などの調査資料や掘削道具の撤収作業を行った。11月17日にプレハブ及び駐車場として借地した土地の現状復旧を行い、野外調査を終了した。

（米田）

## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置

下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡は岩手県花巻市大迫町外川目地内に所在する。いわゆる平成の大合併により、大迫町は平成18年1月1日に花巻市大迫町となった。大迫町は北を盛岡市、川井村、紫波町、東を遠野市、南を旧宮守村、旧東和町、西を旧石鳥谷町と接する。面積は246.27㎡で北東部に高山植物の名勝として有名な早池峰山（標高1,914m）がそびえる。

大迫町は近世に花巻街道や遠野街道沿いの宿場町としても栄えた。現在はブドウやリンゴをはじめとする果樹栽培で有名であるが、稲作、畑作等も行われている。

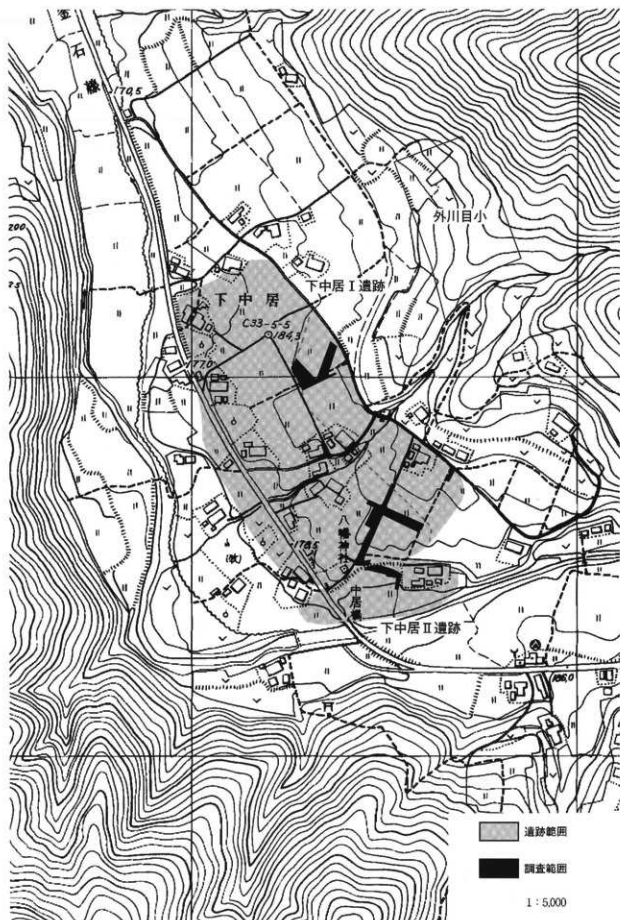
本書で報告する2遺跡は、大迫町外川目小学校の限前に広がっている（第1図）。花巻市大迫町総合文所からは東南東約2kmに位置し、中居川東岸の河岸段丘面上に所在する。現況では水田や畑が広がっている。周辺住民によれば、昭和17年ごろから数年かけて住民総出でほ場整備を行い、現在の環境になったという。

### 2 地理的環境

大迫町は典型的な山間地で、旧町域の約7割が山林で、田・畑の面積は合計しても1割にも満たない（早池峰ダム水没地区民俗調査グループ1990）。旧町内には多数の河川が存在する。北東にそびえる早池峰山系から注ぐ小河川が岳川、中居川に集まり、さらにそれぞれ2河川が合流して種賢川を形成する。これら河川によって形成された河岸段丘上のわずかな平地や緩斜面地に集落や水田などが形成されている。

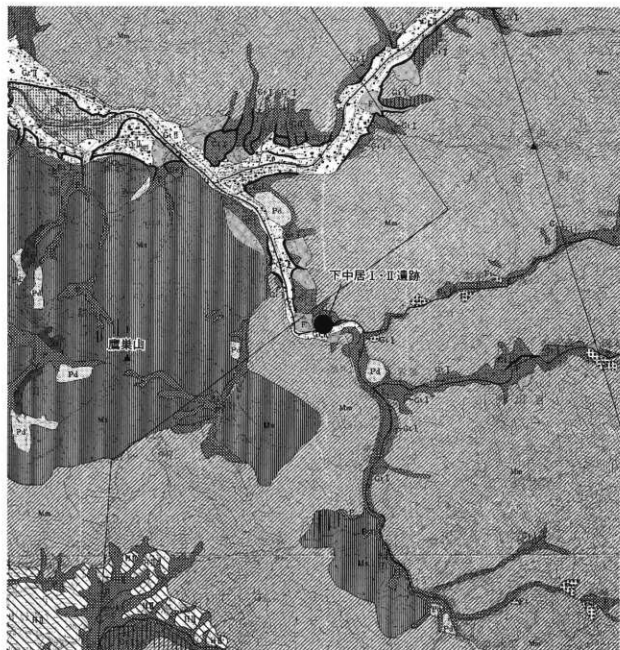
大迫町は早池峰構造帯が東西に走る地域であり、表層地質は、早池峰構造帯によって隔てられる北部北上帯と、南部北上帯に分けられる。早池峰構造帯を挟む北上古生層は、玄武岩、チャート、珪長質凝灰岩を主体とし、蛇紋岩、泥岩が混在する。早池峰構造帯に位置する早池峰山の中腹以上は中生代の蛇紋岩が分布し、南部・北部北上帯に位置する中腹とそれ未満では、古生代の凝灰岩や泥岩（粘板岩や頁岩含む）が分布の主体である。また、早池峰山の南に対峙する薬師岳から遠野方向にかけては中生代の花崗岩層が広がっている。これらの岩石は石器石材として遺跡内に搬入され、利用されている。利用率としては、古生層起源の凝灰岩、泥岩、頁岩などが高い。

さて、早池峰構造帯で特徴的なのは蛇紋岩帯である。超塩基性岩石である蛇紋岩は、中部日本を縦断するフォッサマグナ帯でも産出し、ヒスイ産地の新潟県糸魚川付近の富山県・長野県北などで石斧や装飾品の素材として先史時代以来利用されている。このフォッサマグナ帯と類似する岩帯が早池峰山腹に展開している。早池峰山腹から流出した蛇紋岩円礫や並角礫は、旧大迫町内の小河川上流域で採取可能である。本県の縄文時代遺跡において、蛇紋岩は石斧や磨石などに利用されている。特に縄文時代後晩期には一関市川崎町河崎の棚敷地など県南部にも流通していることが確認されている。また、早池峰山頂部には、いわゆる軟玉が産出する場所があるという。これらは縄文時代中期に早池峰山周辺地域で流通していたようで、比重の重いヒスイ製の玉類に比べて軽く、加工も容易である。早池峰産軟玉は、岩泉町森の越遺跡、盛岡市柿ノ木平遺跡出土資料など、大木8式期に流通した可能性があるという（註1）。

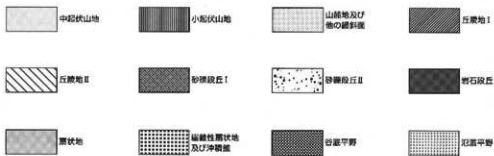


第1図 遺跡位置図





1 : 50,000



第2図 地形分類図

ところで、大迫町内では、古生層中や蛇紋岩に胚胎する金鉱床が分布している。これらが、河川によって運ばれ、砂礫段丘に堆積している。そして、砂礫層下部や基盤層との境界に比重の重い金が溜り、金坑脈が形成される。これらを狙って中世末ごろから、さかんに金採掘がおこなわれたとの伝承がある。本遺跡においては8ヵ所の採掘坑が確認された。住民の方々によれば、陥没した採掘坑を多数埋め立てたことがあるという。したがって、下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査区外においても、無数の採掘坑があるものと考えられる。

遺跡範囲およびその周辺地形は、①中居川、②中居川東岸の低位砂礫段丘面（下中居Ⅱ遺跡が立地する標高172～175mの範囲）、③高位砂礫段丘面（下中居Ⅱ遺跡が立地する標高180～190mの範囲）、④小起伏山地となる。②・③の段丘面上には水田・畑作地帯が広がり、宅地が点在する。また、②・③の砂礫段丘に採掘坑が多数掘削されている。④の表層は花崗岩層である。

### 3 歴史的環境

下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡の周囲には多くの遺跡が所在する。このうち主に花巻市大迫町内の発掘調査遺跡と外川目地区内の遺跡について概観する（第1表、第3図）。

#### (1) 旧石器・縄文時代

旧石器時代としては風穴洞穴がある。指標となる石器は出土していないが、第4層下部から出土したゾウ化石大腿骨の放射性炭素年代測定によって、約18,000BPの後期旧石器時代の最終水河期最寒冷期に属することが明らかとなった。較正プログラムCALIB1rev4.3による暦年代は、19,950～19,270calBCで、今から約21,000年前の値が得られている。4層下部ではニホンザル、ノウサギ、ムササビ、ヤマネズミ属、ハタネズミ属、タヌキ、ツキノワグマ、イタチ、アナクマ属、ゾウ科、シカ属など多量の動物化石が出土し、花泉動物層群との比較が行われており、岩手県内における旧石器時代の動物資源構造を検討するうえで欠くことのできない遺跡である。

縄文時代として登録されている遺跡は160ヵ所を越え、旧大迫町内のほとんどの遺跡と言っても過言ではない。発掘調査が行われた遺跡も縄文時代遺跡が大半である。

早期の遺跡としては御堂鼻遺跡と上の山遺跡で中葉の貝殻沈線文系土器が出土しているほか、アバクチ洞穴では後葉の表裏縄文土器、上の山遺跡では末葉の繊維混入土器が出土している。

前期は下中居Ⅰ・下中居Ⅱ遺跡のほか、外川目地区では馬場長根遺跡、岩脇遺跡、小杉遺跡、アバクチ洞穴、八木巻イタコ塚遺跡、柳沢遺跡など、内川目地区では柄洞Ⅱ遺跡、弥兵衛穴、経塚森遺跡、白岩長根遺跡、大又Ⅰ遺跡など、亀ヶ森地区では西小屋遺跡、小田遺跡、大迫地区では上の山遺跡、天神ヶ丘遺跡などが確認されている。発掘調査が行われた遺跡のなかで、集落としてのあり方を示すのは下中居Ⅰ、下中居Ⅱ、天神ヶ丘遺跡、アバクチ洞穴である。旧大迫町内では、前期前半の集落は規模が小さいが、後半には堅穴住居跡やフラスコ状土坑が多数確認され、前半段階に比べて規模の大きな集落が数ヵ所ある。

中期の遺跡は、前葉の遺跡が下中居Ⅰ・Ⅱと天神ヶ丘遺跡で確認された。ここでは該期に特徴的な大形住居の可能性のある遺構や貯蔵穴と考えられるフラスコ状土坑などが見ついている。大迫地区では白山遺跡から大木9式期の集落、外川目地区では末葉の堅穴住居跡が見ついている。また、大迫地区の観音堂遺跡は末葉の遺跡として全国的にも貴重である。このほか、外川目地区では馬場長根遺跡、岩脇遺跡、アバクチ洞穴、内川目地区では柄洞Ⅱ遺跡、黒森Ⅱ遺跡、経塚森遺跡、経塚長根遺



第3図 周辺遺跡分布図



第3図 周辺遺跡分布図

表1 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	杵沢	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)	亀ヶ森 修理田	
2	エソ穴	散布地	縄文・奈良～平安	縄文土器(中期)、土師器	亀ヶ森 修理田	平成3年範囲拡大
3	沼畑	散布地	縄文・奈良～平安	縄文土器(晩期)	亀ヶ森 沼畑	
4	根ノ黒	散布地	縄文	縄文土器	亀ヶ森 大沢山	
5	大沢山	散布地	縄文	縄文土器、石器	亀ヶ森 大沢山	
6	伏木田	散布地	縄文・奈良～平安	縄文土器(後・晩期)、須恵器	亀ヶ森 伏木田	
7	鉢	散布地	縄文	縄文土器、石器	亀ヶ森 鉢	
8	御堂鼻	集落跡 城館跡	縄文・中世	配石、住居跡、縄文土器、空堀、石碑	亀ヶ森 御堂鼻	
9	山根館Ⅰ	城館跡?	中世?	空堀	亀ヶ森 山根	
10	山根館Ⅱ	城館跡	中世?	空堀	亀ヶ森 山根	
11	埴田	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	亀ヶ森 埴田	
12	亀ヶ森城(八幡館)	城館跡	中世	主郭、土塁、曲輪、井戸、二重空堀	亀ヶ森 八幡館	
13	三口市	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)	亀ヶ森 三口市	
14	火神	散布地	縄文	縄文土器、石器	亀ヶ森 火神	
15	館野	集落跡	縄文	縄文土器(晩期)、石器	亀ヶ森 館野	
16	川原田	散布地	縄文	土器	亀ヶ森 川原田	
17	築場	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	亀ヶ森 大釜	
18	岩神	散布地	縄文	縄文土器	亀ヶ森 岩神	
19	岩ノ目	散布地	縄文	土器	亀ヶ森 岩ノ目	
20	本宿	散布地	縄文	縄文土器	亀ヶ森 本宿	
21	船寄館(小館)	城館跡	中世	空堀、郭	亀ヶ森 大釜	
22	西小屋	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)、石器	亀ヶ森 西小屋	
23	大林Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器(後・晩期)、石棒	亀ヶ森 大林	
24	大林Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器、石器	亀ヶ森 大林	平成11年調査
25	大林Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)、石器	亀ヶ森 大林	
26	上の台	散布地	縄文	縄文土器(前期)、石器	大迫 上の台	
27	ぶどう沢	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	大迫 ぶどう沢	
28	藤館	城館跡	中～近世	平場、井戸、帯郭	大迫 ぶどう沢	
29	明道沢	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)	大迫 ぶどう沢	
30	サツカ長根	散布地	縄文	石器	大迫 10地割	
31	観音堂	大集落跡	縄文	聖穴住居跡、縄文土器(中・後・晩期)、石器	大迫 台	
32	屋敷	集落跡	縄文・中世	縄文土器(後・晩期)、土偶、中世聖穴住居	大迫 屋敷	
33	天神カ丘	大集落跡	縄文	聖穴住居跡、縄文土器(前・中・晩期)、石器	大迫 天神カ丘	平成2年調査
34	天神館(藤四郎館)	城館跡	中世	空堀	大迫 下町	
35	熊ノ上	集落跡	縄文	縄文土器(前・中期)、石器	大迫 熊ノ上	昭和61年、平成2年調査
36	鳥養根	散布地	縄文	土器	大迫 鳥養根	
37	古館	散布地	縄文・中世城下町?	縄文土器(前期)	川日 古館	
38	八木沢	散布地	縄文	縄文土器(前・後期)	内川日 八木沢	
39	書館(水戸屋敷)	城館跡	縄文・中～近世	縄文土器、井戸、平場	内川日 八木沢	
40	薬南館	散布地 城館跡	縄文・中世	石器	内川日 薬南	
41	馬場館	散布地 城館跡	縄文・中世	縄文土器(前期)、石斧、石匙	内川日 沢	
42	金沢	散布地	縄文	土器	内川日 金沢	
43	桂林寺Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	内川日 金沢	

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
44	桂林寺Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	内川目 古館	
45	大迫城 (右近館・桂林館)	散布地 城館跡	中世	空堀、帯郭、井戸、主郭、二の郭	内川目 古館	
46	日陰館	城館跡?	不明	空堀	大迫 日陰山	
47	与五助館	城館跡	中世?	帯郭、空堀	大迫 川原町	
48	上ノ山	集落跡	縄文	貯蔵穴、縄文土器(早・中・晩期)	大迫 上ノ山	平成2年調査
49	大迫小学校裏	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石斧	大迫 向山根	
50	白山	集落跡	縄文	竪穴住居跡、 縄文土器(前・中期)、石器	大迫 向山根	昭和63年調査
51	芋通	散布地	縄文	縄文土器(中期)、石器	大迫 旭町	
52	中厨館	城館跡	中世	帯郭	大迫 上ノ山	
53	西部	散布地	縄文	縄文土器	外川目 西部	
54	ます沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・石器	外川目 下中居	平成15年試掘
55	ます沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後期)	外川目 ます沢	
56	ます沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 ます沢	
57	追者塚	塚	中～近世	方形塚	外川目 ます沢	
58	ヤマガラ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 ます沢	
59	小杉	散布地	縄文	縄文土器(前期)	外川目 ます沢	平成15年試掘
60	明神	散布地	縄文	縄文土器	外川目 ます沢	
61	下中居Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石器	外川目 下中居	平成19年範囲拡大
62	下中居Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	外川目 下中居	
63	下中居Ⅲ	散布地	縄文	土器	外川目 下中居	
64	鑿岩 堂の前館	集落跡 城館跡	縄文 中世	縄文土器 平場、帯郭	外川目 下中居	
65	馬場長根	集落跡	縄文	竪穴住居跡、縄文・ 弥生土器(前・中期)	外川目 下中居	
66	岩輪館	城館跡	中世	帯郭、平場	外川目 鑿岩	
67	岩輪	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)、石器	外川目 鑿岩	
68	川原前	散布地	縄文	石器	外川目 水城	
69	柳沢	散布地	縄文	縄文土器(前期)・石器	外川目 狄川	
70	岩森	散布地	弥生	弥生土器	外川目 狄川	
71	長崎Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 長崎	
72	長崎Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 長崎	
73	源藏館	城館跡	中～近世	空堀、平場	外川目 田中	
74	細工場	散布地	縄文	縄文土器	外川目 田中	
75	館の鼻(松原館)	城館跡	中世	平場	外川目 田中	
76	小空蔵Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・石器・石棒	外川目 小空蔵	
77	小空蔵Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 小空蔵	
78	旭の又館	城館跡	中世?	空堀、帯郭、平場	外川目 旭の又	
79	上高洞	散布地	縄文	縄文土器・石器	外川目 高洞	
80	台	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石器	外川目 旭の又	
81	旭の又	散布地	縄文	縄文土器(後期)	外川目 旭の又	
82	アバクテ洞穴	洞穴	縄文～弥生	縄文土器(前・中)、 弥生式土器、貝輪、獣骨	外川目 橋	
83	大倉掛銭座跡 (盛阿婆大道銭座)	銭座	江戸～明治	鉄銭、金くそ	外川目 大掛	
84	風穴洞穴	洞穴	縄文	縄文土器(後期)	外川目 14地割	
85	八木巻館 (板橋館・沢崎館)	城館跡	中世	平場、帯郭、堀切	外川目 沢崎	
86	小倉掛	散布地	縄文	独鈿石	外川目 小倉掛	
87	小屋場	散布地	縄文	配石遺構、竪穴住居跡、 縄文土器(後・晩期)	外川目 小倉掛	
88	板橋Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)、土偶、石器	外川目 板橋	
89	板橋Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(中期)、竪穴住居跡	外川目 板橋	
90	板橋Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 板橋	
91	壱沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石器	外川目 壱沢	

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
92	野沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 野沢	
93	神倉神社	散布地	縄文	縄文土器、磨石	外川目 八木巻	
94	八木巻	散布地	縄文、古代	縄文土器・石器・土師器	外川目 八木巻	
95	八木巻Ⅱ	散布地	縄文後・晩期	縄文土器(後・晩期)	外川目 八木巻	
96	八木巻Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 八木巻	
97	八木巻Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 八木巻	
98	八木巻イタク塚	散布地	縄文、古代	縄文土器(前・後・晩期)、土偶、 アスファルト付石鉢、狼忠器坏	外川目 八木巻	
99	漆山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	外川目 漆山	
100	漆山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、石器	外川目 漆山	
101	合石Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 合石	
102	合石Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	外川目 合石	
103	大洞	散布地	縄文	縄文土器・石器・石製円盤	内川目 大洞	
104	黒森Ⅰ (サッケン館)	散布地	縄文、中世	縄文土器(晩期)、石楯	内川目 黒森	
105	黒森Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期?)	内川目 黒森	
106	柳洞Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	内川目 柳洞	
107	柳洞Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(前・中期?)	内川目 柳洞	
108	野沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後期)・土製円盤	内川目 野沢	
109	中通Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	内川目 中通	
110	中通Ⅱ	散布地	縄文	石器	内川目 中通	
111	吉峰神社	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	内川目 中通	
112	中乙	散布地	縄文	縄文土器	内川目 中乙	
113	鳥谷向	散布地	縄文	縄文土器	内川目 鳥谷	
114	日影	散布地	縄文	縄文土器	内川目 日影	
115	熊野山神社前	散布地	縄文	縄文土器・石器	内川目 鍋屋敷	
116	鍋屋敷	散布地 城跡跡	縄文、中世	縄文土器(晩期)、石製品、帯郭	内川目 鍋屋敷	
117	中山	散布地	縄文	縄文土器(中・後期?)	内川目 中山	
118	樋ノ口	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)・土偶・石器	内川目 樋ノ口	
119	樋ノ口Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	内川目 樋ノ口	
120	樺山	散布地	縄文	縄文土器	内川目 樺山	
121	上滝	散布地	縄文	縄文土器	内川目 樺山	
122	平蔵付	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)・石器	内川目 平蔵付	
123	平蔵付Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器・石器	内川目 平蔵付	
124	立石	祭祀跡	縄文	配石遺構、土楯、 縄文土器(後・晩期)・石器	内川目 立石	昭和52・53・61・ 平成16年調査
125	さらばば	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)・石器	内川目 さらばば	
126	釣野	散布地	縄文	縄文土器	内川目 釣野	
127	金岡沢	散布地	縄文	縄文土器	内川目 釣野	
128	黒沢	散布地	縄文	縄文土器	内川目 黒沢	
129	錦ヶ森	城跡跡	中世	平場、帯郭	内川目 向村	
130	柳青神社	散布地	縄文	縄文土器(後期)・住居跡	内川目 向村	平成19年発掘調査
131	向村	集落跡	縄文	縄文土器(前・中期)・石器	内川目 向村	平成6年調査
132	小付内館	城跡跡	中世	空堀、帯郭、平場	内川目 小付内	
133	赤畑	散布地	縄文	縄文土器	内川目 小付内	
134	和村	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)・石器	内川目 小付内	
135	関ノ上	散布地	縄文	縄文土器	内川目 大償	
136	大償Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	内川目 大償	
137	大償Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	内川目 大償	
138	大償Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器・有孔石製品	内川目 大償	

跡、大又Ⅰ遺跡、亀が森地区では朴沢遺跡、修理田遺跡などがある。

後期・晩期の遺跡はひじょうに多く、発掘調査された遺跡も数多く存在する。白山遺跡では後期初頭の門前式土器が出土している。立石遺跡、稲荷神社遺跡、板橋遺跡では後葉の瘤付土器群が出土している。晩期では人物線刻燵が出土した小田遺跡、天神ヶ丘遺跡、アバクチ洞穴などが調査されている。このほか、大洞A式土器が採取された宮沢遺跡では結髪土の土偶が採取されている。

## (2) 弥生時代

弥生時代の大きな成果を挙げた遺跡としてはアバクチ洞穴がある。ここからは弥生中期～後期の土器のほか、幼児人骨、動物化石が出土している。報告書では他遺跡の縄文幼児人骨との形態比較など詳細な分析がなされている。このほか、大林Ⅱ遺跡、岩森遺跡、経塚長根遺跡などがある。

## (3) 古代・中世・近世

古代に属する遺跡は少ない。外川日地区の八木巻イタコ塚遺跡で須恵器環、弥兵衛穴で土師器が出土している。亀が森地区の大沢遺跡では墨書土器や内黒土師器、谷地遺跡では須恵器大甕と土師器が採取されている。

中世・近世は城館や塚、墓域などが確認されている。大迫・亀が森地区では二重空堀をもつ亀が森城跡、空堀と土塁が残る杉館、主郭や帯郭、土塁が残る御所が館、外川目地区では堅穴建物跡から永楽銭が出土した下中居Ⅰ遺跡、ます沢Ⅰ遺跡、造者塚、旭の又館、源藏館八木巻館、内川目地区では主郭、空堀、井戸が残る大迫城を筆頭に、古館、雲南館、小付内館、館ヶ森遺跡、白岩館、折盛館、中ノ貝館などが確認されている。近世では、堅穴から初期伊万里や寛永通宝が出土した屋敷遺跡、下中居Ⅰ遺跡で18～19世紀の墓石を伴った墓域や、江戸から明治にかけて鉄鏡作りが行われた大迫銭座跡などが確認されている。

## (4) 近・現代

「大迫町史」によれば、本遺跡周辺が、一貫して稲作・畑作地帯であったと理解できる。下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡が存在する中居地区についても同様であるが、周辺住民への聞き取りによれば、昭和初期に畑地を水田に作り替えるため、住民総出で、モッコヤスコップといった簡易な道具で斜面地を造成したという。その際に下中居Ⅱ遺跡ではリヤカー1台分という多量の土器・石器が採取できたらしい。第二次大戦後は、各地樵者によって、水田の畔の補強や客土搬入などのためにブルドーザーなどの重機を利用したという。

## 4 基本層序

本遺跡は中居川によって形成された河岸段丘面上に位置する。下中居Ⅰ遺跡は高位段丘面に位置し、下中居Ⅱ遺跡は低位段丘面に位置する。高位段丘面は水田耕作による削平が進んでいるため、堆積層は薄い。下中居Ⅰ遺跡の調査遺構は水田内が多く、耕作土と床上を除去すると、黄褐色土（Ⅴ層）や砂礫（Ⅵ層）が露出した。Ⅲ・Ⅳ層は、農道直下や畔など、水田造成による削平を免れた範囲に分布する。第4図は中央調査区の確認調査区内のⅢ・Ⅳ層残存範囲である。

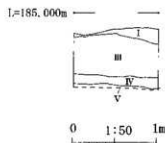
一方、下中居Ⅱ遺跡の堆積層は崖錐性堆積物、河川堆積物、人工物を包含する。人工物は下中居Ⅰ遺跡の廃棄物として供給された可能性がある。1層（表土）、2層（崩落礫を含む二次堆積層）、3層



(黒色～黒褐色土層)、4層(洪水砂層)5層(段丘礫層)に大別できる。このうち、3層上部にはブロック状にTo-Cu(約6000calBP降灰)が確認できた。遺物は3層より上位の地層から出土している。

#### 下中居Ⅰの基本土層

- I 層 10YR3/3～3/4 黒褐色～暗褐色土 (水田耕作土) 粘性弱、しまりやや密、層厚40～60cm
- II 層 10YR5/1 褐灰色土 (水田床土) 粘性強、しまり密、層厚10cm
- III 層 10YR2/3 黒褐色土 (水田造成前の表土) 粘性やや強、しまり密、層厚15～25cm
- IV 層 10YR3/3 暗褐色土 (縄文時代の遺物を包含) 粘性弱、しまりやや密、炭化物粒1%包含、層厚10～15cm
- V 層 10YR5/8 黄褐色土 (遺構最終検出面) 粘性やや弱、しまり密、層厚30～70cm
- VI 層 10YR6/6 明黄褐色土 粘性やや弱、しまり密、層厚50～70cm
- VII 層 10YR3/3 暗褐色砂礫 層厚不明



第4図 基本土層柱状図

#### 下中居Ⅱ遺跡の基本土層

- 1 層 10YR3/3 暗褐色土 (耕作土) 粘性弱、しまり粗、崖錐性堆積物(頁岩礫等)10%包含、遺物包含(風化資料多い)、層厚20～70cm
- 2 a 層 10YR3/2～3/3 黒褐色～暗褐色シルト 粘性やや弱、しまり密、崖錐性堆積物(泥岩、頁岩礫等)5%包含、遺物包含(風化資料多い)、褐色土5%混入、層厚20～50cm
- 2 b 層 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱、しまり粗、崖錐性堆積物(頁岩礫等)5%包含、遺物包含(10cm大の土器片が増加する)、層厚30～40cm
- 2 c 層 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや密、崖錐性堆積物(頁岩礫等)1%包含、遺物包含、層厚10cm
- 2 d 層 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性やや強、しまり密、崖錐性堆積物(頁岩礫等)1%包含、遺物包含(10cm大の土器片が増加し、個体復元可能な遺物が出てくる)、層厚20～40cm
- 2 e 層 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや弱、しまり粗、崖錐性堆積物(頁岩礫等)1%包含、遺物包含(5cm大の土器片主体)、層厚10～30cm
- 3 層 10YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや密、上位～中位にTo-Cuがブロック状に分布、崖錐性堆積物(頁岩礫等)1%包含、遺物包含(2層に比べて少ない)、層厚30～50cm
- 4 層 10YR4/3 ぶい黄褐色砂質土 (洪水砂層か?) 粘性微弱、しまり粗、層厚5～10cm
- 5 層 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性強、しまり密
- 6 層 10YR5/6 黄褐色粘土 (F中居ⅠのV層に対応か?)

註1 盛岡市教育委員会 神原雄一郎氏ご教示による。

## 引用参考文献

- 岩手県企画部北上山系開発調査室 1973 「北上山系開発地域土地分類基本調査 早池峰山 5万分の1 国十調査」 岩手県
- 大迫町史編纂委員会 1983 「大迫町史<民俗編>」 大迫町
- 大迫町史編纂委員会 1985 「大迫町史<産業編>」 大迫町
- 大迫町史編纂委員会 1986 「大迫町史<行政編>」 大迫町
- 大迫町教育委員会 1981 「立石遺跡 一昭和52・53年度発掘調査報告書一」 大迫町埋蔵文化財報告書第3集
- 大迫町教育委員会 1981 「小田遺跡発掘調査報告書」 大迫町埋蔵文化財報告書第4集
- 大迫町教育委員会 1986 「観音堂遺跡第1～6次発掘調査報告書」 大迫町埋蔵文化財報告書第11集
- 大迫町教育委員会 1988 「町内遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 一屋敷遺跡一」 大迫町埋蔵文化財報告書第14集
- 大迫町教育委員会 1988 「種貫川流域遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ 一外川目地区～内川目地区一」 大迫町埋蔵文化財報告書第15集
- 大迫町教育委員会 1988 「町内遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 一白山遺跡一」 大迫町埋蔵文化財報告書第16集
- 大迫町教育委員会 1989 「種貫川流域遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ 一亀ヶ森地区・外川目下中居一」 大迫町埋蔵文化財報告書第17集
- 大迫町教育委員会 1990 「町内遺跡群発掘調査報告書Ⅳ 一小田遺跡・馬場長根遺跡一」 大迫町埋蔵文化財報告書第18集
- 大迫町教育委員会 1991 「町内遺跡群発掘調査報告書Ⅴ 一上の山遺跡・天神ヶ丘遺跡・熊の上遺跡一」 大迫町埋蔵文化財報告書第19集
- 大迫町教育委員会 1991 「観音堂遺跡第7次発掘調査報告書」 大迫町埋蔵文化財報告書第20集
- 大迫町教育委員会 2005 「町内遺跡詳細分布調査報告書 一外川目地区・内川目地区一」 大迫町埋蔵文化財報告書第23集
- 大藤 茂・佐々木みぎわ 2003 「北部北上帯堆積岩複合体の地質体区分と広域対比」 『地学雑誌』 112 (3)
- 草間俊一・相原康二 1974 「天神ヶ丘遺跡」 大迫町教育委員会
- 百々幸雄・瀧川渉・澤田純明 2003 「北上山地に日本更新世人類化石を探る 一岩手県大迫町アバクチ・風穴洞穴遺跡の発掘一」 東北大学出版会
- 花巻市教育委員会 2006 「立石遺跡発掘調査報告書 一平成16年度調査一」 大迫町埋蔵文化財報告書第24集
- 花巻市教育委員会 2006 「屋敷遺跡発掘調査報告書 一平成17年度調査一」 大迫町埋蔵文化財報告書第25集

## Ⅲ 調査方法

### 1 発掘調査の方法

野外調査は、まず機材搬入、雑物撤去、草刈を行い、調査区現況を写真撮影した。次に調査区内に数箇所の試掘トレンチを設定して人力掘削し、土層堆積状況と遺構・遺物の有無を確認した。表土除去作業は、重機によって行い、一部を人力作業で補った。

調査区に世界測地系の座標値に沿って2×2mのグリッドを設置した(第5図)。グリッドにしたがって、遺物の取り上げや遺構の平面的配置の把握を行った。

表土除去の後、遺構検出作業を行った。遺構検出作業で平面的な検出が困難な地点および遺構については、適宜トレンチを掘削し、断面による土層の把握を行いながら調査を進めた。また、風倒木によるものと思われる痕跡についてもトレンチを設定して掘削し、トレンチ断面により遺構でないことを確認した。

検出した遺構の掘削は、堅穴住居跡については4分法、その他の遺構については規模・形状に則して4分法、2分法など適宜選択して行った。また、遺構堆積土の掘削に際しては、層位毎に遺物を取り上げるよう努めた。さらに、微細遺物の検出が必要であると考えられる堆積土については、土壌を持ち帰り洗浄・選別・抽出作業も行った。また、調査中は各遺跡とも遺構名を略号によって記録した。

遺構平面図は、おもに光波測量機を用いて実測及び作図した。なお、遺構平面図は遺構の種類、規模などを考慮し20分の1、10分の1などの縮尺で作成した。遺構断面図は、平面図と同一縮尺での作成を原則とした。

遺構の写真撮影は、35mmモノクロ・デジタルカメラ・6×7判モノクロによる撮影を基本とした。撮影に際しては、当センター所定の撮影カードの記入と写し込みを行い、撮影写真の整理に活用した。

### 2 整理作業の方法

発掘調査終了後の整理作業は、当センター内にて行った。

発掘調査時に作成し、点検を終った遺構等の実測図は、必要に応じて合成図を作成し、浄書を行った。浄書した図を用いて、図版用の版下を作成した。遺構等の写真は、アルバムにより整理を行った。本書に掲載する遺構写真は、選択した後に紙焼きあるいはデジタル写真を使って写真図版用に版下を作成した。

洗浄および注記を終った遺物は、接合作業を行い、必要なものは石膏による復元・補強も行った。本書に掲載する遺物を選択し、実測作業と写真撮影を行った。選択基準は、実測可能な残存状況のものを原則とし、土器類の破片については特徴から時期や土器型式を特定できるものを中心とした。遺物の実測作業は、原寸での実測を基本とした。実測した遺物は、浄書し図版用の版下を作成した。また、縄文土器表面や銭貨等は湿拓により採拓した。遺物の写真撮影はデジタルカメラを用いて行い、圧縮したデータを編集し写真図版として掲載した。なお、これら遺物写真データはRAW形式とJPEG形式の両方を保管している。すべての処理が終了した遺物は、本書掲載遺物と不掲載遺物とに分けて所定の場所へ収納した。

本書の原稿執筆は各担当者が分担して行い、統一事項を定め全体の中で可能な限り統一を図った。

### 3 記載方法と凡例

#### (1) 遺構

遺構名・遺構番号は遺跡ごとに付与した。発掘調査中は略号（SI・SK・SD・SXなど）を用いたが、本書では、「1号竪穴住居跡」、「1号土坑」などに表記し直している。

遺構の規模は平面的規模を「m」で、深さを「cm」で表現した。

図版中の凡例については、各図版中に表記してあるが、焼土範囲、遺物・礫範囲、カクラン範囲、を無地アミの濃淡により、適宜表現している。

#### (2) 遺物

遺物の掲載番号は、以下のごとく各遺跡に1000番振り分け、各遺物に遺物番号を付した。なお、実測図と写真は共通の掲載番号である。また、遺物は土器・土製品→石器・石製品→中世以降の遺物の順序で掲載している。

下中居Ⅰ遺跡・・・・・・土器：1～314、土製品315～318、石器：319～369、  
石製品：370～372、中世以降の遺物：373～383

下中居Ⅱ遺跡・・・・・・土器：1001～1436、土製品：1436～1442、石器：1443～1535、  
石製品：1536～1538

#### 遺物実測図

遺物実測図は土器を1/3、大形土器を1/5、剥片石器を2/3、礫石器を1/3及び1/5、土製品・石製品を2/3、鉄製品を1/2でそれぞれ統一し掲載した。

土器実測図のうち、胴下半～底部片など完形に復元されなかった立体土器の一部については、遺存部の多い範囲を正面として採拓し、断面はその正面の遺存部の多い範囲を優先して作図した個体がある。

#### 写真図版

写真図版は、デジタルカメラで撮影した画像データ（RAW形式）を用いた。遺物写真の寸法は立体視可能な土器資料を除いて遺物実測図とほぼ同じである。

#### 遺物観察表の記載項目と略号

- ・土器の分類についてはp.62に示した。Ⅰ～Ⅷ群に分類している。
- ・遺物の法量は長・幅・厚を「cm」、重量を「g」で示した。
- ・欠損している土製品と石器・石製品については遺存率を「%」で示した。
- ・石器略号 Ob：黒曜石、Sh：頁岩、Ag：メノウ、An：安山岩、Serp：蛇紋岩、Da：デイサイト  
Tuff：凝灰岩、Ho：ホルンフェルス、Pro：ひん岩、Gab：斑レイ岩、Ch：チャート、  
Jya：玉ずい、SS：砂岩、Gra：花崗岩、Dio：閃緑岩、花崗閃緑岩：Gradio

#### 石器類の種類・定義

剥片石器については、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『河崎の橋擬定地発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第474集に掲載の石器分類に従うが、礫石器について定義を変更するため下記のごとく分類する。なお、これまで深さ3mm以上を凹痕と認識し、凹痕を有する石器を「凹石」としていたが、近年の研究で、凹痕は基本的に敲打痕であるとの成果がでてい

るため、本書では「凹石」の分類を採用しない。

**敲磨器** 手に持って連続的な運動ができるサイズと重量で、磨面と敲打痕ないしは凹痕を有する石器。

河崎の構擬定地での分類では「磨石類A・B・C」に該当する。

**磨石** 手に持って連続的な運動ができるサイズ、重量で、磨面を有するもの。食物の磨り潰しや皮加工での利用によって磨面が形成されたものと想定される。河崎の構擬定地での分類では「磨石D」に該当する。

**敲石** 手に持って連続的な運動ができるサイズ・重量で、敲打痕を有するもの。凹痕は敲打痕の一種で、敲打の連続によって形成されたと考えられる。これまでは深さ3mm以上は凹痕と認識していた。凹痕になっていない敲打痕を伴うものと、伴わないものに3細分した。ハンマーとして機能したと考えられる石器を前提としているが、敲打痕が散見され、なんらかの製品製作を意図した未製品の可能性のあるものもこの範疇に含まれる可能性がある。

A類 凹痕+敲打痕を有するもの。河崎の構擬定地では「凹石A」と分類した。

B類 凹痕を有するもの。河崎の構擬定地では「凹石B」と分類した。

C類 敲打痕を有するもの。河崎の構擬定地では「敲石」と分類した。

**台石** 手に持たずに作業を行うと想定されるサイズ、重量の礫を素材とし、台としての用途が想定される扁平な面をもち、磨面、凹痕、敲打痕等が観察されるもの。使用痕跡から3タイプに分類した。

A類 磨面、凹痕or敲打痕を有するもの。

B類 磨面を有するもの。

C類 敲打痕or凹痕を有するもの。

**石皿** 台石類に同定されるもののうち、皿状の窪みを面的に有するものに限定した。

A類 磨面、凹痕or敲打痕を有するもの。

B類 磨面を有するもの。

C類 敲打痕or凹痕を有するもの。

**石棒** 棒状の石製品と考えられるもの。河崎の構擬定地では石棒Aと分類したものの。

**棒状石器** 石棒の未製品と考えられるもの。河崎の構擬定地では石棒Bと分類したものの。

**搔器** 引掻き、引掻きを目的として製作された石器。刃部角が引掻き50°以上、押掻き40°以上が多く、引掻きでは刃部ラインが彎曲するものが主体。剥片剥離軸を軸として、実測、計測を行った。

**削器** 鋸引きを目的として製作された刃部を有する石器。刃部角が40°未満が多い。剥片剥離軸を軸として、実測、計測を行った。

**搔削器** 搔器刃部と削器刃部を有する石器。剥片剥離軸を軸として、実測、計測を行った。

**円盤状石器** 円形の扁平な小礫を素材とし、磨面を有する石器。用途不明。民族例にみられる土器の器面調整に利用する「土器ミガキ石」と形態的特徴が似ることから、石製品ではなく、実用具の可能性も考えられる。

**石錘** 礫を素材とし、両端に挟入部を有する石器。挟入部に紐、縄等を巻き付けるものと想定されることから、漁労具、投石具、糸紡ぎ具などに利用された可能性が考えられる。

### (3) その他

図版中の座標値、標高値はすべて世界測地系で示している。

## IV 下中居 I 遺跡

### 1 概 要

調査範囲は、整備後に道路、田面、水路となる。このうち、道路設置予定区330m<sup>2</sup>が遺構内容確認調査区となり、本調査区3,160m<sup>2</sup>と合わせて計3490m<sup>2</sup>の調査が調査対象となった。遺物の取り上げは、世界測地系座標に即して2×2mグリッドごとに行った。

検出遺構は、竪穴住居跡5棟、竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡2棟、柱穴列1列、土坑38基、近世墓塚12基、柱穴状土坑107個、採掘坑9基である(第6・7図)。遺構・遺物の主体は3時期に大別される。第1は縄文時代前期末～中期初頭にかけてで、竪穴住居跡やフラスコ状土坑から大木6～7式土器や石器が出土している。第2は中世～近世初頭にかけてで、竪穴建物跡3棟が該当する。第3は近世以降の墓域、採掘坑である。このほか、風倒木痕、攪乱部からも若干の遺物が回収された。

出土遺物の内訳は、縄文土器大コンテナ45箱、土製品4点、剥片石器118点、礫石器23点、石製品3点、羽口1点、永楽通宝1点、寛永通宝11点、銅鏡1点、キセル1点、近世人骨9体である。

なお、遺物の分類は下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡をまとめて行った。今回の調査で回収された遺物の大半は、縄文時代の遺物で、下中居Ⅱ遺跡出土資料が占める。縄文土器分類については本章3節に記載した。

### 2 遺 構

#### (1) 縄文時代の遺構

##### 竪穴住居跡

##### 1号竪穴住居跡(第8図、写真図版4～7)

【位置・検出状況】八幡神社北側の17F61グリッド付近に位置する。現況は水田である。I層(耕作土)が厚く堆積していた。検出面には一部に耕作機と思われるサイズのキャタピラ痕が見られた。遺物が密集していたため、I層を若干残してベルトを組んで掘り下げた。掘り下げたところ、床面にまでI層が達していた。炉石と思われる礫が、何かに引きずられて抜けた状態や礫の散乱状態が確認された。後日、周辺住民より、「水田への客土搬入のための重機の通路があった範囲と一致する」との話があった。したがって、重機の往来によって床面近くまで、攪乱が及んだものと考えられる。

【形態】平面形は長方形ないしは長楕円形の竪穴住居跡と考えられる。北東-南西方向に長軸がある。堆積層の削平が進んでいたため、形状把握困難であるが、断面観察から床面が二段構造であった可能性があり、ここでは、より広範囲に住居を捉えた。2棟の重複の可能性もある。炉は床面で2基検出した。床面には壁溝を伴う。柱穴は根固め石を伴うものが多い。住居範囲内部に土坑はない。

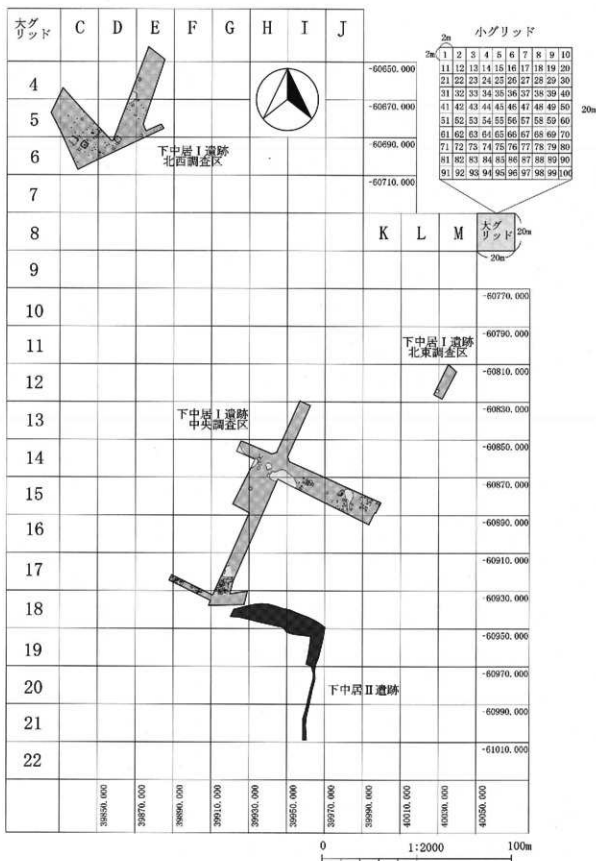
【堆積土】10YR3/3暗褐色土(第1層)と10YR2/3黒褐色土(第2層)に分層した。堆積層は薄い。

【炉1】炉煙囪の縁辺に疎らに礫を配置する炉である。石で囲いがされていたかは不明で、検出時は石添炉とも言うべき状況であった。焼土範囲は1.2×1.4mである。

【炉2】北側の調査区壁際で検出した。地床炉である。焼土範囲は0.3×0.7mである。

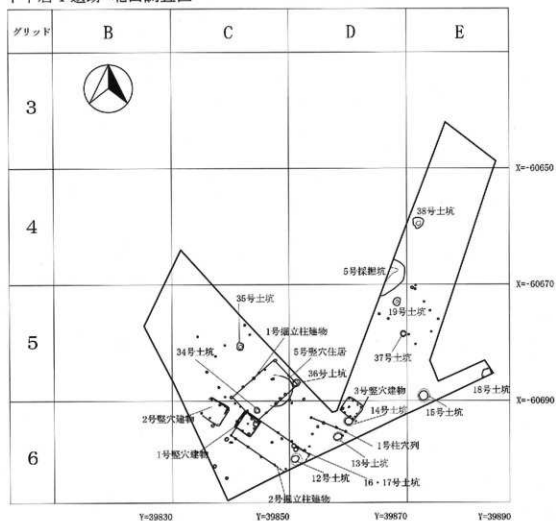
【柱穴】14個確認した。暗褐色土を主体とする。根固め石を伴うものが多い。

【遺物分布】I層から多量の縄文土器が出土した。床面での遺物分布の粗密は見られない。

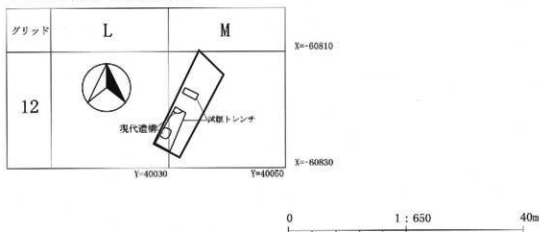


第5図 グリッド設定図

## 下中居 I 遺跡 北西調査区



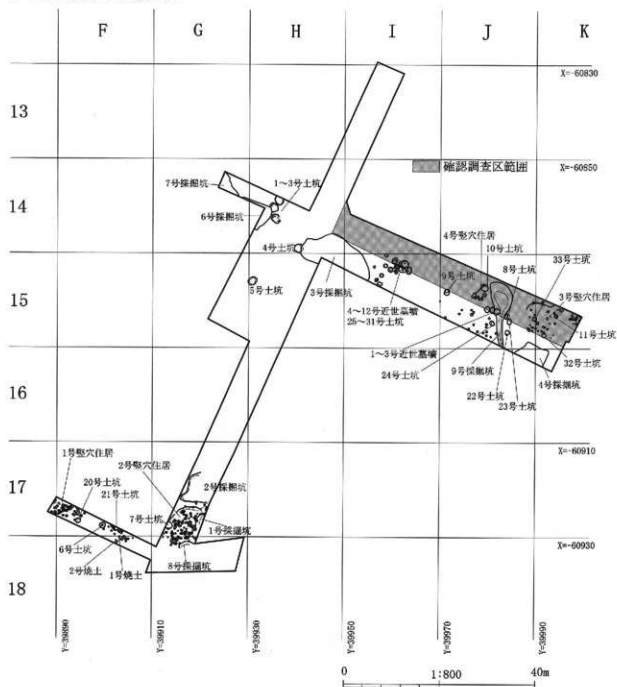
## 下中居 I 遺跡 北東調査区



第6図 下中居 I 遺跡遺構配置図 (1)



## 下中居 I 遺跡中央調査区



第7図 下中居 I 遺跡遺構配置圖 (2)



【遺物】<土器>1～16で縄文時代中期初頭の大木7a式を主体とする。範囲内からの出土土器総重量は6135gである。<石器>石鏃(319)、搔器(335)、円盤状石器(368)、石核、剥片が出土している。石器は出土総重量421.9gである。

【時期】床面、炉内、柱穴内出土遺物は太木7a式である。縄文時代中期初頭と考えられる。

## 2号竪穴住居跡(第9図、写真図版8～10)

【位置・検出状況】八幡神社東側の17G84グリッド付近に位置する。I層(耕作土)が床面まで達していた。床面では、炉石らしき礫が炉に伴わない状態で検出された。水田造成、水路整備による削平の結果、移動したものと考えられる。北側に2号採掘坑、東側に1号採掘坑、南側に8号採掘坑が位置する。

【形態】本遺構は南側の調査区外に延びると考えられる。柱穴の配置から、住居の北側を検出したと推察される。平面の全体形状は不明である。軸方向は北東-南西方向である。炉は住居のほぼ中央に位置し、北西-南東方向に形成され、南東側が1号採掘坑に切られている。明瞭な住居壁溝は確認できなかった。柱穴は、多くが根固め石を伴う。住居範囲内部に土坑1基を確認している。床面積は約42㎡である。調査中は、長方形基調の大形住居であろうと考えていた。しかし、縄文時代前期～中期の大形住居跡によく見られるような間仕切溝や径80cm以上の太い柱穴は見られなかった。また、帯状に長い焼土範囲を中心に、図面上で同心円を描くと、南西側に向かって拡張もしくは建て替へと推定可能な柱穴配置となることから、平面プランは円形ないしは楕円形と考えられる。

【堆積土】I層(耕作土)の下にわずかに10YR3/3暗褐色土(第1層)が残る。

【炉1】焼土範囲は南東側が1号採掘坑に切られている。1.0×2.5mの範囲が残存する。断面の観察から、少なくとも3回の作り直しが行われたと考えられる。南東側が古く、北西側が新しい。最初の炉範囲の縁辺に礫の抜き取り痕跡はない。しかし、最終の炉には炉石の抜き取り痕があり、抜き取り痕は方形に区画されている。したがって、当初は、地床炉か明瞭な抜き取り痕跡が残らない程度に浅く礫らに礫を配置する石囲炉、もしくは石添状の炉であったが、時期が下ると、四方を明確に囲む石囲炉を構築するに至ったと考えられる。なお、炉1は平面で3基に分離する明瞭なラインを確認できなかったため、1基とした。

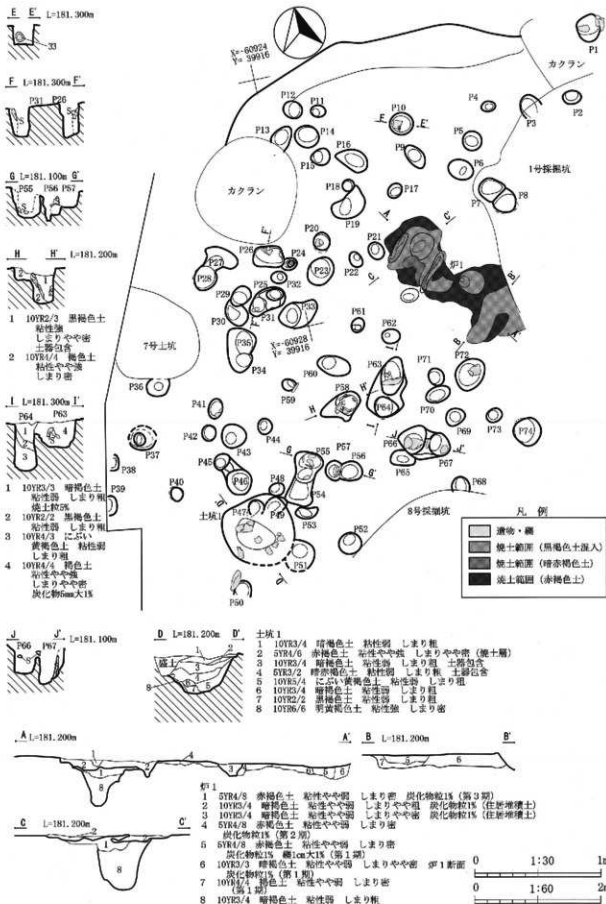
【土坑1】住居範囲の南西側にある。1.07×1.11m、深さ65cmを測る。人為堆積で、堆積土上部に焼土層も見られる。遺物は太木6～7a式土器が出土している。

【柱穴】41個確認した。太く、深い柱穴には側面に根固め石が入れられている。調査中は根固め石の設置されている柱穴が、屋根を支える主柱の設置箇所であろうと考えていた。上記の項目「形態」で述べたように、調査当初は長方形基調の大形住居の可能性を考慮していたため、根固め石を伴う柱穴が、方形基調に配置されていると予想していた。しかし、検討結果は炉跡を中心とした円形配置となった。

【遺物分布】床面が水田造成によって削平されているため、床面ではほとんど遺物が回収できなかった。遺物は、柱穴と土坑から出土しており、中でも1号土坑からの出土遺物が多い。石器は磨石が柱穴13、凹石が柱穴17の根固め石として転用されている。

【遺物】<土器>17～47で、太木6式～7a式土器である。土器出土総重量は1645gである。<石器>敲石器(350)、磨石(351・352)、敲石(357・360～362)、台石(364～366)、剥片が出土した。石器出土総重量は5744gである。

【時期】出土遺物の特徴から、縄文時代前期末～中期初頭である。



第9図 2号竪穴住居跡

## 3号竪穴住居跡（第10図、写真図版11～13）

【位置・検出状況】15K63グリッド付近の内容確認調査区に位置する。現況は水田で、南側が緩やかに傾斜する。耕作土を除去したところ、炉石と焼土範囲を検出した。検出面が住居床面の可能性を考慮し、検出作業を進めた。

【形態】東側の調査区外に延びる。柱穴の配置から、住居の西側を検出したものと考えられる。正確な平面形状は不明だが、西側に僅かに残存する住居壁溝と柱穴の配置から、東西に細長い長方形ないしは長楕円形の可能性がある。炉跡は2基確認された。炉2が石囲炉である。本竪穴住居跡は確認調査内に位置するため完掘していない。各施設の検出平面形とサブトレンチによる土層断面を凶化するに止めた。複数の住居が構築されていた可能性が高いが、断面上では確認できなかった。住居範囲にはカクランが多く、住居の切り合い関係を追求できる断面ラインがなかったことも一因である。そのため、暫定的に1棟の住居として報告することとした。なお、図面上では、各炉を中心として別個の竪穴住居跡を抽出することも可能ではある。例えば、炉1を中心とした円形住居跡、炉4を中心とした小形の円形住居跡などを想定することは可能である。住居範囲内では、柱穴18個、土坑2基を確認した。

【堆積土】IV層（暗褐色土）が堆積土である。IV層には遺物が包含されており、住居範囲内からも出土した。堆積土内には炭化物や焼土がモザイク状に分布する。

【炉1】炉石として礫1点を配置する。焼土範囲は $0.55 \times 0.49\text{m}$ を測る。

【炉2】炉の四方を炉石で囲む石囲炉である。焼土範囲は $0.62 \times 0.55\text{m}$ を測る。遺物は大木7a式土器を伴う。2号竪穴住居跡の炉跡は少なくとも3回の作り変えが行われ、最も新しい範囲に石囲炉が設置されていた。本竪穴住居内をみても、炉4が位置する住居東側に大木7a式土器が多く分布していた。

【焼土1】焼土範囲は $0.48 \times 0.61\text{m}$ を測る。

【焼土2】調査区外に延びる。焼土範囲は調査区内で $0.60 \times 0.30\text{m}$ を測る。

【柱穴】18個確認した。太い柱は確認できなかった。

【遺物分布】土器は、西側に大木6式新段階、東側に大木7a式古段階が多い。住居範囲内のカクラン、採掘坑などから出土した遺物も、ある程度は本遺構に帰属する可能性がある。

【遺物】<土器>48～89で、大木6式～7a式土器が出土している。土器出土総重量は19906gである。<石器>石鏃（320）、敲磨器（346）、磨石（356）石棒（369）、剥片が出土している。石器出土総重量は10027gである。

【時期】出土土器は大木6式～7a式期で、縄文時代前期末～中期初頭である。

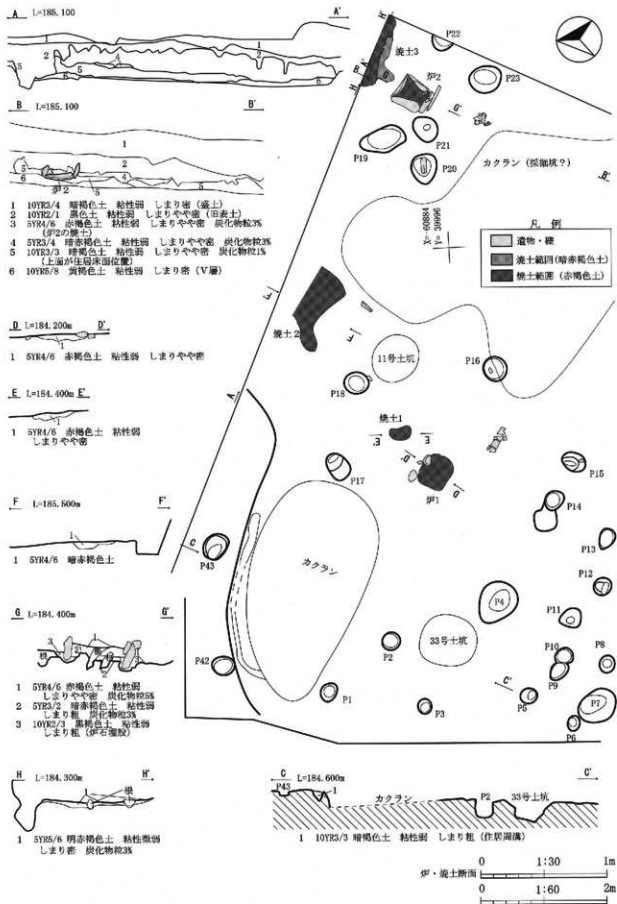
## 4号竪穴住居跡（第11図、写真図版14・15）

【位置・検出状況】15J45グリッド付近の内容確認調査区内に位置する。現況は水田である。耕作土（I層）を除去したところ、VI層が露出し、炉石と円形の焼土範囲を検出した。住居床面に達している可能性を考慮し、検出作業を進めた。9号採掘坑の西側に位置する。

【形態】水田造成による削平のため残存状況は悪い。検出面で周溝、土坑、炉跡を検出した。周溝と柱穴の配置から、平面形は円形と考えられる。周溝及び住居西側は倒木被に、東側は9号採掘坑に削られている。また、炉跡は北側が10号土坑に切られている。住居範囲の床面積は約14㎡である。

【堆積土】I層（耕作土）の下に部分的にわずかに暗褐色土が残る。

【炉1】平面規模は $0.97 \times 0.80\text{m}$ を測る。炉範囲には礫の抜き取り痕がない。北側縁辺に1点礫が配置



第10図 3号型穴住居跡

されており、10号土坑構築時に切られ、傾いたようである。疎らに礫を配置する炉跡であったと考えられる。抜取り痕が明瞭でなく、石囲炉であったかは判断できない。

【土坑1】平面規模は1.01×0.78mを測る。大木6～7a式土器が出土している。

【柱穴】4個確認した。

【遺物分布】床面が水田造成によって削平されているため、床面ではほとんど遺物が回収できなかった。土坑1と周溝からの出土遺物が多い。大木6～7a式段階である。

【遺物】<土器>90～107で、大木6式～7a式土器である。97・98は同一個体で、4単位波状口縁で縦位貼付文をもつ大木7a式土器である。この個体は下中居Ⅱ遺跡1号捨て場の2b層出土土器と遺跡間接合した。この個体の一部が現代の水田造成や耕作時に掘り出されて、下中居Ⅱ遺跡に捨てられた可能性も排除できないが、器面は摩耗が少ないことから、縄文時代に廃棄されてから速やかに土中に埋没したものと考えられる。したがって、集落と捨て場の有機的な関係を追及する資料となりうる。ただし、下中居Ⅱ遺跡1号捨て場2b層は、崖錐を包含する崩落層であり、1号捨て場下位層の2d層や3層に比べて縄文時代の多時期に跨る遺物の量が多い。1号捨て場2b層は縄文時代遺物しか含まないため、縄文時代に形成されたと考えられるが、さらにより多くの接合資料によって、遺跡における居住空間と廃棄空間のあり方を追求する必要があるだろう。今回の調査で得られた遺跡間・遺構間接合資料はこの1点のみである。土器出土総重量は8712gである。<石器>剥片が出土している。石器出土総重量は41.9gである。

なお、切り合い関係のある10号土坑は、遺物が堆積土から出土している。10号土坑の構築から埋没に至る過程で、本竪穴住居跡で使用された土器・石器が15号土坑堆積土に包含された可能性がある。10号土坑出土土器と本竪穴住居跡出土土器との型式差は見いだせなかった。

【時期】出土土器は大木6～7a式で、縄文時代前期末～中期初頭である。

#### 5号竪穴住居跡（第12図、写真図版16・17）

【位置・検出状況】5C89グリッド付近に位置する。現況は水田である。耕作土を除去したところ、半円形の暗褐色プランを検出した。比高上部側の住居壁ラインのみ明確で、比高下部側は消失していた。本竪穴住居跡周辺は、中世以降と考えられる掘立柱建物跡、柱穴があった。本竪穴住居跡は、それらによって一部擾乱されていた。

【形態】柱穴、焼土範囲を床面で検出した。平面形は円形を呈する。住居壁は、水田造成による削平と一部が根によるカクランによって破壊されている。焼土範囲が本遺構のほぼ中央部に2ヶ所確認できた。炉跡の可能性ある。床面積約20㎡。住居範囲の内側は削平されている。

【堆積土】I層（耕作土）の下に部分的にわずかに暗褐色土が残る。

【焼土1】平面規模は0.48×0.36mを測る。炉跡の可能性ある。

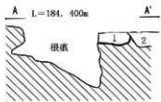
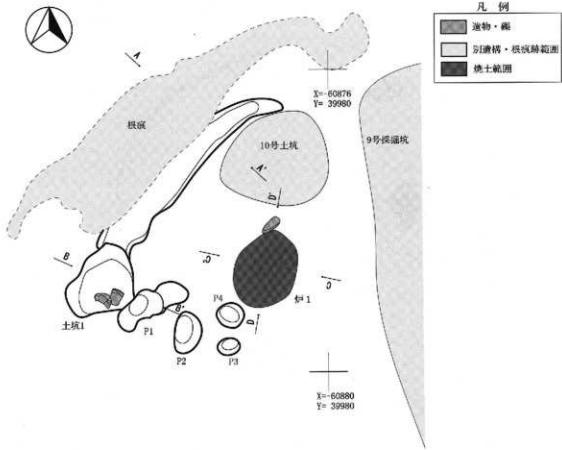
【焼土2】平面規模は0.60×0.39mを測る。炉跡の可能性ある。

【柱穴】2個確認した。

【遺物分布】遺物は少ない。住居内の中央部に散在していた。

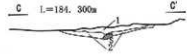
【遺物】<土器>108～110は大木7a式である。土器出土総重量は165gである。<石器>剥片が出土している。出土総重量は12.8gである。

【時期】出土遺物は、大木7a式で、縄文時代中期初頭である。



- 1 10YR2/2 暗褐色土 粘性弱 しまりやや密  
 焼土粒2% 炭化物粒3% 土器包含 (住居周囲)

- 2 10YR2/3 黒褐色土 (10号土坑の第2層)



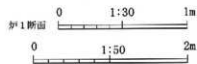
- 1 10YR4/4 褐色土 粘性弱 しまり密  
 焼土粒2%

- 2 5YR4/6 赤褐色土 粘性弱 しまり密  
 小礫2cm大3%



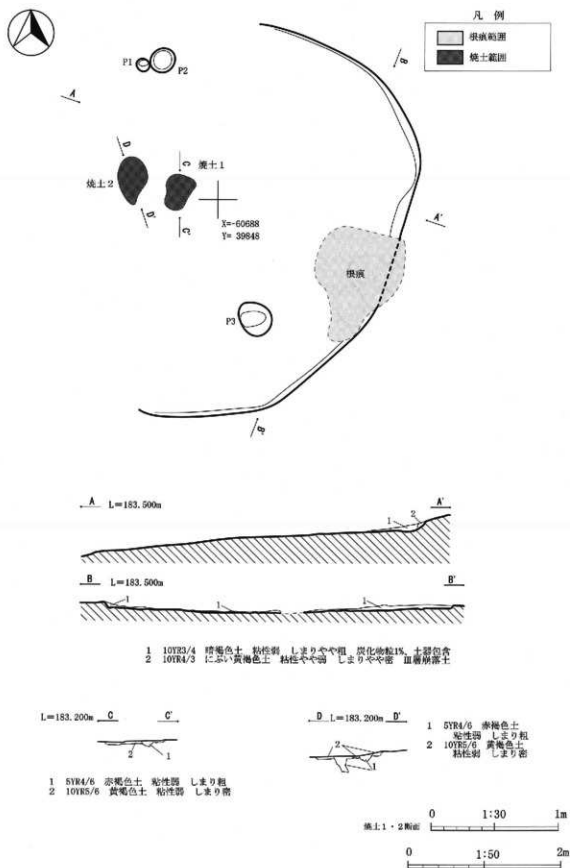
- 1 10YR2/2 暗褐色土 粘性弱 しまり粗 礫3cm大1%, 焼土粒1%, 土器包含

- 2 10YR2/2 暗褐色土 粘性弱 しまりやや粗 焼土粒3%



第11圖 4号雙穴住居跡





第12図 5号竪穴住居跡

## 土坑

## 1号土坑(第13図、写真図版18)

【位置・検出状況】調査区壁と接する14H43～44グリッドで半円形のプランを検出した。14Hグリッドは水田造成による削平の影響が著しい。調査区壁面に、削平を免れた範囲が確認できた。検出面よりも約1m上方に開口部がある。したがって14Hグリッドは、少なくとも約1mの厚さを削平して水田造成が行われた範囲である。住居跡の痕跡は14グリッドには見られない。フラスコ状土坑や探掘坑などの掘削深度のある遺構のみ確認できた。耕作土直下はVI層面であった。

【規模・形状】北側半分は調査区外にあたる。調査区内では半円形の開口部プランである。調査区内での最大径は北西・南東1.72m、深さ114cmである。南壁は緩やかに立ち上がるが、東西の壁はオーバーハングしている。底面はほぼ平坦で、断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、間に黄褐色土や褐色土が混入する。5層に分層した。堆積土の中部～上部に土器が包含されていた。堆積状況から人為堆積と推測される。

【遺物】<土器>112～114が堆積土の中部から出土した。113は立位で出土した。出土総重量は2933gである。

【時期】3層上部から1層下部にかけて出土した遺物は大木7a式土器で、縄文時代中期初頭である。

## 2号土坑(第13図、写真図版18)

【位置・検出状況】14H43・53グリッドに位置する。直径約2mの暗褐色プランをVI層面で検出した。

【重複関係】6号探掘坑と重複し、これに切られる。

【規模・形状】開口部平面形は不整形である。残存部の最大径は北西・南東で1.96mを測る。深さは73cmである。北東壁はオーバーハングしている。底面はほぼ平坦で、断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】上部は土器を包含する暗褐色土、下部は黄褐色土で構成される。人為堆積である。

【遺物】<土器>115～119が1層から出土した。出土総重量は1180gである。<石器>石皿(367)が1層から出土している。重量は12800gである。

【時期】遺物は1層から出土している。土器は大木7a式で、縄文時代中期初頭である。

## 3号土坑(第13図、写真図版18)

【位置・検出状況】14H53～54・14H63～64グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】東側がゴミ穴によって攪乱されていた。

【規模・形状】開口部平面形は楕円形である。平面規模は北西・南東2.11m、北東・南西1.56m、深さは158cmを測る。東側が一部攪乱され、東壁は崩落しているが、北側・西側の壁はオーバーハングしている。底面は平坦である。断面形はフラスコ状であったと推測される。

【堆積土】黄褐色土主体の単層であるが、モザイク状に暗褐色土、土器、礫を包含し、人為堆積と推測される。壁の崩落跡もみられる。

【遺物】<土器>120～149で、全て堆積土からの出土である。総重量は15025gである。<石器>磨石(353)、敲石(358)が出土している。出土総重量は8007gである。

【時期】出土土器は大木7a式で、縄文時代中期初頭である。

#### 4号土坑（第14図、写真図版18）

【位置・検出状況】14H95～96グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】東側が3号探掘坑と重複し、これに切られる。

【規模・形状】開口部平面形は円形と推測される。残存部は最大径で北東・南西1.83m、深さ142cmを測る。底面から壁にかけてオーバーハングしており、断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】下部に褐色土が堆積したのち、西から褐色土が流れ込み、さらに暗褐色土の堆積により埋没したとみられる。暗褐色土（1層）は、1・2号土坑の暗褐色土と類似している。

【遺物】<土器>150が堆積土上位から出土した。出土総重量は291gである。

【時期】出土遺物から、縄文時代前期末～中期初頭である。

#### 5号土坑（第14図、写真図版19）

【位置・検出状況】15H21・31グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は楕円形である。平面規模は北東・南西1.94m、北西・南東1.62m、深さは127cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】上部が土器を包含する暗褐色土、下部が黄褐色土で構成されている。

【遺物】<土器>151～152は、全て1層からの出土である。出土総重量は642gである。<石器>磨石（354）・敲石（363）がともに堆積土上位より出土している。出土総重量は458.8gである。

【時期】出土土器は縄文時代前期末～中期初頭である。2号土坑の堆積状況と類似しており、2号土坑と同時期の縄文時代中期初頭の可能性がある。

#### 6号土坑（第14図、写真図版19）

【位置・検出状況】17F85～86・95～96グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は円形である。平面規模は北東・南西1.24m、北西・南東1.15m、深さは47cmを測る。底面は平坦で、断面形は浅いバケツ状を呈する。

【堆積土】上部に褐色粘土、下部に鈍い黄褐色粘土が堆積している。

【遺物】なし。

【時期】堆積土から縄文時代である。

#### 7号土坑（第14図、写真図版19）

【位置・検出状況】17G82～83・92～93グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】2号堅穴住居跡内P36と重複する。ピットとの前後関係は不明である。

【規模・形状】西側が調査区外にあたるが、検出部分から開口部平面形は円形と推測される。残存部の最大径は北西・南東で1.40mを測る。底面は北側でやや凹むがそれ以外は平坦で、断面形は袋状を呈する。深さは119cmである。

【堆積土】下部は暗褐色粘土が堆積しているが、上部には褐色・赤褐色・黄褐色・暗褐色の粘土が層をなしている。堆積土にはほぼ全体に炭化物が混じる。

【遺物】<土器>堆積土底部から158、上部から157・159が出土した。出土総重量は866gである。

【時期】堆積土から、縄文時代と考えられる。出土土器は大木6式で、縄文時代前期末である。

## 8号土坑 (第14図、写真図版19)

【位置・検出状況】15J 67～68グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は不整楕円形である。平面規模は北東・南西1.12m、北西・南東0.69m、深さは64cmを測る。底面は東側に傾斜している。西壁は床面から緩やかに立ち上がり上部で垂直になる。東壁は直線的に立ち上がり、底部から3分の1上方で緩やかにオーバーハングし、開口部で外反する。

【堆積土】暗褐色土の上に黄褐色土と黒褐色土が堆積していた。これを3層に分層した。堆積状況から、西方向から埋没したと推測される。

【遺物】<土器>161～167が堆積土下部、168が上部より出土した。出土総重量は717gである。

【時期】堆積土と遺物から縄文時代前期末～中期初頭である。

## 9号土坑 (第15図、写真図版20)

【位置・検出状況】15J 31・41グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は不整楕円形である。平面規模は北東・南西1.21m、北西・南東0.99m、深さは86cmを測る。底面は丸底形で、東壁は緩やかに外反する。西壁は緩く内湾し、開口部付近ではまる。断面形は袋状を呈する。

【堆積土】暗褐色土層に多量の土器が包含されている。炭化物が混入している。

【遺物】<土器>179～209。3層から179～195、2層から196～198、1層から199～207・209が出土している。出土総重量は11283gである。<石器>336の搔器が1層から、337の搔器が3層から出土している。また、若干の剥片が出土している。出土総重量は118.9gである。

【時期】大木6～7a式期までの遺物が暗褐色土層内に含まれる。堆積土と出土遺物の特徴から縄文時代前期末葉～中期初頭である。

## 10号土坑 (第15図、写真図版20)

【位置・検出状況】15J 35グリッドに位置する。確認調査区内である。VI層上面で検出した。

【重複関係】4号竪穴住居跡の炉1を切る。

【規模・形状】開口部平面形は不整形である。平面規模は北・南1.25m、東・西1.43m、深さは138cmを測る。底面はほぼ平坦で、南壁は膨れ、北壁は垂直に立ち上がり括れをもって開口部で大きく開く。断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】主に暗褐色土が堆積し、上部には土器が包含されている。堆積状況から、人為堆積である。

【遺物】<土器>211～216・221、226～230が堆積土下部、217～220・222～225、231～243が堆積土上部からの出土である。出土総重量は6453gである。<石器>敲石(363)が堆積土上部より出土している。重量は156gである。

【時期】4号竪穴住居跡内の施設を切るため、構築時期は同住居よりも新しい。大木7a式の土器が堆積土上位から出土しており、縄文時代中期初頭以降に廃絶されたと考えられる。

## 11号土坑 (第15図、写真図版21)

【位置・検出状況】15K 63グリッドに位置する。V層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は円形である。平面規模は北西・南東0.80m、北東・南西0.71m、深さは120cmを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】断面記録時には、完掘時の半分程度の深さまで掘り下げたところで底面とみなしていた。その後さらに掘り下げた。堆積土上半部においては主に褐色土が、下半部には暗褐色土や黒褐色土が堆積しており、いずれも土器を包含する。人為堆積である。

【遺物】<土器>人木6～7a式である。244～246・248・254は堆積土下部、255は堆積土中部、247・249～253・256・257は堆積土上部からの出土である。出土総重量は2608gである。<石器>石鏃(321・322)、楔形石器(340)、剥片が堆積土下部、板状石製品(370)が堆積土上部から出土した。出土総重量は73.7gである。

【時期】堆積土と出土土器から、縄文時代前期末葉～中期初頭である。

#### 12号土坑(第15図、写真図版21)

【位置・検出状況】6D5・6グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は楕円形である。開口部平面規模は北東・南西1.35m、北西・南東1.10m、深さ150cmを測る。底面はほぼ平坦で、径2.06mの円形である。壁はオーバーハングして開口部付近でいったん括れて広がる。断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】主体は黒褐色土であるが、下部には黄褐色土、中部には暗褐色土が見られ、互層となる。人為堆積である。

【遺物】第5層より摩耗した土器が出土している。出土総重量は655gである。

【時期】堆積土と遺物の特徴から縄文時代前期末～中期初頭である。

#### 13号土坑(第15図、写真図版21)

【位置・検出状況】6D24～25・34～35グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】開口部平面形は楕円形である。開口部平面規模は北東・南西1.37m、北西・南東1.07m、深さ118cmを測る。底面は平坦で径1.67mの楕円形である。壁はオーバーハングしており、西壁は開口部付近でいったん括れて広がる。断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】下部と上部に暗褐色土、中部に黒褐色土が堆積している。人為堆積である。

【遺物】<土器>1層から胴部破片が出土した。総重量は1540gである。<石器>削器(339)と石匙(331)が堆積土上部から出土している。総重量は29.8gである。

【時期】堆積土と出土遺物の特徴から縄文時代前期～中期である。

#### 14号土坑(第15図、写真図版21)

【位置・検出状況】6D15～16・25～26グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】3号壜穴建物跡と重複し、これに切られる。

【規模・形状】開口部平面形は円形である。開口部平面規模は北・南1.21m、東・西1.23m、深さは149cmを測る。底面は径1.77mの円形で、わずかに西に傾く。壁は外側に膨らんで立ち上がり開口部付近で括れる。断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】堆積土下部では主に黒褐色土、中部では主に明黄褐色土、上部には黒褐色土と黄褐色土が層をなしている。人為堆積である。

【遺物】なし。

【時期】堆積土の特徴から縄文時代前期～中期である。

## 15号土坑 (第16図、写真図版22)

【位置・検出状況】5 E92グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は円形である。開口部平面規模は北・南1.61m、東・西1.48m、深さは164cmを測る。底面はやや丸みを帯びており、径2.26mの楕円形である。壁はオーバーハングしており、断面形はフラスコ状を呈する。

【堆積土】暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土などで構成され、7層に分層した。3層に土器が多量含まれる。

【遺物】<土器>258は堆積土中部から、260～275は上部から出土している。出土総重量は7988gである。<石器>石鏃(323)と剥片が堆積土上部にあたる3層から出土している。出土総重量は35.0gである。

【時期】堆積土と遺物の特徴から縄文時代前期末～中期初頭である。

## 16号土坑 (第16図、写真図版22)

【位置・検出状況】6 D31グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は円形である。開口部平面規模は北・南0.69m、東・西0.74m、深さ19cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は急に立ち上がる。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】暗褐色土単層の堆積である。

【遺物】なし。

【時期】堆積土の特徴から縄文時代前期～中期である。

## 17号土坑 (第16図、写真図版23)

【位置・検出状況】6 D41グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】P85に切られる。

【規模・形状】北側がP85に切られているが、平面形は円形と推測される。平面規模は北・南0.68m、東・西0.70m、深さは15cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は急に立ち上がる。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】暗褐色土単層の堆積。

【遺物】なし。

【時期】堆積土の特徴から縄文時代前期～中期である。

## 焼土遺構

## 1号焼土遺構 (第16図、写真図版23)

【位置・検出状況】18F7グリッドに位置し、2号焼土遺構に隣接する。

【規模・形状】焼土は0.86×0.48mの範囲に帯状に分布する。焼土厚は2～3cmである。

【被熱土】赤褐色土で、炭化物が混入する。

【遺物】縄文土器の胴部破片が周辺に散在している。

【時期】周辺での遺物の出土状況と、遺構の配置関係から、縄文時代の可能性がある。

## 2号焼土遺構 (第16図、写真図版23)

【位置・検出状況】18F7グリッドに位置し、1号焼土遺構に隣接する。北側半分は風倒木痕に切ら

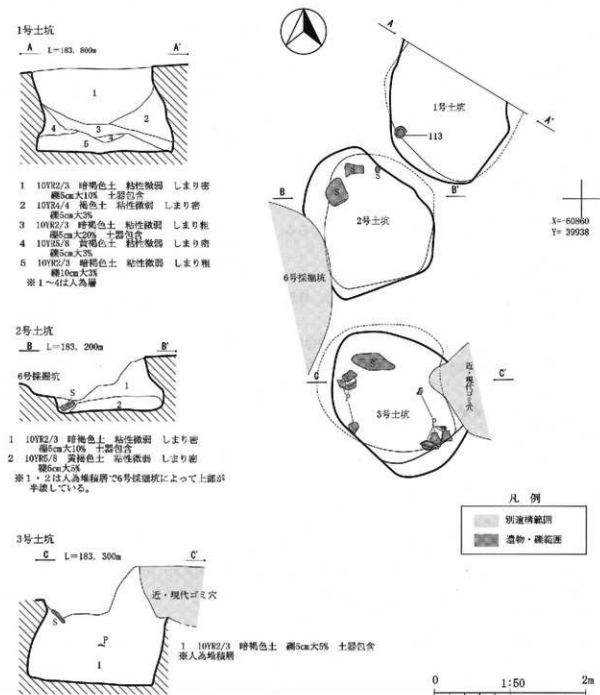
れている。

【規模・形状】 焼土は0.70×0.50mの範囲に分布する。焼土厚は3cmである。

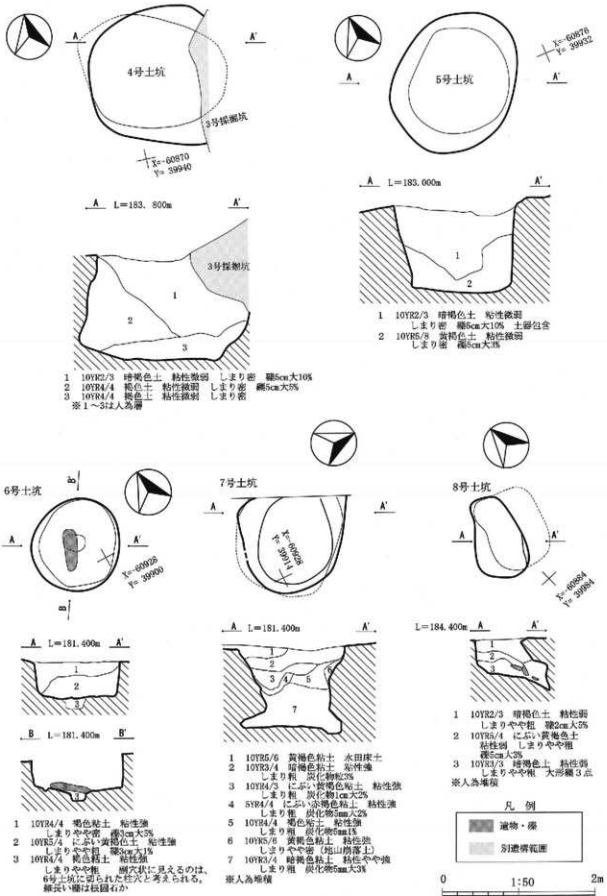
【被熱土】 暗赤褐色土で、炭化物が混入する。

【遺物】 縄文土器が散在している。

【時期】 周辺での遺物の出土状況と、遺構の配置関係から、縄文時代の可能性がある。

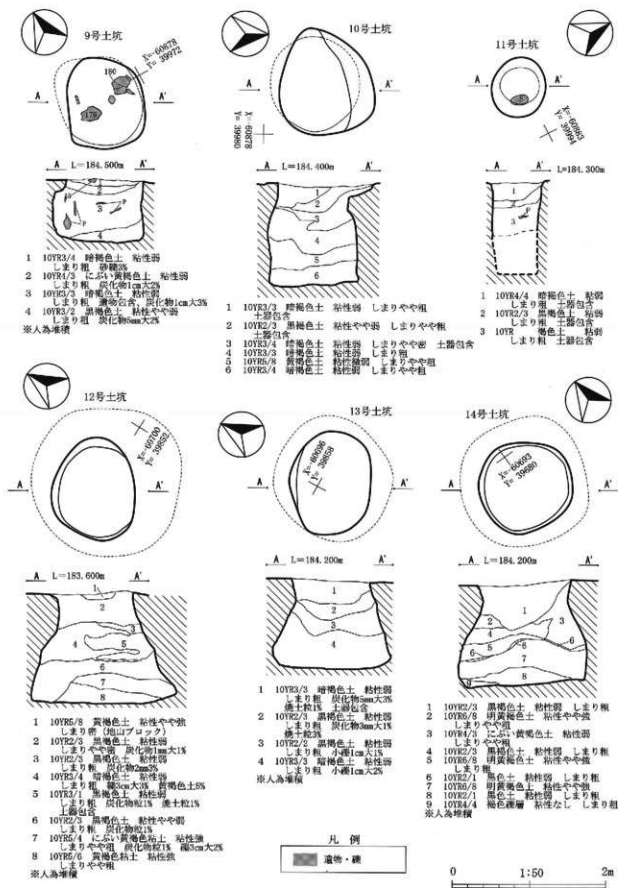


第13図 1～3号土坑

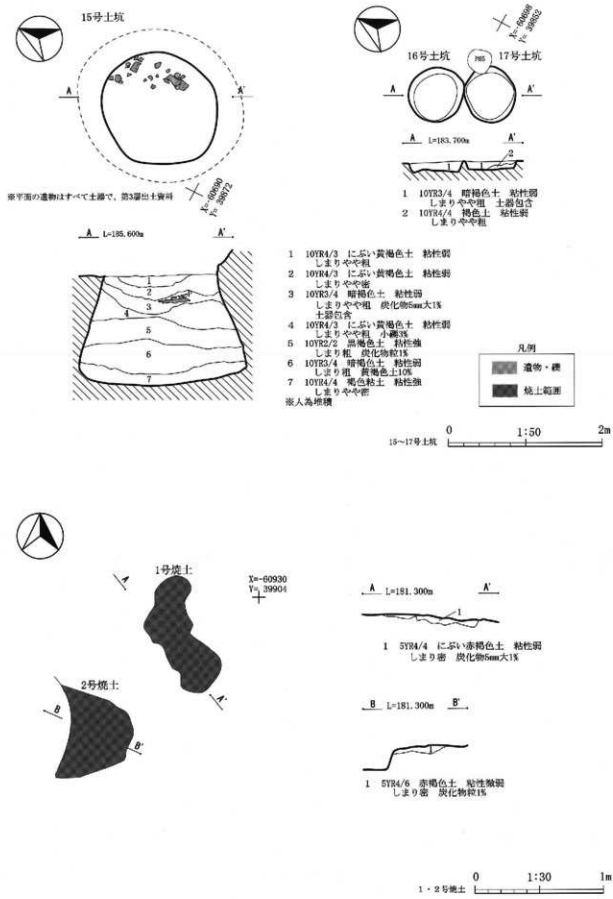


第14図 4~8号土坑





第15図 9～14号土坑



第16図 15~17号土坑、1・2号焼土遺構

## (2) 中世～近世初頭の遺構

## 竪穴建物跡

## 1号竪穴建物跡(第17図、写真図版24)

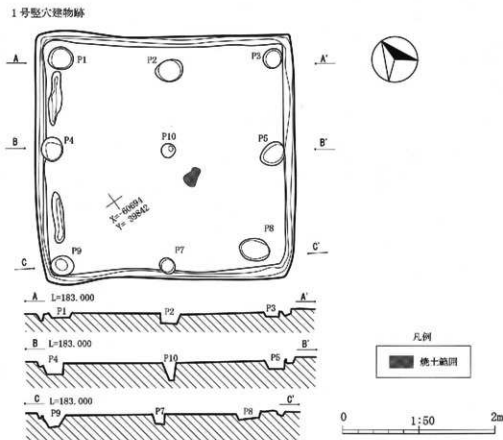
【位置・検出状況】6C17グリッド付近に位置する。西側に2号竪穴建物跡が隣接する。現況は水田である。耕作土を除去したところ、建物跡の周溝と考えられる黒色土プランを検出した。建物跡堆積土は水田造成・耕作により、床面まで削平され、残存していなかった。検出時は、周溝と柱穴のプランが建物壁際に確認できた。

【形態】平面形は正方形である。平面規模は3.21m×3.40mを測る。床面積9.28㎡である。軸方向はN-35度-Eである。周溝が廻り、その内側に柱穴が配置されている。床面は部分的に硬化していたが、貼床はない。焼土範囲が建物跡のほぼ中央部に存在した。方形竪穴建物跡は、残存状態が良ければ、入口部と思しき張出部が検出されることがあるが、本遺跡では確認できなかった。

【柱穴】9個確認した。

【遺物】摩耗した水楽銭(382)の破片が柱穴から出土した。

【時期】遺構の形態的特徴と出土遺物から中世～近世初頭と考えられる。なお、岩手県内の調査事例では、方形の竪穴建物跡を中世と捉えている。盛岡市台太郎遺跡跡などが典型である。旧大迫町屋敷遺跡でも、検出した方形竪穴建物跡(4・5号竪穴遺構)を、初期伊万里を伴出することから16世紀



第17図 1号竪穴建物跡

末～17世紀初頭とされた1号竪穴遺構より形態的に古いとして、中世に位置付けている。このことから、中世の遺構としても差し支えないが、時期決定に係わる遺物は水楽銭に限られる。水楽銭は寛永通宝の鋳造以前の近世初頭には広く流通している。これらの理由により、遺構の時期幅を広く捉えた。

## 2号竪穴建物跡 (第18図、写真図版25)

【位置・検出状況】6 D4グリッド付近の1号竪穴建物跡の西側に位置する。耕作土を除去したところ、VI層面上に削平を免れた黒褐色土プランを検出した。竪穴建物跡の周溝と柱穴のプランが建物壁際に確認できた。

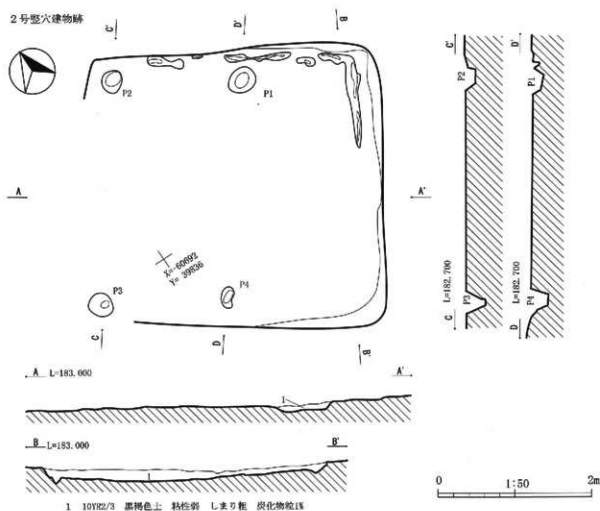
【形態】水田造成による削平で西側は消失している。平面形は正方形である。平面規模は $3.93 \times 3.76$ m、深さは25cmを測る。推定床面積 $13.16$ m<sup>2</sup>である。軸方向はN-27度-Eで、1号竪穴建物跡とはほぼ平行に並ぶ。周溝が北側と東側に残存し、その内側に柱穴が配置されている。床面は部分的に硬化していたが、貼床はない。

【堆積土】黒褐色土がわずかに残る。

【柱穴】4個確認した。

【遺物】I層から縄文土器 (111) が出土しているが、本遺構の年代を示すものではない。

【時期】遺構の形態的特徴と1号竪穴建物跡との配置関係から、1号竪穴建物跡とはほぼ同時期中世



第18図 2号竪穴建物跡

～近世初頭と考えられる。

### 3号竪穴建物跡（第19図、写真図版26・27）

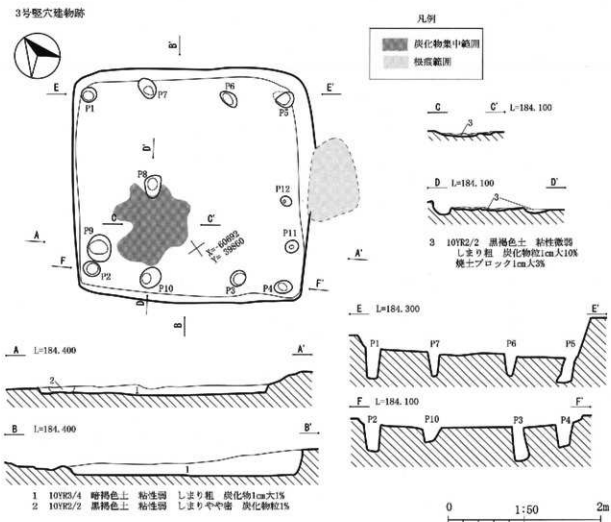
【位置・検出状況】6 D 6 グリッド付近に位置する。現況は水田である。耕作土を除去したところ、VI層面で方形の黒褐色～暗褐色土プランを検出した。東側は木根でカクランされている。本遺跡の縄文住居とは異なる堆積土に覆われていることから、古代以降の遺構と考えられた。南側は縄文時代フラスコ状土坑である14号土坑を切る。

【形態】平面形は正方形である。平面規模は3.18×3.10m、深さは37cmを測る。床面積7.96㎡である。軸方向はN-36度-Eである。周溝はない。張出部は確認できなかった。当初は、木根痕が張出部に相当する範囲ではないかと考えていた。しかし、掘削後は根痕跡が明瞭に見つかった。四方の壁際には柱穴が確認された。床面は部分的に硬化していたが、貼床はない。

【堆積土】1層が暗褐色土、2層が黒褐色土である。1層は上部よりも下部の炭化物量が多い。

【柱穴】11個確認した。

【時期】遺構の形態的特徴と堆積土から中世～近世初頭と考えられる。



第19図 3号竪穴建物跡

## (3) 近世以降の遺構

第2項で扱った近世初頭よりも新しいと考えられる遺構を一括した。掘立柱建物跡、柱列、近世墓墳、探掘坑が該当する。

## 掘立柱建物跡

## 1号掘立柱建物跡 (第20図、写真図版28・29)

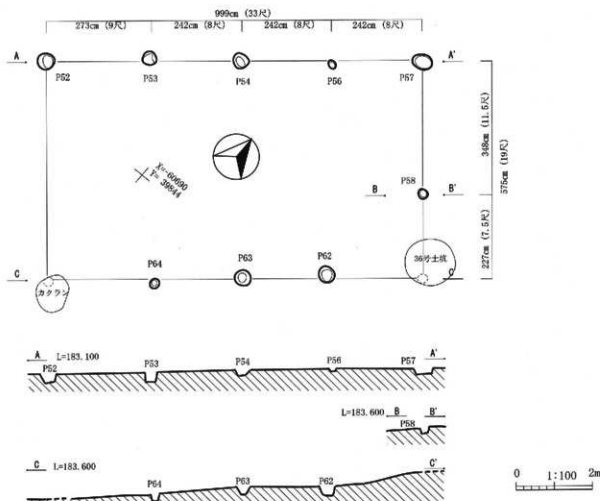
【位置・検出状況】5C9グリッド付近に位置する。現況是水田である。柱穴分布範囲から、ほぼ1直線に並ぶ柱穴を2列抽出したので、掘立柱建物跡として登録した。2号竪穴建物跡を切る。

【形態】桁行970cm (約32尺)、梁間575cm (約19尺)の範囲が確認された。4間×2間を想定した。北西端部の柱穴は土坑調査を先行したため、確認できなかった。

【堆積土】暗褐色土主体である。

【遺物】P54からフイゴ羽口(381)が出土している。重量は499.7gである

【時期】遺構の切り合い関係から、2号竪穴建物跡よりも新しい近世以降である。



第20図 1号掘立柱建物跡

## 2号掘立柱建物跡 (第21図、写真図版30)

【位置・検出状況】6C49グリッド付近に位置する。現況は水田である。柱穴分布範囲から、ほぼ1直線に並ぶ柱穴列を2列抽出した。調査区外の南東方向に延びるものと想定される。

【形態】調査区内で桁行1287cm(約42.5尺)、梁間501cm(約16.5尺)の範囲が確認された。

【堆積土】暗褐色土主体で、1号掘立柱建物跡を構成する柱穴の堆積土と類似する。

【時期】堆積土から、1号掘立柱建物跡とほぼ同時期の近世以降である。

## 柱穴列

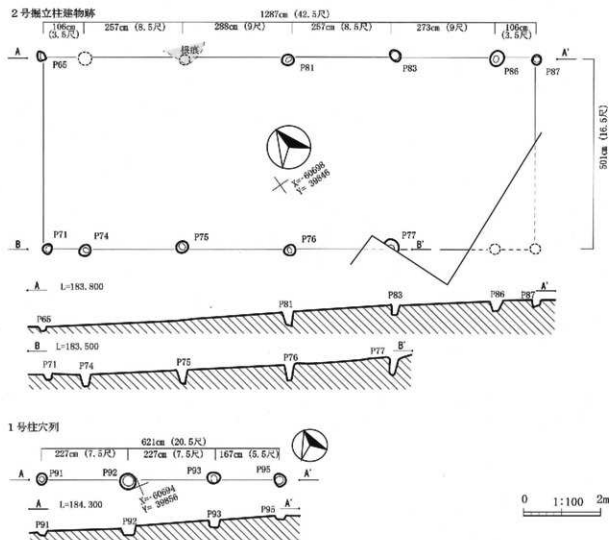
## 1号柱穴列 (第21図、写真図版30)

【位置・検出状況】6C24グリッド付近に位置する。現況は水田である。

【形態】4個の柱穴で構成される。調査区外の南東方向に延びる可能性が考えられる。調査区内では長さ621cm(約20.5尺)を測る。

【堆積土】暗褐色土主体で、1号掘立柱建物跡を構成する柱穴の堆積土と類似する。

【時期】堆積土から、1号掘立柱建物跡とほぼ同時期の近世以降である。



第21図 2号掘立柱建物跡、1号柱穴列

## 近世墓墳

近世墓墳は1～3号と、4～12号で、それぞれ墓墳群を形成する。4～12号近世墓墳は本調査区と確認調査区との境界に位置していたが、県教育委員会の承諾を得て、確認調査区内の各近世墓墳も発掘することとなった。なお、4～12号近世墓墳は、地表に墓石を伴う。墓石の年号は宝永3年(1706年)、天明6年(1786年)、弘化2年(1845年)が確認できた。墓墳群の存在する15I・15Jグリッドは、江戸時代中頃以降から次第に墓所として整備されていったものと推察される。

## 1号近世墓墳(第22図、写真図版31)

【位置・検出状況】15J56～57・66～67グリッドに位置する。2号近世墓墳精査時に検出された。

【重複関係】2号近世墓墳と重複し、これを切る。さらに2号近世墓墳と併せて9号探掘坑に切られている。なお、本遺跡で確認された探掘坑は、1・2号近世墓墳が9号探掘坑に切られていることを根拠として、近世以降と推定している。

【規模・形状】上部はほとんどが9号探掘坑に切られており、開口部平面形は不明であるが、2・3号近世墓墳との形態的類似性が強い。残存部の最大径は北・南で1.28m、深さは82cmを測る。底面は平坦であるが、壁はほとんど残存していない。

【遺物】<土器>175～178は、いずれも堆積土からの出土である。出土総重量は490gである。

【時期】重複関係から、江戸時代である。2号近世墓墳より新しく、9号探掘坑より古い。

## 2号近世墓墳(第22図、写真図版31)

【位置・検出状況】15J56・66グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】1号近世墓墳と重複し、これに切られる。また、1・2号近世墓墳は、9号探掘坑に切られる。

【規模・形状】他の遺構に切られているものの、残存部から判断するに、開口部平面形は円形基調である。隣接する1・3号近世墓墳と形状が類似する。残存部の最大径は北・南で1.47m、深さは40cmを測る。底面は平坦で、壁は急に立ち上がり、断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】西側に黒褐色土、東側に暗褐色土が堆積しているが、後者は9号探掘坑の堆積土である。底面近くから人骨が出土しており、墓穴であったとみられる。人為堆積である。

【遺物】堆積土下部より人骨が出土している。<土器>169～171が堆積土から出土した。出土総重量は310gである。<石器>石鏃(329)と剝片が堆積土から出土した。出土総重量は71.2gである。<銭貨>銅銭と思われる小破片が出土した。

【時期】堆積土と遺構の重複関係から、江戸時代である。1号近世墓墳より古い。

## 3号近世墓墳(第22図、写真図版31)

【位置・検出状況】15J55～56・65～66グリッドに位置する。VI層で検出した。2号近世墓墳に隣接する。

【規模・形状】平面規模は北東・南西1.26m、北西・南東1.07m、深さは20cmを測る。開口部平面形は楕円形である。底面はほぼ平坦でバケツ状の断面形を呈する。規模・形状は2号近世墓と類似する。

【堆積土】黄褐色シルト単層の堆積である。

【遺物】人骨と考えられる小骨片が微量出土した。<土器>174が堆積土から出土している。出土総



重量200gである。

【時期】堆積土と遺構形態から、2号近世墓塚とほぼ同時期の江戸時代である。

#### 4号近世墓塚（第22図、写真図版31）

【位置・検出状況】15 I 17～18・27グリッドに位置する。VI層で検出した。遺構範囲の北半分が確認調査区、南半分が本調査区に位置する。

【規模・形状】平面規模は北・南1.50m、東・西0.92m、深さは32cmを測る。開口部平面形は楕円形である。底面は西に傾き、壁は急角度で立ち上がり、浅鉢状の断面形を呈する。長軸方向はN-12°-Eである。北側に頭骨片、南側に膝部付近の骨片が残存していた。膝部が西向きになっていることから、遺体は、頭部を北方向にして、西向きの横臥姿勢で埋葬されたと考えられる。

【堆積土】1層で構成される。人為堆積である。

【遺物】堆積土から人骨が出土した。

【時期】堆積土、遺構形態、遺物から、江戸時代である。

#### 5号近世墓塚（第22図、写真図版32）

【位置・検出状況】15 I 16～17グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】6・7号近世墓塚が北側に接する。

【規模・形状】平面規模は北西・南東1.70m、北東・南西1.13m、深さは45cmを測る。開口部平面形は不整楕円形である。底面はほぼ平型で、断面形はバケツ状を呈する。長軸方向はN-60°-Wである。北西側に頭骨片、南東側に脚部の骨片が残存していた。膝部が南西向きになっていることから、遺体は、頭部を北西方向にして、西向きの横臥姿勢で埋葬されたと考えられる。

【堆積土】1層で構成される。人為堆積である。上面に扁平な礫が置かれていた。

【遺物】堆積土の底面近くから人骨が、堆積土上部から銅製煙管の雁首と吸口が出土した。煙管は18世紀後半～19世紀前半の形態的特徴を有する。

【時期】遺構形態と、遺物から江戸時代後半である。

#### 6号近世墓塚（第22図、写真図版32）

【位置・検出状況】15 I 7・17グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】7号近世墓塚と重複する。

【規模・形状】平面規模は北・南1.61m、東・西1.52m、深さは47cmを測る。開口部平面形は円形で、底面は東に傾き、壁は外側に膨らんで立ち上がっており、断面形はバケツ状を呈する。北側に頭骨片と副葬品が分布していることから、遺体は、頭部を北方向にして、埋葬されたと考えられる。

【堆積土】1層で構成される。人為堆積である。

【遺物】底面直上から銅鏡1点、寛永通宝5枚（新寛永）、人骨が出土している。

【時期】遺構形態と出土遺物より江戸時代中頃である。

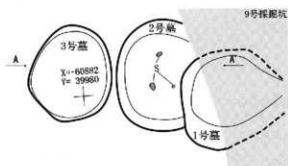
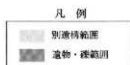
#### 7号近世墓塚（第23図、写真図版32）

【位置・検出状況】15 I 6・16グリッドに位置する。VI層で検出した。6号近世墓塚と重複していた。

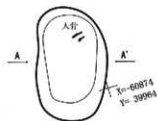
【重複関係】6号近世墓塚と重複し、これに切られる。

【規模・形状】東側が6号近世墓塚と重なって切られており、平面形は不明だが、残存部は楕円形基

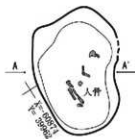
## 1~3号近世墓墳



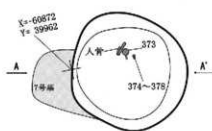
## 4号近世墓墳



## 5号近世墓墳



## 6号近世墓墳



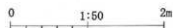
## 4号近世墓墳



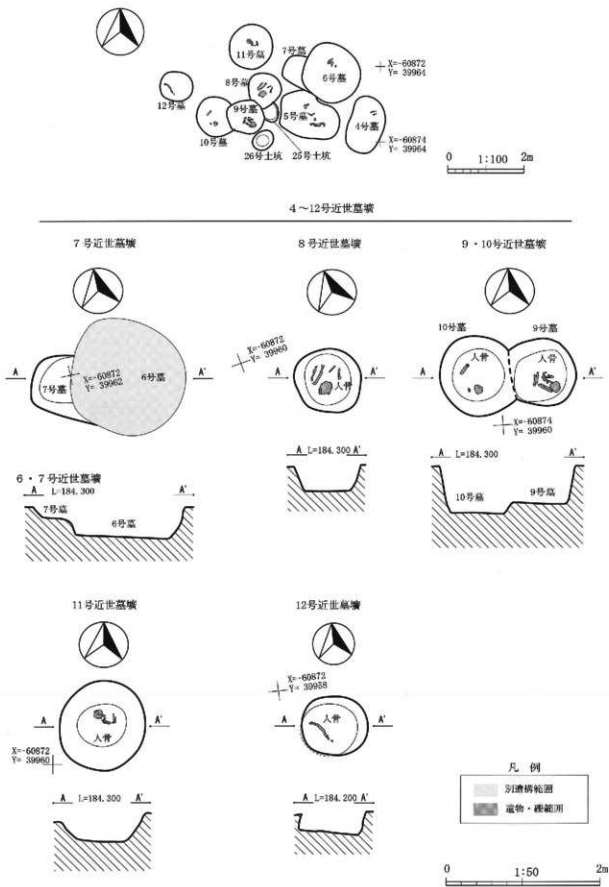
## 5号近世墓墳



## 6・7号近世墓墳



第22図 1~6号近世墓墳



第23図 7~12号近世墓塚

調である。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。残存平面規模は北・南0.81m、深さは17cmを測る。

【堆積土】1層で構成される。6号近世墓壙と類似の堆積土である。

【遺物】なし。

【時期】堆積土から6号近世墓壙とほぼ同時期の江戸時代である。

#### 8号近世墓壙（第23図、写真図版32）

【位置・検出状況】15 I 16グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】16号土坑と重複し、これを切る。

【規模・形状】平面規模は北・南0.87m、東・西0.84m、深さは37cmを測る。開口部平面形は円形で、底面は平坦で、壁は急角度で立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】上部に頭骨、底部に骨盤が位置する。人骨の出土状態から、遺体は座屈姿勢で埋葬され、脚部の位置から、顔は北北東を向いていたと考えられる。

【時期】堆積土と遺物から、江戸時代である。

#### 9号近世墓壙（第23図、写真図版33）

【位置・検出状況】15 I 16グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】東側は16号土坑と重複してこれを切る。北側は8号近世墓壙、西側は10号近世墓壙と重複している。

【規模・形状】残存部の平面規模は北・南0.90m、深さは52cmを測る。開口部平面形は円形と推測される。底面は平坦である。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】人骨が8号近世墓壙と類似の出土状態である。上部に頭骨、底部に骨盤が位置する。人骨の出土状態から、遺体は座屈姿勢で埋葬され、脚部の位置から、顔は北西を向いていたと考えられる。

【時期】堆積土と遺物から、江戸時代である。

#### 10号近世墓壙（第23図、写真図版33）

【位置・検出状況】15 I 15グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】東側が9号近世墓壙と重複している。

【規模・形状】残存部平面規模は北・南で1.06m、深さは67cmを測る。開口部平面形は円形と推測される。底面は平坦である。

【堆積土】1層で構成される。8・9号近世墓壙と堆積土が類似する。

【遺物】底面付近より人骨が出土している。

【時期】堆積土と遺物から、江戸時代である。

#### 11号近世墓壙（第23図、写真図版33）

【位置・検出状況】15 I 6グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面規模は北・南1.19m、東・西1.12m、深さは38cmを測る。開口部平面形は円形で、底面は平坦で狭く、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。8・9・10号近世墓塚と堆積土が類似する。

【遺物】底面付近の北側から人骨が出土している。頭部が西側、顔が北向きで屈葬されていた。残存状況が悪いため、もともと横臥姿勢で埋葬されたのか、あるいは座屈姿勢が棺桶内で倒れて、頭部が西側になってしまったのか、判断できない。

【時期】堆積土と遺物から、江戸時代である。

#### 12号近世墓塚（第23図、写真図版33）

【位置・検出状況】15 I 15グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面規模は北・南0.78m、東・西0.87m、深さは32cmを測る。開口部平面形は楕円形である。底面は東に傾き、東壁は影らみながら立ち上がる。西側上部が削平されており不明だが、断面はバケツ形を呈していたものと推測される。

【堆積土】1層で構成される。8～11号近世墓塚の堆積土に類似する。

【遺物】堆積土中部より大腿骨片が出土している。

【時期】堆積土と遺物から、江戸時代である。

#### 土坑

##### 18号土坑（第24図、写真図版34）

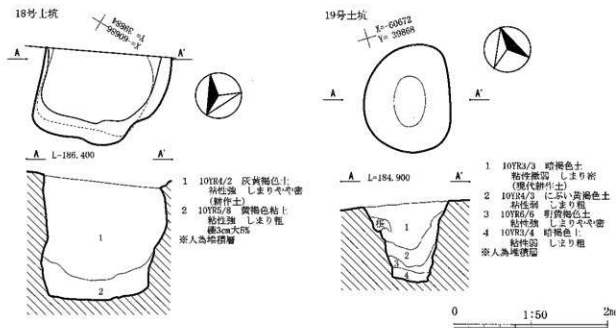
【位置・検出状況】5 E 77～78グリッドに位置する。

【規模・形状】南半分は調査区外であり、開口部平面形は不明である。残存部平面規模は1.70m、深さは111cmを測る。底面は丸みを帯び、壁は不整であるが急に立ち上がっており、断面形は袋状を呈する。

【堆積土】主に灰黄褐色粘土で、水田床土を含む耕作土である。非戸跡を埋めたものとみられる。

【遺物】なし。

【時期】地権者からの聞き取り情報と、堆積土の状況から、近現代である。



第24図 18・19号土坑

## 19号土坑 (第24図、写真図版34)

【位置・検出状況】5 D19～20グリッドに位置する。

【規模・形状】平面形は楕円形である。開口部平面規模は北東・南西1.43m、北西・南東1.16m、深さは106cmを測る。底面は狭く、壁は外傾しながら立ち上がる。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】堆積土下部に暗褐色土、中部に黄褐色土、上部には暗褐色土が堆積しているが、上部の堆積土は礫を多く含む。近現代の堆積土とみられる。

【遺物】なし。

【時期】堆積土の特徴から近現代である。

## 採掘坑

採掘坑は、天井が形成されるように坑道を作る坑内掘りのものと、天井のない状態の露天掘りのものがある。坑内掘りは、廃絶後に天井が崩落し、その後に上部の堆積層が流入したか、水田耕作者によって人為的に埋め戻されている。したがって、坑内掘りの堆積層は、まず底面近くに天井崩落前の暗褐色土や黒褐色土などが堆積し、その上部に天井を構成していたと考えられるV層やVI層が堆積し、さらにその上に崖錐礫が混入する。一方、露天掘りは、掘削時の生活面の土壌が流入する。黄褐色土がほとんど流入せず、黒色土や黒褐色土でほぼ満たされている採掘坑は、露天掘りの可能性が高い。なお、今回の調査で確認した1～9号採掘坑の掘削時期は、9号採掘坑が1・2号近世墓壙を切っていることを根拠として、近世以降と捉えた。

## 1号採掘坑 (第25図、写真図版34)

【位置・検出状況】17G85グリッド付近に位置する。2号竪穴住居跡の東側を切る、弧状の範囲をVI層面で検出した。

【重複関係】2号竪穴住居跡を切る。

【規模・形状】大半が調査区外に存在するものと考えられる。検出範囲の長さは3.90m、幅1.35m、深さは165cmを測る。

【堆積土】坑内掘りにみられる堆積状況である。底面に黒褐色土が薄く堆積し、その上部にVI層を起源とする天井の崩落土が厚く覆う。堆積層は南側に向かって下降している。堆積土の観察から、本遺構は下中居I遺跡と下中居II遺跡の境界となっている崖から坑内掘りによって形成され、廃絶後に陥没したと考えられる。

【遺物】遺構の時期決定の根拠となる遺物は出土していない。

【時期】下中居地区全体での採掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壙を切って構築されている9号採掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性はある。

## 2号採掘坑 (第25図、写真図版34)

【位置・検出状況】17G54グリッド付近に位置する。2号竪穴住居跡の北側に位置する半楕円形の範囲をVI層面で検出した。

【規模・形状】調査区外の東側に延びると考えられる。検出範囲の長さは7m、幅5m。東西断面の観察・撮影と平面の図化のみ行った。

【堆積土】底面に黒褐色土が堆積し、その上部に東側からVI層を起源とする天井の崩落土が覆う。さらにその上部に暗褐色土が堆積している。堆積土から判断すると、本遺構は坑内掘りによって形成さ

れ、廃絶後に陥没し、その後、埋め立てられたと考えられる。

【遺物】流れ込んだ縄文土器が、堆積土から出土している。遺構の時期決定の根拠となる遺物は出土していない。出土土器総重量は359gである。

【時期】下中居地区全体での探掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壙を切って構築されている9号探掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性がある。

### 3号探掘坑（第25図、写真図版35）

【位置・検出状況】14H89グリッド付近に位置する。東西に細長い不定形プランをⅥ層面で検出した。

【規模・形状】調査区外の南側に延びると考えられる。平面は図化し、断面は写真撮影のみ行った。西側は農道の下に潜っていたが、西端を調査区内で把握できたので、1つの坑道跡と見なした。検出範囲の長さは15.65m、幅7.19m、深さは約220cmを測る。

【堆積土】天井の崩落土と崖錐礫が多量に混入する層がみられる。坑内掘りによって形成され、廃絶後に陥没したと考えられる。

【遺物】時期決定の根拠となる遺物は出土していない。

【時期】下中居地区全体での探掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壙を切って構築されている9号探掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性がある。

### 4号探掘坑（第25図、写真図版35）

【位置・検出状況】15J99グリッド付近に位置する。不定形プランをⅣ層面で検出した。

【規模・形状】調査区外の南側に延びると考えられる。平面のみ図化した。検出範囲の長さは3.40m、幅6.50mを測る。

【堆積土】検出面は礫が多量に混入している。このことから、1～3号探掘坑と同じく坑内掘りで形成され、廃絶後に天井の崩落し、さらに埋め戻されたと考えられる。

【時期】下中居地区全体での探掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壙を切って構築されている9号探掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性がある。

### 5号探掘坑（第26図、写真図版35）

【位置・検出状況】5D9グリッド付近に位置する。南北に細長い不定形プランをⅤ層面で検出した。

【規模・形状】調査区外の内側方向に延びると考えられる。北側が深く、南側が浅い。検出範囲の長さは6.80m、幅2.84m、深さは160cmを測る。

【堆積土】北側の深い袋状範囲は南側からの土砂流入によって埋没したと考えられる。上部には黒褐色土が覆う。1～3号探掘坑と異なり、天井部の崩落土がない。したがって、本探掘坑は露天掘りによって形成されたと考えられる。

【時期】下中居地区全体での探掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壙を切って構築されている9号探掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性がある。

### 6号探掘坑（第26図、写真図版35）

【位置・検出状況】14H41グリッド付近に位置する。調査区壁に沿った東西に細長い不定形プランをⅥ層面で検出した。

【重複関係】縄文時代中期の遺物が出土している2号土坑を切る。

【規模・形状】調査区外の西側方向に延びると考えられる。検出範囲の長さは5.50m、幅6.55mを測る。

【堆積土】最下部に黒褐色土、中部に天井の崩落土がある。したがって本採掘坑は、坑内掘りて形成され、廃絶後に天井が崩落したと考えられる。また、北側からの土砂流入によって埋没したと考えられる。

【時期】下中居地区全体での採掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壇を切って構築されている9号採掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性はある。

#### 7号採掘坑（第26図、写真図版35）

【位置・検出状況】14G18グリッド付近に位置する。調査区壁に沿った不定形プランを検出した。

【規模・形状】調査区外の西側方向に延びると考えられる。平面プランのみ図化した。検出範囲の長さは4.71m、幅3.67mを測る。6号採掘坑の延長線上に位置する可能性が高い。

【堆積土】検出面は、礫の混入する暗褐色土が堆積していた。

【遺物】堆積土から摩耗した土器が601g出土したが、時期決定の根拠となる遺物は出土していない。

【時期】江戸時代以降の可能性が考えられる。下中居地区全体での採掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壇を切って構築されている9号採掘坑の存在から、江戸時代後半以降の可能性はある。

#### 8号採掘坑（第26図、写真図版35）

【位置・検出状況】座標値18G4グリッド付近に位置する。調査区壁に沿った東西に細長い弧状のプランを2号堅穴住居調査時に検出した。下中居Ⅰ遺跡と下中居Ⅱ遺跡の境界となる崖線上に位置する。

【重複関係】2号堅穴住居跡の南側を切る。

【規模・形状】調査区外の南側方向に延びると考えられる。検出範囲の長さは1.00m、幅3.20m、深さは69cmを測る。

【堆積土】堆積状況が1号採掘坑と類似する。堆積土の観察から、本道構は下中居Ⅰ遺跡と下中居Ⅱ遺跡の境界となっている崖から坑内掘りによって形成され、廃絶後に陥没したと考えられる。

【遺物】なし。

【時期】下中居地区全体での採掘活動がほぼ同時期であるならば、1・2号近世墓壇を切って構築されている9号採掘坑の存在から、江戸時代以降の可能性はある。

#### 9号採掘坑（第27図、写真図版36）

【位置・検出状況】15J47グリッド付近の内容確認調査区と本調査区に跨っている。確認調査区内範囲についてはトレンチによる断面観察を行っている。

【重複関係】1・2号近世墓壇を切る。

【規模・形状】北部は溜池状で、標高の低い南側に向かって溝が延びる。検出範囲の長さは13.85m、袋状部分は幅4.85mである。袋状範囲の深さは198cmを測る。周辺地域で斜面地に溜池をつくることのあるとの情報から、調査中はこの遺構の用途を溜池と考えていた。しかし、70代の地権者に確認したところ、そのような施設を作ったことはないとの回答をいただいた。また、礫層（VI層）を掘りぬいているため、水が溜らない構造となっており、溜池と考えるには疑問が残る。野外調査では1～3号採掘坑にみられる坑内掘りの採掘坑を先に検出・調査したため、露土掘りの堆積状況についての認

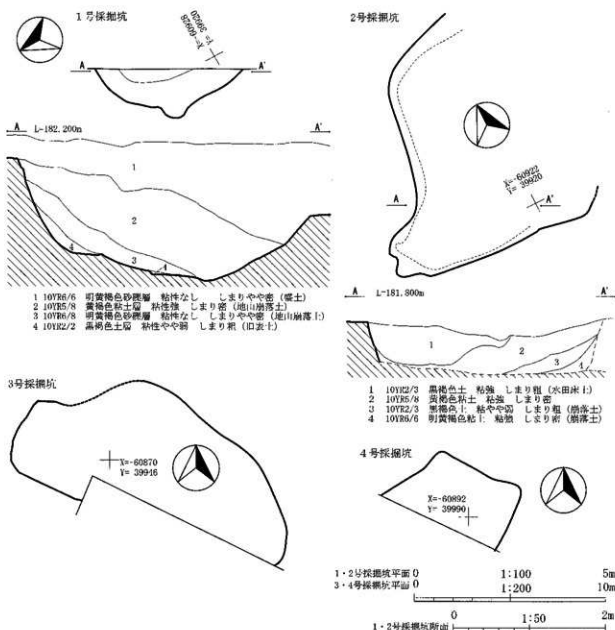


識が浅く、本遺構は溜池状施設と捉えていた。しかし、15Jグリッド付近は4号探掘坑と隣接することから、探掘に適した地形や地層が広がっていることは明らかである。仮に溜池として機能したとしても、溜池を作ることを目的したのではなく、探掘坑を露天掘りで探掘した後、埋まり切らない状態の本遺構を溜池として再利用したと考えるほうが自然であろう。

【堆積土】主に黒褐色土で構成される。底面付近の堆積土は若干の水分を含んでいたが、水性堆積とは言いがたい。本遺構には、坑内掘りに見られるような天井崩落土と考えられる黄褐色土や砂礫層がない。したがって、本探掘坑は露天掘りによって形成され、黒色土や黒褐色土の流入によって埋没したと考えられる。

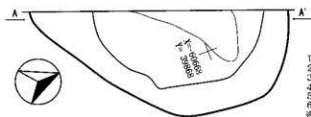
【遺物】流れ込んだ縄文土器(276~292)が、堆積土から出土している。出土総重量は14304gである。遺構の時期決定の根拠となる遺物は出土していない。

【時期】1・2号近世墓塚を切って構築されていることから、江戸時代以降である。

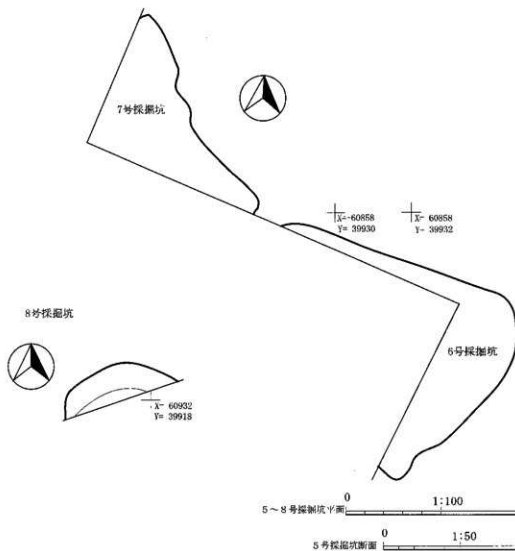
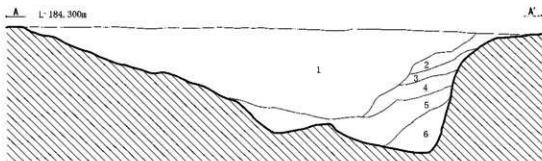


第25図 1~4号探掘坑

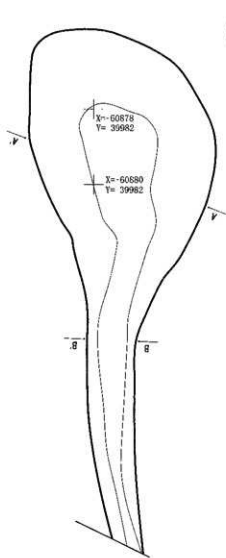
5号探掘坑



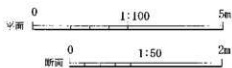
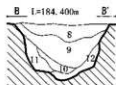
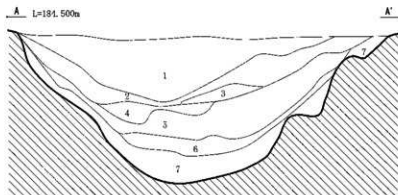
- |   |         |         |       |      |         |
|---|---------|---------|-------|------|---------|
| 1 | 10YR2/4 | 黄褐色土    | 粘性や中弱 | しまり粗 | 礫3cm大1% |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 粘性や中強 | しまり粗 | 礫3cm大1% |
| 3 | 10YR2/4 | 黄褐色土    | 粘性や中弱 | しまり粗 |         |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 粘性や中強 | しまり粗 | 地山崩落土   |
| 5 | 10YR3/3 | 黄褐色土    | 粘性や中強 | しまり粗 |         |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 粘性や中強 | しまり粗 | 地山崩落土   |
- ※人為堆積



第26図 5~8号探掘坑



- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり粗  
礫3cm大径
  - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 粘性強弱 しまり粗  
礫3cm大径
  - 3 10YR6/8 明黄褐色土 粘性弱 しまり粗  
礫3cm大径
  - 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり粗
  - 5 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり粗  
礫3cm大径
  - 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや粗
  - 7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 粘性強弱 しまり粗  
(埴山砂礫土)
- ※人為堆積
- 8 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや弱 しまり粗  
礫3cm大径
  - 9 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり粗
  - 10 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり粗
  - 11 10YR6/8 明黄褐色土 粘性弱 しまり粗  
礫3cm大径
  - 12 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 粘性強弱 しまり粗  
(第7層底面)
- ※人為堆積



第27図 9号探掘坑

## (3) 時期不明の遺構

遺物が底面から出土せず、堆積土が周辺の遺構や基本土層と類似しないものを時期不明とした。

## 20号土坑 (第28図、写真図版37)

【位置・検出状況】17F83グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】P23と重複し、これを切る。

【規模・形状】平面形は円形である。平面規模は北・南0.99m、東・西1.05m、深さは55cmを測る。北東部の壁はオーバーハングしているが、それ以外の壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】下部に褐色粘土、上部に暗褐色土が堆積している。いずれも土器を包含し、堆積土上部には人頭大の礫がみられる。人為堆積である。

【遺物】<土器>153は堆積土から出土した。出土総重量は280gである。<石器>敲磨器(347)と剥片が堆積土下部から出土した。総重量は421.7gである。

## 21号土坑 (第28図、写真図版37)

【位置・検出状況】17F97グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】P4・5と重複する。ピットとの前後関係は不明である。

【規模・形状】北側半分が調査区外にあたるため平面形は不明である。残存部の最大径は北西・南東1.02m、深さ20cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。

【堆積土】炭化物と土器を含む黒褐色土が堆積している。自然堆積である。

【遺物】<土器>154~156は全て堆積土から出土した。出土総重量は497gである。

## 22号土坑 (第28図、写真図版37)

【位置・検出状況】15J87~88グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は不整形円形である。平面規模は北・南1.12m、東・西0.94m、深さは14cmを測る。底面は平坦で、断面形は浅鉢状を呈する。

【堆積土】黒褐色上層の堆積である。

【遺物】<土器>160が堆積土から出土した。出土総重量は275gである。

## 23号土坑 (第28図、写真図版37)

【位置・検出状況】15J68・78グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は楕円形である。平面規模は北・南1.12m、東・西0.83m、深さは22cmを測る。底面は凸凹があり、壁は直線的に立ち上がる。断面形は浅鉢状を呈する。

【堆積土】黒褐色土が堆積していた。

【遺物】なし。

24号土坑（第28図、写真図版38）

【位置・検出状況】15J76グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は不整形である。平面規模は北・南1.04m、東・西1.04m、深さ35cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】上部が黒褐色土、下部が暗褐色粘土の2層で構成される。

【遺物】<土器>172・173は堆積土下部から出土した。出土総重量は221gである。

25号土坑（第28図、写真図版38）

【位置・検出状況】15I16グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複関係】8・9号近世墓と重複し、これらに切られる。

【規模・形状】平面形は、西側が他の遺構に切られており不明である。残存部の最大径は北東・南西0.47m、深さは31cmを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし。

【時期】不明だが、他の遺構との重複関係から近世墓の構築以前である。

26号土坑（第29図、写真図版38）

【位置・検出状況】15I16・26グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は楕円形である。平面規模は北西・南東0.47m、北東・南西0.59m、深さは31cmを測る。底面は平坦で、断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】<石器>石匙（330）が堆積土から出土している。重量は20.6gである。

27号土坑（第29図、写真図版38）

【位置・検出状況】15I5グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は楕円形である。平面規模は北西・南東0.76m、北東・南西0.51m、深さ30cmを測る。底面は西側が攪乱され、一段低くなっている。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし。

28号土坑（第29図、写真図版39）

【位置・検出状況】15I14グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】平面形は楕円形である。平面規模は北東・南西0.49m、北西・南東0.40m、深さは19cmを測る。底面は平坦で、東壁はほぼ垂直に、それ以外の壁は緩やかに立ち上がる。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし。

29号土坑（第29図、写真図版39）

【位置・検出状況】15I24グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模・形状】西側が削平されており平面形は不明であるが、残存部の最大径は北東・南西0.80mである。深さは34cmを測る。底面中央部に径0.33×0.22m、深さ23cmで副穴がある。南壁は緩やかに、それ以外の壁は直線的に立ち上がる。断面形はバケツ形を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし。

### 30号土坑（第29図、写真図版39）

【位置・検出状況】15I34グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【規模・形状】南側が調査区外にあたるため平面形は不明であるが、平面の最長部は北西・南東で0.86mである。深さは63cmを測る。断面形はすり鉢状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし。

### 31号土坑（第29図、写真図版39）

【位置・検出状況】15I24～25グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【規模・形状】西側が削平されているため、平面形は不明である。残存部の最大径は北東・南西で0.80m、深さは23cmを測る。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし。

### 32号土坑（第30図、写真図版40）

【位置・検出状況】15I81～82グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

【規模・形状】北側が一部攪乱されている。平面形は円形である。平面規模は北西・南東0.97m、北東・南西0.82m、深さは18cmを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。断面形はバケツ形を呈する。【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし

### 33号土坑（第30図、写真図版40）

【位置・検出状況】15J70～15K61、15J80グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

【規模・形状】平面形は円形である。平面規模は北東・南西0.89m、北西・南東0.80m、深さは45cmを測る。底面は東に傾く。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】1層で構成される。

【遺物】なし

### 34号土坑（第30図、写真図版40）

【位置・検出状況】6C8グリッドに位置する。

【規模・形状】平面形は円形である。平面規模は北西・南東1.06m、北東・南西0.90m、深さは74cmを測る。底面はほぼ平坦である。断面形はバケツ状を呈する。

【堆積土】下部に褐色土がみられ、その上にはい貴褐色土や黒色土がレンズ状に堆積している。

【遺物】なし。

35号土坑（第30図、写真図版40）

【位置・検出状況】5 C46・56グリッドに位置する。

【規模・形状】平面形は楕円形である。平面規模は北東・南西1.24m、北西・南東1.11m、深さは60cmを測る。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は袋状を呈する。

【堆積土】壁面の黄褐色土が崩落した後に、暗褐色土が堆積し、さらにその上位に黒色土が堆積している。

【遺物】なし。

36号土坑（第30図、写真図版41）

【位置・検出状況】5 D81グリッドに位置する。

【規模・形状】平面形は円形である。平面規模は北東・南西1.29m、北西・南東1.16m、深さは106cmを測る。底面は丸みを帯び、壁はほぼ直角に立ち上がる。断面形は袋状を呈する。

【堆積土】堆積土下部～中部には黄褐色土が、上位には暗褐色土と黒色土が堆積している。

【遺物】なし。

37号土坑（第30図、写真図版41）

【位置・検出状況】5 D50グリッドに位置する。

【規模・形状】平面形は円形である。平面規模は北・南0.98m、東・西0.92m、深さは80cmを測る。底面は丸みを帯びている。西壁は内湾し、東壁はやや外傾しながら立ち上がる。断面形は袋状を呈する。

【堆積土】下部に黒褐色土、中部に褐色土、上部に黒褐色土が堆積し、3層に分層した。2層中に根跡がみられる。

【遺物】なし。

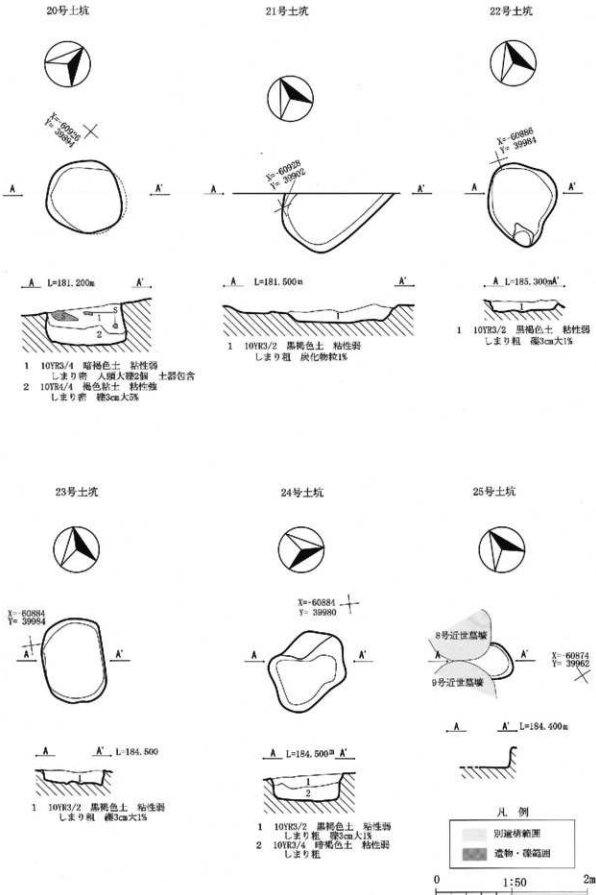
38号土坑（第30図、写真図版41）

【位置・検出状況】4 E41～42・51～52グリッドに位置する。

【規模・形状】平面形は不整形である。平面規模は北東・南西1.95m、北西・南東1.83m、深さは30cmを測る。底面は丸みを帯び、壁はなだらかに立ち上がる。断面形は碗状を呈する。

【堆積土】下部には焼土粒の含まれるにぶい黄褐色土が、上部には褐色土が堆積している。人為堆積である。

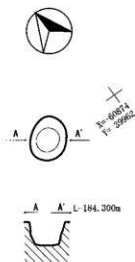
【遺物】なし。



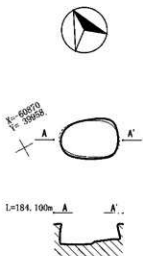
第28図 20~25号土坑



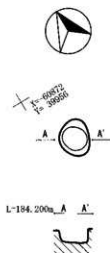
26号土坑



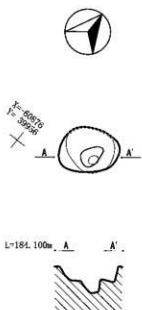
27号土坑



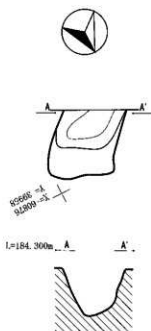
28号土坑



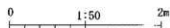
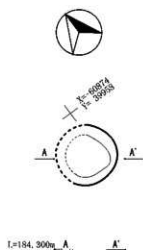
29号土坑



30号土坑



31号土坑

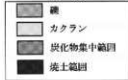


第29图 26~31号土坑

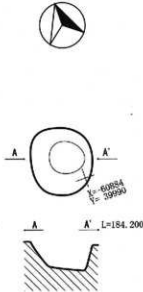
32号土坑



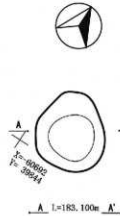
凡例



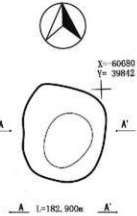
33号土坑



34号土坑

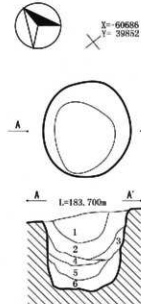


35号土坑

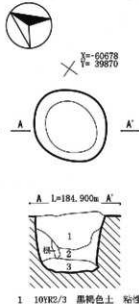


- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性弱  
しまり粗
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土  
粘性弱 しまり粗
- 3 10YR4/4 褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 4 10YR2/3 暗褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 4 10YR5/8 黄褐色土 粘性弱  
しまり粗 (地山崩落土)
- 5 10YR4/4 褐色粘土 粘性強  
しまり粗
- ※人為堆積

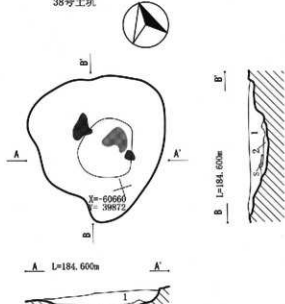
36号土坑



37号土坑



38号土坑



- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性弱  
しまり粗
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 3 10YR5/6 黄褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 5 10YR3/4 にぶい黄褐色土 粘性強  
しまり粗
- 6 10YR5/6 明黄褐色粘土 粘性強  
しまり粗

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱  
しまり粗 (炭灰?)
- 2 10YR4/6 褐色土 粘性弱  
しまり粗
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱  
しまり粗

- 1 10YR4/6 褐色土 粘性微弱 しまりやや密  
炭化物1cm大5%
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性弱 しまり粗  
炭化物1cm大5% 炭土粒3%

0 1:50 2m

第30図 32~38号土坑

## 3 遺物

## (1) 縄文土器

【分類】以下のごとくⅠ～Ⅷ群にグルーピングし、その中を地文の施文要素によって細分した。下中居Ⅰ遺跡と下中居Ⅱ遺跡で共通である。下中居Ⅰ遺跡は遺構毎に掲載し、下中居Ⅱ遺跡は検出されたのが捨て場のみなので、群ごとに掲載した。下中居Ⅱ遺跡出土資料については、Ⅴ章に記載してある。

- Ⅰ群 大木2式相当      Ⅱ群 大木4式相当      Ⅲ群 大木5式相当  
 Ⅳ群 大木6式相当      Ⅴ群 大木7a式相当      Ⅵ群 大木7b式相当  
 Ⅶ群 Ⅰ～Ⅵ群のうち、文様要素に乏しく、各群に細分し難いもの  
 Ⅷ群 縄文時代後期以降の土器

1種：結節回転文・結束縄文、2種：木目状燃糸文、3種：網目状燃糸文、4種：燃糸文、5種：縄文、6種：オオバコ回転文、7種：樹菌状文、8種：無文あるいは無文部、9種：沈線

これらのうち、Ⅳ・Ⅴ群が主体である。また、文様要素に乏しいⅦ群も胎土や器形の特徴などから、ほとんどがⅣ・Ⅴ群と同時期と考えられる。

また、Ⅳ群については、松田論文(2002・2003・2004)を参考として、口縁部肥厚帯に見られる文様要素から、古段階、中段階、新段階に3細分した。

古段階：口縁部肥厚帯が無文の段階

中段階：口縁部肥厚帯に1～2本の太沈線が施文される段階

新段階：口縁部肥厚帯に3本以上の複数の太沈線が施文される段階

下中居Ⅰ遺跡のⅣ群土器のなかでは、新段階が主体である。

Ⅴ群は縦位隆帯の施文をメルクマルとした。岩手県内遺跡の発掘調査報告書や研究では、この特徴をもって大木7a式段階とされている。なお、松田論文では大木7a式のはじめを口縁部文様帯の多段化にもとめており、縦位隆帯のある個体であっても大木6新段階と認識されている。大木6式新段階から大木7a式段階までの型式学的分類案は研究者によって様々あるが、本遺跡の遺構内出土遺物は、その前後段階の土器も含むことが多い。

【資料】下中居Ⅰ遺跡においては、水田造成による地形改変によって遺物包含層の削平がすすんでいたため、遺構内出土遺物が主体となる。ただし、竪穴住居跡は床面近くまで削平が及び、小破片資料が多い。土坑内出土資料のほうが一括性が高い。

1～11は竪穴住居跡出土土器である。1～16は1号竪穴住居跡出土資料で、Ⅳ群に比べて器厚の薄いⅤ群が主体である。13の胴部には間隔を空けた縦位の結節回転文が施文され、大木7a式の特徴を有する。17～47は2号竪穴住居跡出土資料で、器厚の薄い資料が多い。44の縦位貼付文はⅤ群の特徴の一つである。胴部文様では、1種(33)、2種(31・38・43)、3種(28・29)7種(36・37)などが見られる。48～89は3号竪穴住居跡出土資料である。50はⅣ群で、口縁部に太沈線、その下位に山形多重沈線を施文する。58は口縁部が肥厚し、縦位貼付文により区画され、太沈線が施文されている。Ⅳ群土器の特徴を留めるⅤ群土器の最古段階の資料と考えられる。90～107は4号竪穴住居跡の出土資料で、Ⅴ群が多い。98は下中居Ⅱ遺跡1号捨て場出土資料との遺跡間接合資料である。Ⅳ群(96・106)は住居内では客体的である。99は突起状貼付文から垂下隆帯が延びるⅥ群土器である。108～

111は5号堅穴住居出土資料で、胎土や器厚の薄さから、V群である。

112～275は土坑出土土器である。112～114は1号土坑出土資料で、V群土器である。113はほぼ完形で出土した。113は口縁部の隆帯区画内に斜沈線を連続施文する。114は口縁部から区画文がなくなる段階のもので、V群の中でも新段階に位置するものと考えられる。120～149は3号土坑出土資料で、V群を主体とする。124～127は同一個体である。口縁部と頸部との境界に段を有するが、3号土坑出土資料は隆帯区画が客体的となっている。1～3号土坑は土坑群を構成しており、ほぼ同時期と考えられる。179～209は9号土坑出土資料で、IV群土器が主体を占める。179～184の口縁部は口縁部肥厚帯に太沈線を施文している。210～243は10号土坑出土資料で、口縁部文様帯の多段化(219・220)、縦位隆帯(221・222・228)など、V群の特徴を有する土器が多い。244～257は11号土坑出土資料で、口縁が肥厚するIV群土器(246・250・253)、口縁部文様帯が多段化するV群(252)などが出土している。258～275は15号土坑出土土器で、V群(259・261・262等)を主体とするが、IV群新段階(263・265)もわずかに含まれる。

276～314は採掘坑、不整形遺構、攪乱範囲、風倒木痕から出土した土器で、IV・V群である。276～290は9号採掘坑出土資料である。採掘坑の埋没過程で流入したものと考えられる。この中には、9号採掘坑に隣接する3・4号堅穴住居跡層の遺物が含まれている可能性がある。不整形遺構、攪乱もしくは採掘坑と考えられる範囲から遺物(297～313)が回収された。IV群(297～299・301・302)は口縁部に多重沈線文が描かれる資料(298・301・302)が散見され、新段階の特徴を有する。V群では口縁部文様帯の多段や縦位隆帯のみられる304などの典型例が回収された。

## (2) 土 製 品

4点出土している。耳飾(315・316)と土偶(317・318)である。土偶は縄文時代前期～中期にみられる板状土偶である。318は結髪で、眉毛、目、鼻、口、乳房などが表現されている。

## (3) 石 器

石鏃(319～329)、石匙(330～334)、搔器(335～338)、削器(339)、楔形石器(340)、石核(341・342)、石錘(343～345)、敲磨石(346～350)、磨石(351～356)、敲石(357～363)、台石(364～367)、円盤状石器(368)などが出土している。住居内出土遺物は床面からの出土数が少なく、柱穴に根固石として転用された礫石器の出土数が多い。水出造成による削平で、住居内の遺物の多くは、移動した可能性が高い。

石鏃、石匙などの剥片石器の利用石材は、頁岩を主体とする。「礫石産」黒曜石製石鏃が1点だけ出土している。石鏃の形態は無茎凹基(319・321・322・324～326)が多い。石匙は縦型(333・334)、横型(330・332)などが出土しているが、縦型・横型の形態差を越えて、紐を結える部分と考えられる挟入部の幅は、約1cm程度である。331は石匙状の垂飾品の可能性も考えられる。石錘は、素材礫の長軸に挟入部がある。縄を巻いた痕跡と考えられる。投網の錘としては重量がありすぎる資料であるため、漁撈具ではなく、糸紡具としての用途が考えられる。敲磨石・磨石は、磨面が正・裏面にあるもの(349・352・353)と、側面を打撃により調整した後、磨面が形成されているもの(350・351・354・356)がある。

正・裏面が磨られているものは、磨面の発達が弱い。それに対して側面に磨面を有する個体は、磨面が発達し、太い擦痕も残っている。したがって正・裏面に磨面をもつ個体は、柔らかい対象物(例えば皮革、根菜類等)との接触が多く、側面に磨面を有する個体は、固い対象物(木、骨、石等)との

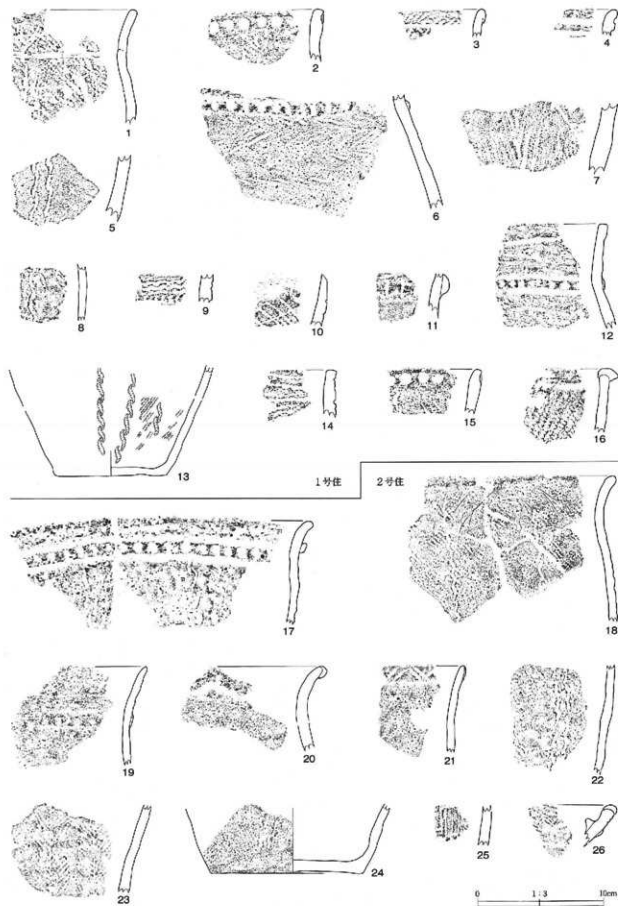
接触が多い可能性がある。368の円盤状石器は有孔で、表面は赤化している。円盤状石器の用途は明確ではないが、本資料は孔部に紐を通した垂飾品の可能性もある。

#### (4) 石製品

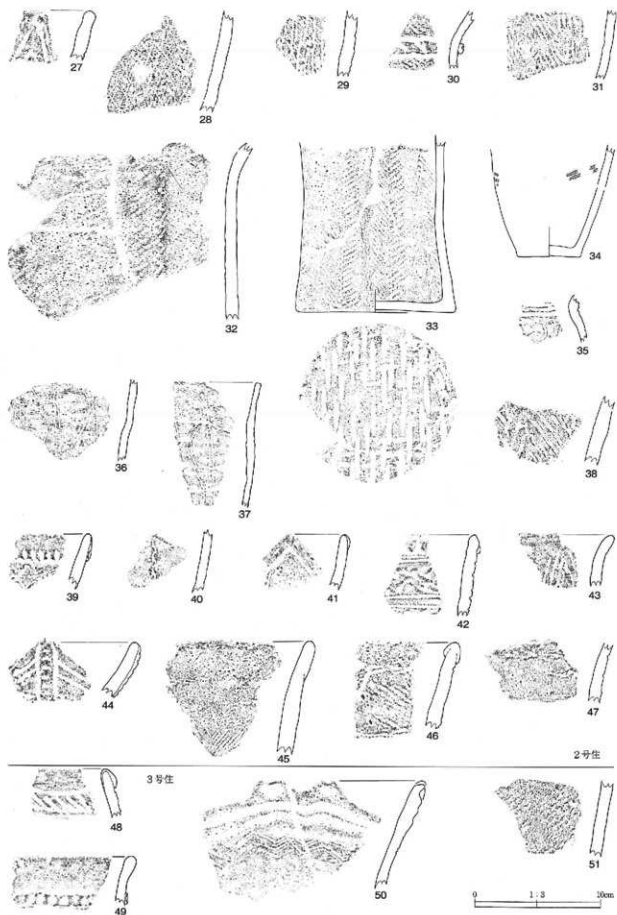
4点出土している。369は石棒の未製品である。370・371は板状石製品で、素材の正・裏面が人念に磨られている。これらのうち、刃部状の縁辺をもつものは、石剣として報告される場合もあるが、下中層1遺跡出土資料は刃部作出が明確ではないため、板状石製品として報告する。372は挾状耳飾である。調査区隣の八幡神社境内で表採した。器体半部を欠損する。

#### (5) 中世以降の遺物

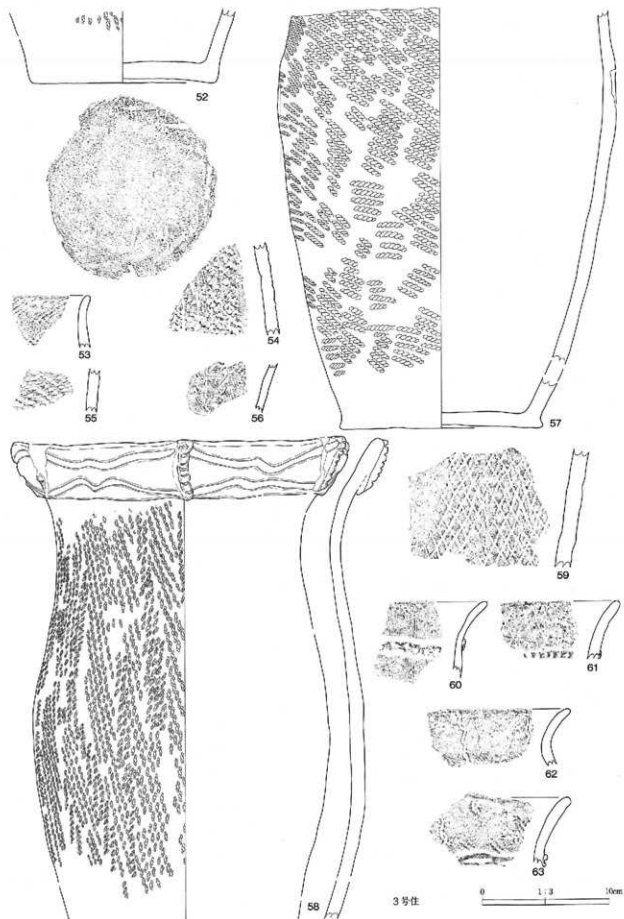
373～380は近世墓塚から出土した。これらは、図化と写真撮影後に近世人骨とともに地権者に返還した。373は銅鏡で、草花文が描かれている。小形で江戸時代後半の特徴をもつ。374～378は銅銭で、新寛永である。373～378は6号近世墓塚出土資料で、18世紀中頃の遺物組成を示している。379、380の銅管と雁首は5号近世墓塚出土資料で、18世紀後半～19世紀前半の形態的特徴を持つ。381はフィゴ羽口である。1号掘立柱建物跡を構成するP54から出土した。1号掘立柱建物跡は1号竪穴建物跡より新しいため、フィゴ羽口は近世以降の製作と考えられる。382は水染通宝で、1号竪穴建物跡から出土した。摩耗・損傷が激しい。



第31圖 出土土器(1)



第32图 出土土器 (2)

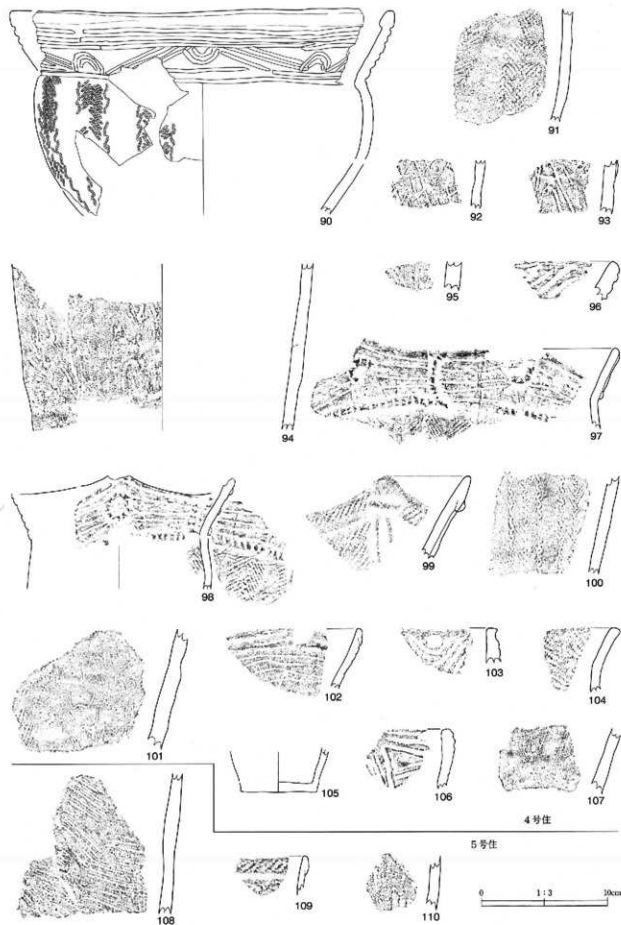


第33圖 出土土器 (3)

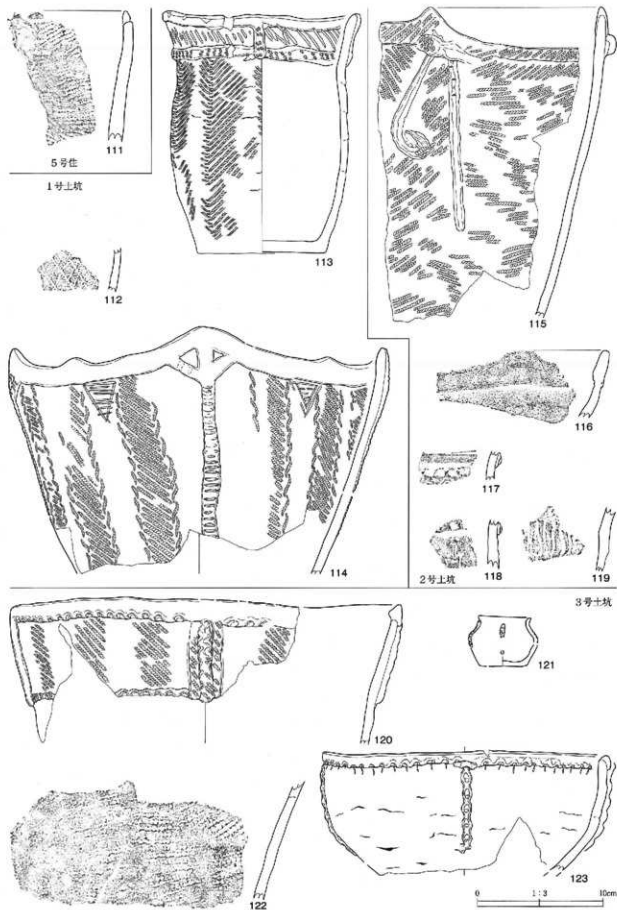




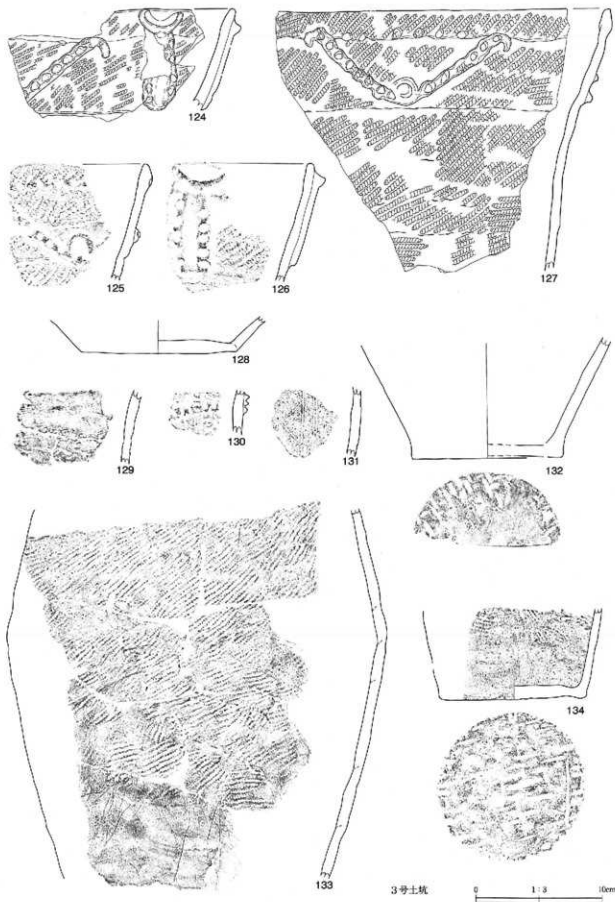
第34圖 出土土器(4)



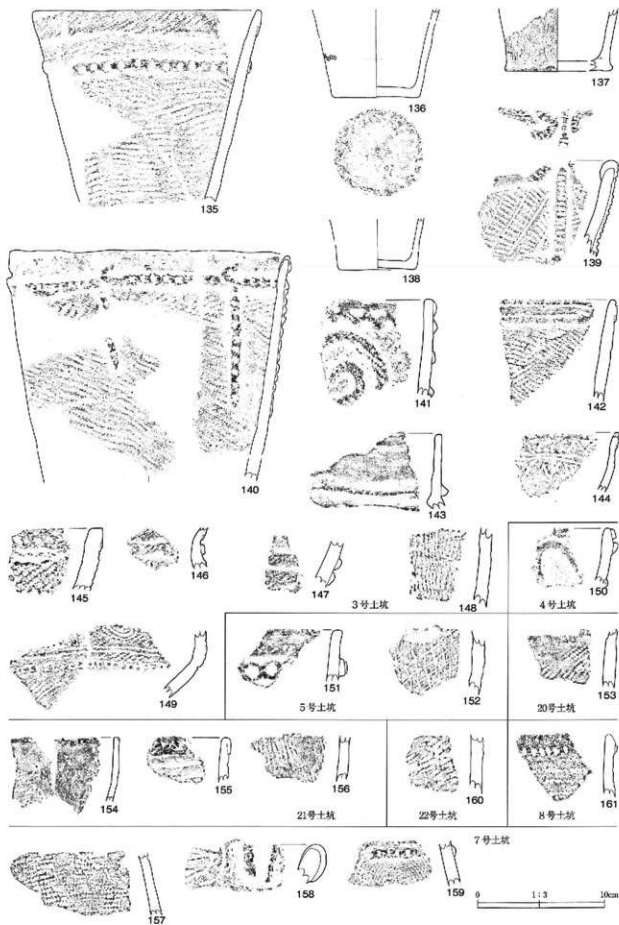
第35圖 出土土器 (5)



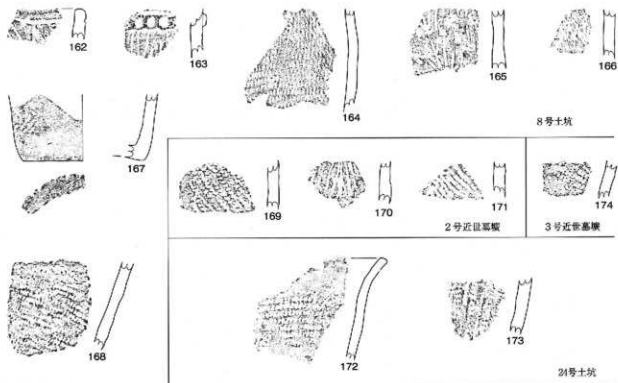
第36图 出土土器(6)



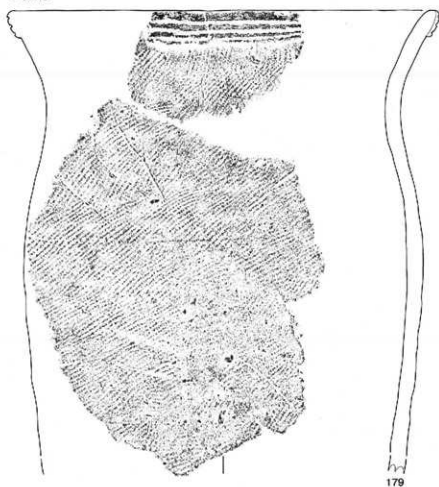
第37圖 出土土器 (7)



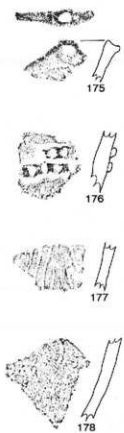
第38圖 出土土器 (8)



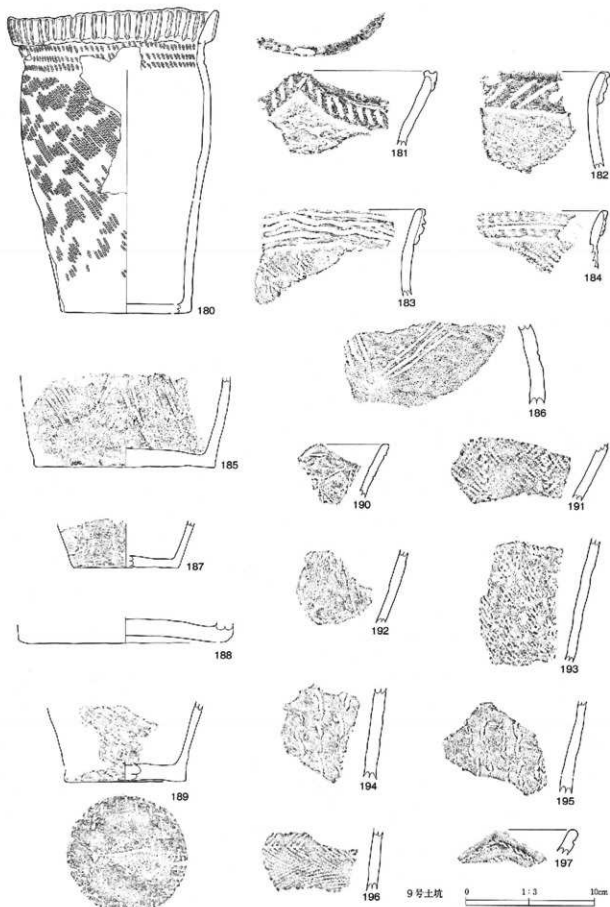
9号土坑



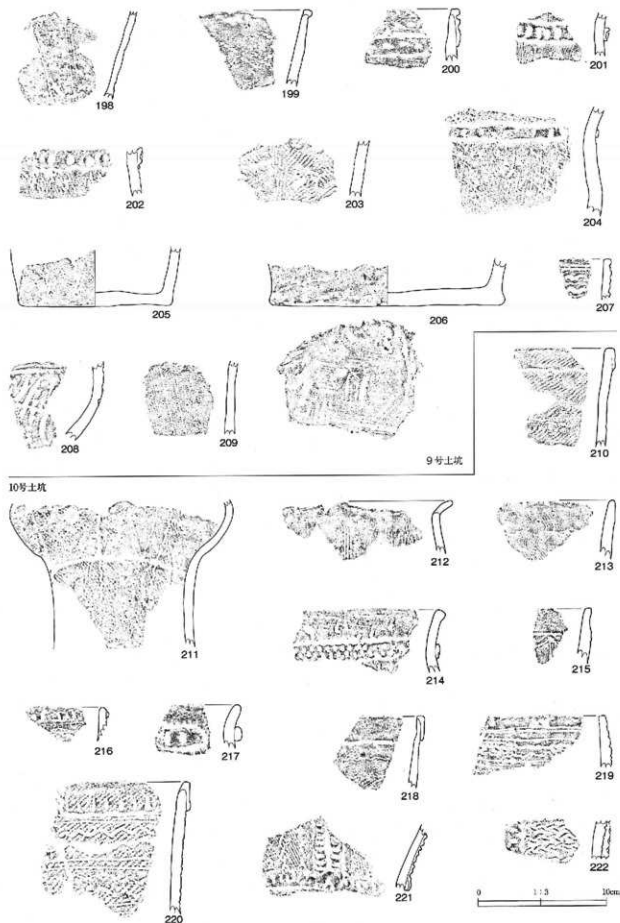
1号近世基壇



0 1:3 10cm

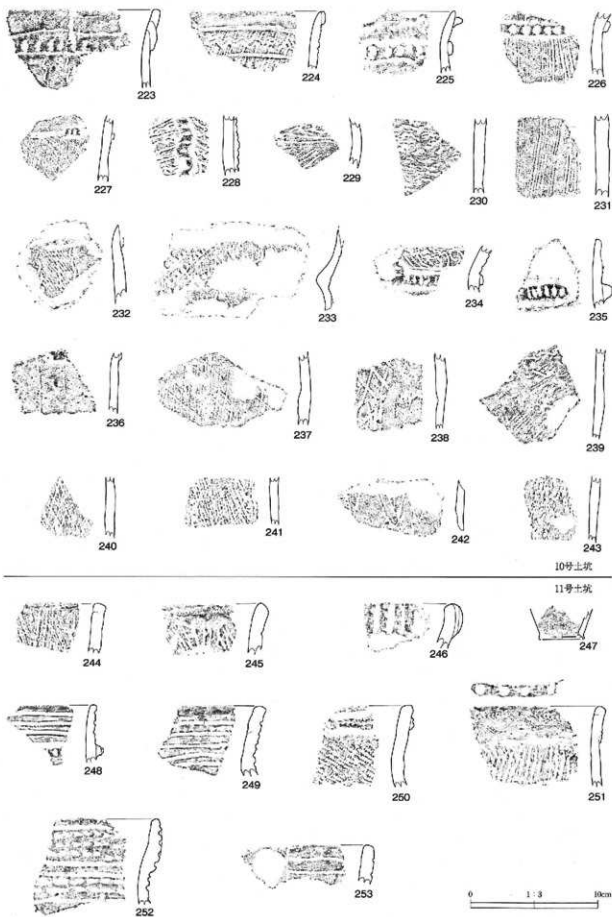


第40圖 出土土器 (10)

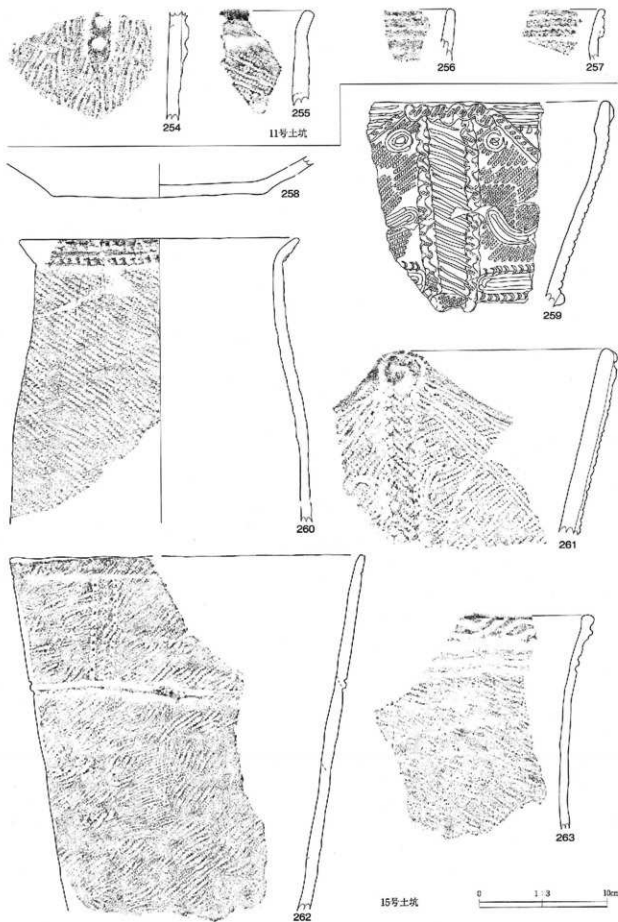


第41圖 出土土器 (11)

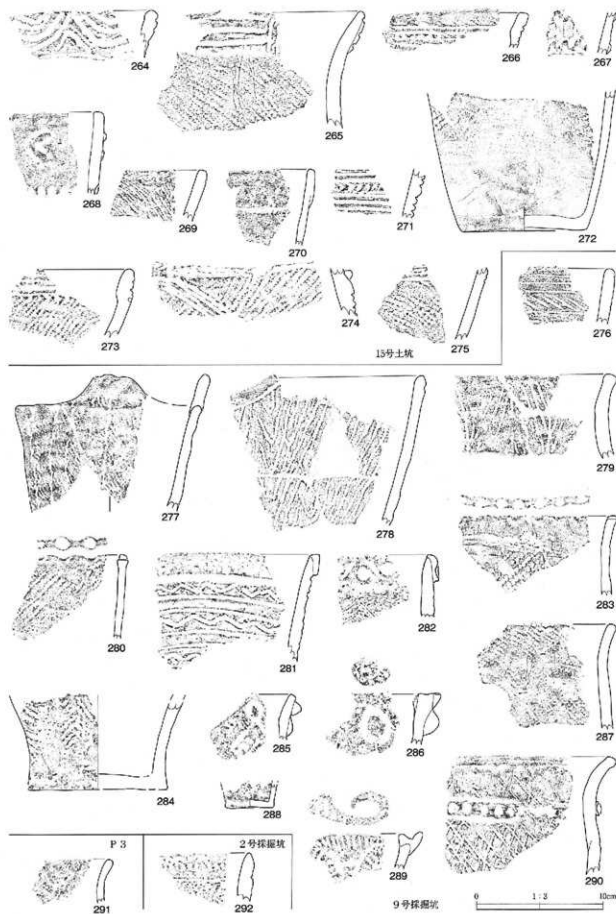




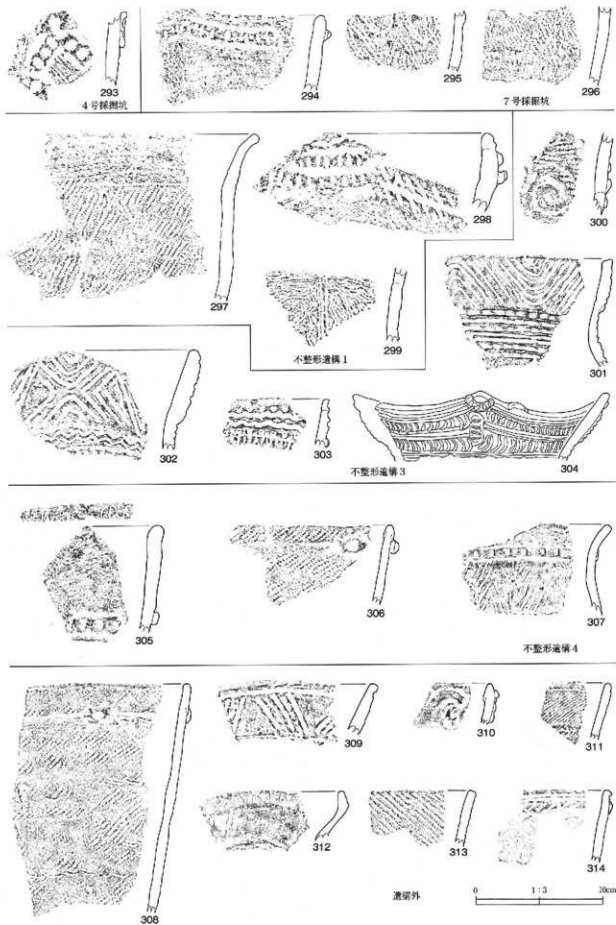
第42圖 出土土器 (12)



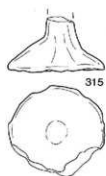
第43圖 出土土器 (13)



第44圖 出土土器 (14)



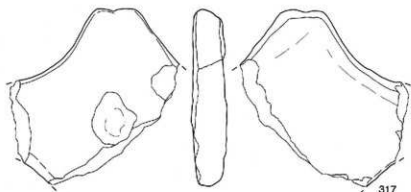
第45圖 出土土器 (15)



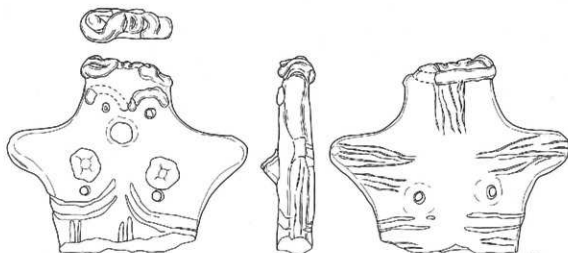
315



316



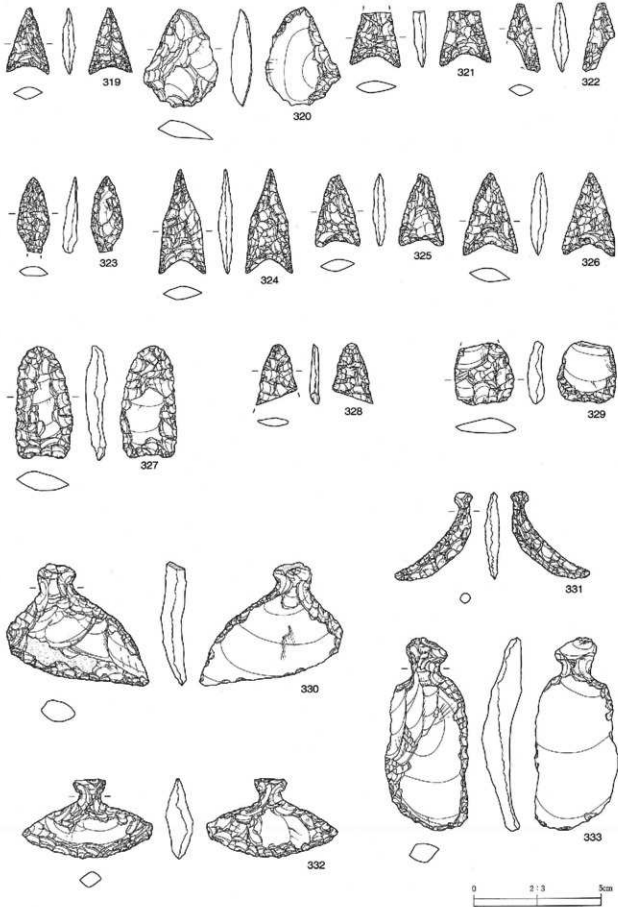
317



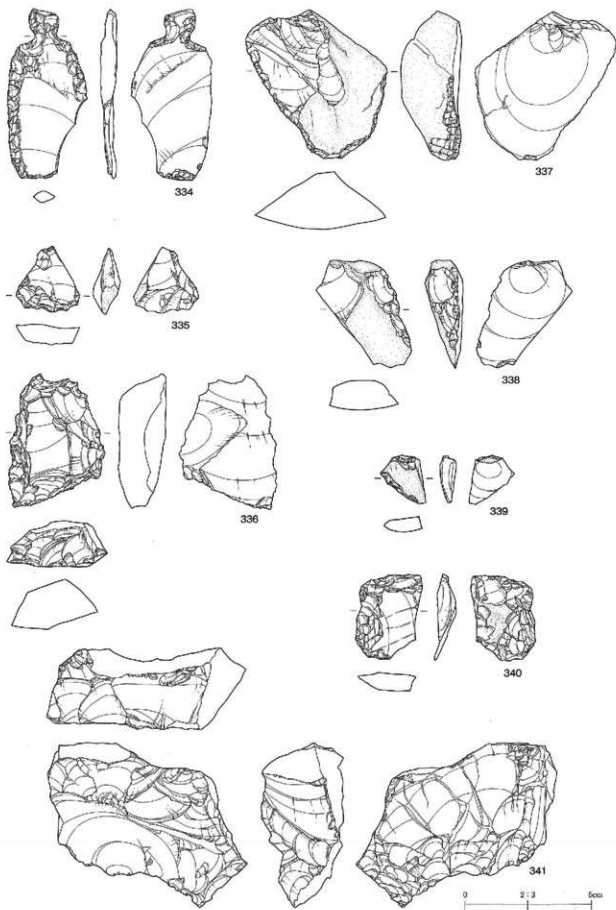
318



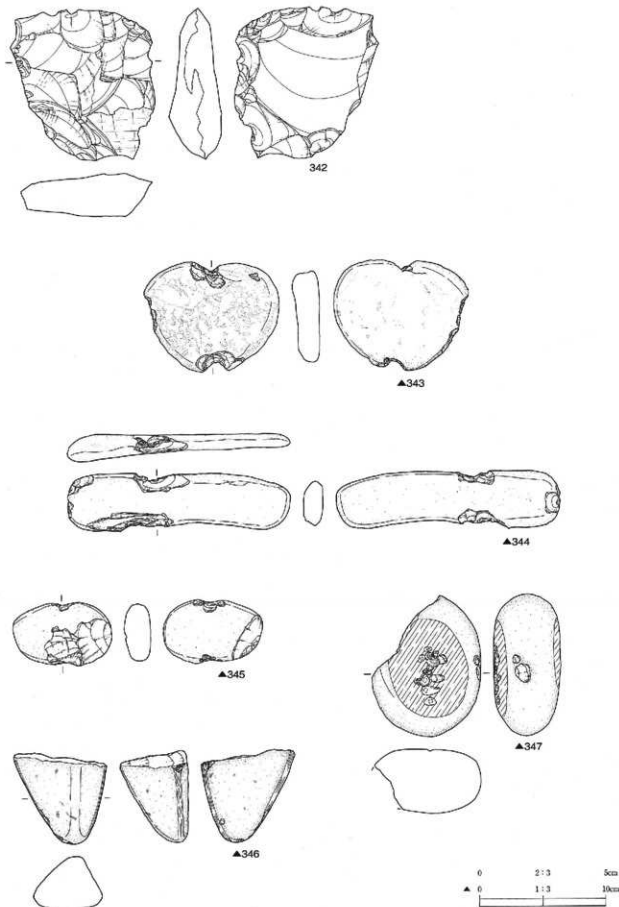
第46図 出土土製品(1)



第47圖 出土石器(1)

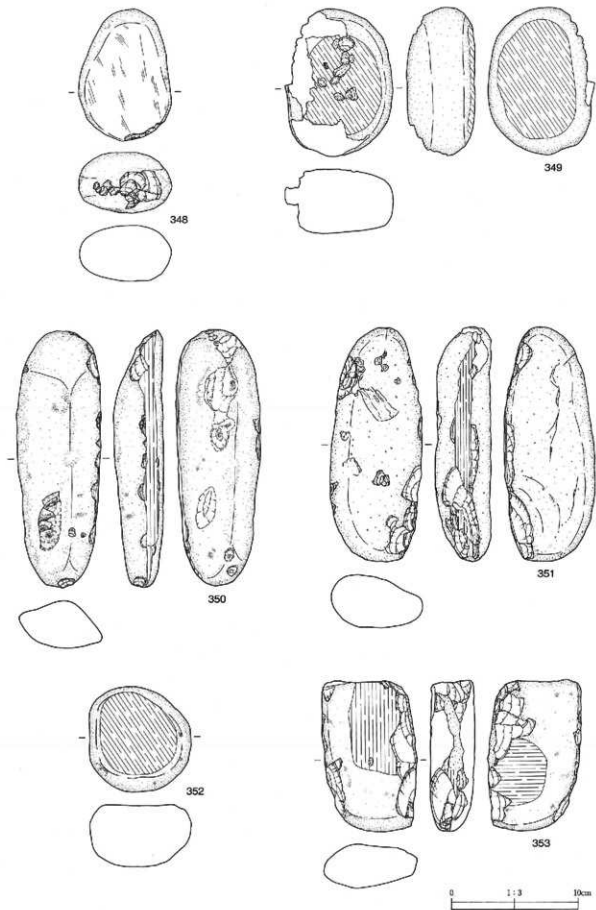


第48圖 出土石器(2)

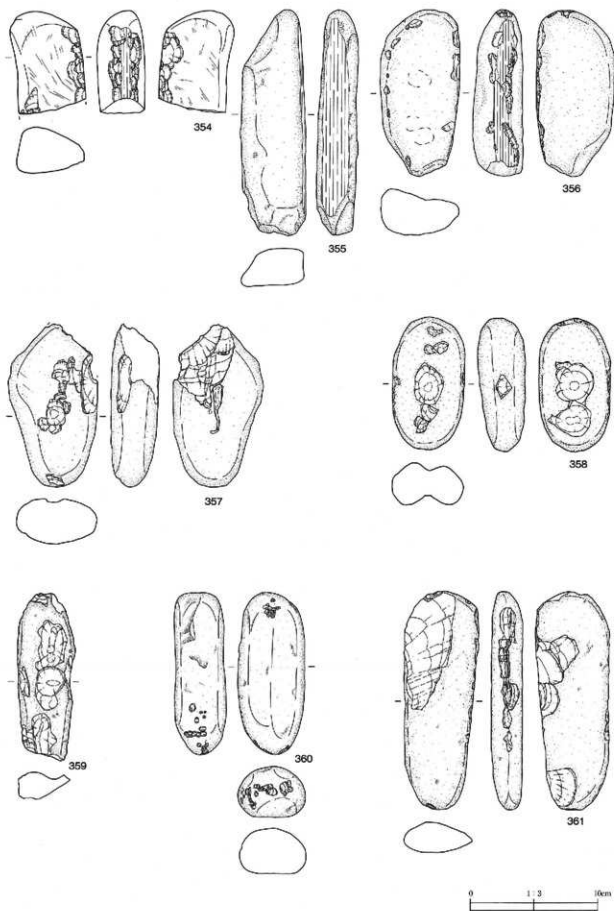


第49圖 出土石器 (3)

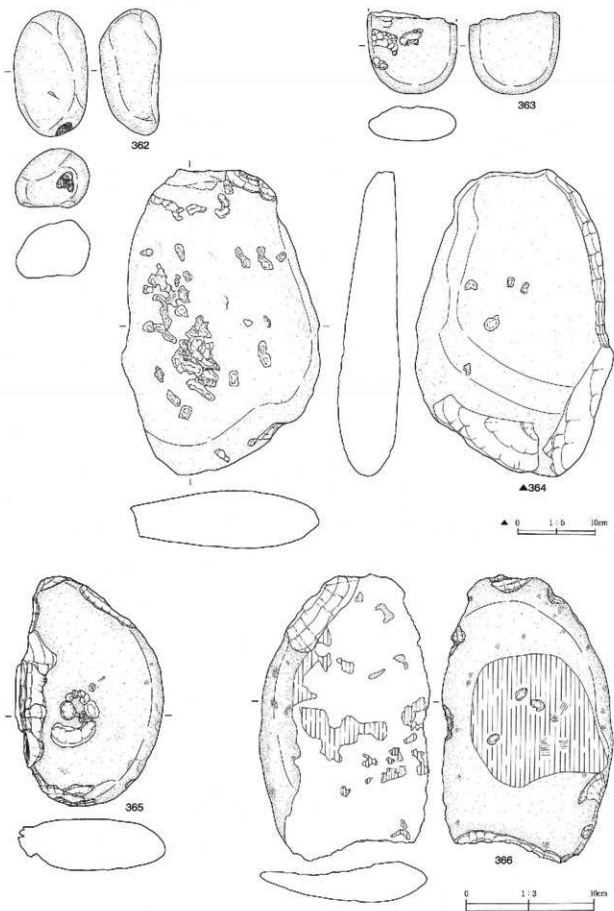




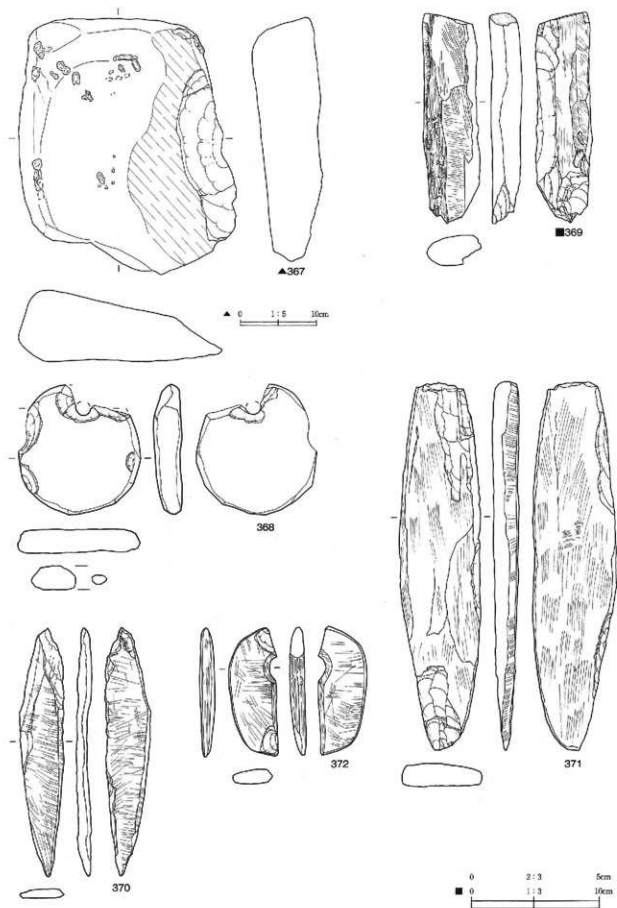
第50圖 出土石器(4)



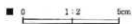
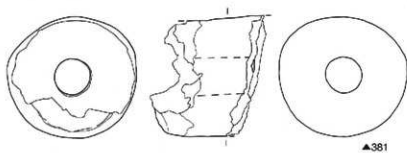
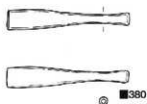
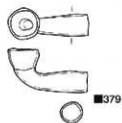
第51圖 出土石器 (5)



第52図 出土石器 (6)



第53図 出土石器(7)、石製品(1)



第54図 中世以降の遺物

表2 下中居 I 遺跡土器調査表

掲載	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	分類	備考
1	1号壺穴住居跡	1層	深鉢	口~胴	口：山形沈線、頭、横位沈線 胴：細糸文、斜線LRタテ		W1	
2	1号壺穴住居跡 (175-70)	1層	深鉢	口縁	横位、爪形刺突列		W	
3	1号壺穴住居跡-P1	地積上	深鉢	口縁	肥厚+LRヨコ		WS	
4	1号壺穴住居跡-南西部	1層	深鉢	口縁	横位多重沈線		W	
5	1号壺穴住居跡-P1	1層	深鉢	胴	結節Rタテ		W1	
6	1号壺穴住居跡	地積土	深鉢	胴	隆帯+爪形刺目、結節LRヨコ	ススコグ	W1	
7	1号壺穴住居跡-南西部	1層	深鉢	胴	木目状熟糸文LRタテ		W2	
8	1号壺穴住居跡	1層	深鉢	胴	結節タテ		W1	器面磨耗
9	1号壺穴住居跡-南西部	1層	深鉢	口縁	押引文(半載竹管)+波状沈線(半載竹管)		IV	
10	1号壺穴住居跡-南西部	1層	深鉢	口縁	斜沈線(変状工具)		V	
11	1号壺穴住居跡-南西部	1層	深鉢	胴部	隆帯+縦位押圧横文、沈線		W	
12	1号壺穴住居跡-南西部	カクラン層	深鉢	口縁	肥厚、隆帯+指頭土直		IV占	
13	1号壺穴住居跡	1層	深鉢	胴~底	結節Rタテ		W1	底径9.0cm
14	1号壺穴住居跡-南西部	カクラン層	深鉢	口縁	押圧横文LR		WS	
15	1号壺穴住居跡-南西部	カクラン層	深鉢	口縁	口縁部肥厚、爪形刺突列		W	器面磨耗
16	1号壺穴住居跡-南東区	1層	深鉢	口縁	口部細粒土粗粒付 LRタテ		IV5	
17	2号壺穴住居跡-土坑1	底面	深鉢	口縁~胴	隆帯+指頭土直、結節タテ	ススコグ	W1	
18	2号壺穴住居跡-土坑1	底面	深鉢	口縁~胴	結節LRタテ	ススコグ	W1	器面磨耗
19	2号壺穴住居跡-土坑1	底面	深鉢	口縁~胴	隆帯+指頭土直?		W	
20	2号壺穴住居跡-土坑1	堆積土上位	深鉢	口縁	波状口縁、波状部折り返し	ススコグ	IV8	
21	2号壺穴住居跡-土坑1	地積土上位	深鉢	口縁	口縁肥厚+山形状沈線文		IV新	
22	2号壺穴住居跡-土坑1	堆積土上位	深鉢	胴	結節土直		W1	
23	2号壺穴住居跡-土坑1	堆積土上位	深鉢	胴	結節羽状横文LR、LRタテ		W1	
24	2号壺穴住居跡-土坑1	地積土上位	深鉢	胴~底	胴：結節LRタテ		W1	底径12.0cm
25	2号壺穴住居跡-土坑1	地積土上位	深鉢	胴	熟糸文R		W1	
26	2号壺穴住居跡-P4	1層	深鉢	口縁	口部細小突起、隆帯状沈線(半載竹管)、 隆帯+爪形刺突		IV	
27	2号壺穴住居跡-P1	1層	深鉢	口縁	木目状熟糸文タテ		W2	
28	2号壺穴住居跡-P1	1層	深鉢	胴	網目状熟糸文		W3	
29	2号壺穴住居跡-PK3	地積土	深鉢	別	網目状熟糸文		W3	

掲載	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	分類	備考
30	2号壱穴住居跡-P63	埋没土	深鉢	胴	帯帯+斜付押出縄文 LRカタ		W5	
31	2号壱穴住居跡-P63	埋没土	深鉢	胴	木目状帯赤文Lカタ	コケ	W3	
32	2号壱穴住居跡-P7	埋没土	深鉢	胴	結節Lカタ	コケ	W1	器面摩耗 底径13.3cm 年代測定
33	2号壱穴住居跡-P10	埋没土	深鉢(厚縁)	胴~底	帯:結東L&Rカタ 底:網代瓦	ススコガ、黒塵	W1	
34	2号壱穴住居跡-P60	埋没土	深鉢	胴~底	LRヨコ		W5	底径5.0cm
35	2号壱穴住居跡-P57	埋没土	深鉢	胴	横位波線		W	
36-37	2号壱穴住居跡-P74	埋没土	深鉢	口縁~胴	波状波線(半載竹管)		IV	
38	2号壱穴住居跡-P74	埋没土	深鉢	胴	帯赤文R		W4	
39	2号壱穴住居跡-P28	埋没土	深鉢	口縁	帯厚+ト半部に斜目(横) 波状波線(半載竹管)		W	
40	2号壱穴住居跡-P64	埋没土	深鉢	胴	結節カタ		W1	
41	2号壱穴住居跡(17675)	耕作土	深鉢	口縁	波状口縁 帯厚、帯厚部に沿う波線		W	
42	2号壱穴住居跡(17685)	耕作土	深鉢	口縁	帯帯+爪形斜目、波形・横位重帯波線(横)		IV新	
43	2号壱穴住居跡(17685)	耕作土	深鉢	口縁	木目状帯赤文カタ		W2	器面摩耗
44	2号壱穴住居跡(1864)	耕作土	深鉢	口縁	波状口縁、帯位帯帯+斜目(横)、斜位多重波線		V	
45	2号壱穴住居跡(1864)	耕作土	深鉢	口縁	結節Lヨコ		W1	
46	2号壱穴住居跡(1864)	耕作土	深鉢	口縁	帯厚+斜付文、RLヨコ		W5	
47	2号壱穴住居跡(17674)	埋没土	深鉢	胴	結節ヨコ		W1	
48	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	口縁	帯厚、横位波線(帯状)+斜多重波線(帯状)		V	
49	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	口縁	帯帯+爪形斜目		W1	
50	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	口縁	L海胆型波線+拍置(爪、太北線(横))→山形多重波線(半載竹管)		IV中	
51	3号壱穴住居跡-帯1	検出面	深鉢	胴	多重結状体(L)	コケ	W4	
52	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	底	帯赤文RLR	コケ	V4	58の底部? 底径3.6cm
53	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	口縁	結葉型波線L-Rヨコ		W5	
54	3号壱穴住居跡-帯1	検出面	深鉢	胴	LRカタ		W1	
55	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	胴	LRカタ		W5	
56	3号壱穴住居跡-晩土1		深鉢	胴	結節Lカタ		W1	
57	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	胴~底	帯:LRヨコ、ナメ 底:黒文		W5	底径16cm
58	3号壱穴住居跡(15K72)		深鉢	口縁~胴	口縁帯厚、帯位帯帯(S単位)+逆縁斜突(半載竹管)、波状波線(爪)、帯赤文LRLカタ		V4	口径28.2cm 52と同ー?

59	3号型穴住居跡-卵2		深鉢	胴	網目状鉄糸文、		W3
60	3号型穴住居跡-卵2		深鉢	口縁~胴	高帯+肩突(株) 縦位沈殿(半載竹管)		W
61	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	高帯+爪彫刻目、網目状鉄糸文、		W3
62	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	高帯+爪彫刻目、網目状鉄糸文、		W1
63	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	波状口縁、高帯+高位刺沈殿(株) 斜加LRタテ	コケ	W1
64	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	波状口縁、高帯+高位刺沈殿(株) 斜加LRタテ		W5
65	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	波状口縁、高帯+高位刺沈殿(株) 斜加LRタテ		V
66	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	波状口縁、高帯+高位刺沈殿(株) 斜加LRタテ		M
67	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	口縁	波状口縁、高帯+高位刺沈殿(株) 斜加LRタテ		W3
68	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	網目状鉄糸文R		IV
69	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)		W8
70	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)	コケ	V
71	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)		VI
72	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)		W2
73	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)		W5
74	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)		W1
75	3号型穴住居跡-卵2付近		深鉢	胴	高帯+刺目(株)	コケ	W3
76	3号型穴住居跡-卵2付近	地槽上	深鉢	口縁	網目状鉄糸文		IV新
77	3号型穴住居跡-P16	床面	深鉢	口縁	網目状鉄糸文		W
78	3号型穴住居跡	床面	深鉢	口~胴	網目状鉄糸文		VI
79	3号型穴住居跡(15K74)	IV層	深鉢	口縁	網目状鉄糸文		W
80	3号型穴住居跡(15K93)	IV層	深鉢	口縁	網目状鉄糸文		VI
81	3号型穴住居跡	I層	深鉢	口縁	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		IV新
82	3号型穴住居跡(15K51)	黒色土	深鉢	口縁	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		VI
83	3号型穴住居跡(15K63)		深鉢	口縁	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		W8
84	3号型穴住居跡(15K82)	V層	深鉢	口~胴	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		V5
85	3号型穴住居跡	I層	深鉢	口縁	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		IV新
86	3号型穴住居跡(15K63)		深鉢	口縁	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		V
87	3号型穴住居跡(15K93)	IV層	深鉢	口縁	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		W5
88	3号型穴住居跡(15K51)		深鉢	胴~底	波状口縁 1号部所為上、波頭部に爪彫刻目、斜位沈殿、高帯+刺目、縦位多量沈殿(半載竹管)		W4
				底	網代板		W8
							底径5.8cm



掲載	出土地点	層位	器種	残存部位	本文	文様の特徴	付属物等	分類	備考
89	3号壱穴住居跡(15K83)	IV層	ミニチュア	底	無文				
90	4号壱穴住居跡-土坑1	I層	深鉢 (取附)	口縁一部	條状沈線(條)、交互弧+斜位沈線(筋)、結束羽状横文LR-RL-Tタテ			V1	底径3.4cm 口径30cm
91	4号壱穴住居跡-土坑1	I層	深鉢	胴	結束羽状横文LR-RL-Tタテ			V1	
92	4号壱穴住居跡-土坑1	I層	深鉢	胴	斜日状横糸文R			W3	
93	4号壱穴住居跡-土坑1	I層	深鉢	胴	木目状横糸文L-Tタテ			W2	
94	4号壱穴住居跡-土坑1	I層	深鉢	胴	斜筋L-Tタテ			W1	
95	4号壱穴住居跡-土坑1	I層	深鉢	胴	斜糸L-Tタテ			W4	
96	4号壱穴住居跡-壺溝内	1層	深鉢	口縁	交互弧状沈線(條)			IV新	
97	4号壱穴住居跡-壺溝内	1層	深鉢	口縁	流状口縁、環状隆帯+斜日(押圧横文)、縦位・横位隆帯+斜日(押圧横文)、縦位多量押圧横文L、結束羽状LR-RL-Tタテ			V1	
98	4号壱穴住居跡-壺溝内	1層	深鉢	口縁	流状口縁、環状隆帯+斜日(押圧横文)、縦位・横位隆帯+斜日(押圧横文)、縦位多量押圧横文L、結束羽状LR-RL-Tタテ			V1	
99	4号壱穴住居跡-壺溝内	1層	深鉢	口縁	流状口縁 肥厚+LRヨコ、突起状隆帯+垂下隆帯、LRヨコ			W5	
100	4号壱穴住居跡-壺溝内	1層	深鉢	胴	結束羽状横文RL-LR-Tタテ			W1	
101	4号壱穴住居跡	床面	深鉢	胴	斜糸文L			W4	
102	4号壱穴住居跡(15J35)	5層	深鉢	口縁	口縁肥厚+押圧横文L			IV中5	
103	4号壱穴住居跡(15J35)	5層	深鉢	口縁	流状沈線(條)+折幅押圧LR-Tタテ			IV新	
104	4号壱穴住居跡(15J35)	5層	深鉢	口縁	流状沈線(條)+折幅押圧LR-Tタテ			W5	
106	4号壱穴住居跡(15J36)	5層	深鉢	底	無文			W8	底径6cm
106	4号壱穴住居跡(15J44)	1層	深鉢	口縁	多量沈線(條)			IV新	
107	4号壱穴住居跡	床面	深鉢	胴	斜糸文L			IV4	
108	5号壱穴住居跡	床面	深鉢	胴	斜糸文R		コケ	W4	
109	5号壱穴住居跡	土坑上位	深鉢	口縁	口縁肥厚+LRヨコ			W5	
110	5号壱穴住居跡	土坑上位	深鉢	胴	RL-Tタテ			W5	
111	2号壱穴建物跡	埋土上位	深鉢	口~胴	口唇突起、LRナナメ			V5	
112	1号土坑	埋土上位	深鉢	胴	斜日状横糸文			W3	
113	1号土坑	3層土部	深鉢	口~底	口唇突起状、斜位隆帯(4単位)+斜日(押圧横文)、縦位隆帯+斜日(押圧横文)、斜連続沈線文、結束羽状横文RL-LR-Tタテ			V1	L径15.2cm 底径10.2cm 胴径19cm 容量2.47ℓ

114	1号土坑	3層上部	深鉢	口~胴	深鉢口縁、口縁部絶間に小突起、口縁肥厚、波頂部から垂下隆帯+肩目(帯)、小突起+付近に沈線(三角形区画+横位)、輪飾LRタテ	V1	口径28.8cm
115	2号土坑	埋積土下部	深鉢	口~胴	波状口縁、口縁部厚+LRヨコ、把手状肥付文+垂下隆帯(兼手状、割目)、LR	V5	
116	2号土坑		深鉢?	口縁	口縁部厚、口縁部突起	V	11.5と胎上類似
117	2号土坑	1層下部	深鉢	胴	隆帯+瓜形突起	V	
118	2号土坑	1層下部	深鉢	頸	隆帯+刺突、結帯タテ	V1	
119	2号土坑	1層下部	深鉢	胴	胎水XR	V4	
120	3号土坑	埋積土下位	深鉢	口縁~胴	口縁部厚+下手に指頭形圧列、腹位・波状隆帯+柄正横文、LRタテ、下部隆帯+下上に指頭形圧列	V5	口径30.4cm
121	3号土坑	1層	ミニチュア	略定形	垂下隆帯+肩目	V	口径4.2cm 底径3.8cm 胎高4.0cm
122	3号土坑	1層	深鉢	胴	LRヨコ	V5	
123	3号土坑	1層	縁部明 深鉢?鉢?	口~胴	口縁外側に隆帯+下手に瓜形頸口、垂下隆帯(4単位)+瓜形突起	V	口径22.4cm
124~ 127	3号土坑	1層	深鉢	口縁~胴	口縁部厚、斜位隆帯(溝形弧状)+瓜形列欠列、環状肥付文、U字肥付文下に垂下隆帯+交互刺突、LRヨコ	V5	
128	3号土坑	1層	深鉢	底	新代底?	V	
129	3号土坑	埋積土下位	深鉢	胴	輪飾Rヨコ	V1	
130	3号土坑	埋積土下位	深鉢	頸	腹位隆帯+刺突列(帯、下方からの刺突)、腹位隆帯+刺突列(帯、横からの刺突) 腹状沈線(株) 胎高タテ	V1	
131	3号土坑	地積土下位	深鉢	胴	沈線(半環状竹管、斜目状沈線(株))	V	
132	3号土坑	埋積土下位	深鉢	胴~底	胴・無文 底:新代底	V8	底径11.8cm
133	3号土坑	埋積土下位	深鉢	胴	LRヨコ、輪飾ヨコ	V8	底径11.6cm
134	3号土坑	埋積土下位	深鉢	胴~底	胴:LRタテ 底:新代底	V5	口径17.6cm
135	3号土坑	1層	深鉢	口~胴	口縁部厚、隆帯+瓜形割目 LRヨコ・ナナメ	V5	底径6.8cm
136	3号土坑	1層	深鉢	胴~底	胴:LR 底:新代底	V1	底径8.4cm
137	3号土坑	1層	深鉢	胴~底	輪飾Rタテ	V	底径6.0cm 年代測定
138	3号土坑	1層	深鉢	胴~底	底:新代底?	V	
139	3号土坑	1層	深鉢	口縁	口縁隆帯肥付、腹位隆帯+肩目(帯)、斜位沈線区画・胎状刺列	V	
140	3号土坑	1層	深鉢	口~胴	口縁部厚、隆帯+環状刺突(生状竹管)、腹状肥付文・垂下隆帯+瓜形割目 LRタテ・ヨコ	V5	口径21.6cm

和歌	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	分類	備考
141	3号上坑	1層	深鉢	口縁	波状隆帯、高巻隆帯+押圧縄文、LR		V5	
142	3号十坑	1層	深鉢	口縁	口縁肥厚+押圧縄文、LRタテ・ヨコ		V5	141と同時土
143	3号十坑	1層	深鉢	裏	口縁肥厚、高巻隆帯		V1	
144	3号上坑	1層	深鉢	口縁	口縁肥厚+高巻波状隆帯(株)、橋位・高巻波状隆帯(株)		V	141と同時土
145	3号上坑	1層	深鉢	口縁	口縁肥厚、波状隆帯(半載竹管)、LRヨコ		V	141と同時土
146	3号十坑	1層	深鉢	口縁	口縁肥厚+押圧縄文		V	141と同時土
147	3号七坑	1層	深鉢	裏	口縁肥厚+押圧縄文、隆帯		V	
148	3号十坑	1層	深鉢	裏	高巻LRタテ		V	141と同時土
149	3号上坑	1層	深鉢	裏	橋位・弧状隆帯(半載竹管)、波状隆帯(LRヨコ)		V5	
150	4号上坑	庫積上位	深鉢	口縁	波U字状隆帯		V1	
151	5号上坑	1層	深鉢	口縁	隆帯+指頭押圧		W	
152	5号上坑	1層	深鉢	胴	網目状隆帯文L		W3	
153	20号上坑	1層	深鉢	胴	LRヨコ		W5	
154	21号十坑	庫積上	深鉢?	口縁	無文		W8	
155	21号十坑	庫積上	深鉢	口縁	肥厚、橋位北縁(株)		W	
156	21号上坑	庫積上	深鉢	胴	LRタテ		W	
157	7号上坑	庫積上下部	深鉢	胴	LRヨコ		W5	
158	7号上坑	庫積上底部	深鉢	口縁	網目状突起隆帯、弧状隆帯(株)		V1	
159	7号上坑	庫積土上部	深鉢	胴	隆帯+刻目(半載竹管)、網目状隆帯文タテ		W5	
160	22号上坑	1層	深鉢	胴	L		W5	
161	8号上坑	3層	深鉢	口縁	隆帯+刻目(押圧縄文)、橋位押圧縄文LR		V1	
162	8号上坑	3層	深鉢	口縁	波状隆帯文L		V4	
163	8号上坑	3層	深鉢	口縁	波状隆帯文L		V4	
164	8号上坑	3層	深鉢	胴	隆帯+爪形刺突、高巻文L		V5	
165	8号十坑	3層	深鉢	胴	前々段多条		V2	
166	8号上坑	3層	深鉢	胴	木目状高巻文タテ		W3	
167	8号上坑	3層	深鉢	胴	網目状隆帯文R		W3	
168	8号十坑	1層	深鉢	胴~底	RLタテ	コゲ	V5	底径9.5cm
169	2号近世墓溝	1層	深鉢	胴	LRナナメ		W5	
170	2号近世墓溝	1層	深鉢	胴	LRタテ	コゲ	W5	
			深鉢	胴	木目状高巻文Lタテ		W2	

171	2号空堀遺跡	1層	深鉢	刷	無筋シタテ	W5
172	24号土坑	2層	深鉢	口縁	LRヨコ	W5
173	24号土坑	2層	深鉢	刷	西側段台懸?	W5
174	3号空堀遺跡	2層	深鉢	刷	RL	W5
175	1号空堀遺跡	1層	深鉢	口縁	液状口縁(液状部に指掘仕掛)	V
176	1号空堀遺跡	1層	深鉢	刷	麻帯+爪形刻目、2列	V
177	1号空堀遺跡	1層	深鉢	刷	木口状熟赤文L	W2
178	1号空堀遺跡	1層	深鉢	刷	粘節シタテ	W1
179	9号土坑	3層	深鉢	口~刷	肥厚+押圧刷文LR、LRヨコ・タテ	IV新5 スス
180	9号土坑	3層	深鉢	口~底	肥厚+縦位産統沈線(稀)、筋部押圧刷文による多重刻目列、LRタテ	IV新5
181	9号土坑	3層	深鉢	口縁	液状口縁、口縁液状部に押圧(稀)、口縁部麻帯+下方向からの刻目による縦位産統沈線(稀)、熟赤文ヨコ	W4
182	9号土坑	3層	深鉢	口縁	肥厚+斜沈線文(稀)・凹形刷文文、筋部タテ	W1
183	9号土坑	3層	深鉢	口縁	肥厚+液状多重沈線(稀)、筋部LRタテ	W1
184	9号土坑	3層	深鉢	口縁	肥厚+連続刺突・沈線(半柱竹管)、LRタテ	W5
185	9号土坑	3層	深鉢	刷~底	木口状熟赤文Rタテ	W2
186	9号土坑	3層	深鉢	刷	多重沈線(稀)、沈線谷部に口縁の刺突痕あり	IV
187	9号土坑	3層	深鉢	底部	網罟痕あり	W8 底径14.2cm
188	9号土坑	3層	深鉢	底部		IV 底径8.2cm
189	9号土坑	3層	深鉢	刷~底	刷:LRタテ、底:新代表	IV新? 底径15.6cm
190	9号土坑	3層	深鉢	口縁	液状口縁、縦位沈線(半柱竹管)・斜位沈線(懸状)	W5
191	9号土坑	3層	深鉢?	刷	羽状刷文LR、竹筒刺突列	IV新?
192	9号土坑	3層	深鉢	刷	網目状熟赤文(半輪結集6部)、熟赤文R	W5 浅鉢?
193	9号土坑	3層	深鉢	刷	粘節シタテ	W3
194	9号土坑	3層	深鉢	刷	粘節シタテ	W1
195	9号土坑	3層	深鉢	刷	粘節シタテ	W1
196	9号土坑	2層	深鉢	刷	網帯部沈線文LR、RLヨコ	W1
197	9号土坑	2層	深鉢	口縁	液状口縁、網帯部押圧刷文LR	W
198	9号土坑	2層	深鉢	刷	縦位平行沈線(ハケ状工具)	IV
199	9号土坑	1層	深鉢	口縁	口唇部液状刷付文、粘節LRヨコ	W1

掲載	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	分類	備考
230	9号土坑	1層	深鉢	口縁	口縁部刻目(半載竹管)、肥戸+連続刺突(半載竹管)+横位沈線(棒)、L		W5	
231	9号土坑	1層	深鉢	胴	隆帯+爪形連続刺突、熱赤文Lタテ		W4	
232	9号土坑	1層	深鉢	口縁	隆帯+爪形連続刺突、熱赤文Lタテ		W4	
233	9号土坑	1層	深鉢	胴	結節Rタテ		W1	
234	9号土坑	1層	深鉢	胴	隆帯+爪形刺目、斜目状熱赤文R		W3	
235	9号土坑	1層	深鉢	底部	結節タテ		V1	底径11.8cm
236	9号土坑	1層	深鉢	底部	熱赤Rタテ、斜代底		W4	底径18.6cm
237	9号土坑	1層	深鉢	口縁	横位・波状並行沈線(棒)		V	
238	9号土坑	1層	深鉢	口縁	横位・弧状沈線(棒)、連続刺突(棒)	コケ	V	
239	9号土坑	1層	深鉢	胴	並行横波状文(斜)	ススコケ	W	
240	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	口縁	口縁肥厚、LRヨコ、結節ヨコ		V1	
241	10号土坑	埴灰土下部	埴明瓦 深鉢	胴	結節Rタテ		V1	
242	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	口縁	横位沈線(脚状工具)		V	
243	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	口縁	横位波状沈線(脚状工具)		V	
244	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	口縁	結節タテ、隆帯+交差刺突(円形竹管)		V1	
245	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	口縁	波状沈線(半載竹管)		V	
246	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	口縁	隆帯+刻目(地状)横位沈線(半載竹管)		V	
247	10号土坑	1層	深鉢	口縁	隆帯+爪形連続刺突、熱赤文Lタテ		V4	
248	10号土坑	1層	深鉢	口縁	肥厚 結節Rヨコ	コケ	V5	
249	10号土坑	1層	深鉢	口縁	横位・小波状多重沈線(棒)		V	
250	10号土坑	1層	深鉢	口縁	横位+下半部刻目、横位交差帯2段、山形多重沈線(棒)、LRヨコ		V5	
251	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	胴	隆帯+下半部刻目(棒) 通口字隆帯・横位隆帯+刻目(棒)、結節タテ		V1	
252	10号土坑	1層	深鉢	口縁	横位隆帯+肩目(棒) 縦高伏多重沈線(棒)		V	
253	10号土坑	埴灰土上部	深鉢	口縁	隆帯+爪形連続刺突 結節タテ		V1	
254	10号土坑	埴灰土上部	深鉢	口縁	横位、斜沈線文、山形沈線(半載竹管)、横位曲沈線(棒)		V	
255	10号土坑	埴灰土上部	深鉢	口縁	波状線、隆帯+連続刺突(指頭柱状)、熱赤		V4	
256	10号土坑	埴灰土下部	深鉢	胴	横位隆帯+肩目(棒)、横位沈線		V	
257	10号土坑	埴灰土上部	深鉢	胴	隆帯+刻目(波状?)、斜目状熱赤文R		V3	

228	10号土坑		溝跡	溝	淡形縦位隆帯+割目(横)、斜位・淡形多重隆帯(横) 熱系文L	V
229	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	熱系文L	V4
230	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	新加LRエコ	V1
231	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	縦位薄短沈線(熱系工具)	V
232	10号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	口縁肥厚 扇加LRタテ	V1
233	10号土坑	溝跡	溝跡	口縁	縦位沈線(半截竹管)、斜位区画沈線(半截竹管)・斜帯 割目・熱突列(半截竹管)、縦位区画沈線(半截竹管)、粘 着タテ	V1
234	10号土坑	溝跡	溝跡	頭	横位隆帯+割目(横)、縦位隆帯+割目(横)、斜・溝帯・ 淡形沈線(横)	V
235	10号土坑	溝跡	溝跡	頭	隆帯+割目(横)	V
236	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	縦位沈線(横) 隆帯	V
237	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	溝口状熱系文L	W3
238	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	網目状熱系文L	W3
239	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	粘着コテ、LRエコ	W3
240	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	網目状熱系XR	W3
241	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	熱系文L	W4
242	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	斜位沈線(地状?)	W
243	10号土坑	溝跡	溝跡	溝	多軸筋条体	W4
244	11号土坑	溝跡	溝跡	溝	木目状熱系XR	W2
245	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	縦肥厚 熱系文L	W4
246	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	縦位薄短沈線(横)	IV中~新
247	11号土坑	溝跡	溝跡	溝	爪形刺突列(縦)	V
248	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	横位多重沈線(横)、隆帯+期目(横)	V
249	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	横位多重沈線(横)	V
250	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	隆帯+横位押打縄文、LRタテ	W5
251	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	口縁肥厚+横位区画沈線(横)、熱帯+う爪形刺突列(半截竹管)・波 形沈線(半截竹管)、熱系XR	V4
252	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	口縁部肥厚+横位区画沈線(横)・多重連続刺突列(半截竹管)、 口縁部多重隆帯2段	V
253	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	横位区画沈線(横)、斜隆帯(ボタン状肥付文か?)	V
254	11号土坑	溝跡	溝跡	溝	垂下隆帯+指頭瓦板、木目状熱系XR	V2
255	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	溝跡	V5
256	11号土坑	溝跡	溝跡	溝跡	溝跡	溝跡

札號	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着跡等	分類	備考
257	11号土坑	柴積土上位	漆鉢	口縁	口縁肥厚+横位押引模文		V	
258	15号土坑	5層	浅鉢	底部	黒文	黒色彫理	V	底径16.6cm
259	15号土坑	3層	漆鉢	口~胴	横位多重沈線(半載竹管)、波瀾山付文、斜位垂帯+押引模文、円形・扇状沈線(半載竹管)、瓜形通総引突列(半載竹管)、区割内斜沈線、LRヨコ		V5	
260	15号土坑	3層	漆鉢	口~胴	口縁肥厚+連龍刺突列(半載竹管)、LRタテ		V5	口径21.6cm
261	15号土坑	3層	漆鉢	口~胴	波状口縁、波頂部に垂手体地下隆帯(LRタテ)+横面に交互斜突列、斜位・弧状沈線(半載竹管)、LRヨコ		V5	
262	15号土坑	3層	漆鉢	口~胴	口縁肥厚、横位多重押引沈線(半載竹管)、横位沈線(半載竹管)、山形突起、縦位沈線(半載竹管)、沈線端文係にLRヨコ		V5	口径27.5cm 年代測定
263	15号土坑	3層	漆鉢	口~胴	口縁肥厚+交互弧状沈線(輪)、横位多重沈線、LRナメ		V5	
264	15号土坑	3層	漆鉢	口縁	口縁肥厚+弧状多重沈線(輪)		IV新	
265	15号土坑	3層	漆鉢	口縁	口縁肥厚+横位・縦位沈線(輪)、LRタテ		IV新5	
266	15号土坑	3層	漆鉢	口縁	沈線		V	
267	15号土坑	3層	漆鉢	胴	波状隆帯、沈線(半載竹管)		V	
268	15号土坑	柴積土上位	浅鉢?	口縁	波状隆帯、横位・縦位沈線(半載竹管)	内面黒色彫理	V	258と同一?
269	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	口縁	弧状隆帯付文、斜目(輪?)		V5	
270	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	口縁	横位連龍押引文(半載竹管)、波前段反折LRタテ		V8	新土V群
271	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	口縁部	口縁肥厚、黒文		V	259と同一?
272	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	胴~底	胴：LRヨコ、底：黒文	ススコケ	V5	
273	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	口縁	口縁肥厚、横位沈線、逆転爪形刺突列(半載竹管)	RL	V	259と同一?
274	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	胴	類伏突起、斜位連龍沈線(半載竹管)、LRヨコ		V	259と同一?
275	15号土坑	柴積土上位	漆鉢	胴	沈線(半載竹管)、RLヨコ		V5	
276	9号採掘坑	2層	漆鉢	口縁	横位沈線+斜多重沈線文		V	器面彫理
277	9号採掘坑	2層	漆鉢	口~胴	波状口縁、扇面LRタテ		V1	
278	9号採掘坑	2層	漆鉢	口縁	波状口縁、沈線、木目状赤点文	コケ	V2	
279	9号採掘坑	2層	漆鉢	口縁	木目状赤点文タテ		V2	
280	9号採掘坑	1層	漆鉢	口縁	LR逆折突列(指部圧痕)、Lヨコ		V5	
281	9号採掘坑	3層	漆鉢	口縁	口縁肥厚+交互刺突+斜沈線(輪)、横位文様帯3段(輪)、LRタテ		V	
282	9号採掘坑	3層	漆鉢	口縁			IV新5	

283	9号採掘坑	2層	深鉢	口縁	口縁形彫刻列、輪廊LRヨコ?	V1
284	9号採掘坑	3層	深鉢	底面	胴・結実状縄文タテ、底・無文	V1
285	9号採掘坑	1層	深鉢	口縁	波状口縁、突起状貼付文、隆帯+爪部連続刺突、結面タテ	W1
286	9号採掘坑	1層	深鉢	口縁	波状口縁、口縁上刺突(円形竹管)、半球状貼付文、沈線	IV古
287	9号採掘坑	3層	深鉢	口縁	LRタテ	W3
288	9号採掘坑	3層	ミニチュア	底面	無文	V
289	9号採掘坑	1層	深鉢	口縁	口縁部「J」字状貼付文、縦位短沈線文(棒)、弧状隆帯+割目(棒)	V
290	9号採掘坑	1層	深鉢	口縁	胴口状筋系文L→隆帯+爪形連続刺突	W3
291	P3	1層上部	深鉢	口縁	無文	W8
292	2号採掘坑	地積土上部	深鉢	口縁	隆帯+割目、横位、斜位多重沈線(棒)	V
293	4号採掘坑	地積土	深鉢	胴	隆帯(多方向)+爪部連続刺突、本口状筋系文Rタテ	II2
294	7号採掘坑		深鉢	口縁	波状口縁 隆帯+割目(棒)、結面タテ	V
295	7号採掘坑		深鉢	胴	本口状筋系文R・Lタテ	V2
296	7号採掘坑		深鉢	胴	結面LRタテ	V1
297	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	口縁	胴位横位押印縄文LR、胴+段多条RLRタテ	V
298	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	口縁	波状口縁、隆帯+沈線(棒)、横沈線+斜多重沈線文(棒)	IV新
299	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	胴	沈線(半軟竹管)	V
300	3号住付近カクラン	地積土上部	深鉢	胴	高条状隆帯+押印縄文、LRタテ	V5
301	3号住付近カクラン	地積土上部	深鉢	口縁	胴位胴四+交互強状沈線(棒)、横位沈線・多重押印文(半軟竹管)、結面LRタテ	IV新4
302	3号住付近カクラン	地積土上部	深鉢	口縁	波状口縁、口縁部厚+X字状沈線(棒)・連続刺突列、山形・斜位 多重沈線(半軟竹管)	IV新
303	3号住付近カクラン	地積土上部	深鉢	口縁	刺突列(円形竹管)・波状沈線(棒)、隆帯+割目(筋状工具)	V
304	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部右L小突起、弧状隆帯・縦位隆帯+割目(棒)、横沈線・縦位弧状多重重沈線文(棒)	V
305	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	口縁	波状口縁、口縁部割目(半軟竹管)、筋状沈線(半軟竹管)、筋状隆帯+指輪印痕	W
306	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	口縁	口縁部厚+交互強状貼付文、LRヨコ	V5
307	3号住付近カクラン	地積土	深鉢	口縁	隆帯+爪形割目、本口状筋系文L	V2
308	カクラン		深鉢	口縁	口縁部厚+双頭状貼付文、結面LRヨコ	V1



掲載	出土地点	兩位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	分類	備考
309	カクラン		深鉢	口縁	帯状沈線(輪)、山形沈線+蓮瓣印工(半輪竹筒)		IV新	
310	カクラン		深鉢?	口縁	口縁肥厚、弧状貼付文		V	
311	カクラン (BR49~50)		深鉢	口縁	押出模文、LRヨコ		V	
312	カクラン		深鉢	口縁	無文	横黒色処廻	VI	
313	カクラン		深鉢	口縁	筋々段多糸LRヨコ		I5	継ぎ足入
314	15/36	V層	深鉢	口縁	帯状沈線(輪)、隆帯+押出模文、結節?		V	芯部磨耗

表3 下中層I遺跡土製品観察表

掲載	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	遺存(%)	備考
315	3号土坑	遺積十下位	耳珪	290	380	100	91	50	
316	3号土坑	遺積十下位	耳珪	320	200	100	77	90	
317	4号探検坑		土珪	690	670	130	518	40	板状十割上半部、沈線、隆帯、結節、乳房貼付、乳房の下部に穿孔
318	3号伴付近カクラン	1層	土珪	800	940	200	891	50	

表4 下中層I遺跡石器・石製品観察表

掲載	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	断面	遺存(%)	備考
319	1号帯穴住居跡 P24	埋積土	石磯	261	170	049	14	Sh	無茎凹釜	100	先端角38°
320	3号帯穴住居跡	床面	石磯	388	291	084	73	Sh	有茎凸釜	100	先端角88°
321	11号土坑	3	石磯	218	199	051	19	Sh	無茎凹釜	60	先端部欠損
322	11号土坑	3	石磯	271	138	056	12	Sh	無茎凹釜	60	先端・基部欠損
323	15号土坑	3	石磯	301	126	058	19	Sh	有茎	90	先端角38°、基部欠損
324	カクラン		石磯	415	184	053	30	Sh	無茎凹釜	100	先端角30°
325	カクラン		石磯	284	180	049	18	Sh	無茎凹釜	100	先端角35°
326	9号探検坑	1	石磯	326	211	081	31	Sh	無茎凹釜	100	先端角47°
327	9号探検坑	2	石磯	448	223	081	76	Sh	無茎凹釜	100	先端角122°
328	カクラン		石磯	240	161	035	11	Ob	無茎凹釜	50	先端角18°、基部欠損、小赤沢
329	2号近世帯	1	石磯	247	233	065	40	Sh	無茎凹釜	60	先端欠損

330	25号土坑	1	石礎	499	556	091	206	Sh	横型	100	つまみ部幅149cm.鉄入部幅128cm
331	13号土坑	築積土上段	石礎	350	311	059	26	Sh	縦型	100	鉄筋品?つまみ部幅068cm.鉄入#0.43cm
332	カクラン		石礎	313	514	103	102	Sh	横型	100	つまみ部幅122cm.鉄入部幅080cm
333	カクラン		石礎	764	326	151	219	Sh	縦型	100	つまみ部幅162cm.鉄入部幅106cm
334	9号採掘坑	1	石礎	672	318	065	123	Sh	縦型	100	つまみ部幅115cm.鉄入部幅085cm
335	1号型穴住居跡	1	採石	259	249	105	53	Sh		100	刃角65°
336	9号土坑	1	採石	527	384	180	40.0	Sh		100	刃端刃角73° 左面刃角78°
337	9号土坑	3	採石	591	561	233	61.2	Sh		100	先端刃角71° 左面刃角70° 先端部ターナル付着
338	カクラン		採石	423	384	147	175	Sh		50	先端刃角62° 右面刃角63°
339	13号土坑	階層土上段	階層	290	175	071	21	Sh		20	刃角65°
	カクラン		階層	643	856	140	567	Sh		50	刃角38°
340	11号土坑	3	磨製石器	331	260	083	40	Sh		100	
341	1号型穴住居跡 P14	地層土	石核	785	652	327	126.5	Sh		100	
342	9号採掘坑	2	石核	595	561	291	64.9	Sh		100	
	9号採掘坑	1階下層	石核	345	428	201	25.9	Ag		100	スス付着
343	1号型穴住居跡	カクラン層	石鏃	868	1051	244	223.3	SS		100	スス付着
344	3号住付近カクラン	2	石鏃	453	1756	214	213.1	Sh		100	
345	9号採掘坑	2	石鏃	491	781	211	103.0	SS		100	
346	3号型穴住居跡 炉2	床面	磨製石器	723	734	533	243.1	An		40	磨面側面
347	20号土坑	2	磨製石器	1122	835	511	412.2	Serp		70	磨面正裏面
348	9号採掘坑	1層	磨製石器	1051	722	481	497.2	Serp		100	磨面正面
		1層	磨製石器	841	654	483	240.1	An		40	磨面正裏面
349	カクラン		磨製石器	1159	831	533	703.6	Ho		90	磨面正裏面
350	2号型穴住居跡 P65	地層土	磨製石器	2025	654	377	635.3	Gra		100	磨面側面
351	2号型穴住居跡 P72	地層土	磨石	1855	716	422	740.5	Da		100	磨面側面、スス付着
352	2号型穴住居跡 P63	地層土	磨石	837	791	471	516.6	Dyo		100	磨面正側
353	3号土坑	1	磨石	1196	731	340	548.9	Serp		70	磨面正裏・側面
354	5号土坑	1	磨石	811	585	366	260.7	An		50	磨面側面
	9号採掘坑	2層	磨石	1035	724	493	568.7	Ilo		100	磨面正裏面
	9号採掘坑	1層	磨石	1780	450	618	572.2	SS		20	磨面正裏面
355	カクラン		磨石	1792	513	315	436.3	Ho		100	磨面側面
356	3号型穴住居跡	床面	磨石	1312	618	392	381.3	SS		100	磨面側面

編號	出土地点	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	断面	遺存(%)	備考
357	2号塚穴住居跡 P65	堆積土	鏡石	12.06	7.00	3.65	403.3	Sh	B	60	凹部正全面
358	3号土坑	I	鏡石	10.60	5.60	3.70	249.8	SS	B	100	凹部正全面
359	10号土坑	堆積土上部	鏡石	13.21	4.51	2.22	156.0	Sh	B	80	凹部正全面
360	2号塚穴住居跡 P74	堆積土	鏡石	12.87	5.27	3.98	453.1	SS	C	100	鏡打痕正全面・先端
361	2号塚穴住居跡 P66	堆積土	鏡石	17.20	5.78	2.41	356.2	Sh	C	100	鏡打痕先端
362	2号塚穴住居跡 P66	堆積土	鏡石	10.00	5.75	4.71	389.3	Dfo	C	100	鏡打痕先端
	風倒木	黑色土	鏡石	8.03	6.06	3.46	224.4	SS	C	100	鏡打痕正全面
363	5号土坑	I	鏡石	6.52	7.01	2.71	175.7	SS	C	50	鏡打痕正全面
364	2号塚穴住居跡 P67	堆積土	台石	40.80	26.10	8.20	11700.0	SS	C	100	鏡打痕正全面
365	2号塚穴住居跡 P67	堆積土	台石	18.20	11.70	4.10	1183.8	SS	C	100	鏡打痕正全面
366	2号塚穴住居跡 P28	堆積土	台石	22.80	13.36	3.20	1284.0	SS	A	50	鏡打痕全面、磨面正全面、石皿?
367	2号土坑	I	台石	35.10	28.60	9.50	12800.0	SS	A	50	磨面・鏡打痕正全面
368	1号塚穴住居跡 P29	堆積土上部	川原状石片	5.18	4.79	1.01	32.0	Sh		80	表面水化、有孔
369	3号塚穴住居跡		石棒	16.70	4.40	2.40	290.0	Sh	D	100	擦痕明瞭、石棒未製品?
370	11号土坑	I	板状石製品	9.83	1.78	0.51	11.9	Sh		100	未磨一部残存、石刀?
371	3号住付近カタラン	I	板状石製品	14.54	3.21	0.95	70.0	Sh		100	
372	八幡神社境内	表録	块状耳環	5.05	1.96	0.63	9.4	Sh		50	

表5 下中層I遺跡中世以降の遺物観察表

編號	出土地点	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	断面	遺存(%)	備考
373	6号近世墓塚	底面	銅鏡	14.10	8.40	0.20	46.10		80	菊花文
374	6号近世墓塚	底面	銅鏡(雲水通立)		2.38	0.11	3.00		100	磨研0.54cm
375	6号近世墓塚	底面	銅鏡(雲水通立)		2.33	0.12	2.70		100	磨研0.54cm
376	6号近世墓塚	底面	銅鏡(雲水通立)		2.32	0.14	2.80		100	磨研0.56cm
377	6号近世墓塚	底面	銅鏡(雲水通立)		2.33	0.12	2.60		100	磨研0.52cm
378	6号近世墓塚	底面	銅鏡(雲水通立)		2.30	0.11	2.40		90	磨研0.53cm
379	5号近世墓塚	堆積土	煙管(覆首)	4.20	1.15		7.60		100	
380	5号近世墓塚	堆積土	煙管(覆口)	6.40	1.10		6.70		100	
381	P64	堆積土	埴口	91.00	9.90		193.70		30	
382	1号塚穴住居跡	堆積土	銅鏡(雲水通立)	2.30	2.15	0.11	1.50		80	磨研0.52cm

## V 下中居Ⅱ遺跡

### 1 概 要

下中居Ⅰ遺跡から流れてくる流水と地下水が非常に多く、調査が難航した。現況は水田で、多量の遺物が表採できた。昭和初期の圃場整備によって、本遺跡範囲でリヤカー1台分の土器が出土したとの聞き取り調査報告が、旧大迫町教育委員会による遺跡分布調査報告書に記載されている。今回の調査区は、確認調査区と本調査区に分かれる。確認調査区は砂利敷設道路となる範囲である(第55図)。確認調査区は工事掘削が及ぶ深度まで調査を行い、それ以下は保護することで、調整された。

掘り込みのある遺構は確認できなかった。遺物包含層が形成されており、縄文時代の捨て場と考えられる。

遺物は、縄文土器大コンテナ45箱、土製品7点、剥片石器308点、礫石器115点、石製品2点が出土している。

### 2 遺 構

1号捨て場(第55～59図、写真図版51～58)

【位置・検出状況】座標値(X=-60990m、Y=39950m)付近の内容確認調査区と本調査区に跨っている。確認調査区内範囲については、一部トレンチを設定して掘削し、包含層の層厚と土層断面を確認した。

【規模・形状】調査区の北側は傾斜地で、遺物分布密度が高く、南側の平坦面では遺物分布密度が低くなる。かつて、この平坦面ではリヤカー1台分の遺物が出土したらしい。現在の南側平坦面での遺物分布密度の低さは、水田造成によって削平された結果であり、かつては遺跡範囲全体に遺物包含層が広がっていた可能性がある。遺物の平面分布と接合状況から、この包含層範囲は、緩斜面地に形成された縄文時代の捨て場である。今回は525m<sup>2</sup>を調査した。下中居Ⅰ遺跡が居住空間なのに対し、下中居Ⅱ遺跡は廃棄、あるいは物送りの場である。ここで言う捨て場は、地面に掘り込む遺構ではなく、遺物分布の切れ目を調査者によって任意に分けられた空間であり、操作概念上の遺構である。したがって、範囲と面積は厳密には決定できない。

【堆積土】捨て場の堆積土を5層に大別した。1層が耕作土、2層が崖錐性の小礫を多量に含む暗褐色～黒褐色土層、3層が黒色土層で、中位にTo-Cuを包含する。4層が褐灰砂層、5層が黄褐色粘土層である。遺物は主に2・3層から出土しており、To-Cuより下位からは遺物が出土していない。

2層は崖錐礫の混入量によって2a～2eの5細分した。2a・2b・2d層は調査区のほぼ全域に堆積しているが、2c・2e層は調査区の東側に隔たる。2a・2b層は崖錐礫の量が多い。

堆積環境から以下の形成過程と考えられる。

- ①中居川の水流により河岸段丘が形成される(4層の形成)。
- ②低湿地帯となる(3層が次第に形成されていく)。
- ③縄文時代前期前葉にTo-Cuが降下する(3層上部)。
- ④下中居地区での人類活動の活発化によって縄文時代前期前半から捨て場となる。崖錐礫が多量に含まれていることから、崖の崩落が数回起こっていると考えられる。(2層の形成)。

⑤江戸時代以降の道路造成、もしくは下中居Ⅰ遺跡との境界にある崖からの坑内掘りによる採掘活動によって生じた残土が遺跡内へ流入する（2a層?の形成）。

⑥昭和初期以降の水田造成、耕作によって、形成される（1層の形成）。

地層毎に遺物を取り上げたものの、2a～3層のなかで、地層と土器型式が調和的に出土する状況ではなかった。

【遺物分布】出土土器の重量分布図を第57～59図に示した。1層は基本的に重機によって除去したため、カウントしない。18Hグリッドは確認調査区のため、トレンチを2か所設定したので、データは18H51・61・71と18H70・80・90グリッドの2列のみである。今回の調査で、遺物出土量は2層からが最も多く、3層は2層に比べて少ない。2層は5細分したが、それぞれに崖崩壊が混入し、特に2a層と2b層には多量にみられる。2a・2b層から出土する土器破片はサイズが小さく、2c～3層出土土器は破片のサイズが大きい傾向にある。

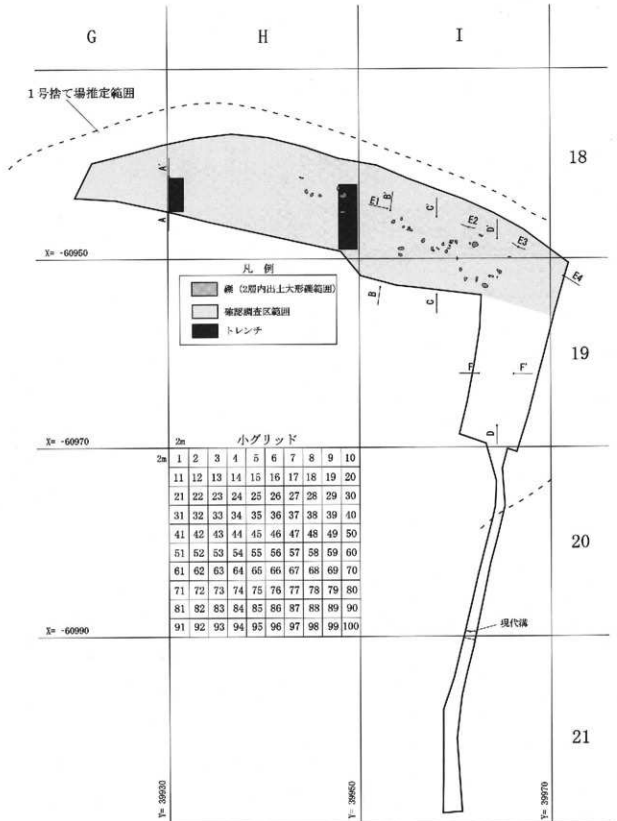
2a層は多量の崖崩壊性堆積物を包含する。土器は小破片が多いため、重量分布では10kg以上に達するグリッドは無い。18I81～85・92～95に密集しているようである。2b層では10kg以上出土したグリッドも多く、5kg以上では18I82～85・92～94グリッドなど密集部が存在している。2c層は地層自体の範囲が狭いため、遺物量が少ない。見掛け上の分布は19I5・6・15・16グリッドに密集している。2d層は調査地全域に安定して堆積している。土器破片のサイズも2b層に比べて大きい。2d層からは、調査範囲から満遍なく出土しているが、18I92～95グリッドに密集部がある。3層も調査範囲全域に安定して堆積している。3層内土器の破片サイズは2d層出土資料と大差ないものの、物量が少ない。1号捨て場全体としては、出土分布のピークが2d～3層にある。2d層や3層など、下部層からはⅡ群～Ⅴ群土器まで出土し、Ⅳ群の量が一定量まとまる。一方、2a・2b層など、上部層からはⅣ・Ⅴ群土器が主体である。遺物の分布傾向からは、時期区分に都合の良い堆積土の形成のように思われたが、2層内の遺物分布重量を検討すると、既存の年代観とは逆転する遺物の出土状況もいくつかみられた。例えば、2d層において、Ⅴ群土器の量が多く、Ⅳ群土器が少ないのに対し、より上位の2b層において、Ⅳ群が多く、Ⅴ群が少ないとの結果となった。すなわち土器型式が、細分された堆積層と調和的ではなかった。この遺物分布から推定されることは、

①3層上部堆積時には、Ⅴ群土器が作られている。

②2層は度重なる崖の崩落と人為的要因によって形成されており、比高の高い場所に廃棄されたⅢ～Ⅳ群などの古手の土器が崩落とともに、比高の低い範囲に堆積したⅤ群など新手の土器の上に覆い被さるように堆積した。

③②の要因で形成された地層を、調査者が微細な崩落単位を把握できず、帯状に長い地層として分層したため、各堆積層からは、時期幅の広い遺物が出土するという結果になった。

以上のことから、次のように考えられる。To-Cu堆積時からⅤ群土器の時期、すなわち縄文時代前期前業から中期初頭に渡って、今回の調査範囲は低湿地であり続け、3層が徐々に形成されていった。その後、崖の崩落が頻発し、2層が形成されたと考えられる。このことから、「乱れていない」と判断できるのは3層のみであり、また、その3層も時期幅の広い遺物を包含している。このような状況下では、層位に立脚した土器編年序列を提示しがたいと考え、下中居Ⅰ遺跡から出土した土器は、既存の土器型式による分類を行うこととした。なお、2層は、出土遺物こそ縄文時代に帰属するもので占められているが、道路・水田・宅地造成や崖斜面地の採掘活動による土砂の流入なども形成要因になっている可能性が十分にあるだろう。

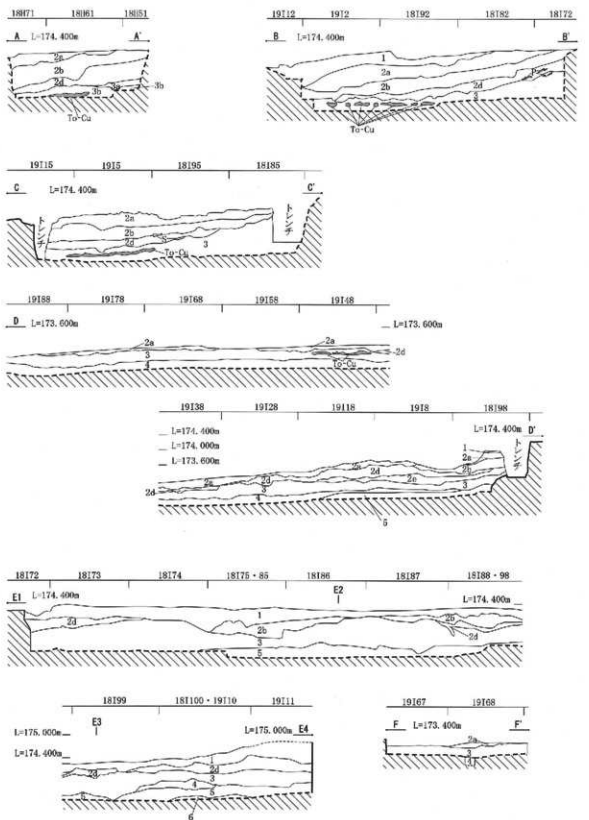


※確認調査区について  
 18I・19Iグリッドについては、遺物が出土しない  
 第3層下部まで掘り下げた。  
 18G・18H・19Hグリッドについては、工事掘削が  
 及ばない深さまで掘り下げ、さらにトレンチ調査に  
 よって、土層堆積の確認を行った。

0 1:400 20m

第55図 下中層Ⅱ遺跡遺構配置図

2 遺構



※土層注記は第二章4節に記載

0 1:100 5m

第56図 土層断面図







2c層

18H

18I

18J

51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	31	32	33
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	41	42	43
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93

19H

19I

19J



2d層

18H

18I

18J

52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53	
62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63	
72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73	
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	31	32	33	34	35	36	38	39	40	31	32	33	
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	41	42	43
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	51	52	53
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	61	62	63
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	71	72	73
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	81	82	83
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	91	92	93

19H

19I

19J

第59図 出土土器重量分布図(3)

【遺物】縄文時代前期～中期の土器が主体である。縄文時代後期、縄文時代晩期の土器がわずかに出土している。石器は剥片石器が308点、礫石器が115点出土した。

下中居Ⅰ遺跡と下中居Ⅱ遺跡での遺跡間接合資料が1点(98)確認できた。

【時期】主体は縄文時代前期末～中期初頭の大木6～7式期である。その後、現代にいたるまで崖の崩落や水田造成によって堆積と削平を繰り返したと考えられる。

### 3 遺物

#### (1) 縄文土器

【分類】下中居Ⅰ遺跡と同様に以下のごとく類型化した。その中を施文要素によって、細分した。

- |     |                             |     |         |      |         |
|-----|-----------------------------|-----|---------|------|---------|
| I群  | 大木2式相当                      | II群 | 大木4式相当  | III群 | 大木5式相当  |
| IV群 | 大木6式相当                      | V群  | 大木7a式相当 | VI群  | 大木7b式相当 |
| Ⅶ群  | I～Ⅵ群のうち、文様要素に乏しく、各群に細分し難いもの |     |         |      |         |
| Ⅷ群  | 縄文時代後期以降の土器                 |     |         |      |         |

1種：結節回転文・結束縄文、2種：木目状燃糸文、3種：網目状燃糸文、4種：燃糸文、5種：縄文、6種：オオバコ回転文、7種：櫛歯状文、8種：無文あるいは無文部

下中居Ⅰ遺跡と同様に下中居Ⅱ遺跡においても、大半を占めるのはⅣ・Ⅴ群である。また、Ⅶ群も胎土や器形の特徴などから、ほとんどが、Ⅳ・Ⅴ群と同時期のものと考えられる。

【資料】1号捨て場では、地層に従って遺物の回収を行ったが、整理作業の結果、第2節で記載したとおり各地層と土器型式の細分が必ずしも一致していないことが判明した。そこで、下中居Ⅱ遺跡出土土器は地層ごとではなく、類型化した群ごとに掲載した。

1001はⅠ群土器で、口縁部に結節回転文を横位に施文する。胎土には繊維が微量に混入する。Ⅰ群土器はTo-Cu降下以前の上器と考えられている。器種は深鉢で、器形はバケツ状を呈する。1002～1012はⅡ群土器で、木目状燃糸文が施文される資料が多い。器種は深鉢で、器形はバケツ状を呈する。降帯上に棒状工具による刺突が連続的に施文される。Ⅱ群に特徴的な梯子状貼付文は、本遺跡では少ない。1013～1024はⅢ群土器で、突起部分が特徴的である。器種は深鉢で、器形はバケツ状を呈する。1015・1020・1021にはⅢ群に特徴的な鋸歯状裝飾帯が見られる。1025～1035はⅣ群土器のなかで、口縁部肥厚帯に沈線等の加飾をしないグループであり、古段階に位置づけられる。器種は深鉢で、器形は長胴形と球胴形に大別される。ただし、Ⅳ群古段階は口縁部の加飾の有・無をもって分類しているため、もともと裝飾性の少ない個体がこのグループに含まれてしまうという問題を内包している。1037～1058は口縁部肥厚帯に1ないしは2本の沈線、あるいは縄圧痕を施文するもので、Ⅳ群の中でも中段階に位置する。器種、器形はⅣ群古段階と同じだが、口縁部肥厚帯の幅が広がる。これにより、沈線や刺突による文様を描くキャンパスが確保されたと言える。1051は8単位波状口縁で、口縁部肥厚帯には刺突文が連続する。1059～85は口縁部に多重沈線により、波状文や平行線文が施されることから、Ⅳ群のなかでも新段階に位置する。Ⅳ群新段階は口縁部の肥厚化傾向が中段階よりも次第に薄れる。1086～1131もⅣ群土器新段階である。1087・1088は並行沈線間に山形文を施す。1089・1090Ⅳ群併行土器で、非在地系の文様要素をもつ。連続爪形文による菱形や山形を描出するもので、南東北地方の土器であろうか。これらは胎土に大粒の砂粒がなく、器面がナデ調整されている。遺跡外から搬入された可能性がある。1108～1111は横位降帯によって区画され、口縁部文様帯が形成され

ている。1115～1127は胴部に歯状文や沈線が施されている。1132～1205はV群土器である。V群土器は口縁部文様帯が明確で、縦位隆帯などが特徴である。本書では文様要素として縦位隆帯の施文からをV群土器とした。IV群に特徴的であった口縁部肥厚帯が一部残存しているものはV群土器のなかでも古段階に位置づけられる。器種は深鉢で、器形は長胴形と球胴形に大別され、9:1の割合で長胴形が大半を占める。V群のなかには、口縁部文様帯に同一文様の構成を繰り返し施文し、文様帯の多段化が生じているものもある。1132～1141には文様帯の多段化が認められる。また、V群は、IV群で多様された太沈線と対照的に、1177・1179・1180・1183等、細沈線を連続するのも特徴のひとつである。1196・1197はV群と併行期の円筒上層a式相当である。貼付文上に縄痕を施文する。V群土器は胎土がIV群土器の流れを組む古段階が粒子の粗い砂粒が多く、新段階になると、砂粒量が減少する。1198～1210はV群のなかでも胎土に砂粒量が少なく均質であるため、新段階と考えられる。VI群では、縦位隆帯が細くなり、Y字状の隆帯(1228・1231・1232)が明確になる。縦位隆帯は太い場合でも、前時期のような丸みを帯びた隆帯ではなく、扁平な隆帯(1214～1216)が主体である。VII群土器は文様の種別によってまとめた。1250～1290は1種(結節回転文・結束縄文)、1291～1315は2種(木目状燃糸文)、1316～1338は3種(網目状燃糸文)、1339～1357は4種(燃糸文)、1358・1362～1369・1376～1390は5種(縄文)、1391～1396は6種(オオバコ回転文)、1402～1405は7種(歯状文)、1409～1414は8種(無文ないしは無文部)である。特徴的なのは、6種のオオバコ回転文で、器面に三角形の凹凸が形成されるのが特徴である。また、木目状燃糸文は木目系文化ばかりでなく、円筒系文化においても嗜好される文様であり、岩手県北部地域では一般的である。本遺跡にも一定量存在する。

## (2) 土 製 品

7点出土した。土玉(1436)、耳飾(1437)、耳栓(1438)、土偶(1439～1442)である。1440は板状土偶で、胴部中央を中空にしている。1441は胴部に連続爪形文を施文する。1439～1441は縄文時代前期～中期に多い板状土偶の一種である。1442は他の板状土偶と異なり、立体性に富む。

## (3) 石 器

石鎌(1443～1448)、石錘(1449)、石匙(1450～1457)、搔器(1458～1469)、削器(1470～1474)、搔削器(1475・1476)、微小剥離痕のある剥片(1477・1478)、楔形石器(1479・1480)、不定形石器(1481)、円盤状石器(1482～1490)、石錘(1491～1504)、打製石斧(1505)、磨製石斧(1506～1509)、鏢器(1510・1511)、敲岩器(1512～1518)、磨石(1519～1525)、敲石A(1526～1534)、敲石B(1535・1537)、敲石C(1536・1538～1547)、台石(1548～1551)、石皿(1552・1553)などが出土している。下中居Ⅰ遺跡と石器組成の点ではほとんど差はないが、石匙、搔器、削器、搔削器などスクレイパー類がやや多い。また、スクレイパー類の素材は厚手の剥片が用いられており、小形になるまでリダクションが進んでいるものは少ない。本遺跡が石材環境の良い立地であることを示している可能性がある。一方、石鎌を代表とする狩猟具は少ない。下中居Ⅱ遺跡の特徴として、早池峰山で採取可能な蛇紋岩が利用されていること、人形石錘の存在が挙げられる。大形石錘は、そのサイズから投網の錘とは考え難い。糸紡具の可能性が有るだろう。石錘は主に素材短軸に挟入部を作り出している。縄文土器の施文具としても利用される多種類の縄の製作に使われたとすれば、下中居Ⅰ遺跡での製作・使用後に1号捨て場に廃棄されたと推定される。打製石斧と磨製石斧は、わずか4点の出土であった。石斧類は1号捨て場まで持ち込まれることなく、使用場所でそのまま廃棄されるケー

スが多いのであろうか。

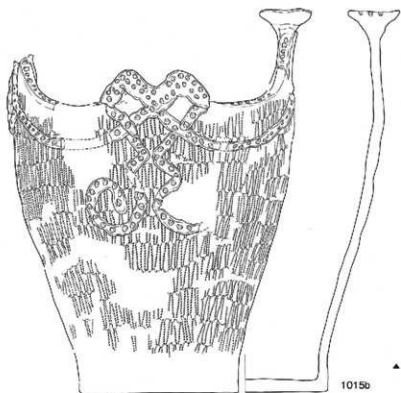
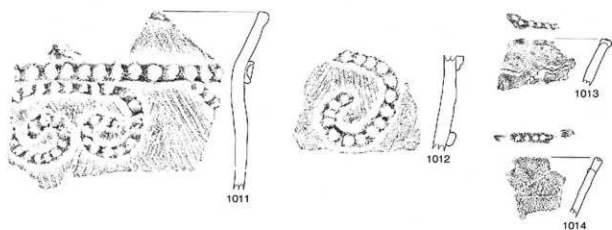
以上のことから、集落内、あるいは集落近辺での作業に使用された道具類が1号捨て場に捨てられた率が高く、集落外でも頻繁に利用する狩猟具の廃棄は少ないことが理解できる。ほかに円盤状石器が出土しているが、用途は定かではない。円盤状石器は石製品と捉えられることも多いが、全面磨面に覆われた後に端部に打撃が加えられる資料もあり、すべてを石製品とするには躊躇せざるを得ない。

#### (4) 石製品

3点出土した。挾状耳飾(1554)、ペンダント(1555)、石棒(1556)である。挾状耳飾(1554)は欠損品で、全面よく磨かれている。ペンダント(1555)は表面に赤色顔料が塗られている。中央の孔部から縁辺に向かって放射状に刻文が延びる。また、正裏面の縁辺部にも刻文がめぐる。どのようなモチーフと捉えられるかは判断できない。挾状耳飾りとペンダントは頁岩製であるが、素材となる頁岩は緑色のものが選択されている。



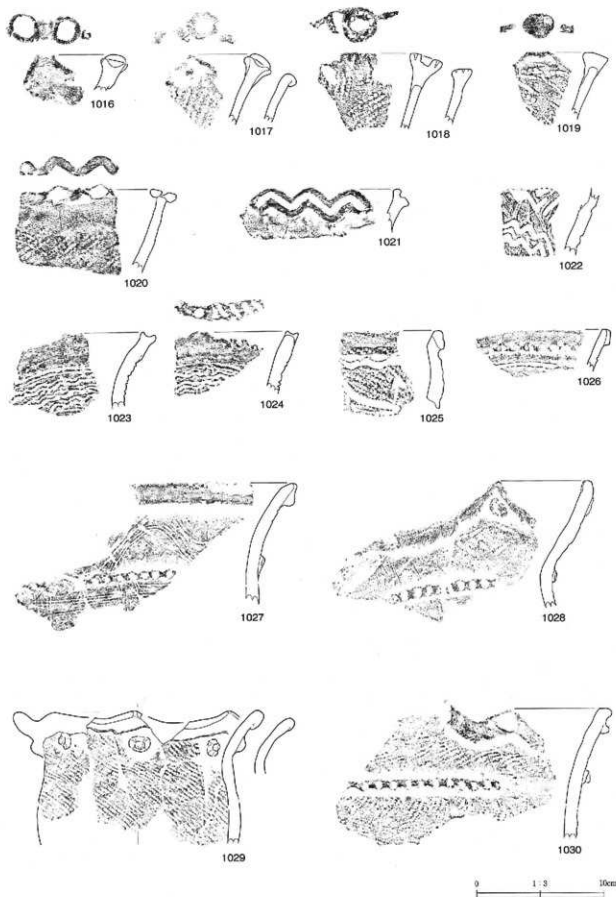
第60圖 出土土器 (16)



▲ 0 1:5 10cm

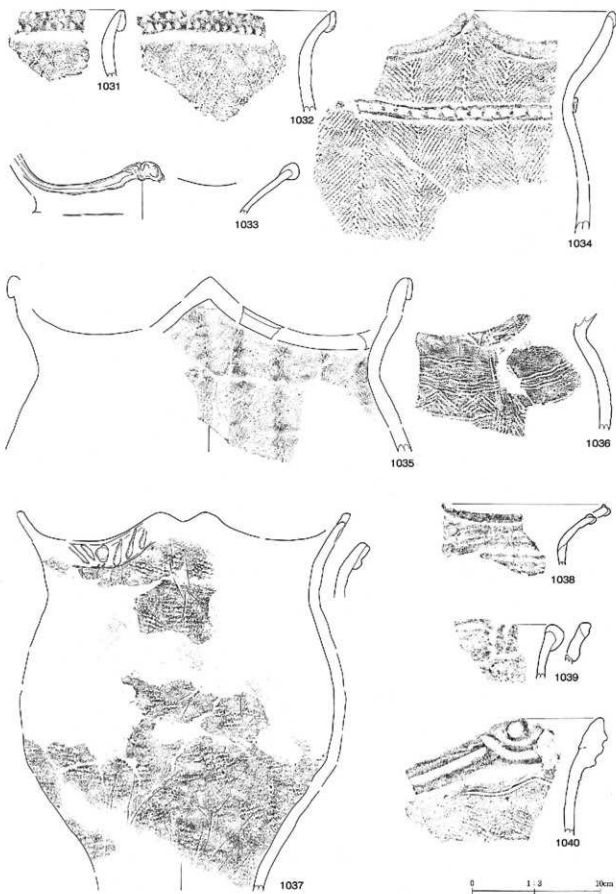
0 1:3 10cm

第61圖 出土土器 (17)

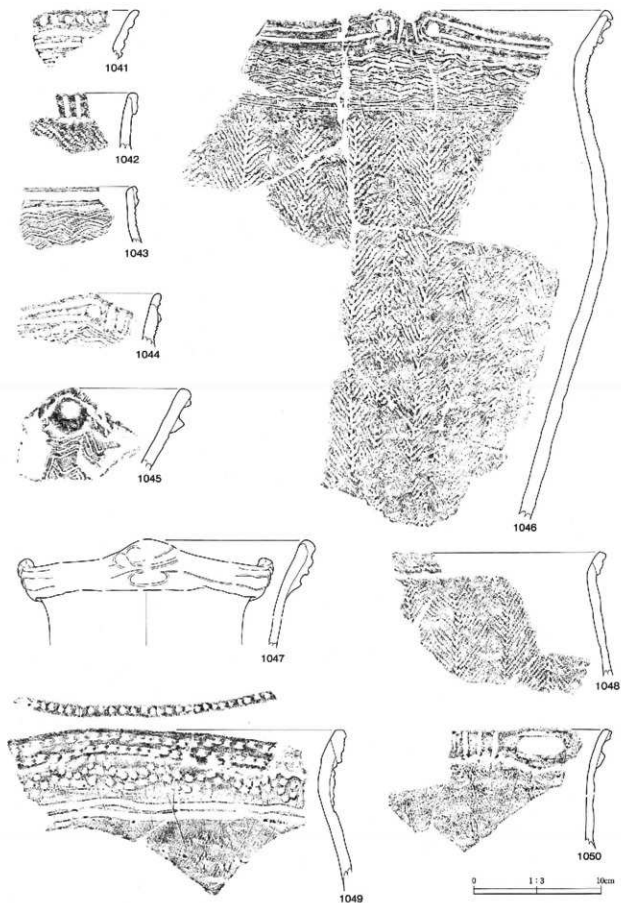


第62圖 出土土器 (18)

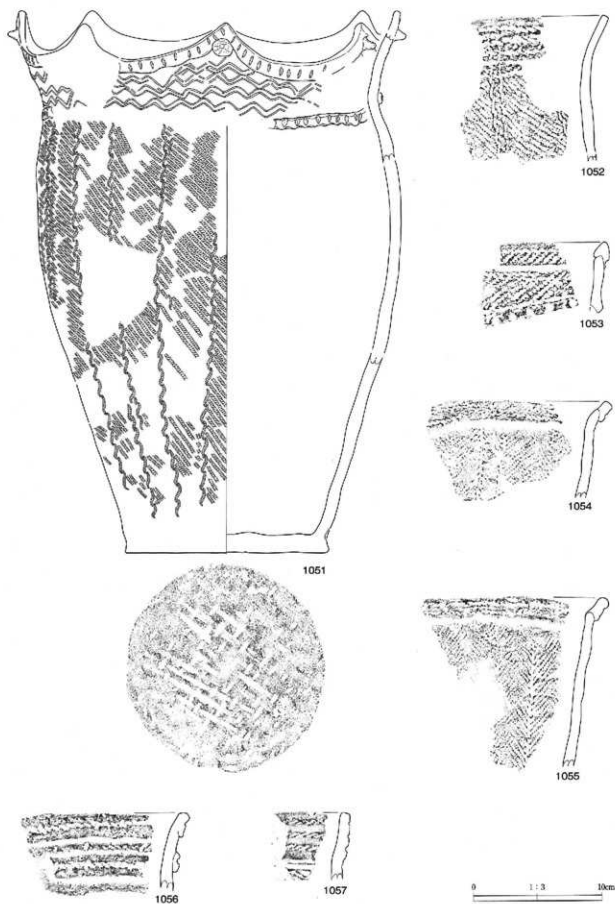




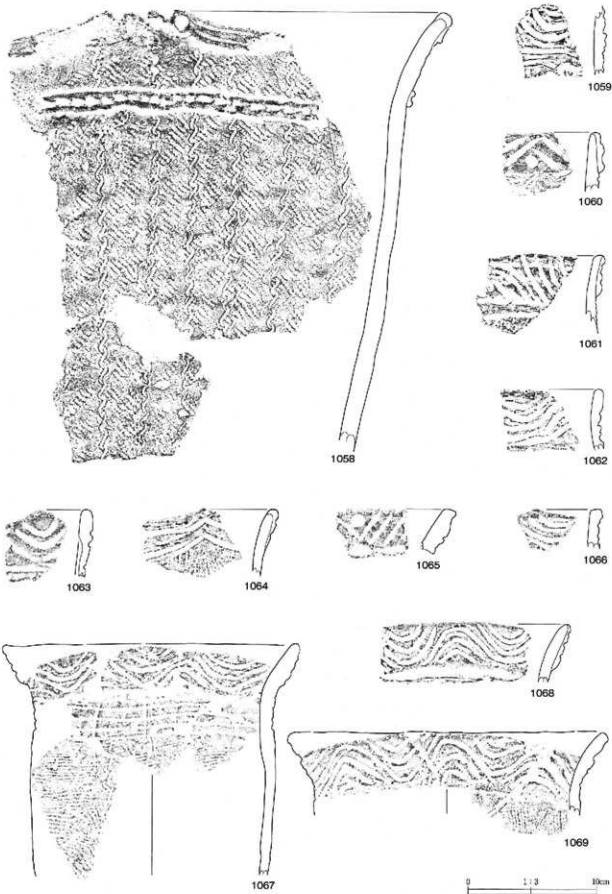
第63圖 出土土器 (19)



第64圖 出土土器 (20)



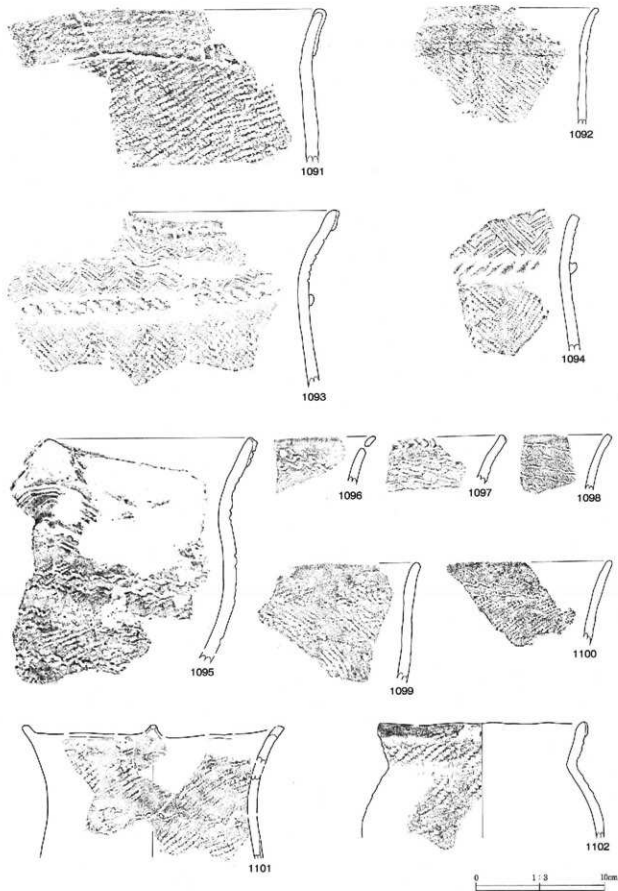
第65圖 出土土器 (21)



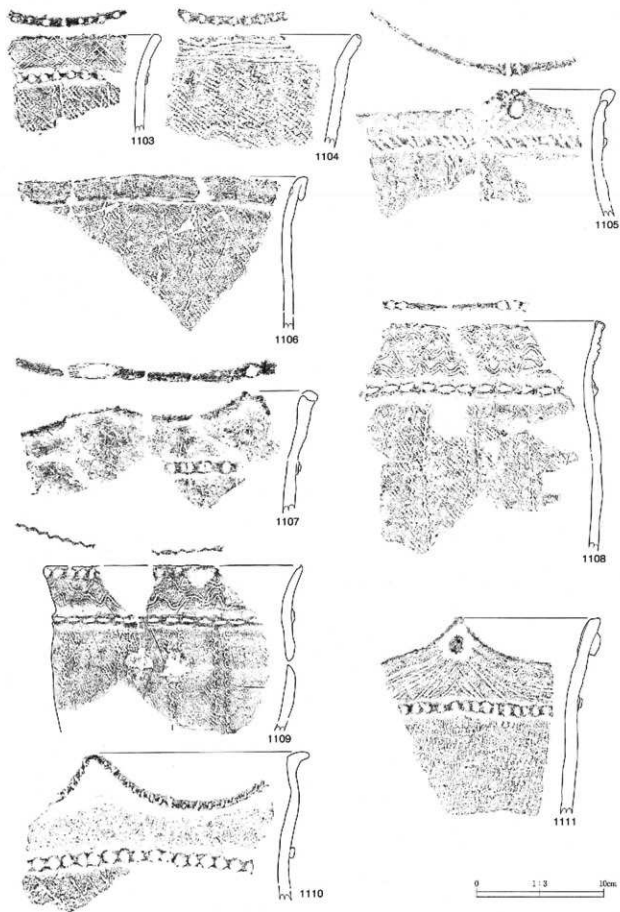
第66図 出土土器 (22)



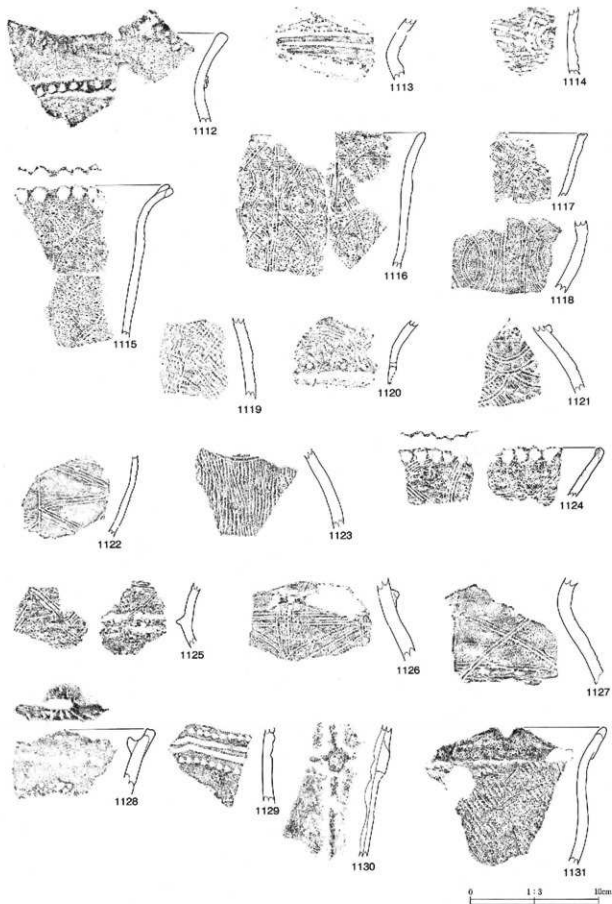
第67図 出土土器 (23)



第68圖 出土土器 (24)

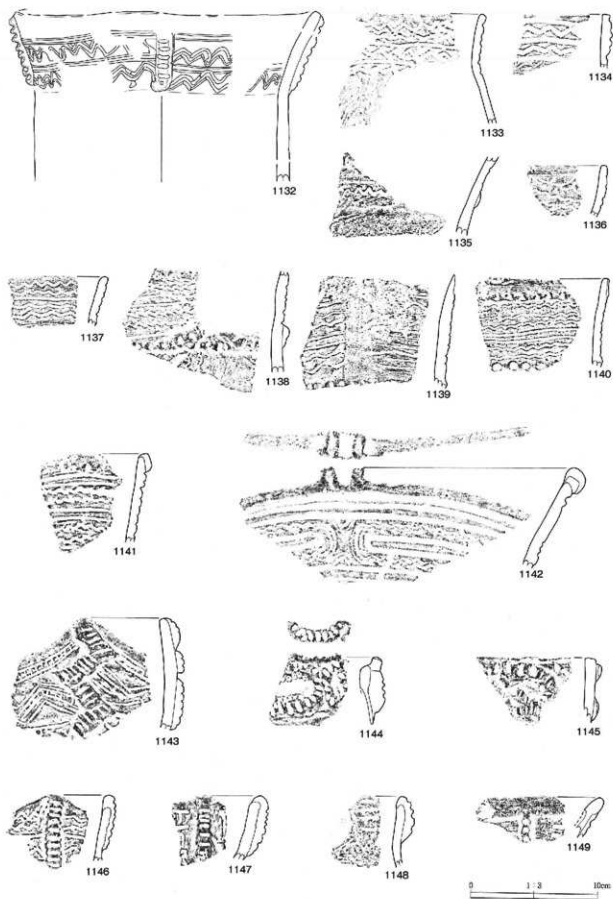


第69図 出土土器 (25)



第70図 出土土器 (26)

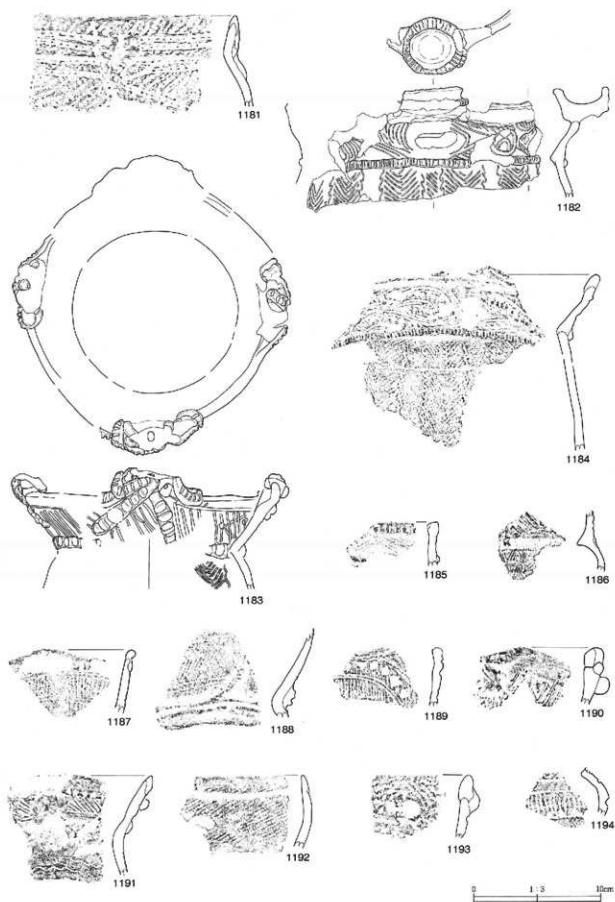




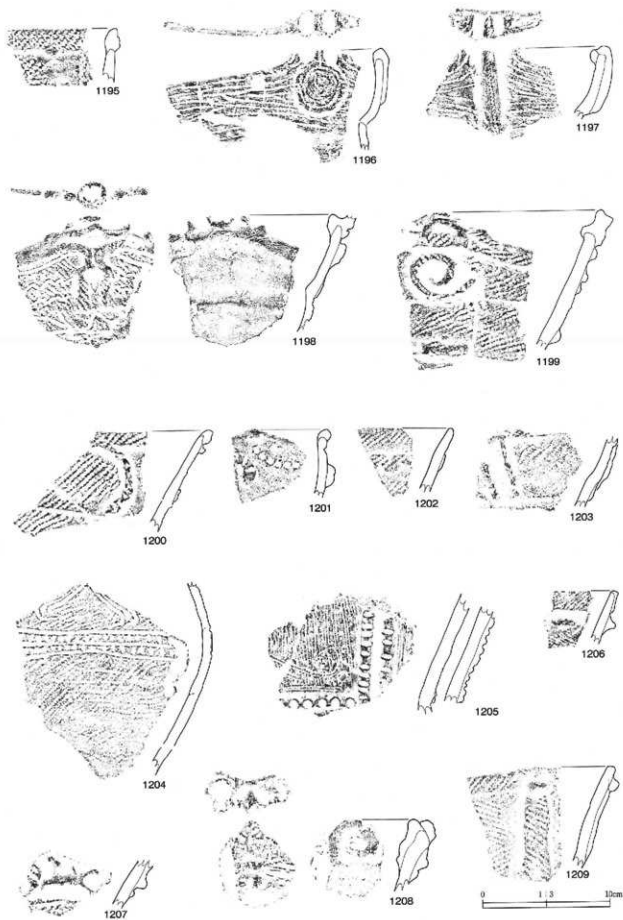
第71圖 出土土器 (27)



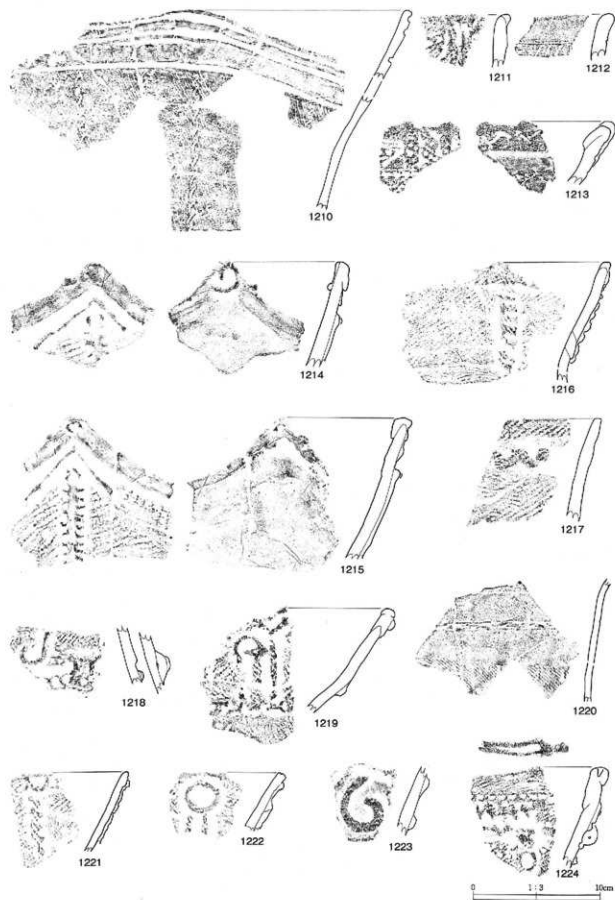
第72図 出土土器 (28)



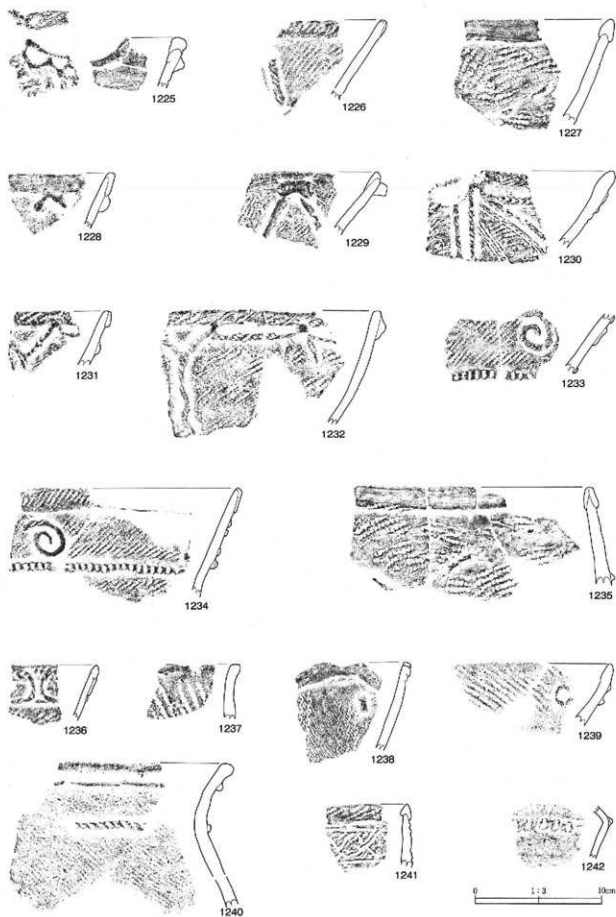
第73圖 出土土器 (29)



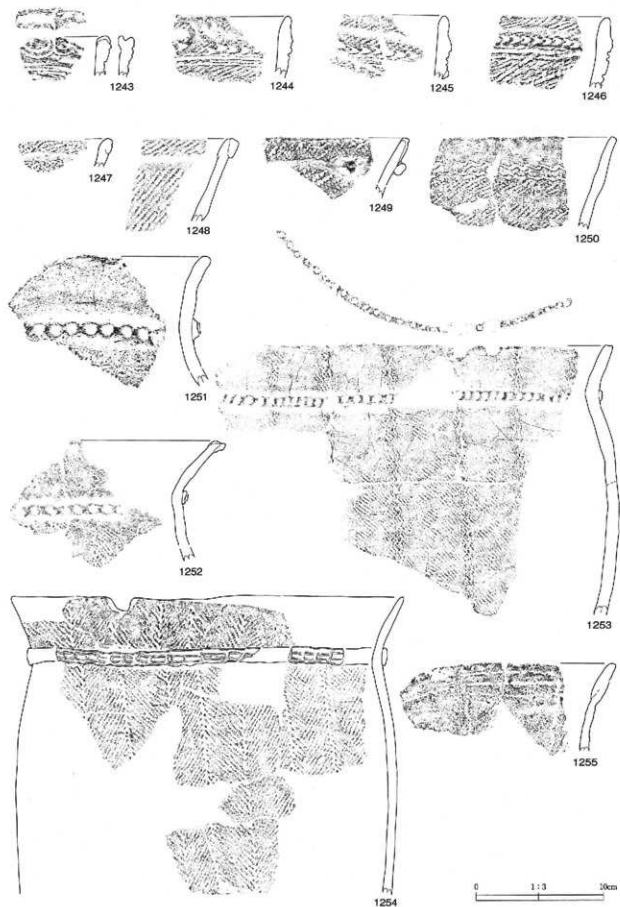
第74図 出土土器 (30)



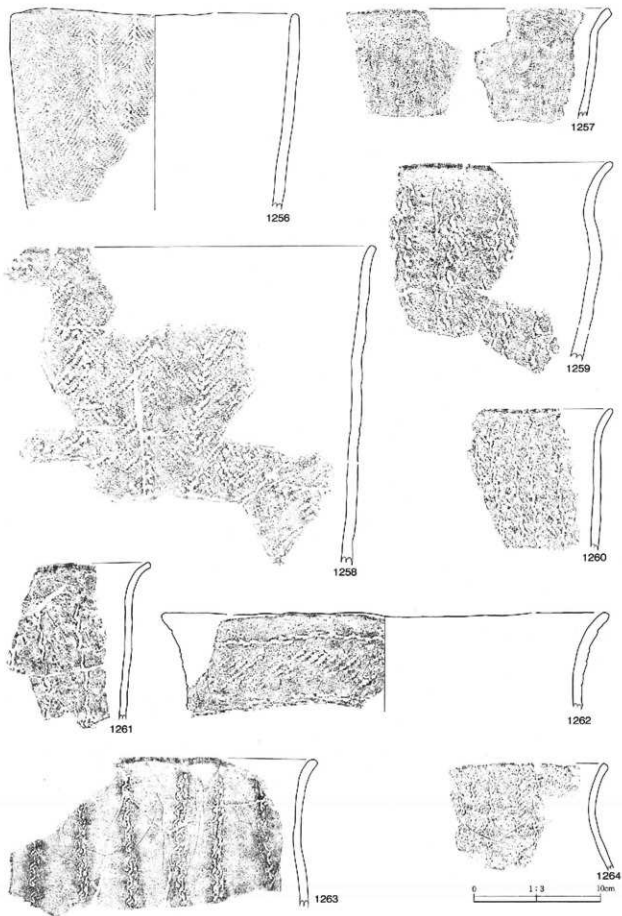
第75図 出土土器 (31)



第76圖 出土土器 (32)

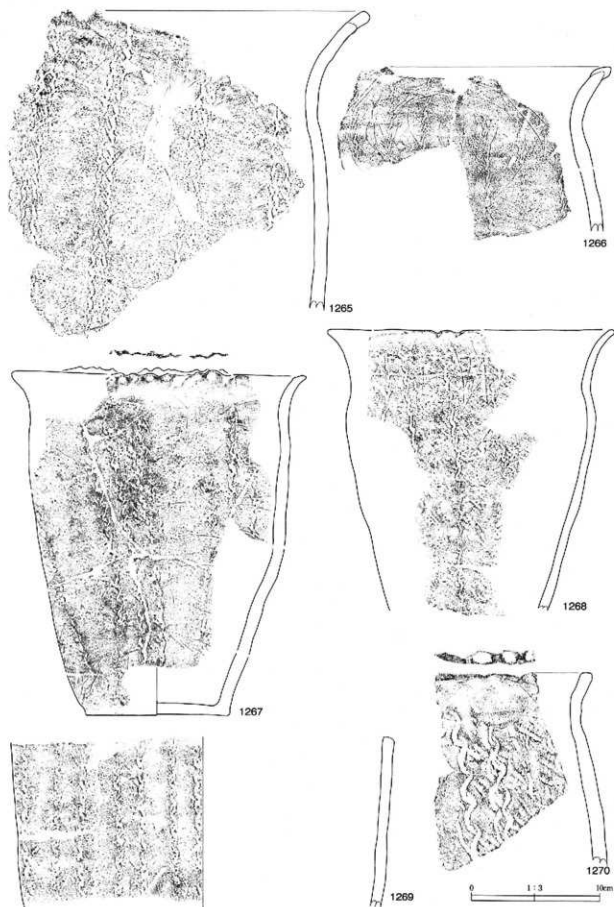


第77図 出土土器 (33)

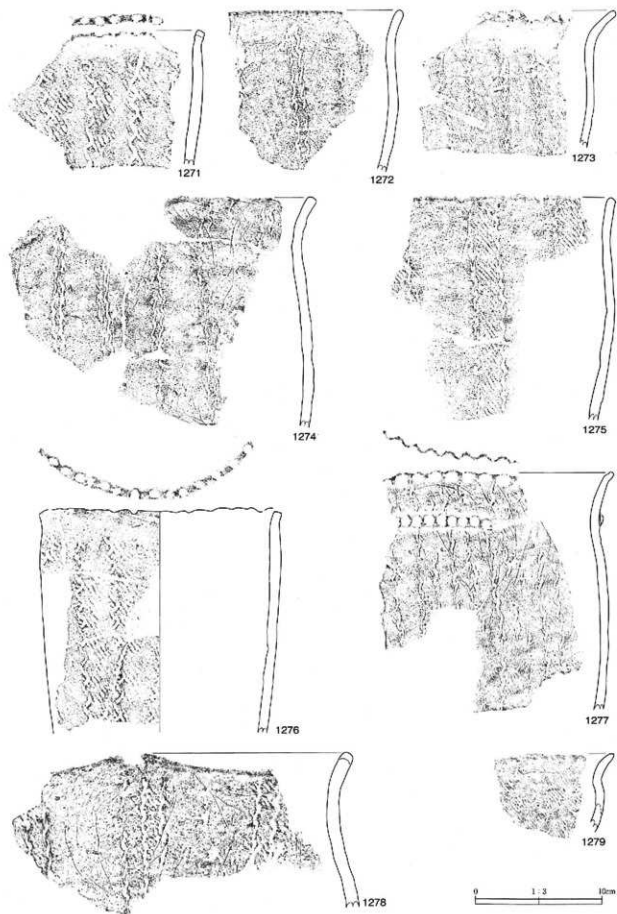


第78圖 出土土器 (34)

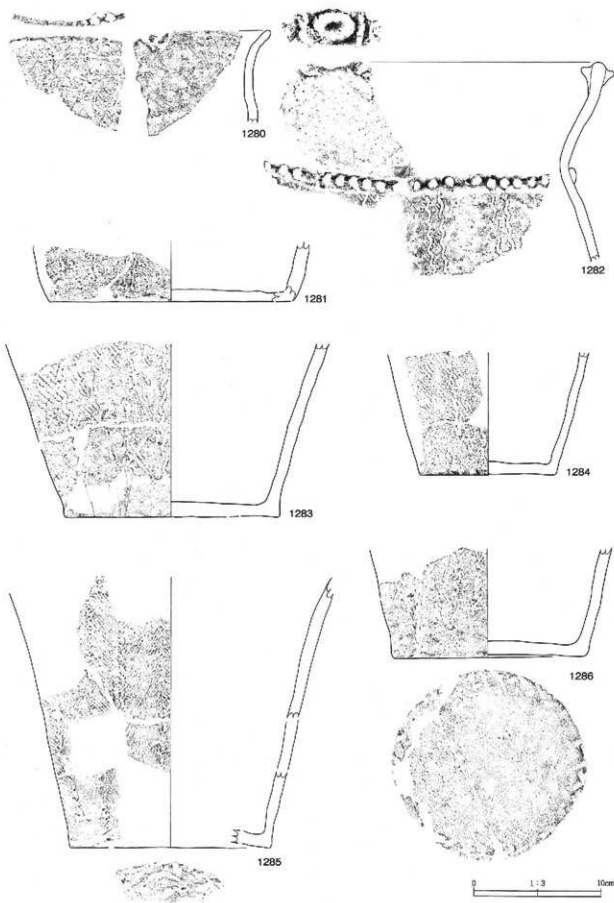




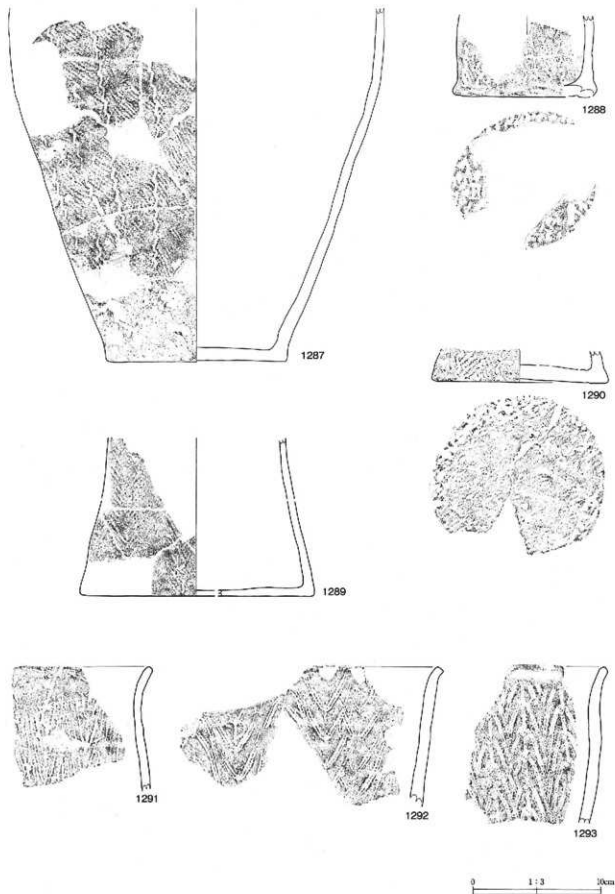
第79図 出土土器 (35)



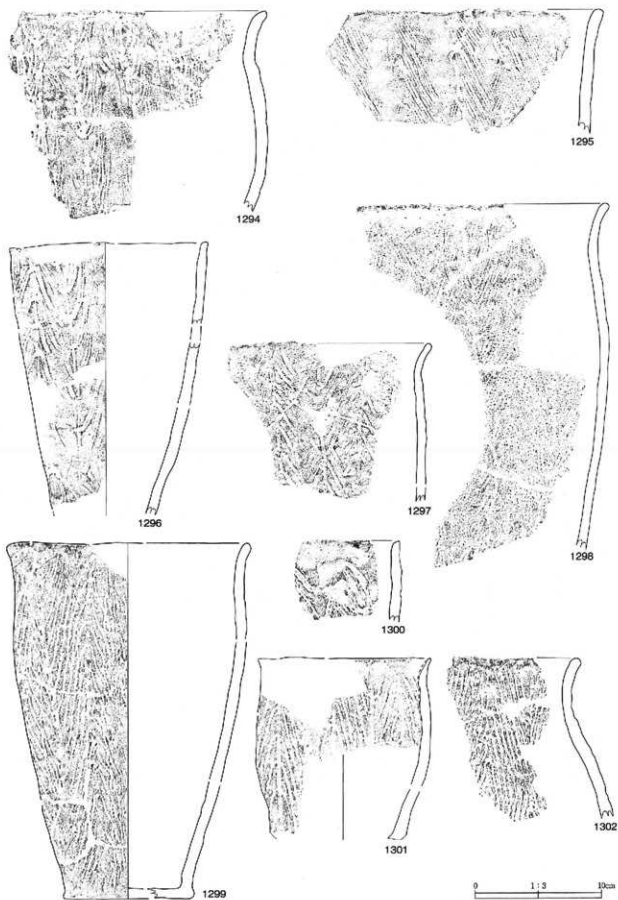
第80圖 出土土器 (36)



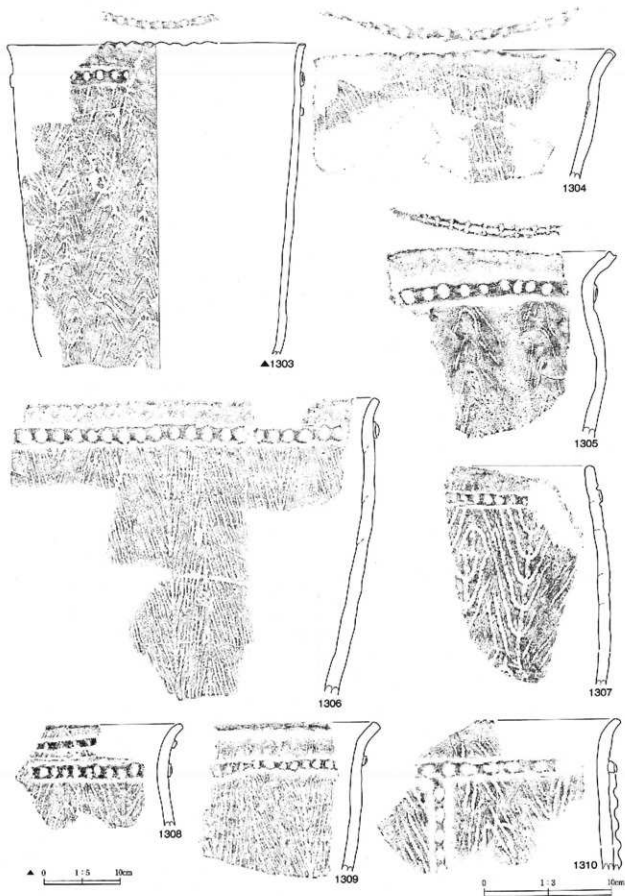
第81圖 出土土器 (37)



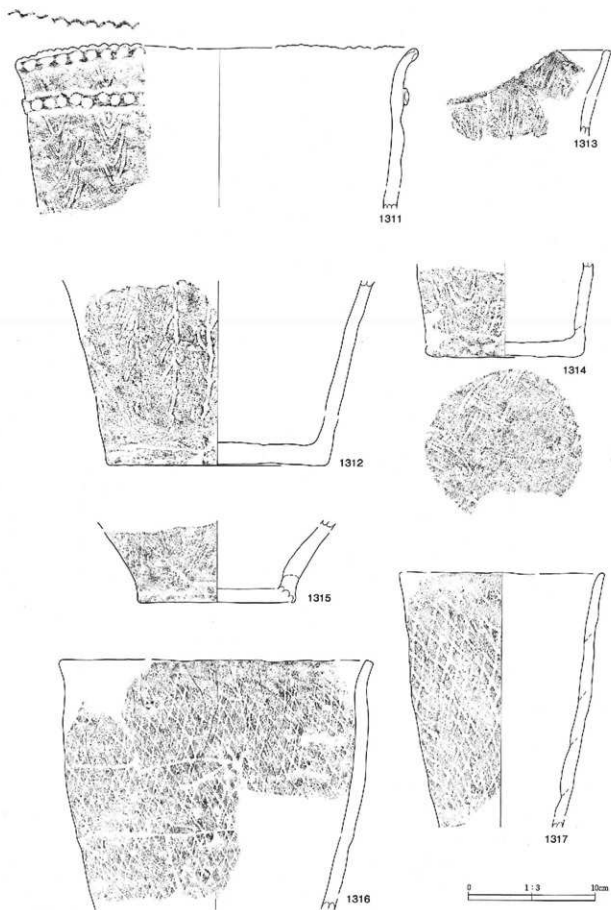
第82圖 出土土器 (38)



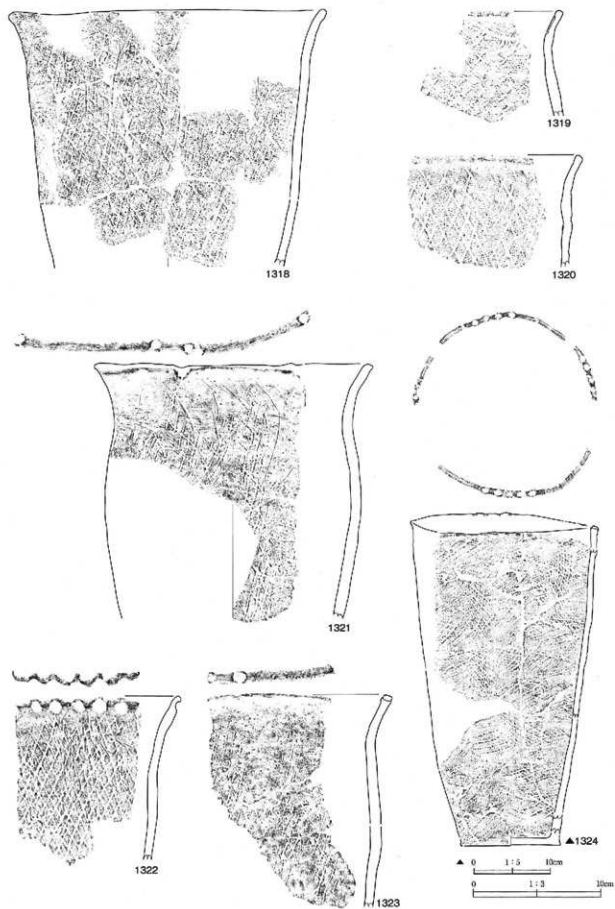
第83図 出土土器 (39)



第84図 出土土器 (40)

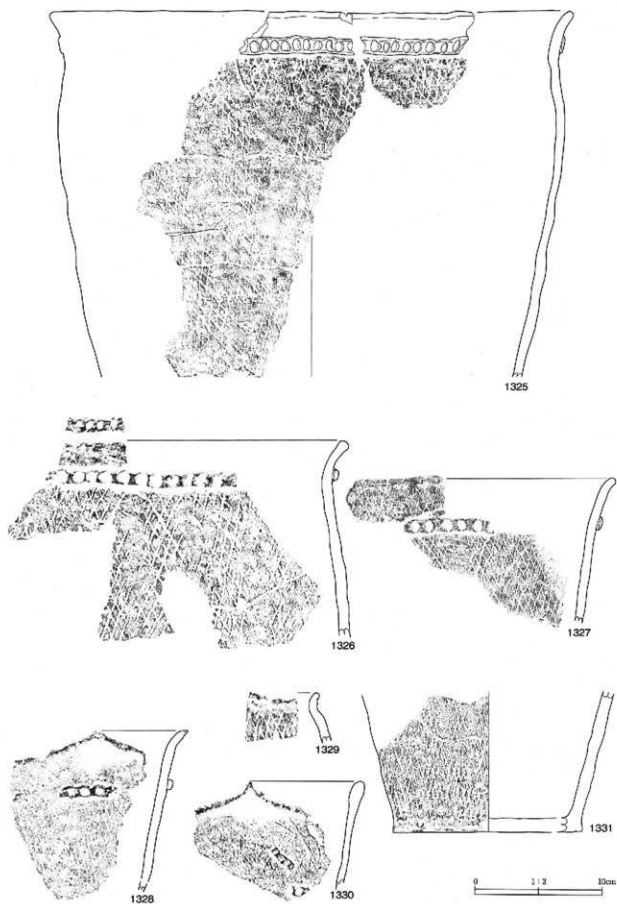


第85圖 出土土器 (41)

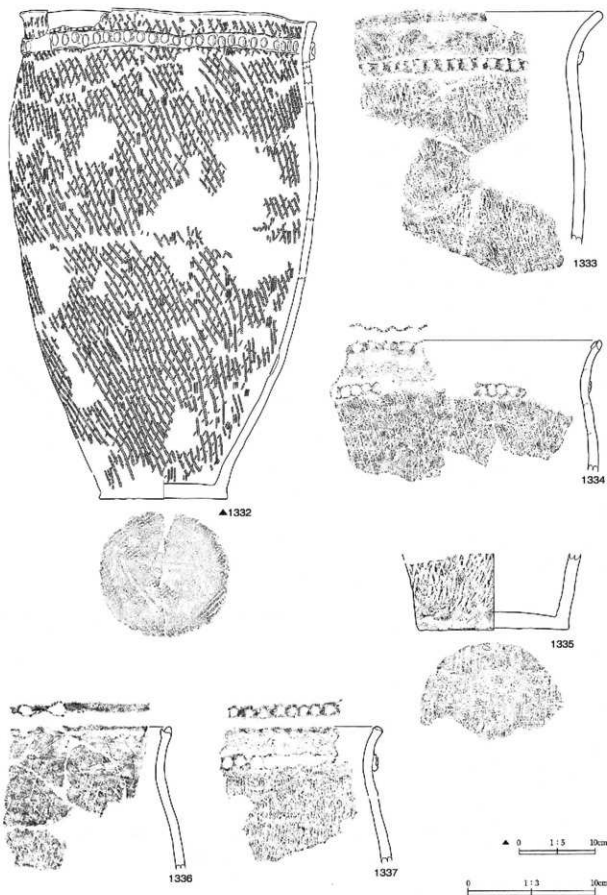


第86図 出土土器 (42)

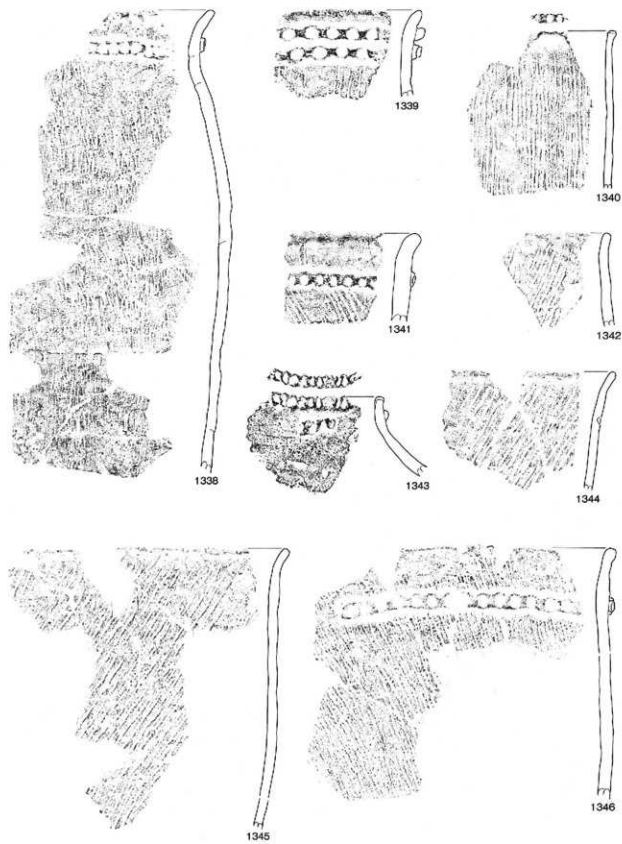




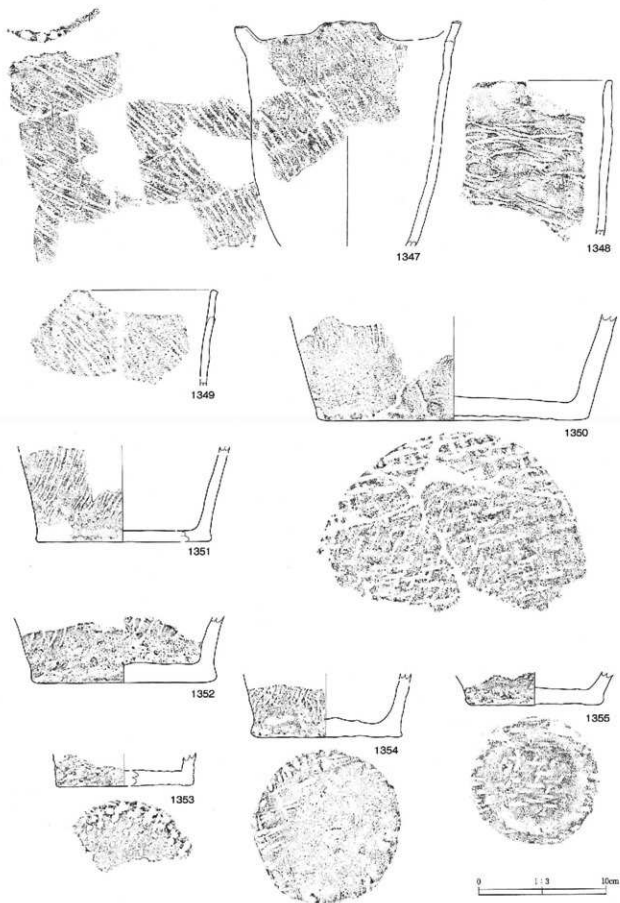
第87圖 出土土器 (43)



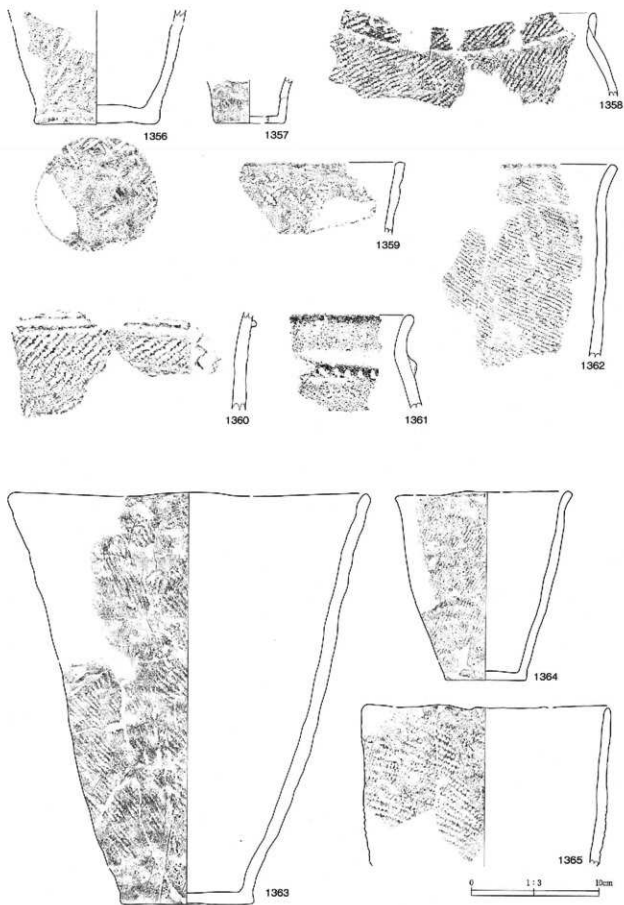
第88圖 出土土器 (44)



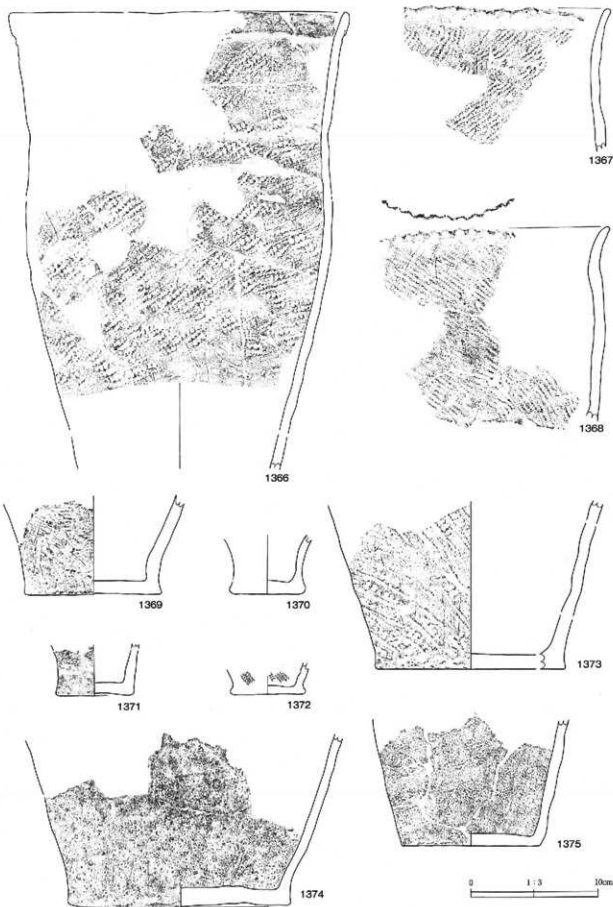
第89圖 出土土器 (45)



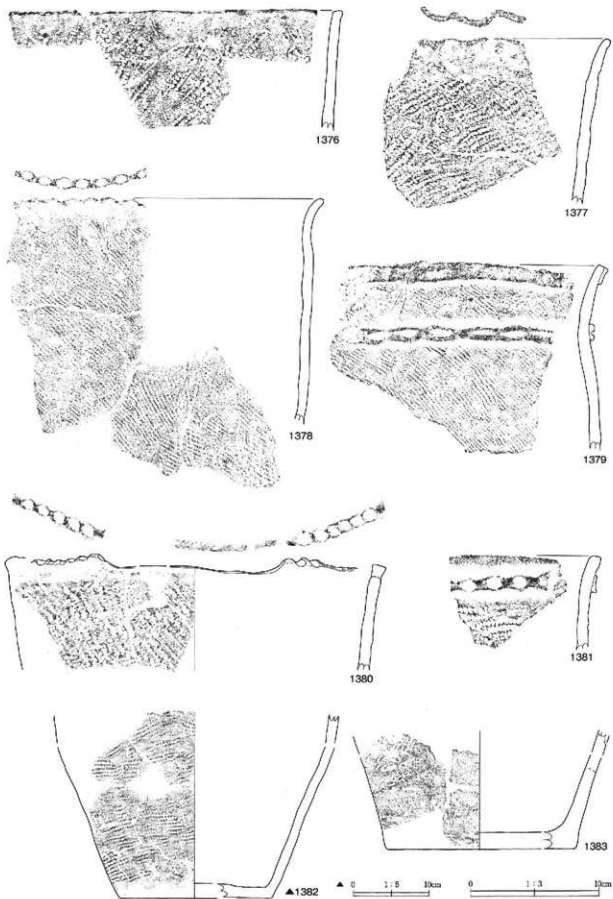
第90圖 出土土器 (46)



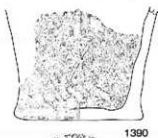
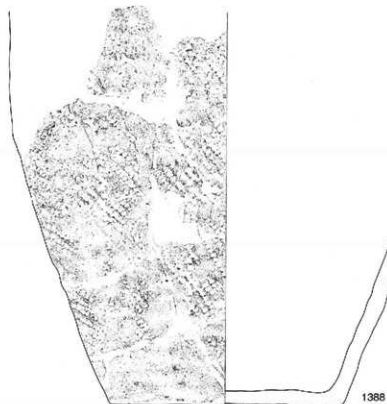
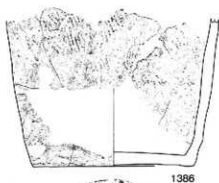
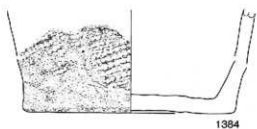
第91圖 出土土器 (47)



第92圖 出土土器 (48)

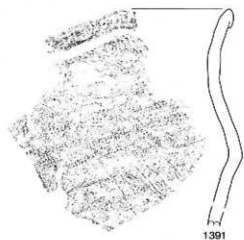


第93図 出土土器 (49)

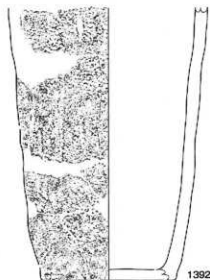


第94圖 出土土器 (50)





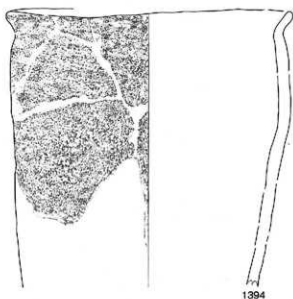
1391



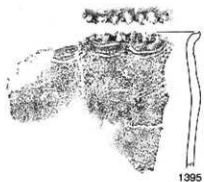
1392



1393



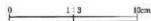
1394



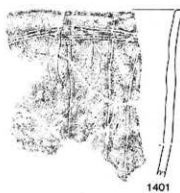
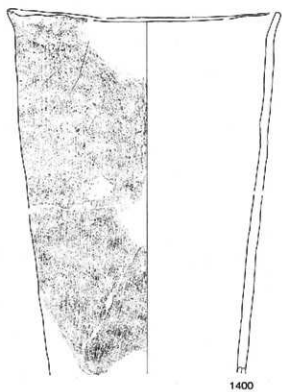
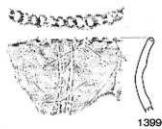
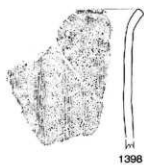
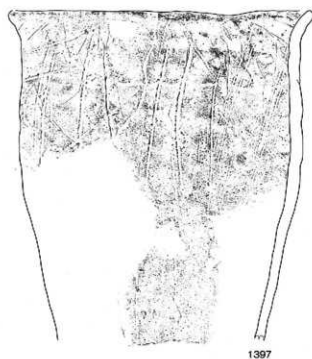
1395



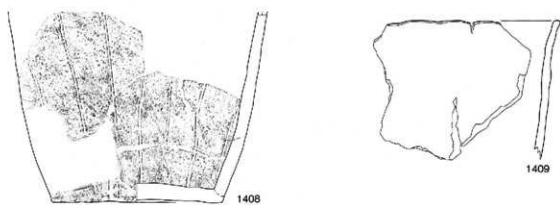
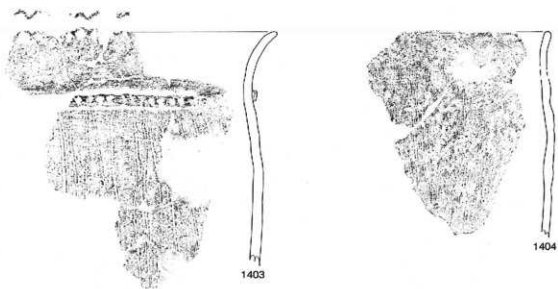
1396



第95圖 出土土器 (51)

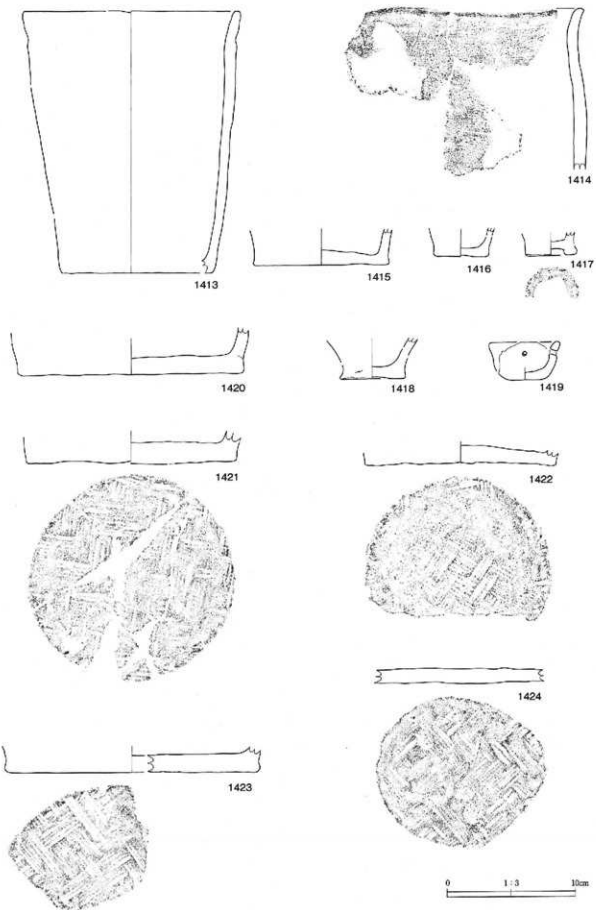


0 1:3 10cm

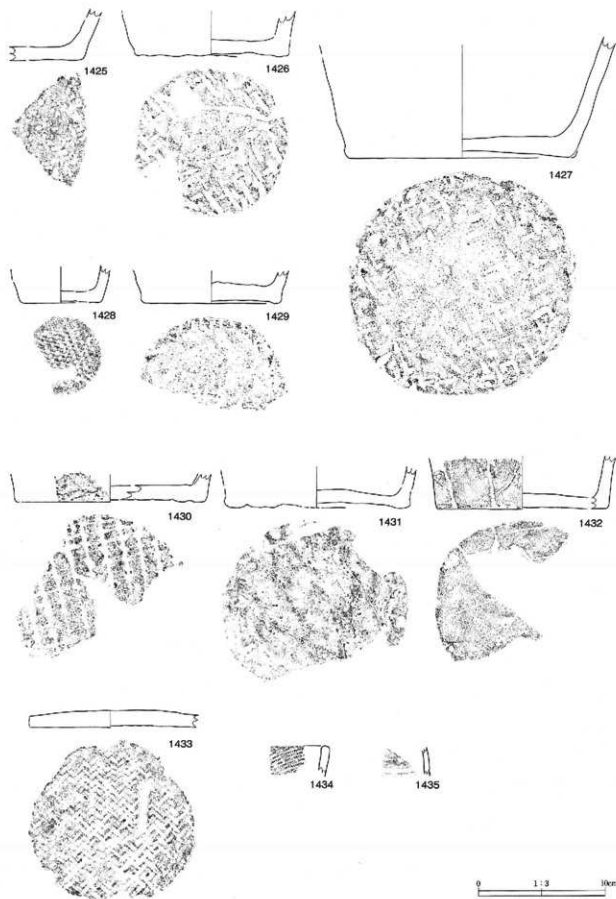


0 1:3 30cm

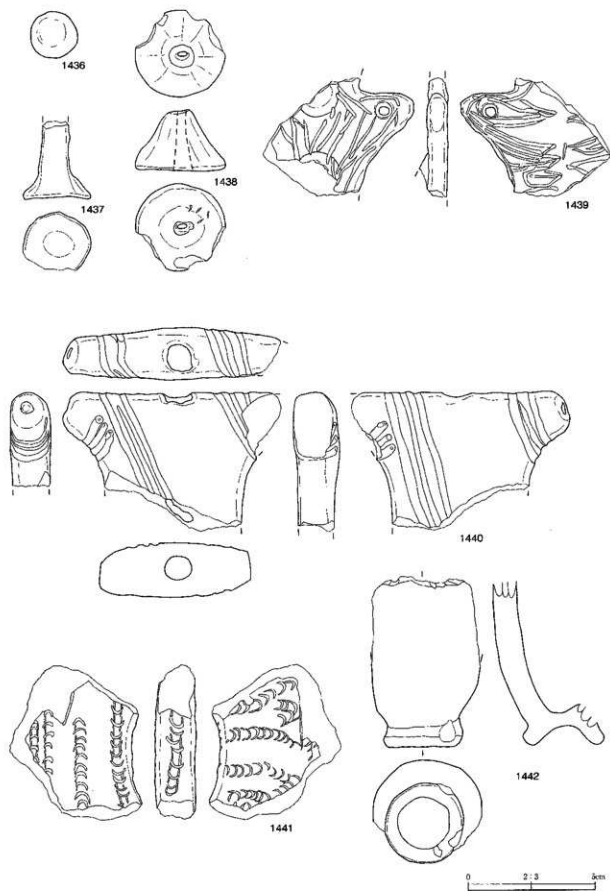
第97図 出土土器 (53)



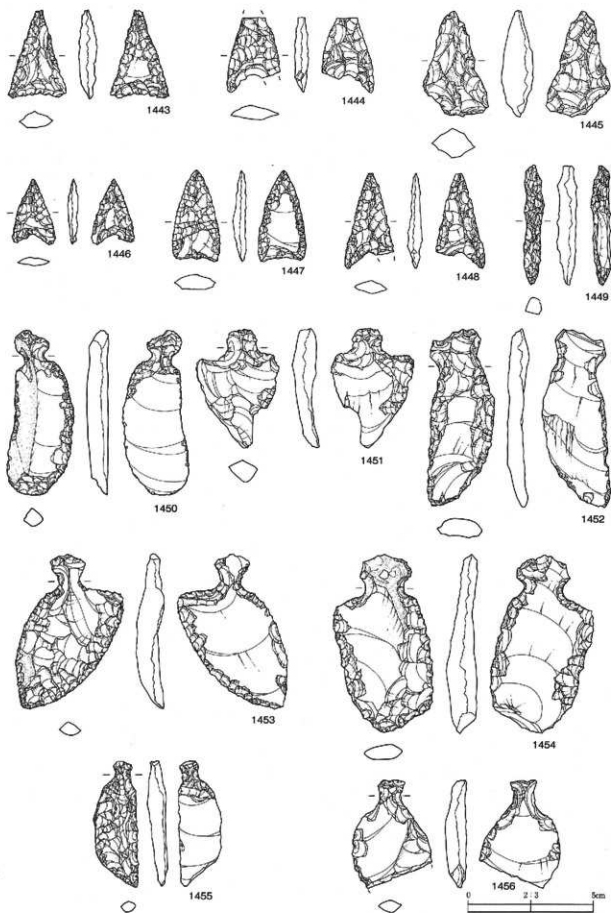
第98圖 出土土器 (54)



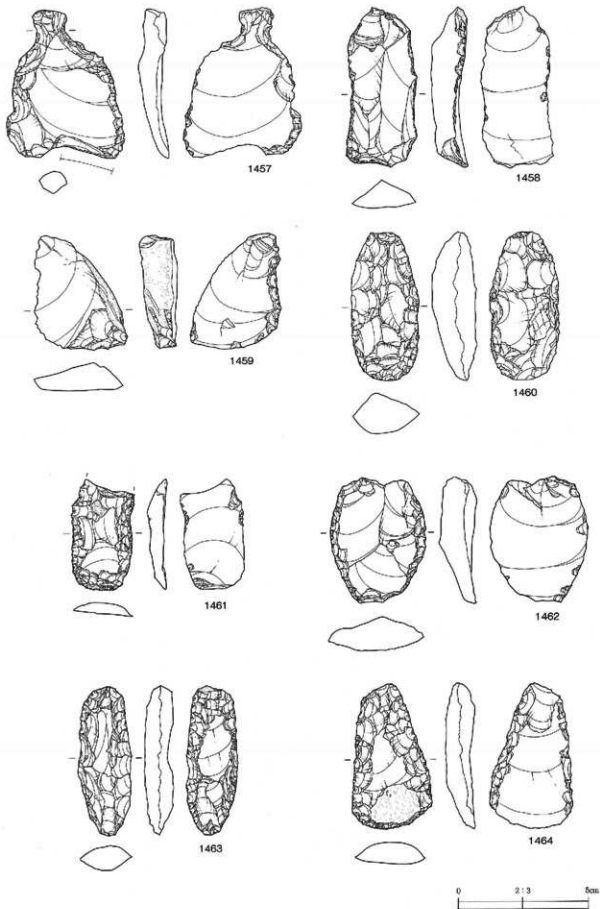
第99圖 出土土器 (55)



第100圖 出土土製品(2)

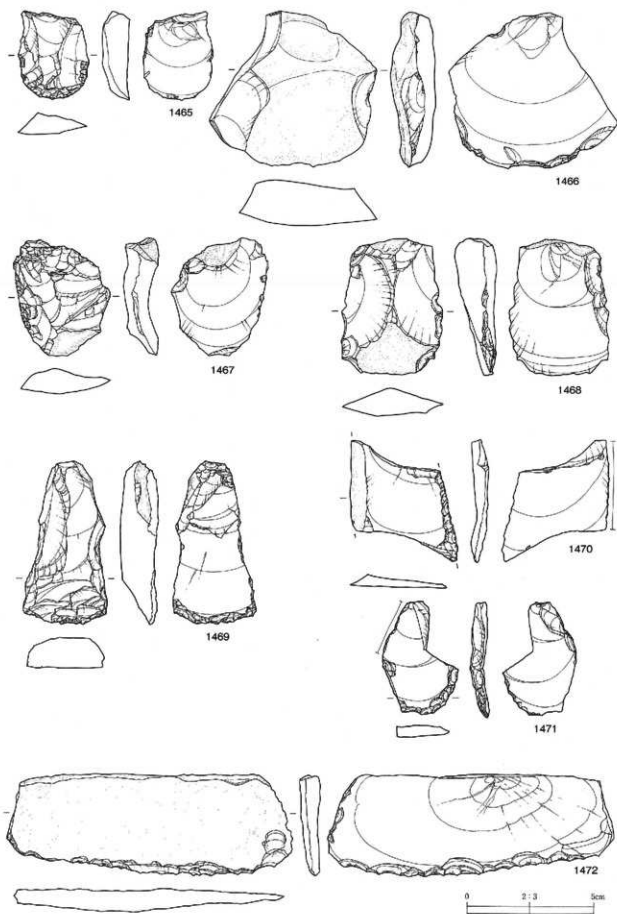


第101図 出土石器(8)

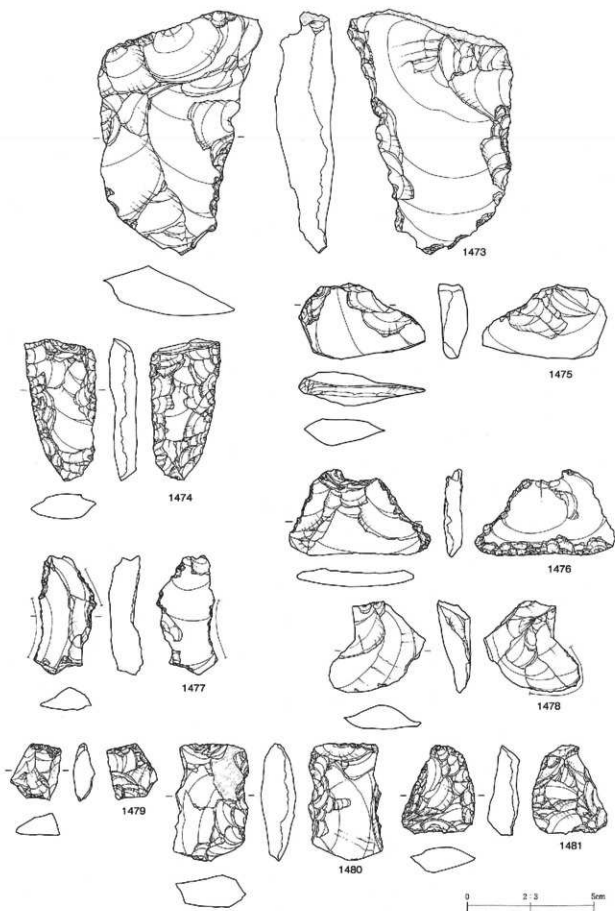


第102図 出土石器(9)

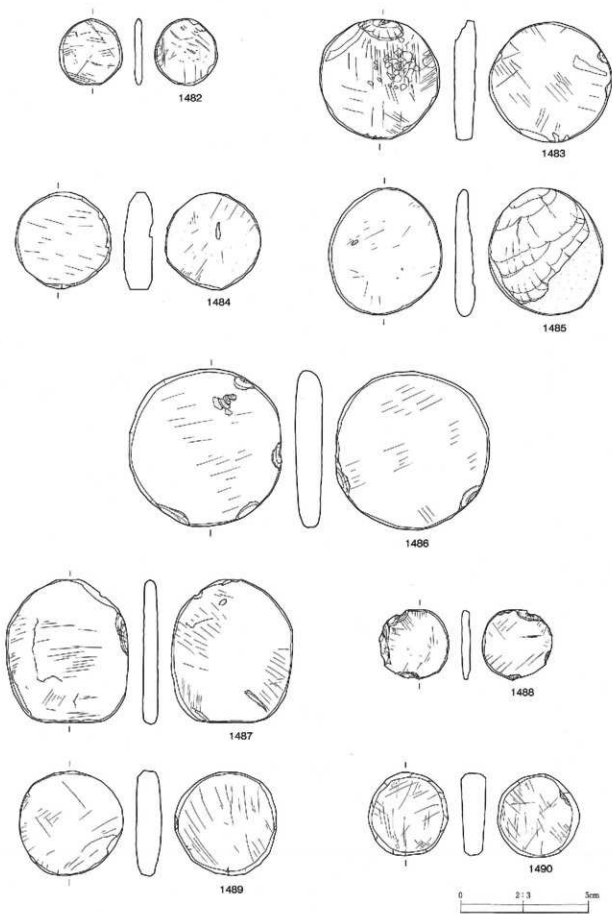




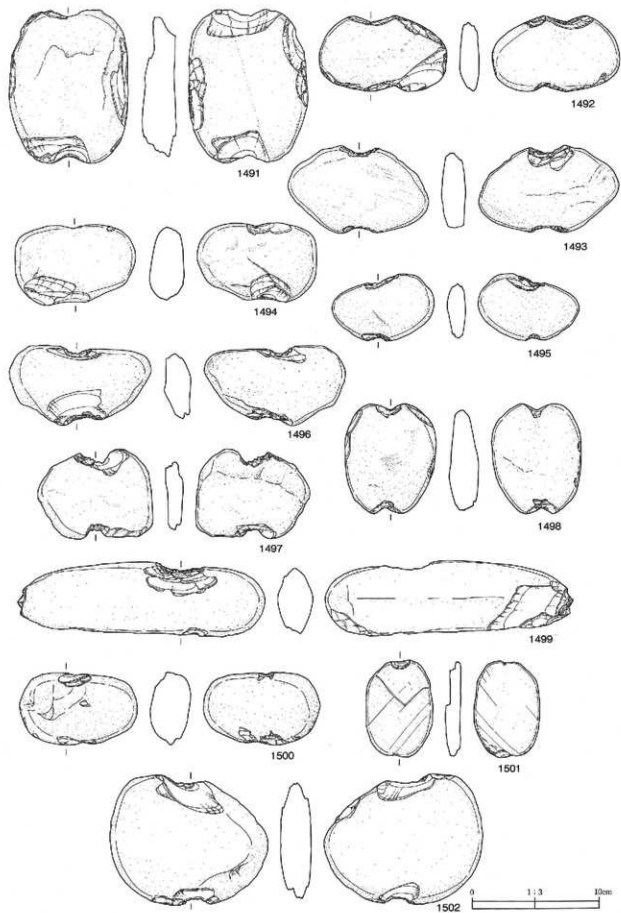
第103図 出土石器 (10)



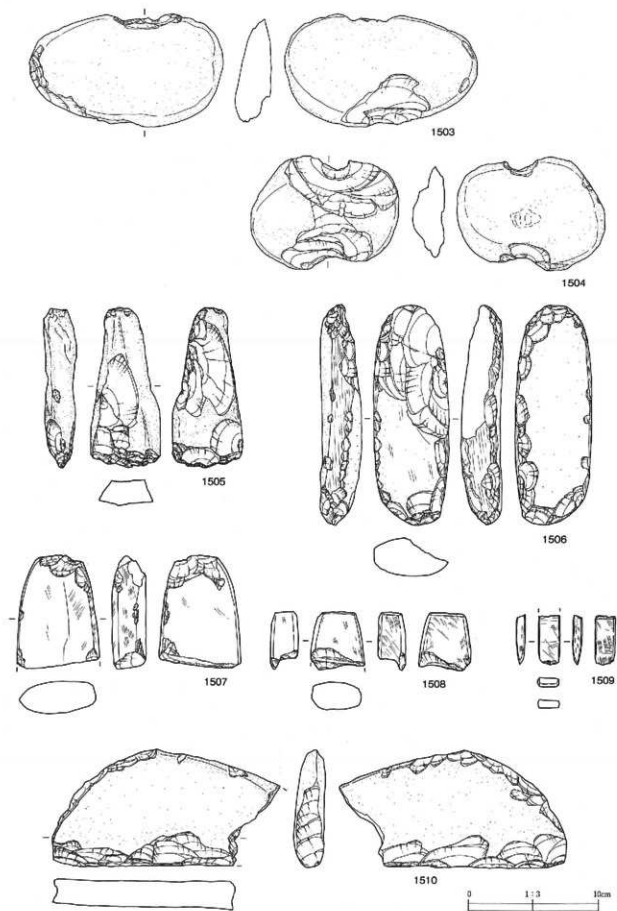
第104図 出土石器 (11)



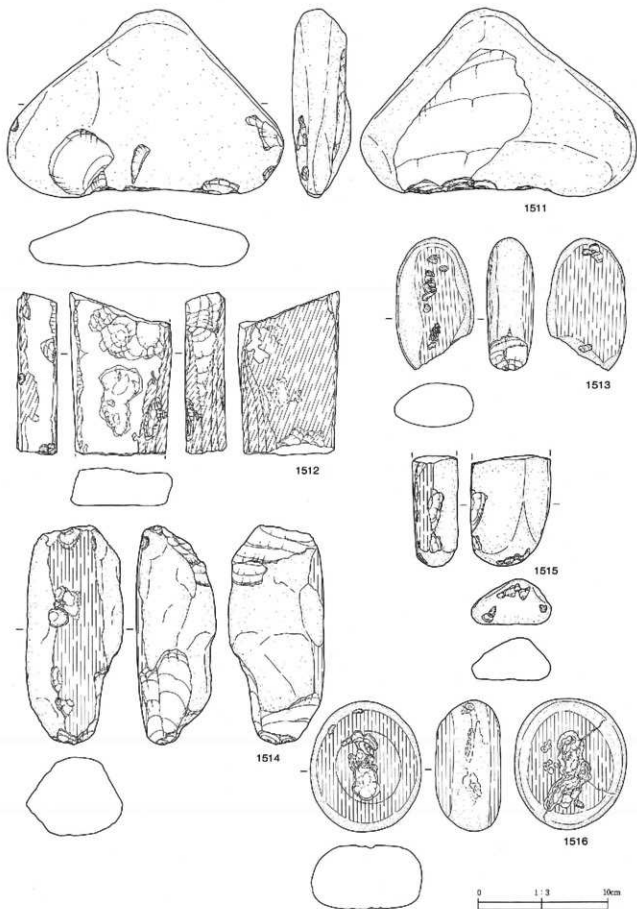
第105図 出土石器 (12)



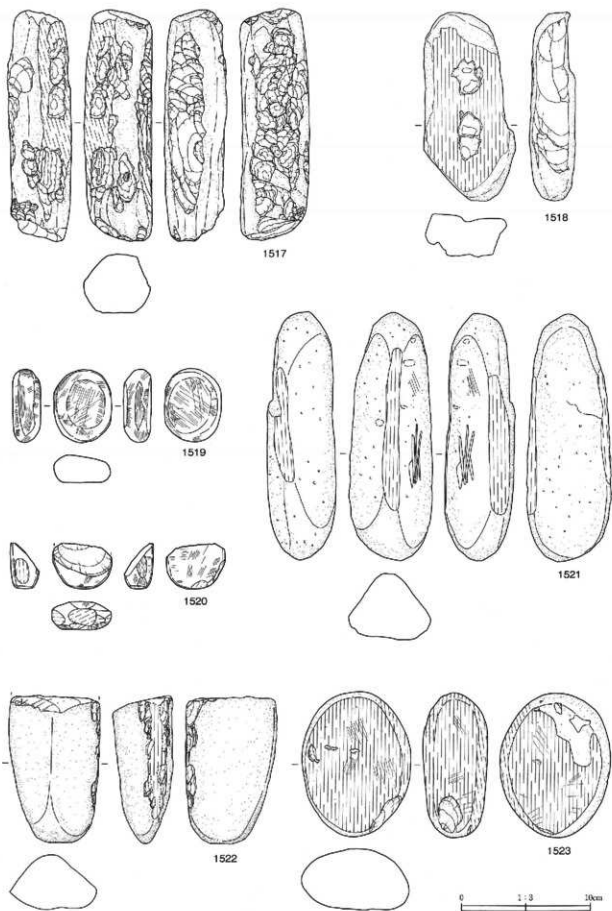
第106図 出土石器 (13)



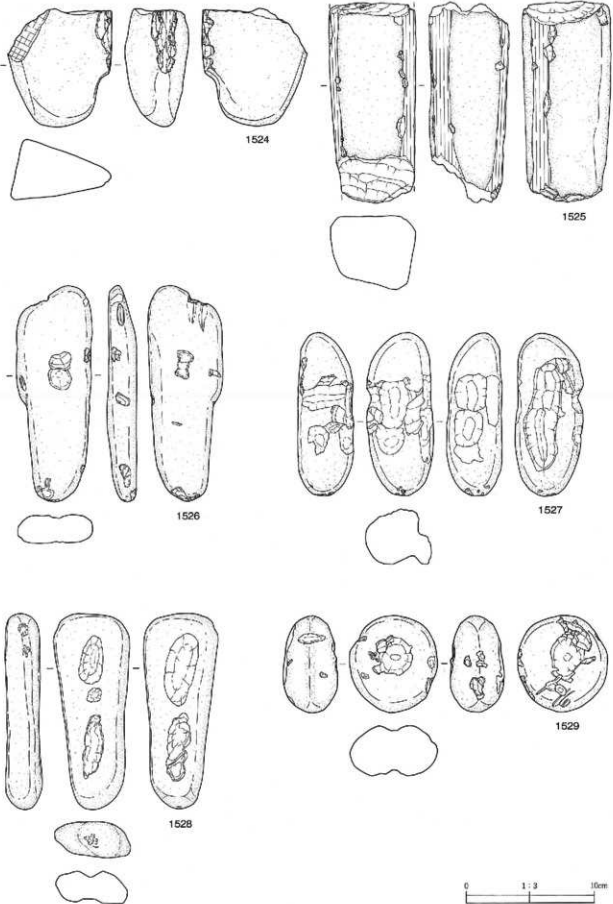
第107圖 出土石器 (14)



第108圖 出土石器 (15)

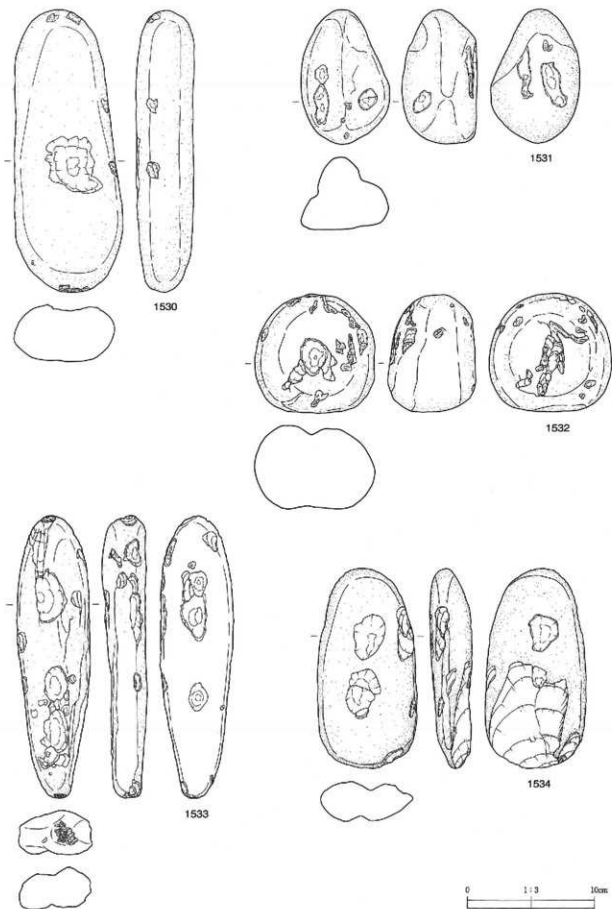


第109圖 出土石器(16)

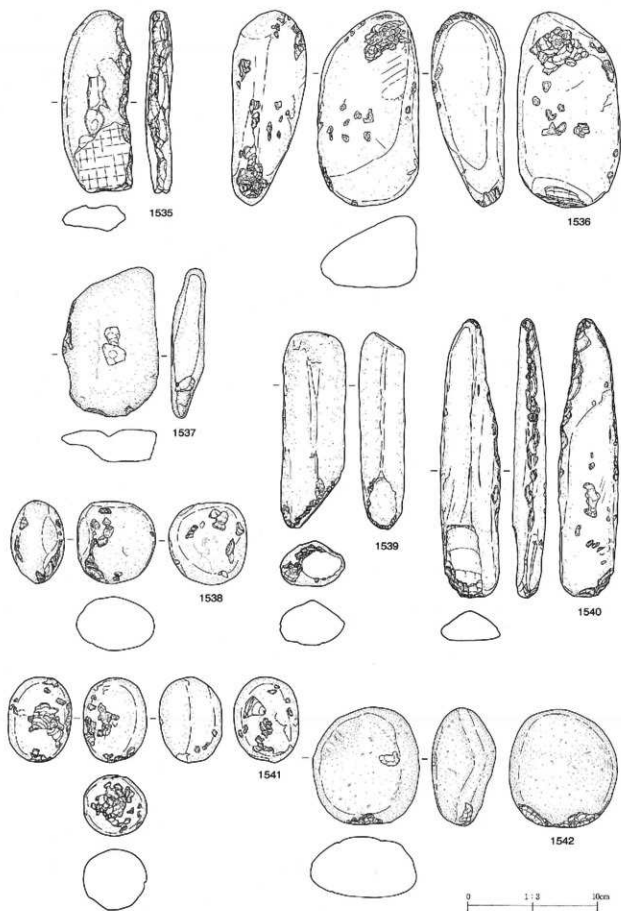


第110圖 出土石器 (17)

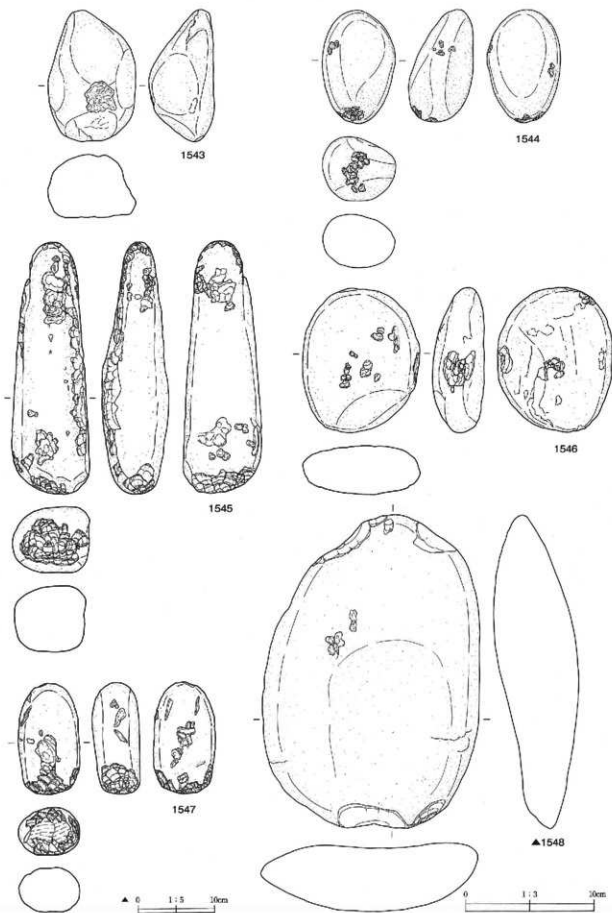




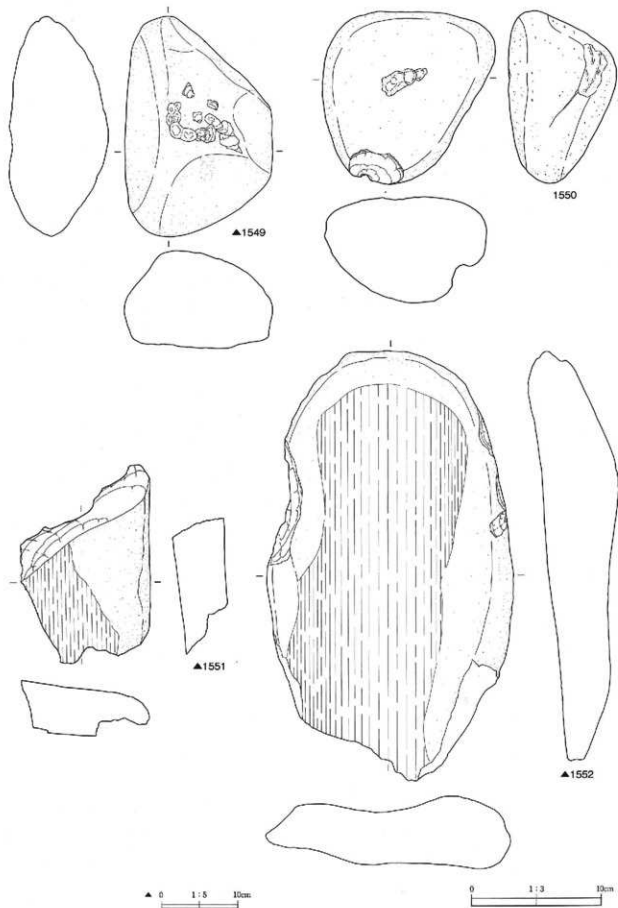
第111圖 出土石器 (18)



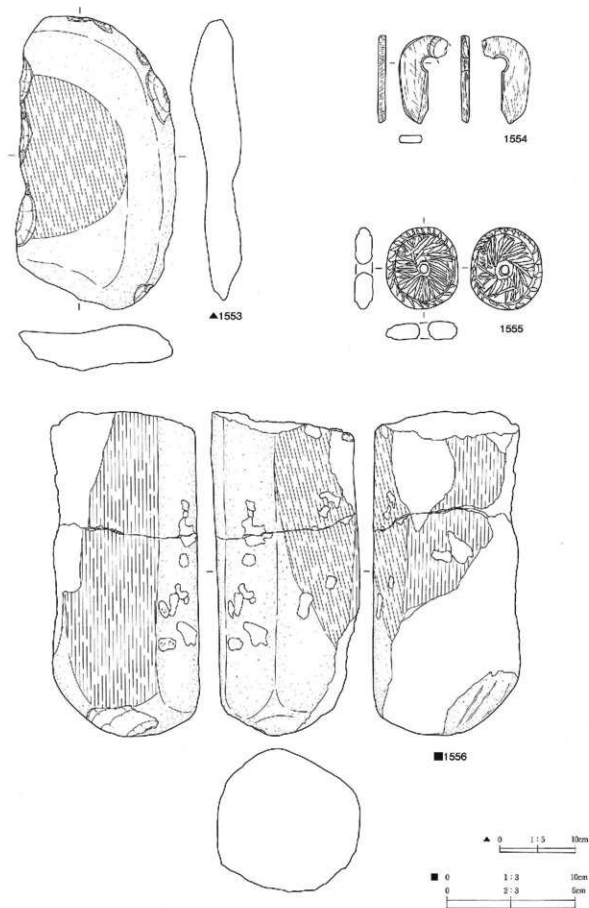
第112圖 出土石器(19)



第113図 出土石器 (20)



第114図 出土石器 (21)



第115図 出土石器 (22)、石製品 (2)



構成	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着跡等	類型	備考
1023	1913	2b-d	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚、沈線区画(半載竹管)、波状沈線3条、口縁刺突		Ⅲ	
1024	1914	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、沈線区画(半載竹管)、波状沈線2条、口縁刺突		Ⅲ	
1025	1893	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚+RLヨコ、沈線、RLヨコ		IV古5	
1026	1916	2c	深鉢	口縁	口縁肥厚+刺突、横位沈線1条		IV古	
1027	181	2	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚、波状沈線(半載竹管)、横位隆帯、頸部に沈線による方形区画文(半載竹管)		IV古	
1028	1873	2d	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚、ボタン状貼付文、横位隆帯、頸部に沈線による方形区画文(半載竹管)		IV古1	
1029	1913	2b-d	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚、波状口縁、ボタン状貼付文、LRタテ	コテ	IV古5	口径18.6cm
1030	1872	3	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+刺突(指頭)、横位隆帯+刺突(横状)、LRタテ、ヨコ		IV古5	
1031	1897	2	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚、丸彫刺突列(指頭)、横位隆帯+刺突(横状)、新日笠帯系文R		IV古3	
1032	1913	2b-d	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+丸彫刺突列(指頭)、横位隆帯+刺突(横状)、新日笠帯系文R		IV古3	
1033	1882	3	深鉢	口縁	波状突起(4単位)、口縁肥厚、頸部に横位隆帯		IV古8	突起部下の貼付文剥離、 口径21.6cm
1034	1852	3	深鉢	口縁~頸部	波状口縁、口縁肥厚、斜長羽状横文LR上、横位隆帯+刺突(横状)		IV古1	
1035	1913-1914	2d-3a	深鉢	口縁~頸部	波状口縁(4単位)、口縁肥厚、斜長羽状横文LR上、横位隆帯+刺突(横状)		IV古1	口径30.6cm
1036	18580	2d	深鉢	頸部~胴部	山形状沈線、波状沈線		IV	
1037	18170	2d	環帯形深鉢	口縁~胴部	波状口縁(4単位)、口縁肥厚+太沈線、LRヨコ・ナナメ		IV中5	口径25.5cm
1038	1882	3	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、口縁肥厚		IV古	
1039	18195	3	深鉢	口縁	口縁肥厚、横位指頭突起、環状貼付文		IV中	
1040	1873	2a上部	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚+太沈線、波状貼付文		IV中5	
1041	1897	2	深鉢	口縁	口縁肥厚+高凸刺突、平行沈線3条		IV中	
1042	18490	2a	深鉢	口縁	口縁肥厚+高凸刺突、平行沈線3条		IV中	胎土がIV中に類似
1043	18871	2d	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚+横位太沈線、LRタテ		IV中	
1044	18161	2a上部	深鉢	口縁	口縁肥厚+横位太沈線、波状沈線(半載竹管)		IV中	胎土がIV中に類似
1045	18193	2d	深鉢	口縁	波状口縁、口縁肥厚+沈線、山形状沈線、環状貼付文		IV中	胎土がIV中に類似
1046	1873	2a上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、口縁肥厚+沈線、横位波状沈線、結束羽状横文LRタテ		IV中1	

1047	1972	深鉢	口縁～頸部	深鉢口縁、口縁肥厚+太沈線1条、胴部無文	IV中8	口径18.6cm
1048	1974	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+横丘系LR2条、結束羽状線L.R.R.L.クワ	IV中1	
1049	18151	深鉢	口縁～胴部	口唇部刺突列、平行刺突列2条、沈線2条、胴部無文	IV中7	
1050	18153	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚、低位太沈線、輪郭Lクワ	IV中1	
1051	18152	深鉢	口縁～底部	深鉢口縁8単位、流線部に嚢状突起、口縁肥厚+爪形刺突、山形沈線(字義竹骨)、低位隆帯+爪形刺突列、輪郭Lクワ	IV中1	口径29.2cm、底径16.0cm、胴高43.2cm、容量17.12ℓ
1052	18151	深鉢	口縁～胴部	口縁部横丘系LR3条、輪郭L.R.クワ	VI	IV中と新土が断続
1053	18193	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+横丘系LR1条+L.R.ヨコ、LRヨコ、横丘系LR3条、低位隆帯+爪形刺突(棒状)	IV中5	
1054	18195-18192	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+横丘系LR2条、結束羽状L.R.L.	IV中1	
1055	18195	深鉢	口縁～胴部	L.R.肥厚、横丘系LR2条、結束羽状L.R.L.	IV中1	
1056	18193	深鉢	口縁～胴部	L.R.肥厚、横丘系LR1条、低位隆帯+横丘系LR1条	IV中8	
1057	18173	深鉢	口縁～頸部	口縁肥厚、横丘系LR3条、沈線	IV中	
1058	18195	深鉢	口縁～胴部	深鉢口縁、流線部無文、口縁肥厚+横丘系LR2条、低位隆帯+刺突列(棒状)、輪郭L.R.クワ	IV中1	
1059	18199	深鉢	口縁	多重沈線(棒状)	IV新	
1060	19114	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重山形沈線、流線沈線(平義竹骨)	IV新	
1061	18180	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+多重山形沈線、流線沈線、頸部平行沈線2条	IV新	
1062	18151	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重流線沈線	IV新	
1063		深鉢	口縁	口縁肥厚+多重流線沈線、平行沈線1条、刺突列	IV新	
1064	18192	深鉢	口縁	流線口縁、太沈線2条、懸糸文L	IV新4	
1065	18193	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重太沈線	IV新	
1066	18151	深鉢	口縁	口唇部突起、多重太沈線	IV新	
1067	18193	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+多重流線太沈線、横丘系LR4条、輪郭Lクワ	IV新1	口径22.8cm
1068	18171	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重流線太沈線	IV新	
1069	1974	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+多重流線太沈線、木口状懸糸文L	IV新2	口径24.4cm
1070	18184	深鉢	胴部～胴部	口縁肥厚+多重流線太沈線、平行沈線文の間に波状沈線文	IV新	口径26.8cm
1071	18194	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚+多重流線太沈線、結束羽状L.R.R.L.クワ	IV新1	
1072	18170	球形形深鉢	口縁～胴部	口縁外面に多重沈線	IV新	東北南部の土器?



掲載	出土地点	層位	形態	残存部位	文様の特徴	付着物等	類型	備考
1073	18194	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重沈線		IV新	
1074	18194	2b	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+多重沈線		IV新	
1075	18451	2a	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重沈線		IV新	
1076			深鉢	口縁	口縁肥厚+多重沈線、波状文		IV新	
1077	18480	2a	深鉢	口縁	口縁肥厚+多位多重沈線、低位刺突列(半截竹管)		IV新1	
1078	1914	2b	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+低位多重沈線、結節Rタテ		IV新1	
1079	18471	2a	深鉢	口縁~頸部	平行沈線、波状沈線(棒状工具)		IV新	
1080	1915	2c	深鉢	口縁~頸部	平行沈線、波状沈線(棒状工具)、低位隆帯+刺突列、結節タテ		IV新1	
1081	18461	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重沈線、刺突列2条(半截竹管)	結節	IV新	
1082	18172	2	深鉢	口縁	口縁肥厚+多重沈線		IV新	
1083	18480	2a	深鉢	口縁	口縁肥厚+刺突列1条、平行沈線、山形沈線(半截竹管)		IV新	
1084	18194	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚+横江形Lナメ、太沈線		IV新	
1085			深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+山形沈線(棒状)、結節タテ	磨耗	IV新1	口径22.5cm
1086	19116	3a	深鉢	口縁	口縁肥厚+刺突列、平行沈線		IV新	
1087	18193	2b	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+山形刺突列、平行沈線間に山形沈線、垂下隆帯、粗末文R		IV新4	
1088	18194	2b	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚+山形刺突列、平行沈線間に山形沈線、垂下隆帯、粗末文R		IV新4	
1089	18171	2a上部	深鉢	口縁	逆縁瓜形文による三角区画?		IV新	東北南部の上器?
1090	18471	2b	深鉢	胴部	逆縁瓜形文による菱形文		IV新	東北南部の土器?
1091	1913	2b	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚+横江形L3条、R1タテ		IV新5	
1092	18194	2b	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚+横江形L4条、結節Rタテ		IV新1	
1093	18193	2a	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚+沈線1条+刺突(半截竹管)、山形沈線(半截竹管)、頸部隆帯+刺突(棒状工具)、粗末羽状編文LR-R1タテ		IV新1	1094と同一器体
1094	18193	2a	深鉢	口縁~胴部	山形沈線(半截竹管)、頸部隆帯+刺突(棒状工具)、LR-R1タテ		IV新1	1093と同一器体
1095	18196	3	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚+沈線、沈線(半截竹管)、結節LR1コ	コケ	IV新1	
1096	18196	3	深鉢	口縁	結節R1コ、補修孔1個		VI1	
1097	19118	2a	深鉢	口縁	口唇部瓜形刺突、結節R1コ		VI1	
1098	18461	2a	深鉢	口縁	結節R1コ		VI1	

1099	18196	3a	深鉢	口縁	結節Rヨコ	W1
1100	1914	3	深鉢	口縁	結節Rヨコ	W1
1101	19129	2-3	深鉢	口縁~胴部	口唇部突起、結節Rヨコ	W1
1102	1912	2b	深鉢	口縁~胴部	口唇肥厚、LRヨコ	IV5
1103	18182	2a	深鉢	口縁~胴部	口唇突起(棒状工具)、山形沈線2条が交差(半成竹管)、頸部横位隆帯+刺突(棒状工具)、竜頭LRタテ	IV1
1104	19114	2b-d	深鉢	口縁~胴部	口唇突起(棒状工具)、沈線3条、結節LRタテ	IV1
1105	18193	2d	深鉢	口縁~胴部	波状口縁頂部に刺突、口縁肥厚?、円形文、横位隆帯+斜位刺突(棒状工具)、竜頭タテ	IV1
1106	18183-18183	2-2d	深鉢	口縁~胴部	口唇肥厚、結節LRタテ	IV1
1107	18192	2d	深鉢	口縁	波状口縁、口唇肥厚、横位隆帯+刺突、結節LRタテ	IV1
1108	1913	3a	深鉢	口縁~胴部	口唇部刺突(棒状工具)、波状沈線3条(半成竹管)、横位隆帯+刺突、結節LRタテ	IV1
1109			深鉢	口縁~胴部	口唇部刺突(棒状工具)、波状沈線2条(半成竹管)、横位隆帯+刺突、胴部中央に空穴1個、竜頭LRタテ	IV1
1110	18173	2d	深鉢	口縁~胴部	口唇部刺突(棒状工具)、波状口縁、横位隆帯+刺突、網目状懸糸文Lタテ	IV3
1111	18194	2d	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、口唇肥厚、ボタン状彫付文、沈線、横位隆帯+刺突、懸糸文タテ(多輪筋条体) 横文?	IV4
1112	18161	2d	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、口唇肥厚+爪形刺突、横位隆帯+刺突、横文?	IV
1113	18161	2d	深鉢	胴部	半行沈線+円形刺突(竹管)	IV
1114	18151	2d	深鉢	胴部	押し沈線	IV
1115	18151	2d	深鉢	口縁~胴部	口唇部突起、沈線(半成竹管)	IV
1116	1912	2b	深鉢	口縁~胴部	沈線(半成竹管)で口縁~胴部に海水文	IV
1117	1915	2b	深鉢	胴部	沈線(半成竹管)	IV
1118	18180	2d	深鉢	胴部	沈線(半成竹管)	IV
1119	18171	2d	深鉢	胴部	沈線(半成竹管)、LRタテ	IV5
1120	18194	2b	深鉢	胴部	L線肥厚部刺突?、補修孔2個、沈線(半成竹管)	IV
1121	18161	2d	深鉢	胴部	沈線(半成竹管)、R?タテ	IV
1122	18171	2b	深鉢	胴部	沈線(半成竹管)	IV
1123	18161	2d	深鉢	胴部	沈線(半成竹管)、懸糸文Rタテ	IV
1124	18194	2b	深鉢	口縁	口唇突起、外面彫刻状文、内面沈線(半成竹管)	IV

編號	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	類型	備考
1125			深鉢	胴部	胴部内面に乳袋、外面薄唐文、内面沈線(半載竹管)で山形文?		IV	新土IV群
1126	18382	2b	深鉢	胴部	胎位隆帯+刺突(棒状工具)、沈線(半載竹管)		IV	新土IV群
1127	1913	3a	深鉢	胴部~胴部	沈線(半載竹管)		IV	
1128	18480	2d	深鉢	口縁	口唇刺突、口縁加厚、口縁内面に渦巻状文、LRヨコ		IV	
1129	18451	2d	深鉢	胴部	刺突列(棒状工具)2条間に沈線(棒状工具)2条、LRタテ?		IV5	新土IV群
1130	18469	2	深鉢	胴部	十字状隆帯の交点にボタン状凸付		IV5	新土IV群
1131	19128	3	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、口縁彫写、Lタテ		IV5	新土IV群
1132	18383・18394・18395	2a・2b・2d	深鉢	口縁~胴部	口縁部文様帯を山形文と平行沈線で2段に区画、2段に区画、胎位隆帯+刺突		V8	口径28.4cm
1133	1944・18194	2b・2d	深鉢	口縁~胴部	口縁部文様帯を山形文と平行沈線で2段に区画、結部LR祀タテ		V1	
1134	18383	2	深鉢	口縁	口縁部文様帯を山形文と平行沈線で2段に区画、胎位隆帯+刺突	口縁部胎斑	V4	
1135	18470	2b	深鉢	胴部~胴部	LR部文様帯を波状文と平行沈線で2段に区画、胎位隆帯+刺突		V5	新土IV群胎斑
1136	不明	不明	深鉢	口縁	波状文		V	
1137	1913	2b	深鉢	口縁~胴部	口縁部文様帯を波状文と平行沈線で2段に区画		V	
1138	1915	2c	深鉢	口縁~胴部	口縁部文様帯を波状文と平行沈線で2段に区画、胎位隆帯+刺突(棒状工具)、結部LRタテ		V1	新土IV群胎斑
1139	18161	2d	深鉢	口縁	口縁部文様帯を波状文と平行沈線で3段に区画、胎位隆帯+刺突(棒状工具)		V	
1140	18161	2b	深鉢	口縁~胴部	口縁部文様帯を波状文と平行沈線で2段に区画、胎位隆帯+刺突(棒状工具)		V	
1141	1915	3	深鉢	口縁	口縁部文様帯を波状文と平行沈線で2段に区画		V	
1142	18193	2d	深鉢	口縁	口縁突起、口縁彫写、波状文(半載竹管)と平行沈線による区画文		V	
1143	18490	2a	深鉢	口縁	波状口縁、沈線(半載竹管)、沈線間に刺突、胎位隆帯+刺突		V	
1144	18195	2c	深鉢	口縁	口唇突起、胎位隆帯+刺突(棒状工具)、凹形刺突		V	
1145	18482	3	深鉢	口縁	胎位隆帯+刺突(棒状工具)		V	
1146	194	2b	深鉢	口縁	口縁部文様帯を山形文と平行沈線で2段に区画、胎位隆帯+刺突(棒状工具)		V	

1147	1803	24	深鉢	口縁	1) 扇状文隆帯と横位平行沈線 3 条間に縦位短沈線で 2 段に区画、横位隆帯+刺突 (棒状工具)	V
1148	1956	3-3a	深鉢	口縁	沈線 (半截竹管)、爪形刺突列 (半截竹管)、横位隆 帯+刺突 (棒状工具)	V
1149	18161	2d	深鉢	口縁	口縁突起、横位隆帯+刺突 (棒状工具)	V
1150	1861	2a	深鉢	口縁	口縁突起、隆帯+L?+刺突 (棒状工具)、沈線	V
1151	18583	2b	深鉢	口縁	口縁内側に隆帯、沈線、隆帯+刺突	V
1152	1853	2b	深鉢	口縁	漆状口縁、LR+横位平行沈線、凹形隆帯+刺突 (棒 状)	V
1153	197	3	深鉢	口縁	横位平行沈線と刺突列で区画	V
1154	1861	2d 上部	深鉢	口縁~胴部	横位平行沈線+凹形刺突、ボクタン状貼付文、横位隆 帯+刺突、転動タテ	V1
1155	不明	不明	深鉢	口縁	口縁突起?、短沈線による区画文、横位隆帯+刺突	V
1156	18461	2d	深鉢	口縁	漆状沈線、平行沈線	V
1157	1978	2d	深鉢	口縁	口縁突起、横位隆帯、刺突列	V
1158	184	1 層	深鉢	突起	口縁突起、横位隆帯+刺突	V
1159	184-61	2a 層	深鉢	突起	口縁突起、隆帯+刺突	V
1160	18174	3 層	深鉢	突起	口縁突起、口唇部沈線、山形文	V
1161	193	2b	深鉢	口縁	押し沈線	V
1162	1861	2d 上部	深鉢	口縁	横位平行沈線、横位短引沈線	V
1163	1894	2b	深鉢	口縁~胴部	横位平行沈線、横位短引沈線、横位隆帯+刺突	V
1164	18171	2d	深鉢	口縁	横位平行沈線、横位刺突列、横位隆帯 2 条+刺突	V
1165	1894	2b	深鉢	口縁	横位平行沈線、横位刺突列 (棒状工具、半截竹管)	V
1166	1892	2d	深鉢	胴部	横位平行沈線+刺突	V
1167	18161	2d	深鉢	口縁	横位平行沈線、横位短引沈線	V
1168	18161	2d	深鉢	胴部	横位平行沈線、横位短引沈線、縦位沈線	V
1169	18180	2d	深鉢	口縁	隆帯+刺突 (棒状工具)	V
1170	不明	不明	深鉢	口縁	短引沈線、押し沈線+刺突	V
1171	194	2b	深鉢	口縁	沈線+刺突	V
1172	192	2b	深鉢	口縁	口唇部沈線、口唇部突起、沈線、凹形文 (半截竹管)、 刺突列	V
1173	1873	2a-2a 上部	深鉢	口縁~胴部	交互貼付文、刺突 (凹形竹管)、横位隆帯+刺突、 転動タテ	V1
1174	18870	2	深鉢	口縁~胴部	口縁隆帯、沈線、沈線に沿う刺突列、横位隆帯+刺 突、転動タテ	V1

掲載	出土地点	層位	器種	高存部位	文様の特徴	付属物等	類型	備考
1175	194	2b	深鉢	口縁	渦巻状隆帯+刺突、川形文、沈線		V	
1176	18180	2a	深鉢	口縁	沈線、刺突、横位隆帯+刺突、細沈線		V	
1177	18151	2a	深鉢	口縁	横位平行沈線、斜位細沈線		V	
1178	18371	2a	深鉢	口縁	口縁部厚、口縁部突起帯を横位山形沈線2条と横位平行沈線で2段に区画、横位隆帯+刺突、縦位隆帯2条+刺突		V	
1179	18461	2b	深鉢	口縁	口縁部削落、横位平行細沈線、斜位細沈線		V	
1180	18483	2a	深鉢	口縁	口縁部厚、沈線(半軟竹管)、縦位沈線		V	
1181	18180	2a	深鉢	口縁~頸部	口縁部厚+LR?、横位押引沈線、縦位隆帯、Lヨコ	外周コケ	V5	年代測定資料
1182	18393	2a	深鉢	口縁~頸部	口縁部厚状突起+刺突、横位隆帯+刺突、結節LR、結末切取LR-RL		V1	
1183	18393	2a	深鉢	口縁~頸部	沈線L線4単位、前部突起+隆帯+刺突、斜位、横位隆帯+刺突(棒状工具)、結末切取LR-LR		V1	口縁19.8cm
1184	193	2b	深鉢	口縁~頸部	口縁部厚、沈線区画文(半軟竹管)、横位隆帯+刺突、結末LRタテ、結末切取LR-LR		V1	
1185	18380	2a	深鉢	口縁	口縁部厚+刺突、細沈線、横位隆帯+刺突		V	
1186	18392	2b	深鉢	頸部	斜位細沈線、結節LR		V1	
1187	18470	2b	深鉢	口縁	口縁部厚削落?、細沈線(半軟竹管)による区画文、横位隆帯削落?		V	
1188	19115	2a	深鉢	口縁~頸部	横位、横位沈線(半軟竹管)、縦位隆帯+刺突、横位隆帯+沈線		V	
1189	18394	2b	深鉢	口縁	細沈線(半軟竹管)+円形突起(棒状工具)		V	
1190	18174	3	深鉢	口縁	口縁部厚、口縁部突起+刺突、縦位細沈線(半軟竹管)、横位貼付文		V	
1191	18451	2	深鉢	口縁~頸部	口縁部厚+刺突、斜位細沈線、垂伏貼付文、横位隆帯、和加厚ヨコ		V1	
1192	18382	3	深鉢	口縁	口縁部厚、付加隅文LR		V5	動土V群
1193	18461	2b	深鉢	口縁	口縁部厚、LRタテ、ヨコ、隆帯、刺突		V	
1194	18382	3	深鉢	口縁	横位+横位細沈線、三角形刺突		V	
1195	18171	3	深鉢	口縁	L線部厚+横位細沈線、LRヨコ		V	
1196	18383	2b	深鉢	口縁~頸部	L線部厚状口縁、横切取、円形貼付文+横切取、結節タテ		V	口縁上部a式上器
1197	18383	2b	深鉢	口縁	4単位波状口縁、横切取後、縦位隆帯+横切取		V	口縁上部a式上器
1198	18161	2a上層	深鉢	口縁	口縁突起、沈線、波状沈線、LRタテ、横位隆帯		V5	V群新段階

1199	18182	2b	深鉢	口縁	口縁突起、沈堀、渦巻状隆帯、LRヨコ	V5	V新形段帯
1200	18171	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、渦状隆帯+刺突、LRヨコ	V5	V新形段帯
1201	1914	2d	深鉢	口縁	口縁突起、刺突列(棒状工具)、貼付文+刺突(棒状工具)	V	V新形段帯
1202	18182	2b	深鉢	口縁	流状隆帯、LRヨコ	V5	V新形段帯
1203	18183	2b	深鉢	口縁	横位・縦位隆帯、RLタテ	V5	V新形段帯
1204	18183	2・2d	深鉢	胴部	沈堀、刺突、LRヨコ	V5	V新形段帯
1205	18171	2b	深鉢	口縁	沈堀(牛首着付)、横位・縦位隆帯+刺突	V	V新形段帯
1206	18182	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、瘤状貼付文、LR	V	V新形段帯
1207	18171	2b	深鉢	胴部	隆帯、LR	V5	V新形段帯
1208	181100	2	深鉢	口縁	口縁突起、内側渦巻状文・隆帯、押引沈堀、縦位隆帯?	V5	V新形段帯
1209	18180	3	深鉢	口縁	口縁肥厚、縦位水隆帯、LRタテ・ヨコ	V5	V新形段帯
1210	18180	2a	深鉢	口縁~胴部	横位平行沈堀、粘附タテ	V1	V新形段帯
1211	18183	2d	深鉢	口縁	縦位隆帯、爪形刺突	V1	V新形段帯
1212	18180	2d	深鉢	口縁	横位沈堀、横位隆帯	V5	V新形段帯
1213	18182	2a	深鉢	口縁	口縁部突起、縦位隆帯、刺突	V1	V新形段帯
1214	19112	2b	深鉢	口縁	口縁内面渦巻状隆帯、波状口縁、口縁肥厚、縦位隆帯+刺突、LRヨコ	V1	V新形段帯
1215	18182	2b	深鉢	口縁	口縁外面渦巻状隆帯、波状口縁、口縁肥厚、縦位隆帯+刺突、Lタテ・ヨコ	V5	V新形段帯
1216	18183	2d	深鉢	口縁~胴部	口縁突起、口縁肥厚、縦位隆帯+横位隆帯、LRヨコ	V5	V新形段帯
1217	18183	2	深鉢	口縁	口縁肥厚、波状隆帯、LRヨコ	V5	V新形段帯
1218	1917	2a	深鉢	胴部	隆帯、横位隆帯+刺突、LRヨコ	V5	V新形段帯
1219	19178	2d	深鉢	口縁	Y字状縦位隆帯、横位隆帯+刺突、LR?	V5	V新形段帯
1220	19160	2d	深鉢	胴部	横位隆帯、Lタテ、LRヨコ	V5	V新形段帯
1221	18183	2d	深鉢	口縁	Y字状縦位隆帯+LRタテ、LRヨコ	V5	V新形段帯
1222	18182	2d	深鉢	口縁	環状隆帯+縦位隆帯+LR?、LRヨコ	V5	V新形段帯
1223	18171	2d	深鉢	胴部	隆帯	V1	V新形段帯
1224	1915	2c	深鉢	口縁	口縁肥厚、押引刺突列、波状横位隆帯、環状隆帯、LRヨコ	V5	V新形段帯
1225	18183	2b	深鉢	口縁	口縁突起、隆帯、横位隆帯	V5	V新形段帯
1226	18180	2a	深鉢	口縁	口縁肥厚、縦位隆帯+LRタテ・LRヨコ	V5	V新形段帯
1227	18183	2d	深鉢	口縁	口縁肥厚、斜位隆帯、LRヨコ	V5	V新形段帯

掲載	出土地点	層位	層位	現存部位	文様の特徴	仔券番号	類型	備考
1228	18H71	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、鼻輪隆帯		V7	
1229	18I94	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、隆帯、LRヨコ		V15	
1230	18I83	2b	深鉢	口縁	横位隆帯+LRヨコ、押引沈線(半截竹管)、爪形刺突列、LRヨコ		V15	
1231	18I83	2	深鉢	口縁	口縁肥厚、隆帯、LRヨコ		V15	
1232	18I83	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、Y字状隆帯、LRヨコ		V15	
1233	1913	2b	深鉢	口縁	高帯状隆帯、横位隆帯+刺突、LRヨコ		V15	
1234	1914	2b	深鉢	口縁~頸部	口縁肥厚、高帯状隆帯、横位隆帯+峰突、LRヨコ		V15	
1235	1913	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、斜位隆帯、LRヨコ		V15	
1236	18I83	2	深鉢	口縁	口縁肥厚、横位隆帯、X字状隆帯	外面スス	V1	
1237	18H80	2d	深鉢	口縁	LRタテ		V15	
1238	1916	2c	深鉢	口縁	口縁肥厚、隆帯、結節タテ		V1	
1239	18H76	2a	深鉢	口縁	隆帯、RLヨコ		V15	
1240	18I72	3	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚、横位隆帯、LRタテ		V15	
1241	1913	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚+LRヨコ、横位平行沈線、山形状北縁		V1	
1242	18I93	2d	深鉢	胴部	横位隆帯+刺突		V1	
1243	18I85	2a	深鉢	口縁	口縁肥厚、沈線(半截竹管)		V7	
1244	18I96	3a	深鉢	口縁	隆帯、爪形刺突列、押引沈線(半截竹管)、LRヨコ		V15	
1245	18I93	2b	深鉢	口縁	太沈線、刺突列、押引沈線(半截竹管)、LRヨコ		V15	
1246	18I83	2b	深鉢	口縁	爪形刺突列、押引沈線(半截竹管)、Lヨコ		V15	
1247	18H61	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚+LRヨコ、LRヨコ		V15	
1248	18I82	3	深鉢	口縁	口縁肥厚、LRヨコ		V15	
1249	18I94	2b	深鉢	口縁	口縁肥厚、垂状野付文、LRヨコ		V15	
1250	1914	3	深鉢	口縁	結節LRヨコ		V1	
1251	18I95	2c	深鉢	口縁~頸部	横位隆帯+刺突(棒状工具)、結節ヨコ		V1	
1252	18H61	2d	深鉢	口縁~頸部	横位隆帯+刺突(棒状工具)、結節LRタテ		V1	
1253	18I61	2d上部	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+刺突(棒状工具)、結節LRタテ		V1	
1254	18H80	2d	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+押引刺突列(半截竹管)、船形状LRタテ		V1	口縁30.7cm
1255	19117	3	深鉢	口縁	船形刺突		V1	
1256	18E58・18I61	2-2d	深鉢	口縁~胴部	結束羽状LRタテ		V1	口縁22.2cm

1257	18182	2b	深鉢	口縁～胴部	内面新細北瀬、結節Lタテ		W1
1258	18192	2d	深鉢	口縁～胴部	結葉型瓦R.Lタテ		W1
1259	18183・18183	2b・2d	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1260	18181	2d	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1261	18151	2d	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1262	18161	2d	深鉢	口縁	結節L.Tタテ		W1
1263	18171	2d上・部	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1264	18183	2d	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1265	18172	2a	深鉢	口縁～胴部	口唇部突起、結節L.Tタテ		W1
1266	1915・1914	2b・2d	深鉢	口縁～胴部	流注口縁、結節L.Tタテ		W1
1267	1913	3a	深鉢	口縁～底部	流注口縁、結節L.Tタテ		W1
1268	18180	2d	深鉢	口縁～胴部	口唇部刺突、縦圧痕L.R、結節L.R.Tタテ		W1
1269	18180	2d	深鉢	胴部	結節L.Tタテ		W1
1270	18170	3a	深鉢	口縁～胴部	口唇部刺突、結節L.Tタテ		W1
1271	18180	2d	深鉢	口縁～胴部	口唇部刺突、結節L.Tタテ		W1
1272	18182	3	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1273	1811		深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1274	1811		深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1275	18195	3a	深鉢	口縁～胴部	口唇部刺突、結節L.Tタテ		W1
1276	18180	2d	深鉢	口縁～胴部	口唇部刺突、結節L.Tタテ		W1
1277	18170	2d	深鉢	口縁～胴部	流注口縁、横位隆帯+刺突(棒状)、結節L		W1
1278	18184	2b	深鉢	口縁～胴部	流注口縁、結節L.Tタテ		W1
1279	1917	3	深鉢	口縁～胴部	結節L.Tタテ		W1
1280	18180	不明	深鉢	口縁	口唇部刺突、縦圧痕L、結節L.Tタテ		W1
1281	18195	2	深鉢	底部	結節L.Tタテ		W1
1282	18180	2a	深鉢	口縁～胴部	環状隆付文、横位隆帯+刺突(棒状工具)、結節L.R		W1
1283	18193	2b	深鉢	胴部～底部	結節L.R		W1
1284	18192	2d	深鉢	胴部～底部	結節L.Tタテ		W1
1285	1914	2b	深鉢	胴部～底部	結節L.Tタテ		W1
1286	18183	2d	深鉢	底部	結節L.Tタテ		W1
1287	18193	2d	深鉢	胴部～底部	結節L.Tタテ		W1
					竹柄・コブ		
							底径19.0cm
							底径17.0cm
							底径10.6cm
							底径15.8cm
							底径15.4cm
							底径14.4cm



掲載	出土地点	層位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	型式	備考
1288	18180	2a-2b-2d	深鉢	底部	結節タテ、底面割代痕	磨耗	W1	底径10.8cm
1289	18161	2d上層	深鉢	胴部～底部	結節LRタテ、底面無文	磨耗	W1	底径18.4cm
1290	1916	2c	深鉢	底部	結節LRタテ、底面割代痕		W1	底径13.8cm
1291	18180	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1292	18H51	2d	深鉢	口縁～胴部	流状口縁、木目状懸糸文		W2	
1293	18H51	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1294	19131	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文・R		W2	
1295	18177	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1296	1914	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1297	18H70	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1298	18193	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1299	197・18184	3	深鉢	口縁～底部	木目状懸糸文	ススコテ	W2	口径18.8cm、底径10.0cm、 器高28.2cm、容量5.65ℓ
1300	19117	2b-d	深鉢	口縁	木目状懸糸文		W2	
1301	1916	3-3a	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	口径13.5cm
1302	18195	3a	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1303	18173	2	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突(棒状)、木目状懸糸文		W2	
1304	1915	2d	深鉢	口縁～胴部	木目状懸糸文		W2	
1305	18173	2d	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突(棒状)、木目状懸糸文		W2	
1306	18180	2	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突(棒状)、木目状懸糸文		W2	
1307	1917	3	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突、木目状懸糸文		W2	
1308	18183	2b	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突、木目状懸糸文		W2	
1309	18H70	3a	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突、木目状懸糸文	スス	W2	
1310	181		深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突、木目状懸糸文		W2	
1311	18H70・不明	2d	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突、木目状懸糸文		W2	
1312	18173	2d	深鉢	胴部～底部	口縁部隆帯、横位隆帯+刺突、木目状懸糸文		W2	口径31.0cm
1313	18198	2a	深鉢	口縁	木目状懸糸文		W2	器高17.2cm
1314	1917	3	深鉢	胴部～底部	木目状懸糸文	コケ	W2	底径12.4cm
1315	18194	2b	深鉢	胴部	木目状懸糸文		W2	底径12.4cm
1316	18183・1912	2-2b	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突		W2	口径24.2cm
1317	1919・18H70	2	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突		W3	口径15.8cm

1318	18H61	2d	深鉢	口緣~胴部	網目状燃糸文L		W3	口径24.4cm
1319	18Y95	2d	深鉢	口緣~胴部	網目状燃糸文L?		W3	
1320	1918	3a	深鉢	口緣~胴部	網目状燃糸文R		W3	口径21.5cm
1321	18Y01	2a	深鉢	口緣~胴部	網目状燃糸文R		W3	1323と同一體?
1322	18H		深鉢	口緣~胴部	口唇部波状、網目状燃糸文L		W3	
1323	18Y73	2d	深鉢	口緣~胴部	網目状燃糸文R		W3	
1324	1919	2-3	深鉢	口緣~底部	口唇部刺突、網目状燃糸文R		W3	口径24.0cm、底径13.0cm、 器高43.8cm、容量11.67ℓ
1325	18H80	2d	深鉢	口緣~胴部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文L		W3	
1326	18Y70	2d	深鉢	口緣~胴部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文R		W3	
1327	18H61	2d	深鉢	口緣~胴部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文R		W3	
1328	18Y82	3	深鉢	口緣~胴部	波状口縁、横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文R		W3	
1329	18Y95	2c	深鉢	口縁	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文R		W3	
1330	18Y80	2d	深鉢	口縁	波状口縁、横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文R		W3	
1331	18H51	2d	深鉢	胴部~底部	網目状燃糸文L		W3	底径15.0cm
1332	18Y93	2d	深鉢	口縁~底部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文RL、R		W3	口径37.5cm、底径16.8cm、 器高64.6cm、容量64.67ℓ
1333	18Y84	2b	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文L		W3	
1334	18Y51・18H61	2d	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文L		W3	
1335	1916	2c	深鉢	胴部~底部	網目状燃糸文L		W3	底径11.8cm
1336	18Y73	2d	深鉢	口縁~胴部	網目状燃糸文R		W3	
1337	18Y98	2b	深鉢	口縁~胴部	口唇部刺突、横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文L L?、單輪結帯体3項 3類		W3	
1338	1940	2d	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+刺突(横)、網目状燃糸文R(平輪結帯体 3類)		W3	
1339	18Y72	3	深鉢	口縁	横位隆帯2条+刺突(横)、燃糸文R		W4	
1340	18Y77	2d	深鉢	口縁~胴部	燃糸文L		W4	
1341	19116	3a	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+刺突(横)、燃糸文L		W4	
1342	18Y61	2d	深鉢	口縁~胴部	燃糸文R		W4	
1343	18Y72	2	深鉢	口縁	口唇部刺突、横位隆帯+刺突(横)、燃糸文		W4	
1344	18Y83	2b	深鉢	口縁~胴部	燃糸文R		W4	
1345	18Y83	2b-3	深鉢	口縁~胴部	燃糸文R		W4	
1346	18Y84	2b	深鉢	口縁~胴部	横位隆帯+刺突(横)、燃糸文L		W4	

和名	出土地点	單位	器種	残存部位	文様の特徴	付着物等	型式	備考
1347	198	3a	深鉢	口縁~胴部	口唇割突、熱糸文?		W4	口径17.2cm
1348	18197	2b	深鉢	口縁~胴部	縄庄痕		W6	
1349	198	3a	深鉢	口縁	波状山線、熱糸文		W4	
1350	18H51・18H61	2d	深鉢	胴部~底部	熱糸文R、底面割代痕		W4	
1351	18183	2・2d	深鉢	胴部~底部	熱糸文R、底面無文		W4	底径13.6cm
1352	198	3a	深鉢	底部	熱糸文R、底面無文		W4	底径14.6cm
1353	18H80	2d	深鉢	底部	熱糸文R、底面割代痕	内面コケ	W4	底径10.8cm
1354	不明	不明	深鉢	底部	熱糸文L?、底面割代痕	内面コケ	W4	底径10.0cm
1355	1918	2b・d	深鉢	底部	熱糸文L、底面割代痕		W4	底径10.6cm
1356	18195	2d	深鉢	胴部~底部	熱糸文L、底面割代痕		W4	底径9.6cm
1357	18173	2a上部	深鉢	底部	熱糸文L、底面割代痕		W4	底径5.4cm
1358	18171	2b	深鉢	口縁~胴部	熱糸文、底面割代痕		W5	
1359	18183	2	深鉢	口縁	割突RLヨコ		W1	
1360	1913	2b	深鉢	山線	横位隆帯、垂下隆帯、LRヨコ		V新5	
1361	18180	2d	深鉢	口縁~胴部	隆帯+割突	磨耗	W	
1362	18182	3	深鉢	口縁~胴部	RLヨコ	内面コケ	W5	
1363	18H90・18199	2・3	深鉢	口縁~底部	LYヨコ	ススコケ	W5	口径28.0cm、底径10.6cm、 高さ32.8cm、容量11.49ℓ
1364	18183	2・2d	深鉢	口縁~底部	Lタテ	コケ	W5	口径13.5cm、底径6.4cm、 高さ18.0cm、容量1.10ℓ
1365	18184	3	深鉢	口縁~胴部	LRタテ		W5	口径19.2cm
1366	18195	2c	深鉢	口縁~胴部	口縁肥厚、弧状筋付文割落?、LRヨコ		W5	口径26.3cm
1367	19137	2d	深鉢	口縁~胴部	口唇割突(唇)、LKヨコ	磨耗	W5	
1368	1918	2b	深鉢	口縁~胴部	口唇部波状、LRタテ		W5	
1369	18182・18192	2d	深鉢	胴部~底部	RLナメ	コケ	W5	底径10.6cm
1370	1916	3・3a	深鉢	底部			W8	底径6.0cm
1371	18H61	2d	深鉢	底部			W8	底径6.0cm
1372	1917	2d	深鉢	底部			W5	底径15.0cm
1373			深鉢	胴部~底部	熱糸文L		W4	底径17.6cm
1374	1918	3a	深鉢	胴部~底部	オオバコ割代痕		W6	底径11.0cm
1375	18182	2d	深鉢	胴部~底部	オオバコ割代痕		W6	

1376	18152	3a	深鉢	口縁	丸タテ		W5
1377	18156	2a	深鉢	口縁～胴部	口唇部突起、LRヨコ		W5
1378	18152	2d	深鉢	口縁～胴部	口唇部突起(指?)、LRタテ		W5
1379	18190	2b	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚、横位隆帯+刺突(棒)、LRタテ		W5
1380	18151	2d	深鉢	口縁	4単位波状口縁、口唇部突起(棒)、RLヨコ	口径27.4cm	W5
1381	1914	3	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突(棒)、LRオナメ		W5
1382	18153	2d	深鉢	胴部～底部	LRヨコ・オナメ		W5
1383	18153	3	深鉢	胴部～底部	LRヨコ、底面無文		W5
1384	18174	2a	深鉢	胴部～底部	LRヨコ、底面無文		W5
1385	18190	2b	深鉢	胴部～底部	Rナメ、底面細代痕		W5
1386	18193-1913	2b-2d	深鉢	胴部～底部	LRタテ、底面無文		W5
1387	19127	3	深鉢	底部	R?、高面本葉痕		W5
1388	18170	2d	深鉢	胴部～底部	LRタテ、底面無文		W5
1389	18151	2d	深鉢	底部	LRヨコ、底面無文		W5
1390	18151	2d	深鉢	胴部～底部	LRタテ、底面細代痕		W5
1391	1817		深鉢	口縁～胴部	波状口縁、口縁肥厚、オオバコ同脈文		W5
1392	18183	2b	深鉢	胴部	オオバコ同脈文		W6
1393	18163	2d	深鉢	口縁～胴部	口縁肥厚、オオバコ同脈文		W6
1394	1915	2c-2d-3-3a	深鉢	口縁～胴部	オオバコ同脈文		W6
1395	18182	2d	深鉢	口縁～胴部	口唇部突起、波状口縁、オオバコ同脈文		W6
1396	18172	3	深鉢	口縁～胴部	横位隆帯+刺突(棒)、オオバコ同脈文		W6
1397	18182	3	深鉢	口縁～胴部	波状口縁、半波竹管、薄伏文?		W6
1398	18151-18197	2-2d	深鉢	口縁～胴部	沈線(棒状・半波竹管)		W6
1399	18153	2d	深鉢	口縁～胴部	沈線(細波状)		W6
1400	18172-18182	2a-3	深鉢	口縁～胴部	沈線(細波状)		W6
1401	18182	2b	深鉢	口縁～胴部	沈線(半波竹管)		W6
1402	18183	2b	深鉢	口縁～胴部	沈線(細波状)		W6
1403	18187	2b-3	深鉢	口縁～胴部	口唇部突起、沈線(薄筒状)、横位隆帯+刺突(棒)		W7
1404	18151	2d	深鉢	口縁～胴部	沈線(薄筒状)		W7
1405	18153	2d	深鉢	口縁	沈線文? 爪形突起列		W4
1406	18182	3	深鉢	口縁～胴部	沈線(薄筒状)		W6

掲載	出土地点	層位	附随	残存部位	文様の特徴	付着物等	器型	備考
1407	18451	2a	深鉢	口縁~胴部	沈線(衝刺状)		Ⅷ	
1408	18483	2b	深鉢	胴部~底部	沈線(衝刺状)		Ⅷ	底径13.4cm
1409	18494	2b	深鉢	口縁~胴部	無文		Ⅷ8	
1410	18473	2a・2a1部	深鉢	口縁	波状口縁、傾位帯+刺突(輪)、無文		Ⅷ8	
1411	1906	2d	深鉢	口縁~胴部	無文		Ⅷ8	
1412	18461	2a	深鉢	口縁	口縁厚文、無文		Ⅷ8	
1413	18480	2a	深鉢	口縁~胴部	無文	ススコナ	Ⅷ8	口径16.6cm、底径11.6cm、 胴高20.8cm、容3.79ℓ
1414	18482	2b・2d	深鉢	口縁~胴部	無文		Ⅷ8	
1415	1908	3a	深鉢	底部	無文		Ⅷ	底径10.8cm
1416	不明		ミニチュア	底部	無文		Ⅷ	底径4.2cm
1417	18461	2d	ミニチュア	底部	無文		Ⅷ	底径4.0cm
1418	18461	2d	深鉢	底部	無文		Ⅷ	底径5.2cm
1419	18458	2	ミニチュア	口縁~底部	右孔		Ⅷ	口径5.2cm、底径3.0cm、器高3.0
1420	1914	2b・d	深鉢	底部	無文		Ⅷ	底径17.8cm
1421	194	2d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径16.4cm
1422	1915	2d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径15.0cm
1423	1915	2d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径20.0cm
1424	18493	2d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	
1425	1912	2b	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	
1426	18483・18403	2・2b・2d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径17.0cm
1427	18495	2	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径17.8cm
1428	18494	3	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径6.4cm
1429	1917	2b・d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径11.0cm
1430	18461	2d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	底径15.0cm
1431	18480	2d	深鉢	底部	底面木葉紙		Ⅷ	底径14.6cm
1432	18495	2b・2d	深鉢	底部	底面木葉紙		Ⅷ	底径15.5cm
1433	1917	2b・d	深鉢	底部	底面縹代紙		Ⅷ	
1434	18468	2	深鉢	口縁	口唇部丸頭、LRヨコ		Ⅷ	
1435	18468	2	深鉢?	口縁	沈線		Ⅷ	

表7 下中層土遺跡土製品觀察表

編號	出土地点	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	遺存(%)	備考
1435	181	2	土玉	1.90	1.80	1.80	6.10	100	
1437	19112	2b	耳飾	3.00	2.70	1.20	8.10	50	
1438	18173	3	耳化	2.50	3.30	1.60	12.70	80	
1439	181	1	土偶	4.60	6.20	1.20	20.80	30	根状土偶形跡、沈堀、腕部穿孔、肩部に貼付
1440	18161	2a	土偶	5.50	8.60	2.10	82.50	30	根状土偶形跡、上半身に平行沈堀、中心部内割、表面凹窪
1441	19127	2b	土偶	6.50	5.20	1.60	47.40	30	根状土偶形跡、爪形文
1442	18193	2d	土偶	7.00	4.30	1.10	54.50	20	中央土偶形跡、無文

表8 下中層土遺跡石器・石製品觀察表

編號	出土地点	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	形状	遺存(%)	備考
1443	18188	2	石磯	3.46	2.26	0.71	4.20	Sh	無茎凹基	100	先端角36°
1444	18171	2b	石磯	2.98	2.08	0.56	2.60	Sh	無茎凹基	80	先端・右基部欠損
1445	18193	2b	石磯	4.16	2.63	1.27	9.30	Sh	無茎平基	100	先端角79°
1446	19104	2b	石磯	2.62	1.67	0.41	1.10	Sh	無茎凹基	100	先端角50°
1447	18151	2d	石磯	3.63	1.89	0.53	2.80	Sh	無茎凹基	100	先端角58°
1448	18182	2d	石磯	3.79	1.91	0.57	2.50	Sh	無茎凹基	90	先端角44°、右基部欠損
1449	19176	3	石磯	4.72	0.71	0.75	2.90	Sh	棒状	100	
1450	18197	2	石磯	6.46	2.95	0.78	12.00	Sh	扇型	100	挿入部幅1.24cm、挿入部幅0.69cm
1451	18176	2	石磯	4.77	3.28	0.93	11.00	Sh	扇型	100	挿入部幅1.15cm、挿入部幅1.02cm
1452	19193	2b	石磯	7.06	2.68	0.88	14.00	Sh	扇型	100	挿入部幅2.03cm、挿入部幅1.68cm
1453	18171	2b	石磯	6.18	4.30	1.14	18.60	Sh	斜行型	100	挿入部幅0.71cm、挿入部幅0.79cm、両側縁に縁器刃部、刃部にタール付着
1454	19105	2c	石磯	7.03	3.99	1.18	26.50	Sh	扇型	100	挿入部幅1.35cm、挿入部幅0.87cm、側縁に縁器刃部
1455	18180	2b	石磯	5.01	1.66	0.69	5.10	Sh	扇型	100	挿入部幅1.07cm、挿入部幅0.87cm、刃部欠損
1456	19106	2c	石磯	4.30	3.21	0.81	9.80	Sh	扇型	40	挿入部幅1.32cm、挿入部幅1.07cm、刃部欠損
1457	18161	2d	石磯	5.95	4.63	1.09	21.60	Sh	扇型	100	先端角51°、左側縁刃部58°、右側縁刃部63°
1458	18161	2	掻器	6.38	2.81	1.37	21.10	Sh		100	先端角72°、左側縁刃部62°
1459	18169	2	掻器	4.87	3.60	1.52	25.00	Sh		100	

掲載	出土地点	層位	器種	式 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石材	類型	保存 (%)	備考
1460	18184	2	掻器	5.85	2.74	1.80	29.10	Sh	100	先端刃角41°、先端押掻き	
1461	18184	2	掻器	4.36	2.46	0.73	7.10	Sh	50	先端刃角40°、左側縁刃角45°、右側縁刃角41°	
1462	18182	2	掻器	4.98	3.81	1.49	25.50	Sh	100	先端刃角65°、左側縁刃角74°、右側縁刃角77°	
1463	18197	2	掻器	5.91	2.10	1.21	16.30	Sh	100	先端刃角68°、先端押掻き	
1464	18182	2a	掻器	5.80	3.19	1.16	21.10	Sh	100	先端刃角61°、左側縁面並加工	
1465	18185	2a	掻器	3.48	2.81	1.05	10.00	Sh	100	先端刃角42°	
1466	18183	2b	掻器	6.22	6.14	1.75	64.60	Sh	100	先端刃角61°	
1467	19104	2b	掻器	4.62	3.84	1.38	18.00	Sh	100	先端刃角56°、右側縁は茎柙用の調整加工？表面左上側にターム、先端部に微小凹痕	
1468	18180	2d	掻器	5.43	3.93	1.74	30.20	Sh	100	先端刃角41°	
1469	19105	3	掻器	6.45	3.33	1.50	33.00	Sh	100	先端刃角41°、先端押掻き	
1470	18183	2	削器	4.88	4.26	0.72	8.60	Sh	100	右側縁刃角36°、左側縁微小凹痕	
1471	181		削器	4.51	2.97	0.74	6.20	Sh	70	右側縁刃角38°、左側縁微小凹痕	
1472	19106	2c	削器	4.02	11.32	0.83	46.50	Sh	100	先端刃角40°	
1473	19115	3	削器	9.63	6.44	2.29	110.00	Sh	100	右側縁刃角45°、左側縁刃角32°、左側縁刃縁き→根引きか？	
1474	表塚		削器	5.58	2.77	1.13	18.00	Sh	100	右側縁刃角60°、折面再加工、先端部破損品の底用？	
1475	181-61	2a	掻削器	3.02	4.94	1.36	15.90	Sh	100	左側縁に掻器刃部、右側縁に削器刃部、先端部折断により、調整加工を各器、右側縁の凹みを通じ互に加工し、掻器利用時の着付痕跡を捉えず、削器刃部と捉えた。	
1476	18161	2b	掻削器	3.41	5.50	0.63	10.80	Sh	100	先端・左側縁縁部分離、右側縁部削器刃部、丸端刃角47°	
1477	18183	3	微小凹痕をのめる薄片	4.71	2.28	1.25	9.30	Sh	100		
1478	19107	3	微小凹痕をのめる薄片	3.62	3.70	1.28	10.70	Sh	100		
1479	18182	3	楔形石器	2.18	1.76	0.80	2.90	Sh	100		
1480	19176	3	楔形石器	4.61	2.89	1.38	20.80	Sh	100		
1481	18161	2b	不定形石器	3.54	2.94	1.11	10.50	Sh	100	石器未製品？	
1482	18190	2	円盤状石器	2.58	2.45	0.36	3.80	Sh	100		
1483	19103	2	円盤状石器	4.72	4.70	0.94	27.10	Sh	100	敲打一跡、表面赤化	
1484	18199	2a	円盤状石器	3.83	3.69	1.06	22.30	Tuff	100		

1485	18185	2b	円筒状石器	5.06	4.37	0.80	23.90	Sh	100	
1486	18185	2b	円筒状石器	6.23	5.99	1.04	67.30	SS	100	
1487	19103	2b	円筒状石器	5.79	4.68	0.64	31.20	Sh	100	
1488	19118	2b	円筒状石器	2.80	2.72	0.39	4.80	Sh	100	
1489	18H51	2d	円筒状石器	4.11	4.09	0.97	23.50	Tuff	100	表面赤化
1490	19109	3	円筒状石器	3.28	3.18	1.17	17.80	SS	100	
1491	18H70	2a	石鉢	12.15	9.20	2.65	423.70	Sh	100	板状礫が素材
1492	18193	2b	石鉢	5.93	9.88	1.58	138.70	Sh	100	板状礫が素材
1493	18H70	2a	石鉢	6.84	10.91	1.86	186.00	Sh	100	板状礫が素材
1494	19104	2b	石鉢	6.25	9.40	2.85	236.00	Sh	100	板状礫が素材
1495	18173	2b	石鉢	5.18	7.90	1.63	88.00	Sh	100	板状礫が素材
1496	18184	2b	石鉢	6.23	11.02	2.14	204.50	Sh	100	板状礫が素材
1497	18H61	2d	石鉢	7.06	8.99	1.50	124.80	Sh	100	板状礫が素材
1498	18H61	2d	石鉢	8.67	7.01	2.19	195.70	Sh	100	板状礫が素材
1499	18161	2d	石鉢	5.68	19.30	2.83	400.70	Ho	100	長柄円筒が素材、打製石斧?
1500	18193	2d	石鉢	5.86	9.18	3.15	214.30	Sh	100	長柄円筒が素材
1501	18193	2d	石鉢	7.54	5.20	1.08	66.30	Sh	100	板状礫が素材
1502	19149	3	石鉢	10.40	12.26	2.47	468.70	Sh	100	板状礫が素材
1503	18185	3	石鉢	9.02	14.94	2.72	491.80	Sh	100	板状礫が素材
1504	18185	3	石鉢	8.85	11.46	2.75	288.00	SS	100	板状礫が素材
1505	18185	2c	打製石斧	12.60	5.52	2.59	193.50	Sh	100	刃部角60°
1506	18190	2a	磨製石斧	17.45	5.90	3.15	426.80	SS	70	石斧未製品
1507	18194	2b	磨製石斧	8.85	6.39	2.66	238.20	Tuff	50	刃部欠損
1508	18184	2b	磨製石斧	4.55	4.19	2.20	70.90	Sh	30	刃部欠損
1509	19103	2b	磨製石斧	3.86	1.58	0.71	9.50	Sh	50	刃部41°、石斧模造品?、基部破損
1510	18193	2d	磨器	9.11	17.85	2.16	497.10	Sh	80	板状礫が素材、刃部角60°、刃部等長、側面磨石の欠損品
1511	18174	3	磨器	14.80	21.70	4.60	1490.50	SS	100	板状礫が素材、刃部角72°非出状
1512	18197	3	磨器	12.90	7.90	3.00	563.80	Ho	60	板状礫が素材、側面全周、
1513	18183	2b	磨器	10.31	6.06	3.47	313.80	Scrp	90	長柄円筒が素材、側面全周、磨打直正裏面
1514	19116	2c	磨器	17.30	7.65	6.24	1007.50	SS	100	長柄円筒が素材、磨面止面・磨打直
1515	19103	2b	磨器	8.75	6.30	3.40	308.60	Dio	70	長柄円筒が素材、磨面側面、磨打直止面



掲載	出土地点	部位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	器型	造形(%)	備考
1516	18183	2b	紋石盤	10.40	8.56	4.98	669.80	An	円盤が素材、磨面正裏面、削打痕全面	100	円盤が素材、磨面正裏面、削打痕全面
1517	19105	2d	紋石盤	18.30	5.30	4.70	663.80	SS	楕円盤が素材、磨面正面、削打痕・円盤全面	100	楕円盤が素材、磨面正面、削打痕・円盤全面
1518	18H51	2d	紋石盤	14.75	7.01	3.29	458.20	SS	長柄円盤が素材、磨面正面、削打痕	50	長柄円盤が素材、磨面正面、削打痕
1519	18183	2b	磨石	5.80	4.47	2.17	80.70	Sh	楕円盤が素材、磨子の円盤状石器？石製品の未製品？磨面全面	100	楕円盤が素材、磨子の円盤状石器？石製品の未製品？磨面全面
1520	18185	2b	磨石	3.48	4.73	2.13	37.90	Tuff	長柄円盤が素材、磨面3面	40	楕円盤が素材、厚手の円盤状石器？石製品の未製品？磨面全面
1521	19114	2b	磨石	19.65	6.55	5.30	863.80	SS	長柄円盤が素材、磨面側面	100	長柄円盤が素材、磨面3面
1522	18193	2b	磨石	11.55	7.07	4.71	516.70	Ho	楕円盤が素材、磨面正裏面・側面	60	長柄円盤が素材、磨面側面
1523	18193	2d	磨石	11.43	8.50	4.96	729.70	Ho	楕円盤が素材、磨面正裏面・側面	90	楕円盤が素材、磨面正裏面・側面
1524	18174	3	磨石	9.23	8.31	4.80	448.70	Serp	楕円盤が素材、磨面側面	60	長柄円盤が素材、磨面側面
1525	18177	3	磨石	15.90	6.67	6.24	1089.10	Serp	楕円盤が素材、磨面側面3面	40	楕円盤が素材、磨面側面3面
1526	19103	2	紋石A	16.80	5.88	2.25	361.20	SS	楕円盤が素材、削打痕正裏面・先端	100	楕円盤が素材、削打痕正裏面・先端
1527	18161	2a	紋石A	12.89	5.18	4.30	392.60	SS	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1528	18H70	2a	紋石A	15.49	5.93	2.58	360.20	SS	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1529	18194	2b	紋石A	7.58	6.80	2.52	263.40	Tuff	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1530	18195	2b	紋石A	22.45	8.50	4.60	1259.10	SS	長柄円盤が素材、凹面正面、削打痕両端	100	長柄円盤が素材、凹面正面、削打痕両端
1531	18H61	2d	紋石A	10.62	6.68	5.74	516.20	Serp	断面三角形の楕円盤が素材、凹面全面、削打痕正面	100	断面三角形の楕円盤が素材、凹面全面、削打痕正面
1532	18H80	3	紋石A	9.30	9.23	6.80	498.80	An	楕円盤が素材、凹面正面、削打痕全面	100	楕円盤が素材、凹面正面、削打痕全面
1533	19101	2b	紋石A	22.10	5.66	3.45	616.20	SS	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1534	18174	3	紋石A	15.80	7.79	3.17	503.20	Ho	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1535	18180	2a	紋石B	14.31	5.52	2.10	222.40	Sh	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1536	18183	2b	紋石C	15.20	8.08	3.96	994.90	SS	長柄円盤が素材、削打痕全面	100	長柄円盤が素材、削打痕全面
1537	18194	2b	紋石B	11.94	7.49	2.63	290.60	Ho	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面
1538	19103	2b	紋石C	6.43	6.03	4.10	222.70	SS	円盤が素材、削打痕正裏面・側面・先端	100	円盤が素材、削打痕正裏面・側面・先端
1539	18184	2b	紋石C	15.50	5.05	3.56	403.30	Sh	楕円盤が素材、削打痕先端	100	楕円盤が素材、削打痕先端
1540	18H61	2d	紋石C	22.10	4.57	2.39	323.70	SS	楕円盤が素材、削打痕側縁・先端	100	楕円盤が素材、削打痕側縁・先端
1541	18H70	2d	紋石C	6.67	4.97	4.78	207.40	An	楕円盤が素材、削打痕全面・先端	100	楕円盤が素材、削打痕全面・先端
1542	18193	2d	紋石C	9.25	8.37	4.76	494.50	SS	楕円盤が素材、削打痕全面・先端、赤色顔料付着	100	楕円盤が素材、削打痕全面・先端
1543	19104	2d	紋石C	10.48	6.80	4.95	481.10	Ho	楕円盤が素材、削打痕全面	100	楕円盤が素材、削打痕全面

1541	18H90	3	縦石C	899	5.61	4.72	314.40	Serp	100	栴檀門襖が素材、敲打板全面・先端、スス付着
1545	18H61	2d	縦石C	1990	5.94	5.20	830.70	SS	100	栴檀門襖が素材、敲打板全面・両端
1546	19105	3	縦石C	1134	9.11	3.83	577.40	SS	100	栴檀門襖が素材、敲打板正面・側面
1547	19104	3	縦石C	881	4.78	3.67	297.80	Dio	100	長栴檀門襖が素材、敲打板全面・先端、トナリムキ石
1548	18H61	2d	台石	4130	28.50	11.30	15900.00	SS	100	栴檀門襖が素材、敲打板正面
1549	18H83	3	台石	2930	19.40	13.00	9900.00	SS	100	栴檀門襖が素材、敲打板正面
1550	18H93	3	台石	1360	13.50	8.45	1486.20	An	100	栴檀門襖が素材、敲打板正面
1551	18H95	3	台石	2630	17.30	7.20	3160.00	SS	40	栴檀門襖が素材、側面正面
1552	18H	1	石皿	5690	32.40	10.90	29000.00	SS	90	長栴檀門襖が素材、側面正面
1553	18H96	3	石皿	3880	20.90	6.70	6800.00	An	100	長栴檀門襖が素材、側面正面
1554	18H61	2d	拱状耳飾	349	1.90	0.31	2.50	Sh	50	
1555	19121	2a	ペンダント	280	3.25	0.77	9.30	Sh	100	表面赤色彫、孔部幅0.39×0.53cm
1556	19103	2d	棒状石器	2570	11.60	11.40	5020.00	Da	60	栴檀門襖が素材、表面赤化
18H90	19102	2b	石鏃	385	2.17	0.62	3.90	Sh	70	先端角49°、基部欠損
18H1	19103	2b	石鏃	278	1.83	0.53	1.80	Sh	90	無茎凹基
19103	19103	2b	石鏃	233	1.62	0.43	1.10	Sh	90	先端角46°、左基部欠損
18H	19103	1	棒器	264	3.48	0.93	6.60	Sh	95	棒基部小円筒、挿入部幅0.54cm、先端に閉路方部
18H69	2	棒器	348	4.51	1.41	18.80	Sh	100	先端角60°	
18H80	2	棒器	281	2.78	0.51	3.10	Sh	50	左側縁角79°	
18H51	2b	棒器	275	3.00	1.25	11.90	Sh	30	左側縁角79°、右側縁角55°	
19118	2b	棒器	296	3.15	0.88	8.60	Sh	30	右側縁角61°	
18H2	2b	棒器	312	4.06	1.44	13.20	Sh	100	先端角54°、左側縁に微小刺痕貫通縁	
19103	2b	棒器	295	4.41	0.60	7.40	Sh	50	先端角53°、右側破損品?	
19106	2c	棒器	243	2.98	0.40	3.20	Sh	30	先端角57°、石鏃破損品?	
18H	1	剛器	366	6.91	1.42	30.00	Sh	100	先端角70°、左側縁角51°	
18H71	2	剛器	640	3.63	1.19	29.40	Sh	100	右側縁角22°	
18H82	2a	剛器	326	3.51	1.14	8.40	Sh	100	先端角30°	
18H83	2	微小刺痕を有する銅片	346	4.44	1.50	16.00	Sh	100	右側縁角38°	
18H90	2	微小刺痕を有する銅片	410	2.50	0.80	4.70	Sh	50		
			330	3.93	0.82	6.20	Sh	100		

調査	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	類別	遺存(%)	備考
	19127	2b	微小洞穿型のあ る刻片	6.18	3.90	1.39	16.90	Sh		100	
	18H70	2d	微小洞穿型のあ る刻片	3.68	3.48	1.12	12.60	Sh		50	
	18I161	2	桃形石器	3.28	2.64	1.12	7.80	Sh		100	
	19104	2b	桃形石器	3.67	2.26	1.37	11.80	Sh		100	
	18H61	2	不定形石器	3.77	3.25	1.14	13.30	Sh		100	
	18I83	2b	不定形石器	3.00	2.96	0.97	8.10	Sh		100	
	18H	2	石核	2.69	2.99	2.25	20.90	Jya		100	
	18I93	2	石核	5.35	4.38	1.59	37.30	Sh		100	
	19103	2b	石核	5.21	4.63	1.89	38.30	Sh		100	
	18I94	2d	石核	4.48	5.15	2.10	38.50	Sh		100	
	18I97	2	石鏟	11.78	11.58	3.77	647.30	SS		100	板状礫が素材、台石の転用
	19103	2	石鏟	6.96	9.42	1.80	159.70	SS		100	板状礫が素材
	18I73	2a	石鏟	8.33	6.35	1.16	93.30	Sh		100	板状礫が素材
	18I95	2b	石鏟	10.83	11.18	4.80	712.80	SS		100	板状礫が素材
	19103	2b	石鏟	6.16	12.47	1.96	203.80	SS		100	板状礫が素材
	19103	2b	石鏟	6.91	7.30	1.98	133.30	Sh		50	板状礫が素材
	19116	2c	石鏟	6.35	8.62	1.91	114.00	Sh		50	板状礫が素材
	18I161	2d	石鏟	8.84	9.55	2.30	260.20	Sh		100	板状礫が素材
	18H71	2d	石鏟	6.28	8.94	1.88	142.20	SS		100	板状礫が素材
	表塚		石鏟	9.22	13.14	2.91	481.20	Sh		100	板状礫が素材
	18I73	2a	敲磨器	17.20	9.96	1.97	611.50	Ho		100	板状礫が素材
	18I1	1	敲磨器	9.45	5.58	4.01	271.20	Serp		50	長楕円礫が素材、磨面正裏面、敲打痕裏面
	18I1	1	敲磨器	8.71	6.19	3.97	351.90	An		40	長楕円礫が素材、磨面側面、敲打痕裏面
	18H	2	敲磨器	15.50	6.12	3.68	524.10	SS		80	長楕円礫が素材、磨面正裏面、敲打痕裏面・先頭丸頭。
	19117	2b	敲磨器	7.28	4.33	4.45	164.70	Serp		30	円礫が素材、磨面正裏面、敲打痕側面・先頭
	18I86	3	敲磨器	15.12	6.76	3.94	962.30	SS		100	長楕円礫が素材、磨面側面、敲打痕正裏面
	18I83	2b	敲磨器	9.67	8.85	4.26	520.80	SS		100	円礫が素材、磨面正裏面、凹面正裏面側面
	18I151	2d	敲磨器	13.98	7.71	5.12	701.70	SS		100	長楕円礫が素材、磨面側面、凹面正裏面
	18H	2	磨石	7.15	4.31	5.43	215.50	Gra		30	円礫が素材、磨面正裏面、磨面

1811	2	磨石	7.81	7.20	5.35	358.80	Dio	30 磨面正画
18196	2	磨石	7.43	6.11	1.88	75.60	Grado	10 磨面正画
18184	2	磨石	9.34	4.71	4.79	216.40	Da	30 栴檀が素材、磨面正画・側面
18185	2a	磨石	10.41	5.53	4.22	327.00	SS	30 栴檀が素材、磨面側面
18185	2a	磨石	8.53	5.39	1.93	106.50	SS	10 磨面正画
18184	2b	磨石	13.38	4.93	5.95	361.50	SS	30 栴檀が素材、磨面正画
18185	2b	磨石	5.57	6.83	4.63	219.30	Serp	30 磨面正画・側面
18195	2b	磨石	9.46	2.51	5.10	149.90	Da	10 磨面正画・側面
18161	2d	磨石	11.44	9.38	4.49	740.60	Serp	50 長栴檀が素材、磨面側面
18161	2d	磨石	8.32	5.73	5.01	353.60	Da	40 栴檀が素材、磨面正画
18180	2d	磨石	8.01	9.02	5.28	611.30	An	50 磨面正画
18172	2d	磨石	9.45	8.08	5.18	476.10	Gra	70 栴檀が素材、磨面正画
19128	3	磨石	7.29	9.35	7.38	618.90	Grado	40 栴檀が素材、磨面正画
18199	3	磨石	6.95	6.02	4.91	262.20	SS	50 長栴檀が素材、磨面正画
19105	3	磨石	11.01	3.77	5.79	181.70	SS	20 磨面正画
18194	2b	磨石A	14.71	3.74	1.81	121.80	Sh	50 栴檀が素材、磨面正画、敲打板面
19108	3	磨石A	14.10	4.15	2.38	213.30	Sh	50 栴檀が素材、凹版正画、敲打板面
18190	2a	磨石B	15.51	7.04	2.23	411.70	Ho	100 栴檀が素材、凹版正画、打撃石の転用?
18183	2b	磨石B	10.80	6.88	3.51	242.30	SS	70 凹版正画、表面赤化
18183	2b	磨石B	13.51	10.81	2.52	396.70	SS	100 栴檀が素材、凹版正画
18195	2b	磨石B	14.40	13.50	3.40	774.50	SS	100 栴檀が素材、凹版正画
19102	2b	磨石B	7.90	6.65	3.68	297.10	Ho	60 栴檀が素材、凹版正画
19103	2b	磨石B	12.66	6.58	2.09	230.20	Da	100 栴檀が素材、凹版正画
19106	2c	磨石B	15.90	8.97	2.98	516.20	SS	100 栴檀が素材、凹版正画、表面赤化
19106	3	磨石B	16.60	6.20	3.16	435.90	SS	100 栴檀が素材、凹版正画、表面赤化前の加工か?
19118	3	磨石B	14.90	8.45	3.60	651.90	Ho	80 栴檀が素材、凹版正画、側面調整は磨面脱皮前の加工か?
1811	2	磨石C	12.79	5.07	2.23	185.20	Sh	100 栴檀が素材、敲打板側面
1811	2	磨石C	11.40	5.52	3.64	364.50	SS	100 長栴檀が素材、敲打板全面
1811	2	磨石C	15.60	8.38	3.38	549.20	SS	100 長栴檀が素材、敲打板正画・先端
1811	2	磨石C	12.48	4.82	2.99	266.20	SS	100 長栴檀が素材、敲打板正画・先端
1811	2	磨石C	8.63	6.84	4.41	347.10	Serp	100 栴檀が素材、敲打板正画・先端

掲載	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	類型	遺存(%)	備考
	18H51	2	鏡石C	13.30	7.27	5.90	750.50	Ho		100	長楕円磨が素材、敲打修正面
	18H61	2	鏡石C	16.60	5.73	2.78	364.40	Ho		100	長楕円磨が素材、敲打修正面
	18H69	2	鏡石C	13.40	5.13	2.98	297.40	Ho		100	長楕円磨が素材、敲打修正面
	18I76	2	鏡石C	19.80	6.45	5.15	832.30	SS		90	長楕円磨が素材、敲打修正面
	18I80	2	鏡石C	15.60	6.75	5.78	805.30	Gradls		100	長楕円磨が素材、敲打修正面
	18I95	2	鏡石C	15.24	6.39	3.09	426.10	SS		80	長楕円磨が素材、敲打修正面・先磨
	18I97	2	鏡石C	18.60	4.27	2.56	390.40	Sh		100	楕円磨が素材、敲打修正面
	18I85	2a	鏡石C	9.11	4.86	3.61	229.90	Serp		100	長楕円磨が素材、敲打修正面
	18I86	2a	鏡石C	18.22	6.35	2.73	478.20	Sh		100	長楕円磨が素材、敲打修正面
	19I03	2b	鏡石C	10.10	8.17	3.58	392.10	Ho		80	長楕円磨が素材、敲打修正面・先磨
	18I83	2b	鏡石C	6.41	4.58	3.64	119.20	SS		50	円磨が素材、敲打修正面
	18I83	2b	鏡石C	9.23	6.48	4.56	358.40	Gra		100	楕円磨が素材、敲打修正面
	19I02	2b	鏡石C	6.65	6.39	2.92	137.40	SS		90	円磨が素材、敲打修正面
	19I03	2b	鏡石C	8.73	6.80	4.57	351.70	Gab		90	楕円磨が素材、敲打修正面・両備
	18I93	2d	鏡石C	5.34	4.88	4.05	110.90	SS		100	楕円磨が素材、敲打修正面
	18H61	2d	鏡石C	12.89	6.10	3.02	333.20	Ho		100	楕円磨が素材、敲打修正面・先磨
	18I86	3	鏡石C	15.20	9.90	8.30	1522.30	SS		100	長楕円磨が素材、表面赤化
	18I97	3	鏡石C	11.54	7.28	4.83	459.30	SS		100	楕円磨が素材、敲打修正面・先磨備面
	18I94	2	白石	20.20	12.90	8.10	3400.00	SS		50	長楕円磨が素材、表面赤化、敲打修正面
	19I03	2b	白石	18.50	14.92	5.40	1691.40	SS		100	楕円磨が素材、敲打修正面
	18I82	2b	白石	16.80	10.60	7.33	1555.00	SS		40	円形磨が素材、敲打修正面
	18I93	3	白石	29.20	23.50	8.90	7760.00	SS		100	楕円磨が素材、敲打修正面
	18I	1	白石	37.80	32.90	6.40	11000.00	SS		90	楕円磨が素材、敲打修正面、表面赤化
	18I82	3	白石	40.90	29.50	8.80	12590.00	SS		100	楕円磨が素材、磨面正面

## VI 自然科学的分析

### 1 目的と方法

下中居Ⅰ遺跡、下中居Ⅱ遺跡の各遺跡においてそれぞれ行った自然科学的見地からの分析・同定について本章でまとめて報告を行う。まず、ここでは各種分析・同定の目的と方法について述べ、次節より各分析・同定の報告を行うこととする。なお、次節以降の分析・同定の報告は項目毎となっているが、表題に分析・同定を行った機関名を表記している。

両遺跡の出土炭化物を用いて放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施した。縄文土器付着炭化物、竪穴住居跡内の炉跡内出土炭化物を抽出し、計8点の分析を委託した。年代測定によって、各土器型式の年代、検出遺物の焼絶年代を考察する基礎資料を得ることを目的とした。いずれも加速器によるAMS測定を行い、各年代は半減期を5568年として算出されている。

下中居Ⅰ遺跡の9・15号土坑から採取した土壌から炭化種子を抽出して、古代の森研究舎に種目同定分析を委託した。9・15号土坑は縄文時代の貯蔵穴と目される。遺物の出土状態から、最終的には食糧の貯蔵状態ではなく、ゴミ穴として利用されたと考えられる。ここに含まれる土器や炭化物は、縄文時代の食生活の一端を示す可能性があると思定した。また、3号竪穴住居跡内の4号炉を覆う炭化物を含む土壌も分析依頼した。ここでは、食生活に関わる資料の抽出と、燃料材の抽出を目的とした。

下中居Ⅰ遺跡では黒曜石が1点出土している。遺構に伴うものではないが、本遺跡における遺構・遺物のあり方から、縄文時代に帰属する可能性が高い。岩手県内における黒曜石産地は北上川流域に平石町、奥州市水沢区、一関市花泉町などが知られている。また、県外においては、青森県深浦、秋田県男鹿、宮城県湯ノ蔵などが知られている。これら産地との有機的な関係性を追求するうえで、産地分析は欠かせない。今回の資料は、明確な時期決定された資料ではないものの、今後の産地同定資料の増加によって、産地と消費地との関係性追求する一助となると考えた。

## 2 下中居 I・II 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

㈱加速器分析研究所

### (1) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。  
なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。
- 3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

### (2) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### (3) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- 2) <sup>14</sup>C年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。<sup>14</sup>C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により<sup>13</sup>C/<sup>13</sup>Cを測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- 4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。
- 5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCalv4.0較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

### (4) 測定結果

<sup>14</sup>C年代は、縄文時代前期末から中期前葉までに含まれる。試料の性格上、樹木内側の年輪に由来する炭素を測定したことによる「古木効果」を考慮する必要がある。つまり、土器の使用年代を幾らか遡る年代となる可能性がある。炭素含有率は55%以上であり、化学処理・測定内容にも問題は無い。

No.6 に関しては、明らかに土器型式と異なる年代となっている。土器内面の付着物であり、付着土壌または胎土が混入した可能性を考慮する必要がある。ただし、炭素含有率が53.8%と高いことから、年代値から判断すれば、アスファルトのような $^{14}\text{C}$ を含まない何らかの古い物質が混在した可能性もある。この点は、付着物の成分分析などによって判断する必要がある。いずれにせよ、No.6については土器の年代を示す値とは行えない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC (%)
IAAA-82582	No.8	1号捨て場 2層	1181外面付着物	AaA	-20.00 ± 0.65	4,760 ± 40	55.28 ± 0.24
IAAA-82583	No.2	9号土坑 3層	180内面付着物	AaA	-24.84 ± 0.73	4,670 ± 40	55.91 ± 0.25
IAAA-82584	No.3	15号土坑 3層	262外面付着物	AaA	-26.28 ± 0.66	4,490 ± 40	57.20 ± 0.26
IAAA-82585	No.4	9号土坑 3層	炭化物	AaA	-21.30 ± 0.61	4,790 ± 40	55.09 ± 0.24
IAAA-82823	No.6	3号土坑 1層	138内面付着物	AaA	-20.37 ± 0.85	27,660 ± 150	3.20 ± 0.06
IAAA-82824	No.7	2号住居P10断面	33内面付着物	AaA	-24.97 ± 0.78	4,860 ± 40	54.60 ± 0.25

[#2697]

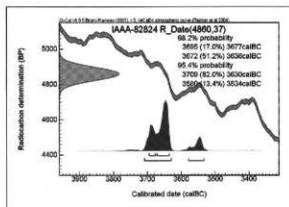
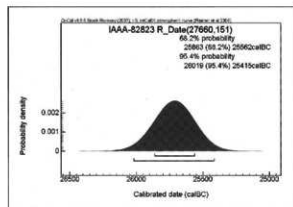
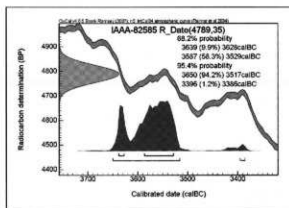
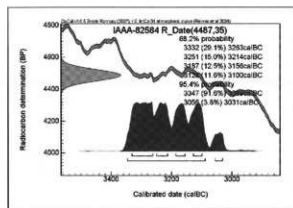
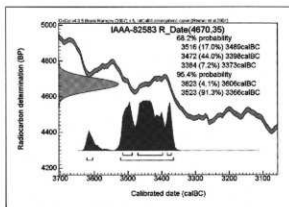
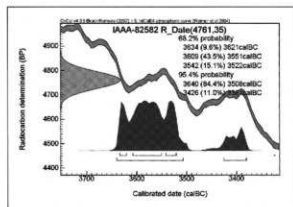
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年校正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82582	4,680 ± 30	55.85 ± 0.23	4,761 ± 35	3634BC - 3621BC ( 9.6%) 3609BC - 3551BC (43.5%) 3542BC - 3522BC (15.1%)	3640BC - 3508BC (84.4%) 3426BC - 3381BC (11.0%)
IAAA-82583	4,670 ± 30	55.93 ± 0.23	4,670 ± 35	3516BC - 3489BC (17.0%) 3472BC - 3396BC (44.0%) 3384BC - 3373BC ( 7.2%)	3623BC - 3606BC ( 4.1%) 3523BC - 3366BC (91.3%)
IAAA-82584	4,510 ± 30	57.05 ± 0.24	4,487 ± 35	3332BC - 3263BC (20.1%) 3251BC - 3214BC (15.0%) 3187BC - 3156BC (12.5%) 3128BC - 3100BC (11.6%)	3347BC - 3089BC (91.6%) 3056BC - 3031BC ( 3.8%)
IAAA-82585	4,730 ± 30	55.51 ± 0.24	4,789 ± 35	3639BC - 3628BC ( 9.9%) 3587BC - 3529BC (58.3%)	3650BC - 3517BC (94.2%) 3396BC - 3386BC ( 1.2%)
IAAA-82823	27,580 ± 150	3.23 ± 0.06	27,660 ± 151	25863BC - 25562BC (68.2%)*	26019BC - 25415BC (95.4%)*
IAAA-82824	4,860 ± 40	54.61 ± 0.24	4,860 ± 37	3695BC - 3677BC (17.0%) 3672BC - 3636BC (51.2%)	3709BC - 3630BC (82.0%) 3580BC - 3534BC (13.4%)

\*Warning! Date out of range [参考値]

## 参考文献

- Stuiver M. and Polash I.L.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
- Reimer, F.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058





【参考】 暦年較正年代グラフ

## 3 下中居 I 遺跡より出土した炭化種実

吉川純子（古代の森研究會）

## (1) はじめに

下中居 I 遺跡は花巻市大迫町川目の中居川により形成された河岸段丘上に位置する縄文時代の集落跡であり、遺物は中期前葉の大木7式土器が検出されている。当時の食料状況を調査する目的で、3号住居跡の4号炉内堆積物約3kgと住居周辺のフラスコ状土坑9号および15号の土器が検出された3層堆積物各約2kgを水洗し、得られた炭化種実の分析を行った。

## (2) 同定結果および考察

同定結果を表1に示す。3号住居4号炉からはミドリハコベ近似種を出土した。9号土坑および15号土坑からはオニグルミとトチノキを少量出土した。以下に同定された種実の形態記載をおこなう。

オニグルミ：内果皮は厚く堅く複雑な曲面で構成されている。本遺跡では5mm程度の小さい破片を出土した。

トチノキ：小さな種皮破片を出土した。種皮は表面に流理状ないし指紋状の微細模様があり、光沢がある。

ミドリハコベ近似種：種子は円形で扁平、全体に微小な三角形の突起が密布する。路傍など比較的口当たりの良い場所に生育する背の低い草本である。

表1 下中居 I 遺跡出土炭化種実

分類群	遺構 出土部位/層位	3号住居跡		
		炉2	9号土坑	15号土坑
オニグルミ	<i>Juglans sieboldiana</i> Maxim.	内果皮小破片	14	16
トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	種皮小破片	2	3
ミドリハコベ近似種	<i>Stellaria cf. neglecta</i> Weihe	種子	1	—

本遺跡では住居の炉内堆積物からの炭化種実出土は極めて少なく、堆積物中の炭化物も少なかった。これは炉が酸素を取り込みやすい燃焼施設であるため燃料材が燃えやすく、残存している炭化物が少なかったと考えられる。2つのフラスコ状土坑では、底面から遺物が出土せず3層でまともに出土したため、土坑の利用が終わったあとに土器や炭化物などを土坑内に廃棄したと考えられる。3層は炭化材の微小破片がやや多く、出土した炭化種実の破片はこれらとともにゴミとして廃棄されたと考えられる。縄文時代では中期後半頃からトチノキの食料としての利用が本格化したと考えられるが（吉川ほか2005）、本遺跡でオニグルミとともに炭化したトチノキ種皮破片が出土したことで中期前葉からすでに何らかの利用が始まっていた可能性がある。

吉川昌伸・吉川純子. 2005. 縄文時代中・後期の環境変化. 日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集. 日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会. 13-22.

## 4 下中居 I 遺跡出土の黒曜石産地同定

第4期 地質研究所

## (1) 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 J S X - 3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P 法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C ~ 92 U までの元素分析ができ、ハイパワー X 線源（最大 30 k V、4 m A）の採用で微量試料 ~ 最大 290 mm φ × 80 mm H までの大型試料の測定が可能である。小形試料では 16 試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルク F P 法でおこなった。F P 法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X 線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルク F P 法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気 = 真空、X 線管ターゲット素材 = R h、加速電圧 = 30 k V、管電流 = 自動制御、分析時間 = 200 秒（有効分析時間）である。

分析対象元素は Si, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zr の 14 元素、分析値は黒曜石の含水量 = 0 と仮定し、酸化物の重量% を 100% にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量% は小数点以下 2 桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zr は重量% では小数点以下 3 ~ 4 桁の微量となり、小数点以下 2 桁では 0 と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下 4 桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）で  $\text{SiO}_2$ - $\text{Al}_2\text{O}_3$ 、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ - $\text{TiO}_2$ 、 $\text{K}_2\text{O}$ - $\text{CaO}$  の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の 4 組の組み合わせで図を作成した。

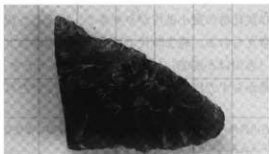
## (2) 分析結果

第 1 表化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

1) 下中居 - 1 は小赤沢産の黒曜石であることは図 - 2  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ - $\text{TiO}_2$  図と図 - 3  $\text{K}_2\text{O}$ - $\text{CaO}$  図から明らかである。

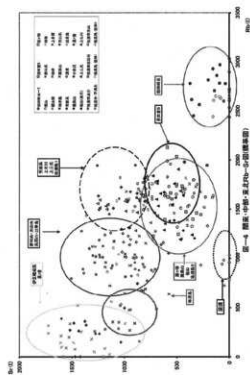
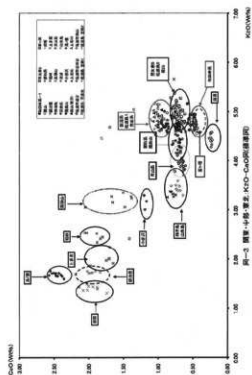
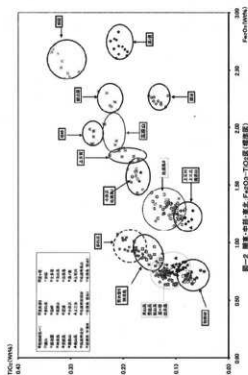
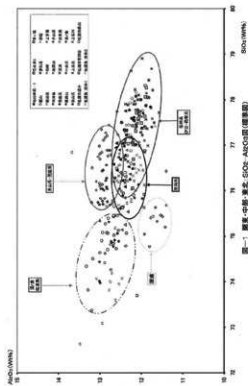
## 引用文献

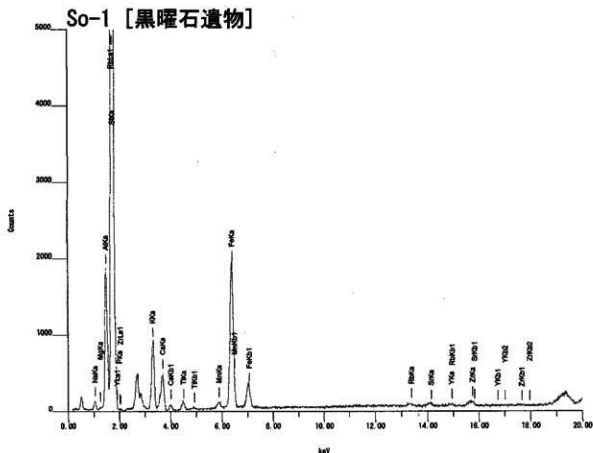
- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光 X 線分析 (X R F) 北越考古学、第 11 号、23-38/  
井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第 7 号 23-51。  
井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編  
井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編  
井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編  
井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集



第1表 化学分析表

試料番号	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	ZrO <sub>2</sub>	Total	Rb	Sr	原産地
下中层-1	3.960	0.142	12.828	76.259	0.888	2.886	1.223	0.201	0.016	1.587	0.007	0.010	0.009	100.000	568	733	小赤沢





ファイル名 : C:\Jx3200\data\So-1.spc 測定日時 : 2009年 2月19日10時 3分18秒

試料名 : 黒曜石遺物

メモ : 下中居 I・II 遺跡

測定条件 : 電圧 : 30.0kV 電流 : 0.360mA サイクル : 200.00sec パス : Vac

定量条件

定量法 : 標準

分析元素 : Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr

Num	元素/ 化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	3.9495	4.1546	0.0702396	1032	0.6279
2	12 MgO	0.1415	0.2289	0.0009166	86	0.3033
3	13 Al2O3	12.8284	8.2030	0.0443757	17678	0.1378
4	14 SiO2	76.2587	82.7498	0.3803685	158930	0.0986
5	15 P2O5	0.8676	0.3985	0.0075896	1603	0.1315
6	19 K2O	2.8849	1.9967	0.0327049	11789	0.0584
7	20 CaO	1.2230	1.4219	0.0122933	6332	0.0508
8	22 TiO2	0.2006	0.1637	0.0015742	1444	0.0397
9	25 MnO	0.0161	0.0148	0.0002357	303	0.0178
10	26 Fe2O3	1.5869	0.6479	0.0224742	31959	0.0173
11	37 Rb2O	0.0073	0.0025	0.0004826	568	0.0088
12	38 SrO	0.0096	0.0060	0.0005986	733	0.0096
13	39 Y2O3	0.0087	0.0025	0.0005309	623	0.0111
14	40 ZrO2	0.0172	0.0091	0.0011195	1139	0.0129

## Ⅶ ま と め

### 1 成 果 概 要

遺跡範囲を通る排水路・用水路・農道予定区域、水田面など合計4,050㎡について調査を行った。このうち、事業掘削深度が遺構検出面まで下がらないことを条件として、県教育委員会と県南広域振興局農政部北上農村整備センターとの協議によって、一部が確認調査区（遺構検出と平面プランの確認、撮影、検出面出土遺物の回収まで）となった。遺跡ごとの検出遺構、出土遺物は以下の通りである。

#### 検出遺構

下中居Ⅰ：堅穴住居跡5棟、堅穴建物跡3棟、掘立柱建物跡2棟、柱穴列1列、土坑38基、近世墓塚12基、柱穴状土坑107個、採掘坑9基。

下中居Ⅱ：縄文時代前期～中期を主体とする捨て場1カ所。

#### 出土遺物

下中居Ⅰ：縄文土器大コテナ45箱、土製品4点、剥片石器118点、礫石器23点、石製品3点、羽口1点、水塞通宝1点、寛永通宝11点、銅鏡1点、キセル1点、近世人骨9体

下中居Ⅱ：縄文土器大コテナ45箱、土製品7点、剥片石器308点、礫石器115点、石製品2点。

遺構・遺物の主体は3時期に大別される。第1は縄文時代前期末～中期初頭にかけてで、堅穴住居跡やフラスコ状土坑から本書でⅣ・Ⅴ群土器とした大木6・7a式土器、土製品や石器が出土している。第2は中世末～近世初頭にかけてで、堅穴建物跡3棟が該当する。第3は近世以降で、近世墓、採掘坑が該当する。

### 2 遺 構

堅穴や土坑など掘り込みのある遺構は、下中居Ⅰ遺跡に存在する。下中居Ⅰ遺跡は水田造成及び耕作による削平が進んでいた。遺構の遺存状態は良好とは言えない。調査区には満遍なく遺構・遺物が確認されたものの、水田造成及び耕作によって、かなりの遺構が消失した可能性がある。したがって、フラスコ状土坑のように深く掘り込んで構築された遺構は把握しやすいが、堅穴住居跡など、フラスコ状土坑と比較して浅い遺構は、発掘調査以前に消失しているだろう。そのため、遺跡内における各遺構の配置関係は、本来のあり方を示していない恐れもある。

#### (1) 堅 穴 住 居 跡

5棟検出した。時期はいずれも縄文時代前期末～中期初頭にかけてである。5棟とも遺存状態が悪く、住居壁などの住居構成要素が明瞭な住居は少ない。また、調査範囲の狭さのため、各住居範囲の部分的な検出にとどまった。そのため、各遺構の規模や平面形状については推定の域を出ないものもある。今回の調査では、本調査区で3棟、確認調査区で2棟調査した。

縄文時代前期後半～中期前半は、長軸が10mを超えるような大形住居跡が存在する。平面形は長方形、長楕円形など、細長い傾向にある。現代であれば、長屋のイメージに近い。主な特徴として、深く深い主柱穴、間仕切り溝の存在、床面の2段構造、複数の炉や焼土遺構を伴うなどの傾向がある。

また、壁際に貯蔵穴を伴う事例も多い。今回の調査で検出した住居が、これらの特徴を有するか見てみると、以下のようにグルーピングされる。

#### 1 住居形態

長方形または長楕円形の可能性あり	: 1・2・3号竪穴住居跡
円形	: 4・5号竪穴住居跡
複数の住居の重複、もしくは拡張の可能性あり	: 3号竪穴住居跡

#### 2 柱穴規模

掘り方が直径1m以上	: なし
根固石を伴う	: 1・2号竪穴住居跡

#### 3 床面構造

複数の床面を持つ可能性あり: 1・3号竪穴住居跡

#### 4 炉跡

複数あり	: 1・3号竪穴住居跡
1基で規模が大きい	: 2・4号竪穴住居跡

これらの特徴から、大形住居の可能性が指摘できるのは、1～3号竪穴住居跡である。これら3棟は、長軸が南西～北東方向もしくは東西方向にある可能性が高い。

次に各住居跡の存続時期をみていくと、以下のごとく分離される。

縄文時代前期末～中期初頭（大木6～7a式相当）	: 1～4号竪穴住居跡
縄文時代中期初頭（大木7a式相当）	: 5号竪穴住居跡

大形住居の可能性のある1～3号竪穴住居跡は、存続時期が長い傾向にある。時期による差異としては、炉跡に若干の形態差が認められる。床面が水田造成によって攪乱されているため、炉形態が判然としない場合もあるが、住居内炉跡については、地床炉、もしくは外縁部に疎らに礫を配置する石囲炉、あるいは石添炉とも言うべき形態が1～4号竪穴住居跡で確認できた。四方を明瞭に囲む石囲炉は3号竪穴住居跡で1基確認されたほか、2号竪穴住居跡の炉跡の西端に四方に礫を配置したと思われる抜取り痕があることから、少なくとも2基ある。四方に明瞭に礫を配置する石囲炉周辺からはV群土器が出土している。石囲炉の出現は、大木7a式頃であり、これまでの県内遺跡での成果と一致する。なお、周辺遺跡としては大木7a式の大形住居跡が花巻市高畑遺跡で発見されており、大形竪穴住居跡内の4基の炉跡のうち1基が四方を囲む石囲炉であった。

#### (2) フラスコ状土坑

土坑は、すべて下中居I遺跡で確認された。その中でも、縄文時代前期～中期のフラスコ状土坑が特徴的である。

フラスコ状土坑は、一般に貯蔵施設と目されているが、本遺跡では食糧をはじめとする何らかの貯蔵行為の痕跡は見つかっていない。フラスコ状土坑の土層堆積は、ほとんどが人為堆積であり、1m以上深く掘り込む穴を縄文人が埋め戻したと考えられる。遺物は堆積土の中部～上部で出土した土坑が多い。埋め戻しの過程で、破損した土器や食べカスなどの生活廃棄物を投棄したと考えられる。したがって、本遺跡のフラスコ状土坑は、最終的な用途として、ゴミ穴となった可能性があるだろう。その典型例が9・15号土坑である。

本遺跡のフラスコ状土坑は、1～3号土坑（大木7a～7b区段階）が1グループと認識できる分布状況であるが、その他は、堅穴住居の周辺に疎らに配置されたものが多い。時期の異なる遺構の重複関係を除けば、住居内に構築されたと積極的に判断できるフラスコ状土坑は存在しない。このことから、本遺跡では、集落内に貯蔵域というべき場を作っているわけではなく、各世帯単位で必要に応じて屋外にフラスコ状土坑を構築していたと考えられる。

### (3) 堅穴建物跡

3棟確認した。規模と形状は3棟ともよく似ている。平面が正方形に近く、實際上に柱穴と周溝を廻らす。堅穴建物跡は、一般に入口部と目される張出部を有するが、本遺跡では確認できなかった。水田造成による削平で、消失したと考えられる。微量ながら焼土や炭化物集中部が建物跡内部の床面で確認されているが、炉跡として積極的に解釈できる状態ではなかった。時期は、出土遺物や遺構の形態から中世末～近世初頭と考えられる。第三章でふれたが、本遺跡の堅穴建物跡の形態は、岩手県内の発掘成果では概ね中世と認識されている。今回は中世～近世初頭まで流通する永楽通宝の存在をもって、中世～近世初頭という時期幅を設定した。なお、旧大迫町内では大迫高校の南西にある屋敷遺跡で、中世末～近世初頭の遺物が出土した堅穴遺構が確認されている。本遺跡と類似の正方形の堅穴建物については、中世との認識が示されている。

配置関係では、3棟とも建物軸方向が一致しており、遺跡の北側の旧遠野街道に出していたと推察される。このことから、本遺構は、街道沿いの中世～近世村落を構成する建物群であったと考えられる。

### (4) 近世墓域

近世墓域は密集地区があり、墓域を形成している。平面形状が円形の墓域が主体である。深い墓域では、座屈姿勢で埋葬されているのに対し、浅い墓域では横臥姿勢で埋葬されている。副葬品は非常に少ない。銅鏡、煙管、寛永通宝などがわずかに出土した。遺物は18世紀～19世紀の形態的特徴を有する。なお、人骨、出土遺物は洗浄・実測後に地権者に返却した。

墓石も数点確認された。墓石の年代は、宝永3年(1706年)、天明6年(1786年)、弘化2年(1845年)が確認できた。遺物の特徴と墓石年号は調和的である。地権者によれば、水田地帯に散在していた一部の墓石を墓域に移築したとのことであったが、これら墓石が仮に他所から搬入されたものであったとしても、墓域が18世紀頃から整備されていたことに変わりはないだろう。

さて、下中居I遺跡では3つの年号を確認したが、ここで当時の南部藩の記録をもとに、墓石の年号に近い時期の飢饉を以下に示す。

- 1 元禄14年(1701年)～16年(1703年)飢饉。1702年には 餓死者25,000人に及ぶ。  
1703年には大凶作。
- 2 天明3年(1783年)大飢饉発生。(盛岡藩4大飢饉のひとつ) 餓死者・病死者64,000人、  
他領逃亡者3300人余り。疫病が発生し、滝田村では2/3が死亡する。
- 3 天保3年(1832年)大凶作。  
天保4年(1833年)大飢饉。  
天保6年(1835年)大凶作。  
天保7年(1836年)大凶作。疫病流行  
天保8年(1837年)百姓が多数仙台藩に越境を試みる。



天保9年(1838年)大凶作。5割減収青立ち、人力不熟。

下中居Ⅰ遺跡の墓石の年号は、いずれも人肌甕に見舞われてから数年経過している。肌甕に見舞われている間は、葬送儀礼は簡略化される傾向にあり、おそらく墓石に紀名する余力すらないのであろう。集落の人々が紀名年号入りの墓石を準備できたことは、肌甕の最悪期を脱したことの一つの証拠であり、死亡原因が肌甕によるものとは限らないことを示す。また、肌甕の間は、遺体を川に投棄したり、1基の墓穴に複数の遺体を埋葬せざるを得なかったことが南部藩の記録に残されている。しかし、本遺跡の墓域では、少なくとも1基の墓穴に複数の遺体を埋葬している痕跡はない。この点から本遺跡の墓域に埋葬された遺体は、葬送儀礼が執り行われ、手厚く葬られたと考えられる。

### (5) 採掘坑

9基確認した。調査区幅の関係から、全体形状を把握できた採掘坑はない。坑内掘りと露天掘りがある。目的とする採掘対象は金と考えられる。金は比重が重く、基盤の花崗岩層と、その上に堆積する砂礫層(本遺跡の覆層)との境界に溜まるようである。その砂礫層を日指し、採掘作業が進められる。したがって、崖下のように砂礫層が露出している場所から掘削が始まり、砂礫層の分布する方向に採掘が進んでいく。そして掘削方向は一定でない。本遺跡でも採掘坑の長軸は一定しない。また、調査範囲の制約もあり、入口部が判然としにくい。例えば、9号採掘坑は、袋状施設と溝状施設からなるが、入口が山側の袋状施設なのか、溝状施設の先の崖壁にあるのか不明である。

採掘坑のうち、構築年代が絞れるのは、近世墓壙を切って構築された9号採掘坑のみである。70歳以上の地権者によれば、昭和初期頃には下中居地区で採掘を行っていたという記憶もなければ、話を聞いたこともないという。この情報に従えば、江戸時代後半の近世墓壙よりも新しく、地権者の記憶が明確な昭和初期よりも古い時代に限定される。したがって、9号採掘坑は近世後半～近代の採掘痕跡と言えるのではないかと。なお、大迫町史によれば、中世末ごろからゴールドラッシュとなって採掘が盛んに行われ、南部藩の実行政権が確立する近世初頭頃には採掘活動が停滞したとの見解が示されている。この予想が下中居地区にも当てはまるのかは不明であるが、近世初頭から採掘活動が連続と続いてきた可能性も否定できない。また、筆者が地元住民に下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査成果を報告した際、会場の来客から、「近世期以後の採掘はもっと山の上のほうで行っている可能性が高いと思う。下中居地区のものは、より古い、例えば平泉藤原時代の可能性はないのか?」との質問を受けた。現状では古代に遡る証拠はないが、今後の周辺遺跡での調査によって、古代に遡る採掘坑の発見に期待したい。

ところで、岩手県内においては、陸前高田市の打越遺跡、同東角地遺跡、同古館跡で採掘坑の調査事例がある。特に古館跡では13基確認された。時期は出土遺物から、近世末～近代初頭の可能性が高く、本遺跡の9号採掘坑と同時代である。岩手県内において、鉄などの鉱物資源獲得活動が盛んな時期であり、当時の状況についての考察は、金を含む多種の鉱物資源のあり方を踏まえて行う必要があるだろう。

### 3 遺物

#### (1) 縄文土器の分類

出土資料のなかで、最も多い。Ⅰ～Ⅶ群にグルーピングし、その中を施文要素によって、細分した。これらのうち、大半を占めるのはⅣ・Ⅴ群である。また、Ⅶ群も胎土や器形の特徴などから、ほとんどが、Ⅳ・Ⅴ群と同時期のものと考えられる。

Ⅰ群は、To-Cu降下前後の時期に隆盛する。下中居Ⅱ遺跡では3層からTo-Cuブロックが確認された。今回の調査では、数点の出土にとどまった。

Ⅱ・Ⅲ群は、口唇部の鋸歯状突起、口縁部の鋸歯状、山形状沈線などを特徴とする。奥州市大清水上遺跡でまとまって出土している。この時期に岩手県内陸部と秋田県内陸部において、環状集落が発生しているが、広域に広がる大木式の齊一性が顕著になる一方で、集落数が増加し、地域への定着性が進行している時期でもある。今回の調査では、下中居Ⅰ遺跡において、Ⅱ・Ⅲ群土器の時期の遺構を確認できなかったが、下中居Ⅱ遺跡の1号捨て場に一定量の遺物がみられることから、下中居Ⅰ遺跡範囲内に当該期の何らかの施設が構築された可能性はあるだろう。

Ⅳ群は口縁肥厚帯の文様要素に着目した論文(松田2002・2003・2004)を参考にして、古段階、中段階、新段階の3段階に区分してみた。個体数では多重太沈線の特徴の一つとする新段階の資料が主体である。また、西和賀町清ヶ野遺跡で着目されたオオバコ回転文土器も本遺跡に一定量存在する。清水ヶ野遺跡での調査成果から、オオバコ回転文は大木6式期頃に出現すると考えられている。本遺跡出土のオオバコ回転文土器は小～中型深鉢で、筒形の資料に多く施文されている。県内ではⅣ群土器の出土遺跡は、内陸、沿岸を問わず多い。田野畑村和野Ⅰ遺跡、花巻市高畑遺跡、北上市鳩岡崎遺跡、同滝ノ沢遺跡、西和賀町峠山牧場Ⅰ遺跡B地区、奥州市宝性寺跡、同大中田遺跡、同新田遺跡、住田町里小屋遺跡、一関市清田台遺跡など資料が豊富にある。

Ⅴ群は、縦位隆帯や口縁部文様帯の多段化などが見られる資料である。本遺跡の住居跡の多くがⅤ群土器を伴う。本遺跡周辺遺跡としては、花巻市天神ヶ丘遺跡、同高畑遺跡がある。このほか、県内では田野畑村和野Ⅰ遺跡、北上市鳩岡崎遺跡、同滝ノ沢遺跡、西和賀町峠山牧場Ⅰ遺跡B地区、奥州市宝性寺跡、同大中田遺跡、同新田遺跡、住田町里小屋遺跡、一関市清田台遺跡など、ほぼⅣ群のまとまった資料のある遺跡ではⅤ群も豊富に出土している。Ⅴ群の中で、口縁部文様帯に見られる細沈線のまとまりを特徴とする「集合沈線文土器」に着目し、岩手県内におけるその分布状況から、北陸あるいは関東方面からの影響を指摘する意見が出されている(須原2005)。現状では秋田県方面との連絡経路に位置する北上市・奥州市内の遺跡に「集合沈線文土器」の出土数が多いが、本遺跡でもこれに該当する資料は僅かながら存在する。また、本群においては、円筒系土器文化の影響を示す要素として、地文を燃糸文とする土器の比率を検討することが一視点となっている。岩手県内では北部地域ほど、遺跡内における燃糸文土器の比率が高く、南部ほど比率が低い傾向が指摘されている(須原2005・2008)。本遺跡での木目状、網目状などの燃糸文土器の量は、全体の約20%を占める。これは岩手県中央部の遺跡としては、通常の集落跡に見られる一般的な傾向と一致している。

Ⅶ群土器は、フラスコ状土坑内からまとまって出土したが、数量は少ない。Ⅶ群は、Ⅴ群土器に見られる口縁部文様が、口縁部と胴部との境界を越えて施文されるようになり、胎土から砂粒量が減少している。

## (2) 出土土器の黒斑とスス・コゲの分布

出土土器のうち、黒斑とスス・コゲの分析が可能な13個体についてそのデータを第116・117図に図示した。完形近くまで復元可能な個体が少ないため、小型・大型・特大型などの容量別データに偏りがある。特大型で完形近くまで復元できたのは、1332だけである。黒斑とスス・コゲの分布では、本遺跡出土資料とほぼ同時期の土器群である青森県三内丸山遺跡出土資料のデータが公開されている(小林ほか2005)。これによれば、厚手で筒状に細長い大型の円筒系土器の多くは、焼きムラを防ぐために、地面に寝かされて、太薪を内側に入れ、上向き面側外面を薪で覆う。さらに、焼成途中に焚火のなかで数回土器を転がし、焼きムラができないように努めていたと推定されている。

本遺跡では長胴タイプの土器が多く、円筒系土器文化の野焼き方法に類似の黒斑とスス・コゲの分布が確認された。寝かされた状態で焼成されたと考えられる土器は、1364、1413、58、57、1051、1363、1279、1324、1015、1332が該当する。さらにより大型の個体については、57、1051、1332、1324など接地面と上向き面の両外面に黒斑が分布し、オキ密着黒斑の見られるものがあり、より大型の個体が焼成中に焼成途中で転がされたと考えられる。したがって、三内丸山遺跡資料と同様に、大型の個体ほど火回りが良くなるよう努めていたと言える。縄文土器には「最初から横倒しにして焼く」、「最初は立てて置き、途中で横倒しにする」など、野焼き方法に差がある(久世ほか1999)と推定されている。「最初から横倒しに置いた方が上向き側外面の中軸線上に多くの薪・オキが載りやすい」(須原ほか2005)が、1364、1363、58、57にその特徴が見られる。一方、113、180など小型土器は、最初を立てて置かれた可能性があろう。

次にスス・コゲの分布を見てみる。付着しているスス・コゲは、その土器が最後に煮沸具として利用された際の使用痕跡である。煮こぼれによって外面に付着するコゲを除けば、基本的に外面付着がスス、内面付着がコゲと認識できる。内面と外面では付着位置に相関関係があり、胴下部外面にススが付着していると、その内面にコゲは付着していないことが多い。検討対象の土器のスス・コゲは非常に薄い。複数の喫水線の痕跡があれば、複数回使用の根拠となるが、1332以外は明確な喫水線が見られない。また、外面の摩耗が進んでいる個体もそれほど多くないことから、検討した本遺跡の土器は、使用頻度が低くないと推察される。焚火内では火の当たる場所が高温になり、ススは飛ぶが、内面には内容物のコゲが付着する。外面の胴下部よりやや上部にススが分布しない個体(1413、180、1264、58、57、1051、1363、1332、1324など)が多いことから、煮炊き時は底部付近がオキに埋まった状態であったと考えられる。スス・コゲの分布に規則性がないものとしては、1015のような装飾性に富む個体である。焼成時に付着したススとも考えられ、1015については使用頻度が低いか、あるいは煮炊具としては利用されていない可能性もある。

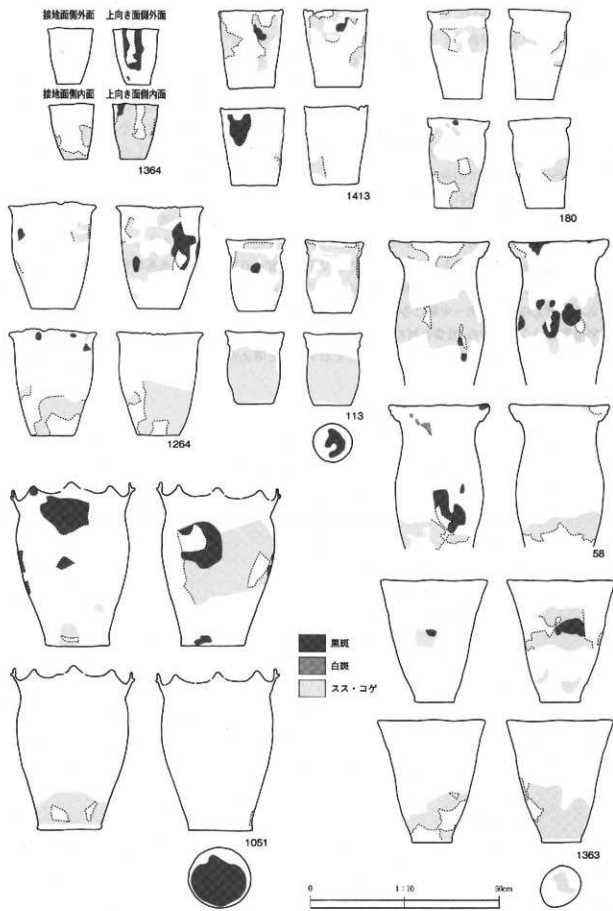
以上、本遺跡出土土器の黒斑、スス・コゲの分布を概略した。一般的黒斑の分布と、煮炊きに利用されたスス・コゲの分布が見られる個体が多いと判明した。

## (3) 石 器

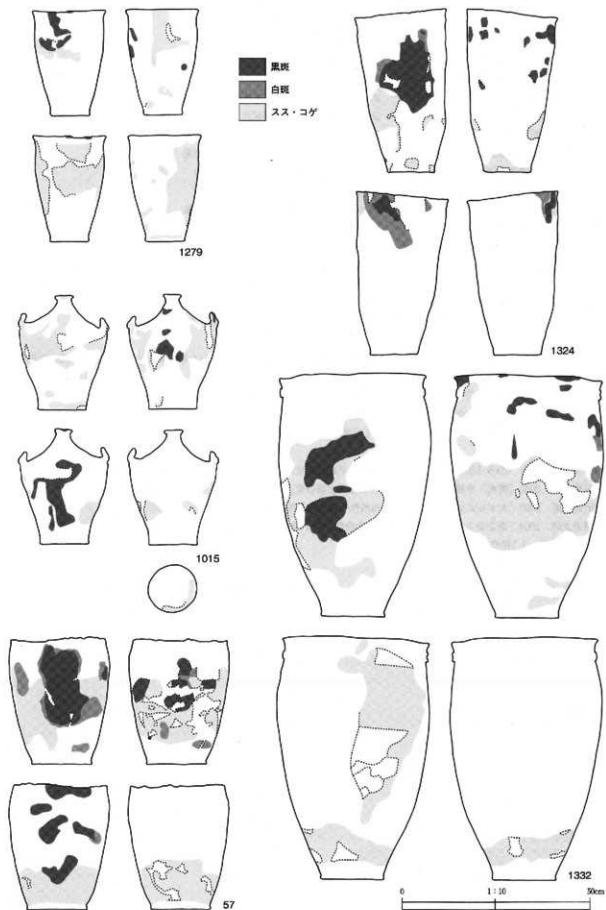
岩手県内の縄文時代前期から中期初頭にかけては、石器の出土量は決して多くない。前記の同時期の県内遺跡においても土器の出土量にくらべると、石器数は少ない傾向にある。本遺跡でも同様で、石製利器の出土量は多くない。下中居Ⅰ・Ⅱの石器組成からは、狩猟具が少なく、スクレイパー類などの切断具が多い傾向が見て取れる。集落内での消費を基本とする利器のほうが捨て場に廃棄される率が高いという、当然の結果である。ただし、もともと石器が少ないという現象を、いかなる理由に

求めるのかは今後も検討していく必要があるだろう。例えば、円筒系土器文化圏内の土坑墓を検討すると、副葬品として狩猟具とともに石匙の伴出する事例があるが、円筒系文化の石匙には植物加工の痕跡であるA・Bタイプ光沢の出現頻度が高いことが明らかにされており、男性が狩猟時に石匙を携行し、植物資源の獲得にも関与している（高橋2009）との想定がなされている。この中で高橋は、さらに論を進めて縄文土器の施文具となる縄類を男性が調達することで、土器作りに間接的に参加しているのではないかと想定している。今後の資料増加によってさらなる検討が必要であろうが、少なくとも石匙などのスクレイパー類が日常的な狩猟採取に携行される可能性を指摘したことは大きい。スクレイパー類が集落内でのみ利用するものではなく、携行するのが当時のライフスタイルであったとすれば、携行先で廃棄されることもあるため、捨て場など一定の場所に廃棄される石器量はそれほど多くないと考えられるからである。縄文時代石器群に関する研究は決して活発ではないが、縄文時代前期～中期初頭の石器の多寡については、検討の余地がまだ十分にあるだろう。

石材に焦点を当ててみると、本遺跡では近傍で採取可能な石材（北上山地系頁岩、砂石、早池峰構造帯の蛇紋岩など）を多用しており、遠隔地（奥羽山脈系や山形県方面等）の良質石材の利用は低調である。縄文時代前期末～中期は各地域への定着化がいつそう進んだ時期であることから、遠隔地石材利用減という現象から、良質石材の確保が困難となったと考えられなくもないが、むしろ縄文人が、地域内資源の積極的な活用を行っていたことを示すものと考えたい。



第116図 黒斑とスス・コゲの分布 (1)



第117図 黒斑とスス・コゲの分布 (2)

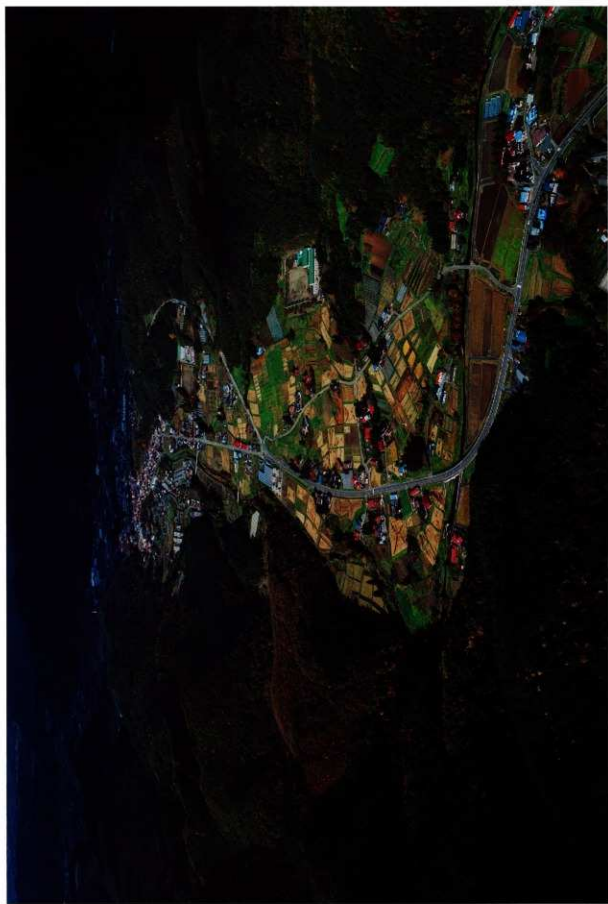
## 参考・引用文献

- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『打越・東角地遺跡・古館跡』 岩文振報告書第131集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『陣山牧場Ⅰ遺跡B地区』 岩文振報告書第320集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『清水ヶ野遺跡』 岩文振報告書第331集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『新田遺跡』 岩文振報告書第405集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『清田台遺跡』 岩文振報告書第412集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『人中田遺跡』 岩文振報告書第429集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『高畑遺跡』 岩文振報告書第439集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『宝性寺跡』 岩文振報告書第441集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『和野Ⅰ遺跡』 岩文振報告書第452集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 『滝の沢地区』 岩文振報告書第456集
- 08岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『大清水上遺跡』 岩文振報告書第475集
- 大迫町教育委員会 1974 『天神ヶ丘遺跡』 大迫町
- 久世健二・小島俊彰・北野博司・小林正史 1999 『黒斑からみた縄文土器の野焼き方法』 『日本考古学』 8 日本考古学協会
- 小林道雄編 2008 『総覧 縄文土器』 『総覧 縄文土器』 刊行委員会
- 須原 拓 2005 『大木7a式土器にみられる「集合沈線文系土器」について』 『紀要』 XXIV 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 須原 拓・米田 寛・北村忠昭・小林正史・長友朋子・中村大介 2005 『黒斑からみた東北地方の縄文土器の野焼き方法』 『日本考古学協会第71届総会研究発表要旨』 日本考古学協会
- 高橋 哲 2009 『円筒下層式文化十坑Ⅲ十石器の使用痕分析』 『石器使用痕分析研究会発表要旨』
- 千葉正彦 2007 『和賀川上・中流域における大木6式土器』 『紀要』 XXVI 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 百々幸雄・巖川渉・澤田純明 2003 『北上山地に日本更新世人類化石を探る—岩手県大迫町アバクテ・風穴割穴遺跡の発掘—』 東北大学出版会
- 花巻市教育委員会 2006 『歴数遺跡発掘調査報告書—平成17年度調査—』 大迫町埋蔵文化財報告書第25集
- 松岡光太郎 2002 『関東・中部地方における十三苜提式土器の変遷』 『神奈川考古』 38
- 松岡光太郎 2003 『大木6式土器の変遷とその地域性—縄文時代前期末葉の東北地方中・南部の土器編年—』 『神奈川考古』 39
- 松岡光太郎 2004 『東北地方北部における縄文時代前期から中期への移行期の様相—円筒下層c・d式土器の変遷と大木式土器との関係—』 『神奈川考古』 40

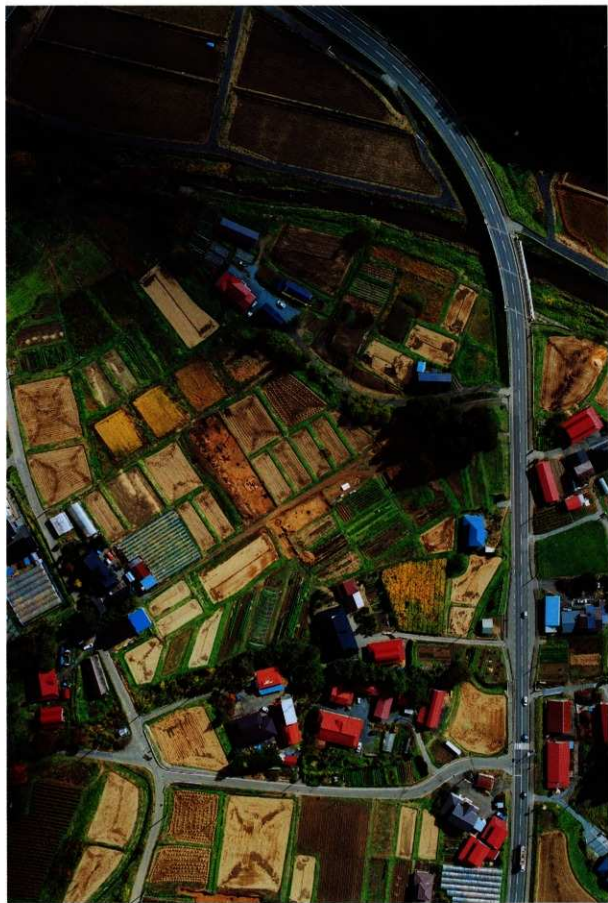
# 写 真 图 版







写真図版1 遺跡全景航空写真



写真図版2 調査区全景航空写真(1)



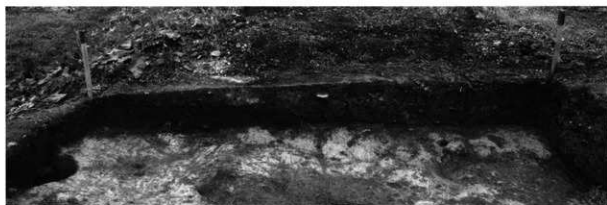
北西調査区全景（写真下が北）



中央調査区全景（写真左が北）



全景



南北壁断面



東西壁断面

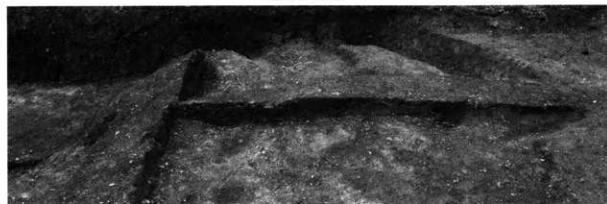
写真図版4 1号竪穴住居跡(1)



断面（南北方向）



断面（東西方向）



断面（東西方向東部）



炉 1 全景



炉 1 焼土除去後



炉 1 南北断面① (W→)



炉 1 南北断面② (E→)



炉 1 東西断面① (S→)



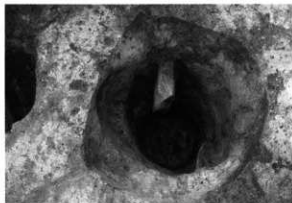
炉 1 東西断面② (N→)



住居内出土遺物(13)



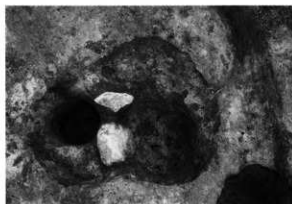
1号住 P1



1号住 P2



1号住 P2断面



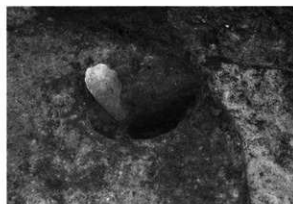
1号住 P5



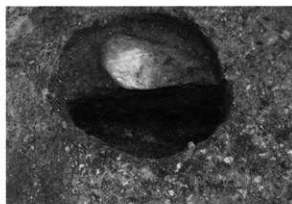
1号住 P5断面



1号住 P11



1号住 P16断面



1号住 P19断面





全景



北東部近景



土坑1全景



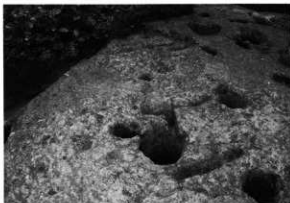
土坑1断面



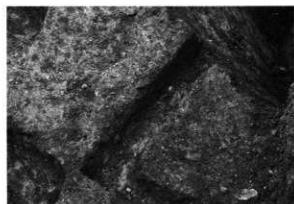
土坑1遺物出土状況



炉1全景



炉1焼土除去後



炉1南北断面(東側①)



炉1南北断面(東側②)



炉1南北断面(西側①)



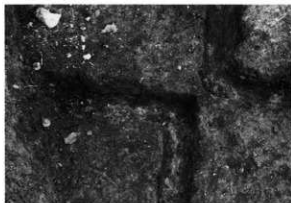
炉1南北断面(西側②)



炉1東西断面(中央部①)



炉1東西断面(中央部②)



炉1 東西断面 (東側)



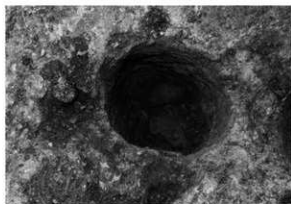
炉1 東西断面 (西側)



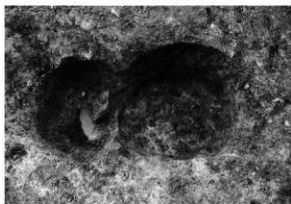
2号住 P10出土遺物(33)



2号住 P26断面



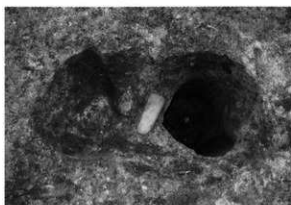
2号住 P55



2号住 P56・57



2号住 P58



2号住 P66・67



全景 (内容確認調査区)



東西断面



南北断面



炉1断面①



炉1断面②



炉1断面③



炉1断面④



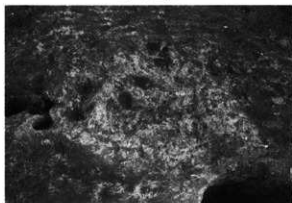
炉1 焼土除去後



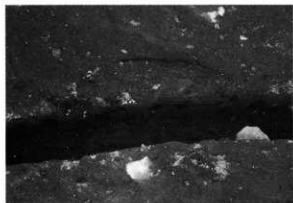
炉2 炉全景



炉2 炉断面



炉2 焼土除去後



烧土1断面



烧土2断面



烧土3



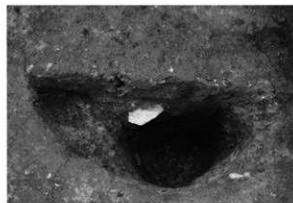
烧土3断面



3号住 P11



3号住 P20断面



3号住 P23



遗物(58)出土状况



全景（内容確認調査区）



炉1断面①



炉1断面②



炉1断面③



炉1断面④



炉1焼土除去後



壁溝断面



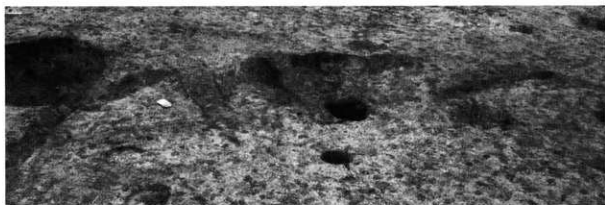
土坑1遺物(90)出土状況

写真図版15 4号竪穴住居跡(2)





全景



南北断面



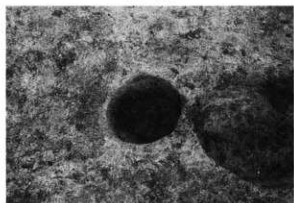
東西断面



焼土1断面



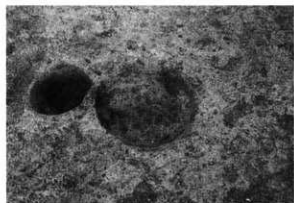
焼土2断面



5号住 P1



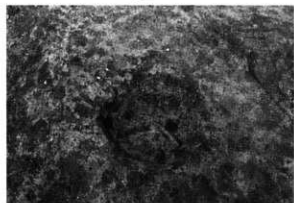
5号住 P1断面



5号住 P2



5号住 P2断面



5号住 P3



5号住 P3断面



1号土坑断面



1号土坑遺物(113)出土状況



2号土坑断面



2号土坑遺物出土



3号土坑



3号土坑断面・遺物出土状況



4号土坑



4号土坑断面



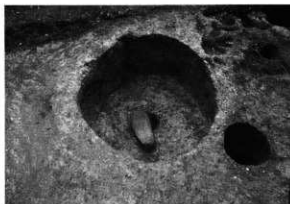
5号土坑



5号土坑断面



6号土坑



6号土坑出土状況



6号土坑断面



7号土坑



8号土坑



8号土坑断面



9号土坑遺物出土状況



9号土坑



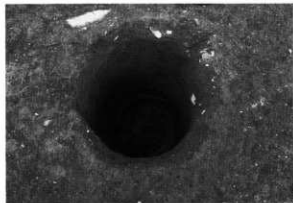
9号土坑断面



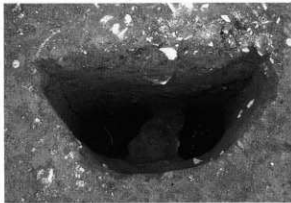
10号土坑



10号土坑断面



11号土坑



11号土坑断面



12号土坑



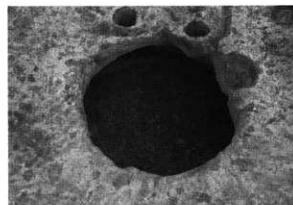
12号土坑断面



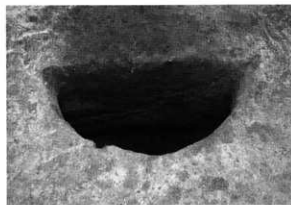
13号土坑



13号土坑断面



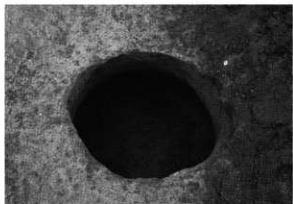
14号土坑



14号土坑断面



15号土坑遺物出土状況



15号土坑



15号土坑断面



16号土坑



16号土坑断面



17号土坑



17号土坑断面



1・2号焼土



1号焼土検出



1号焼土断面

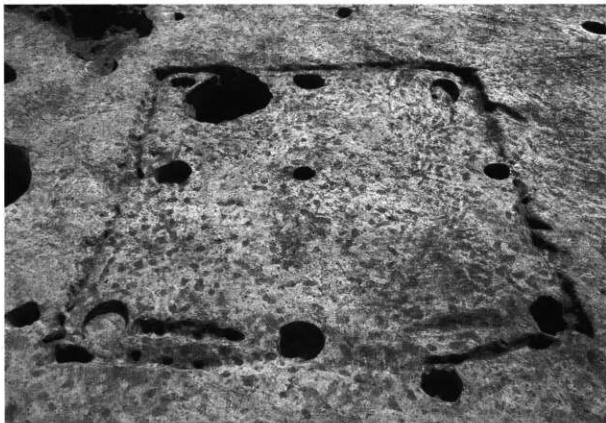


2号焼土検出

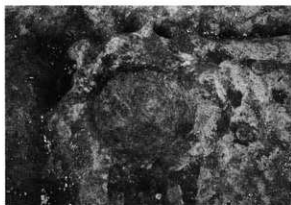


2号焼土断面





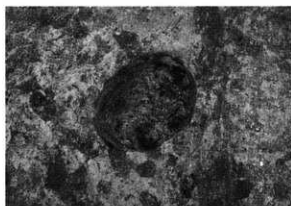
全景



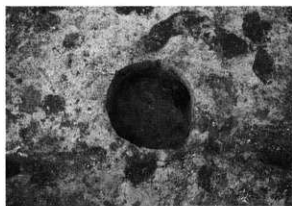
1号建物 P1



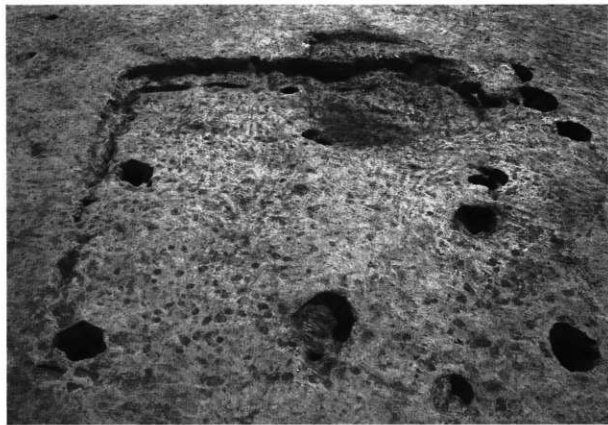
1号建物 P3



1号建物 P4



1号建物 P6



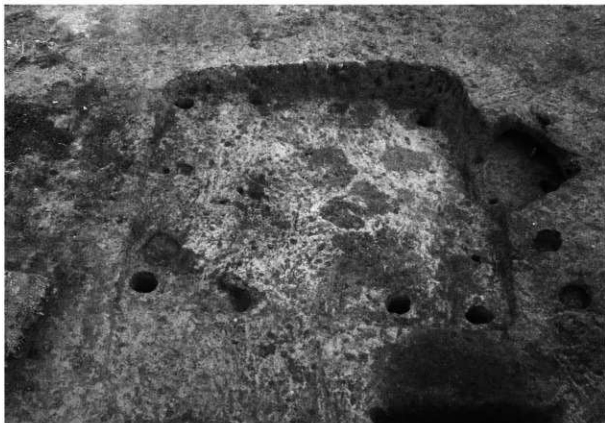
全景



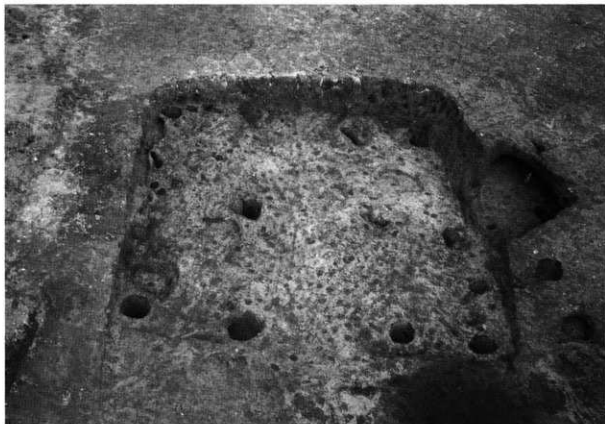
南北断面



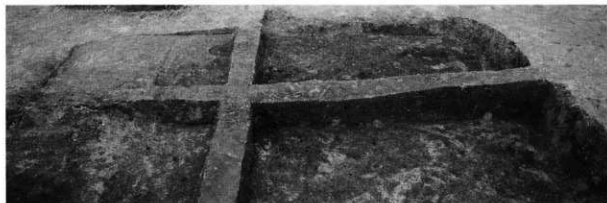
東西断面



全景



掘り方



南北断面



東西断面



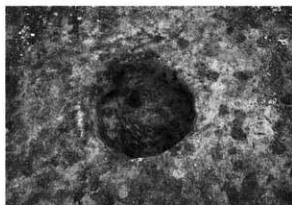
炭化物集中南北断面



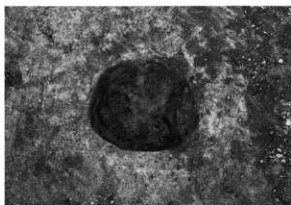
炭化物集中東西断面



全景



P52



P53



P54



P54断面



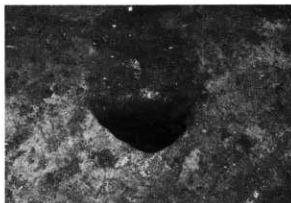
P54羽口出土状況



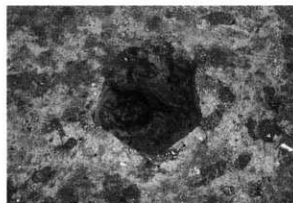
P57



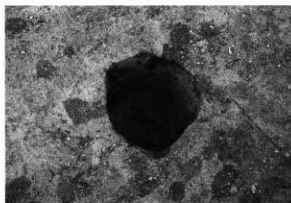
P58



P62



P63



P64



北西調査区遠景①



北西調査区遠景②



2号獨立柱建物跡全景



柱穴列1



墓域現況



墓石



近世墓塚群遺物出土状況



近世墓塚完掘





9号探掘坑と1~3号近世墓墳



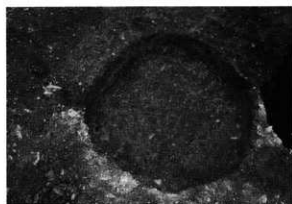
1号近世墓墳



2号近世墓墳



2号近世墓墳人骨出土状況



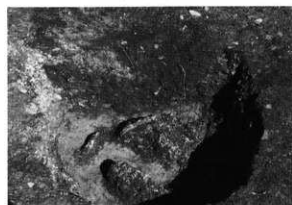
3号近世墓墳



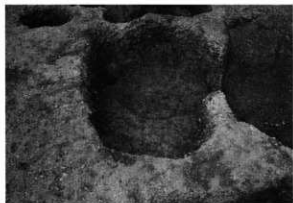
3号近世墓墳断面



4号近世墓墳



4号近世墓墳断面・人骨出土状況



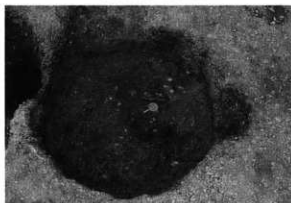
5号近世墓墳



5号近世墓墳遺物出土状況



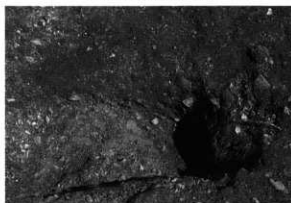
6号近世墓墳



6号近世墓墳遺物出土状況



7号近世墓墳



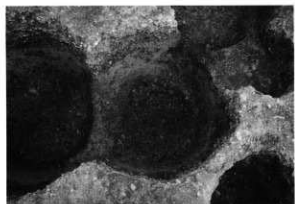
7号近世墓墳断面



8号近世墓墳



8号近世墓墳遺物出土状況



9号近世墓墳



9号近世墓墳人骨出土状況



10号近世墓墳



10号近世墓墳人骨出土状況



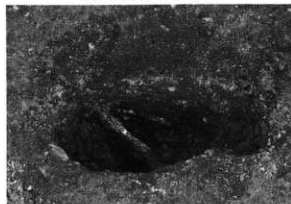
11号近世墓墳



11号近世墓墳人骨出土状況



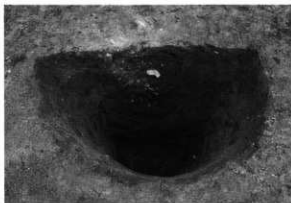
12号近世墓墳



12号近世墓墳断面



18号土坑



19号土坑断面



19号土坑



2号探掘坑



1号探掘坑



3号探掘坑



5号探掘坑断面



4号探掘坑



6・7号探掘坑



全景（北側が確認調査範囲）



北側ベルト断面



南側ベルト断面



20号土坑西側断面



20号土坑断面



21号土坑



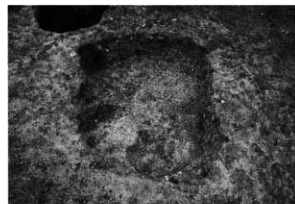
21号土坑断面



22号土坑



22号土坑断面



23号土坑



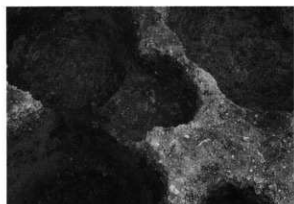
23号土坑断面



24号土坑



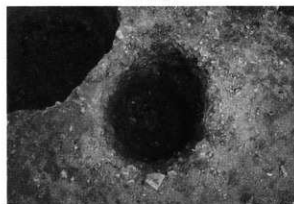
24号土坑断面



25号土坑



25号土坑断面



26号土坑



26号土坑断面



27号土坑



27号土坑断面

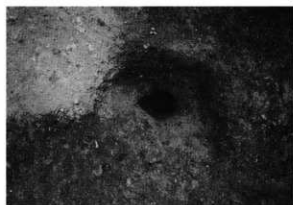




28号土坑



28号土坑断面



29号土坑



30号土坑



31号土坑



34号土坑断面



34号土坑



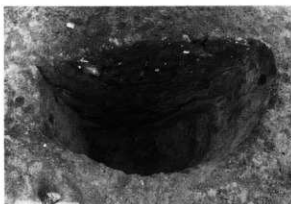
35号土坑



35号土坑断面



36号土坑



36号土坑断面



37号土坑



37号土坑断面



38号土坑



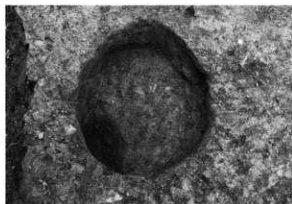
38号土坑断面



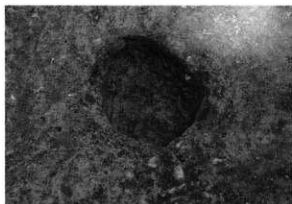
P1



P3



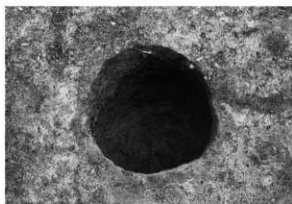
P6



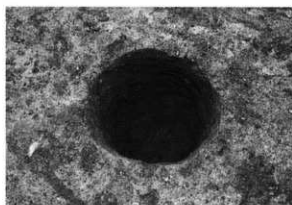
P7



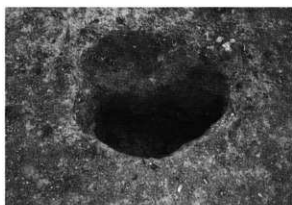
P8



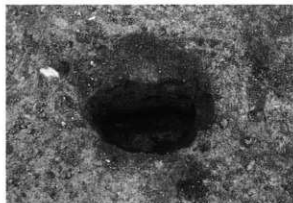
P12



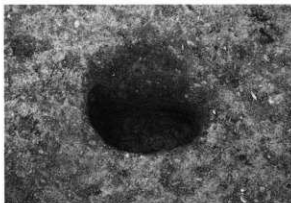
P13



P25



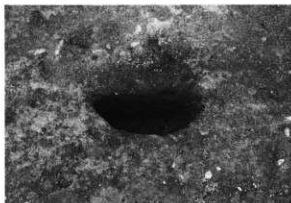
P26



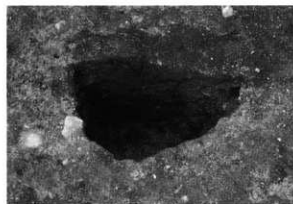
P27



P28



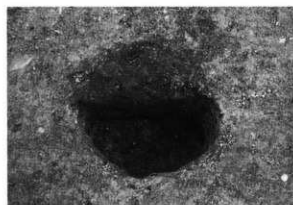
P29



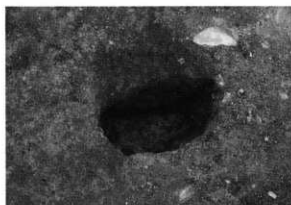
P30



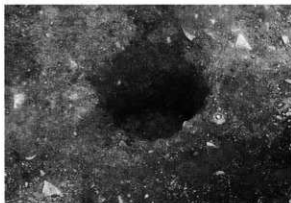
P31



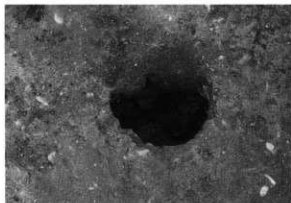
P32



P33



P34



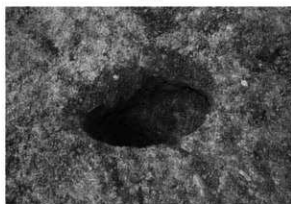
P35



P36



P37



P38



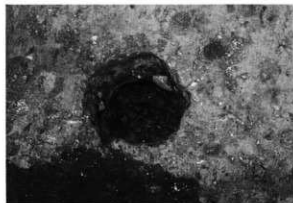
P39



P40



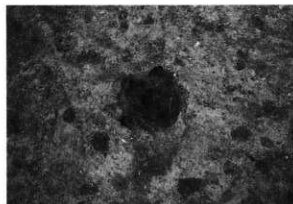
P41



P44



P45



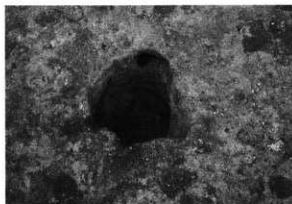
P46



P47



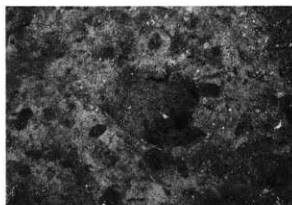
P48



P49



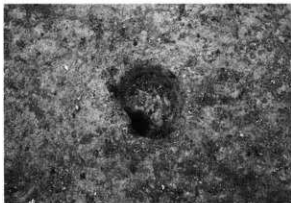
P49確出土状況



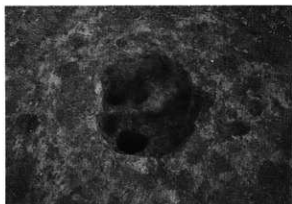
P50



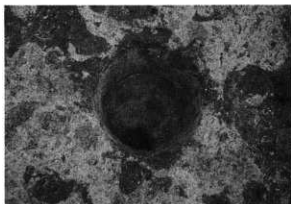
P55



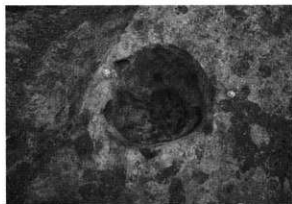
P56



P59



P60



P61



P61断面



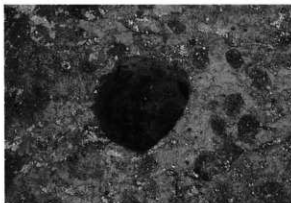
P68



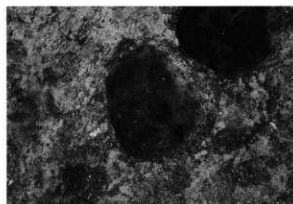
P69



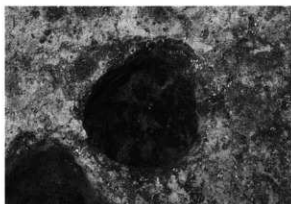
P70



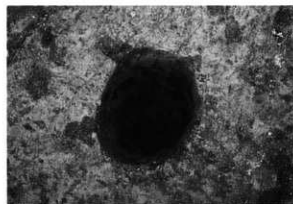
P71



P72



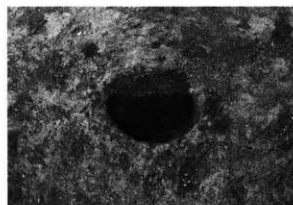
P73



P74



P80



P88

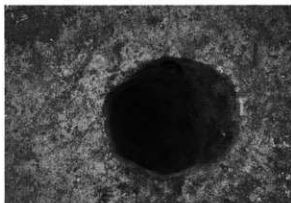


P89





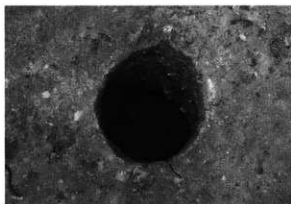
P90



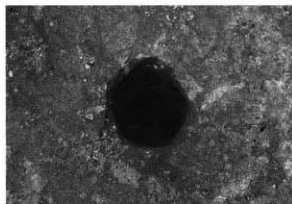
P97



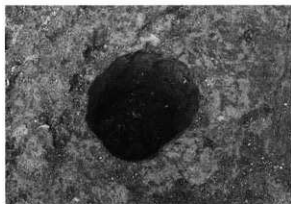
P100



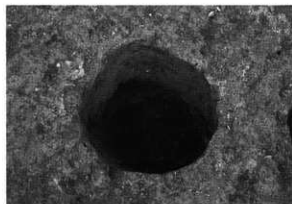
P103



P104



P105



P106



P107



北東区北端トレンチ完掘



北東区トレンチ2



深掘トレンチ



現地公開1



現地公開2



現地公開3



航空写真（写真上が北）



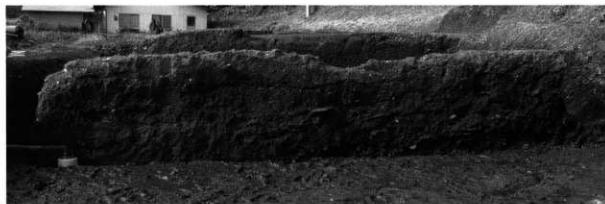
現況及び試掘作業



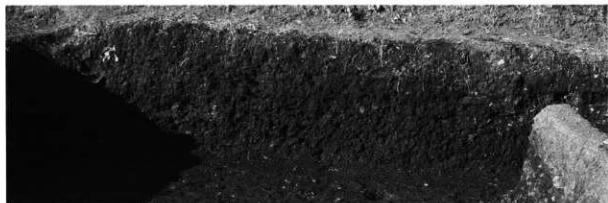
18H51～71グリッド断面 (A-A')



18I72～19I12グリッド断面 (B-B')



18I85・18I95・19I5・19I15グリッド断面 (C-C')



調査区北壁断面 (E1-E2西側)



調査区北壁断面 (E1-E2東側)



調査区北壁断面 (E2-E3)



調査区北壁断面 (E3-E4)



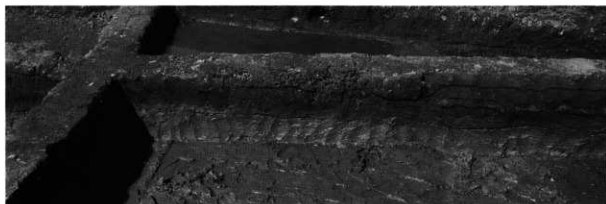
メインベルト断面 (D-D' ①)



メインベルト断面 (D-D' ②)



メインベルト断面 (D-D' ③)



メインベルト断面 (D-D' ④)



メインベルト断面 (D-D' ⑤)



181・191グリッド 2d層 遺物出土状況



18H70・80・90グリッド II d層 遺物出土状況

写真図版55 1号捨て場(5)





遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



調査風景 1



調査風景 2



メインベルト遠景



作業風景



18H51・61・71グリッド トレンチ完掘



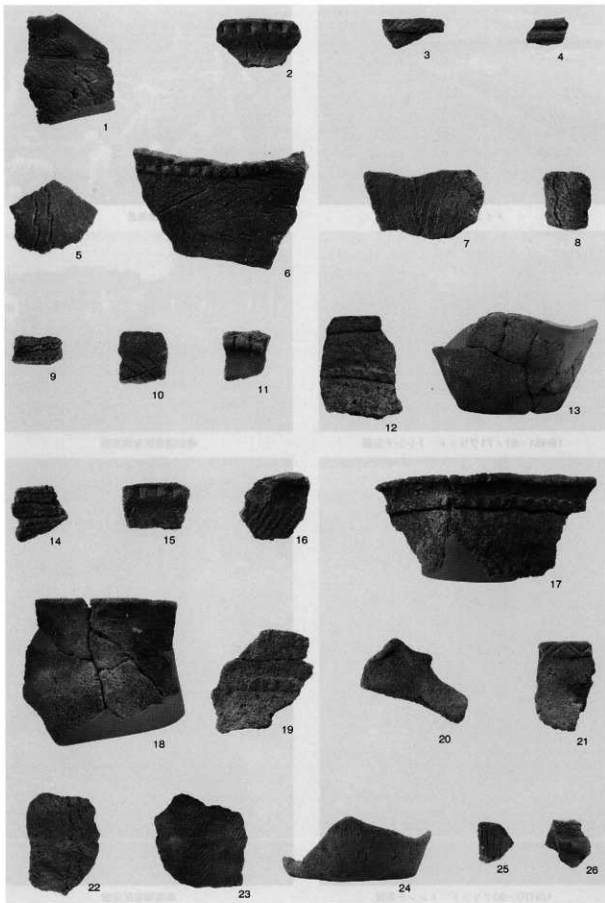
確認調査区東側完掘



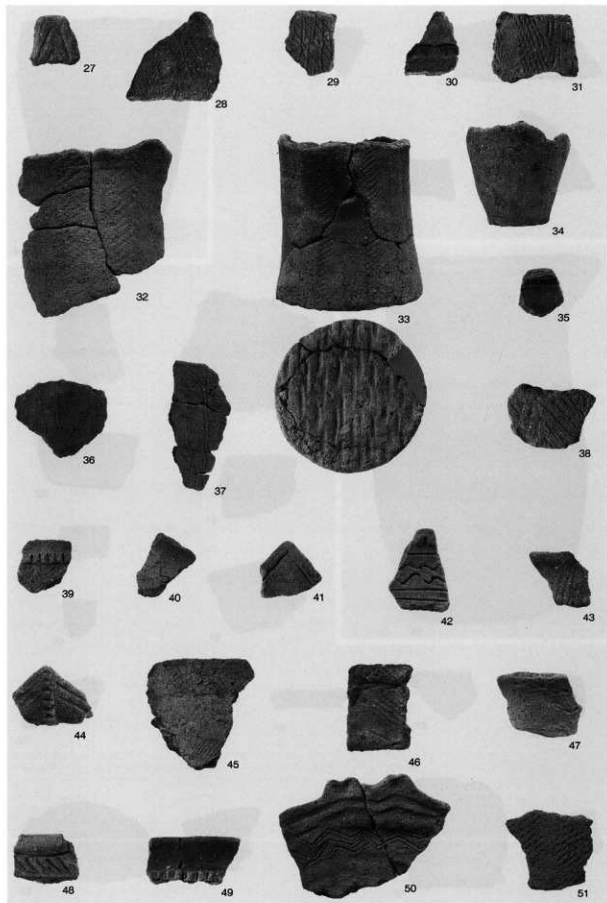
18H70～90グリッド トレンチ完掘



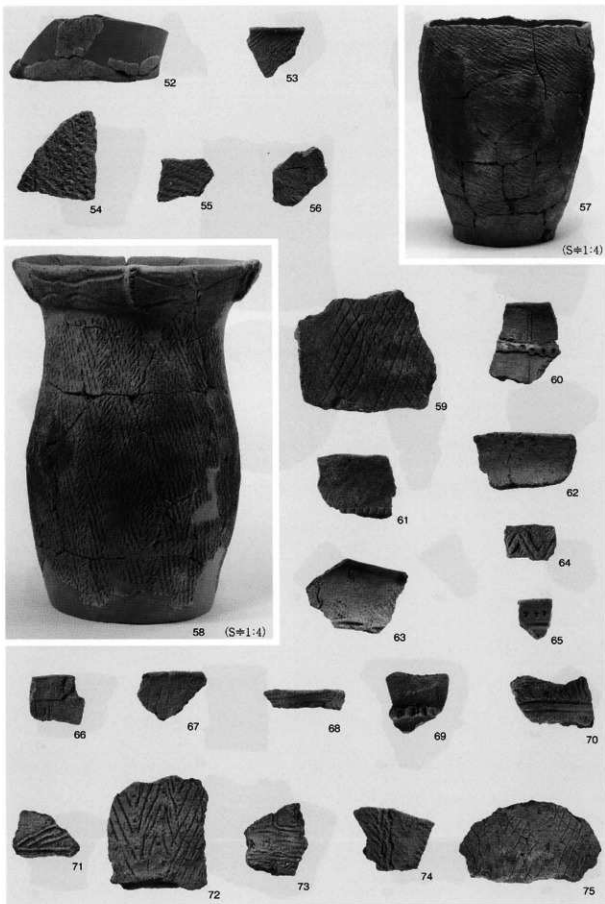
南端調査区完掘



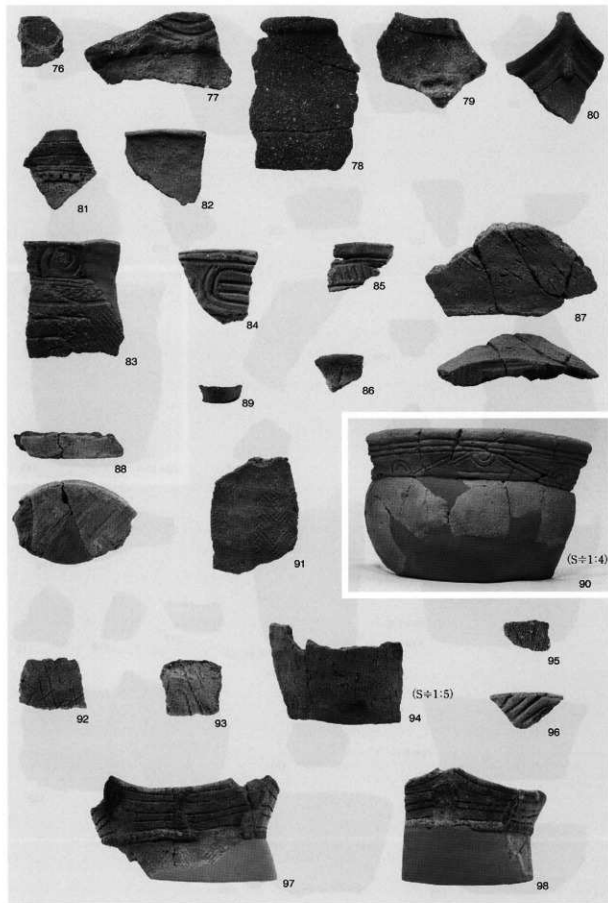
写真図版58 出土遺物(1)



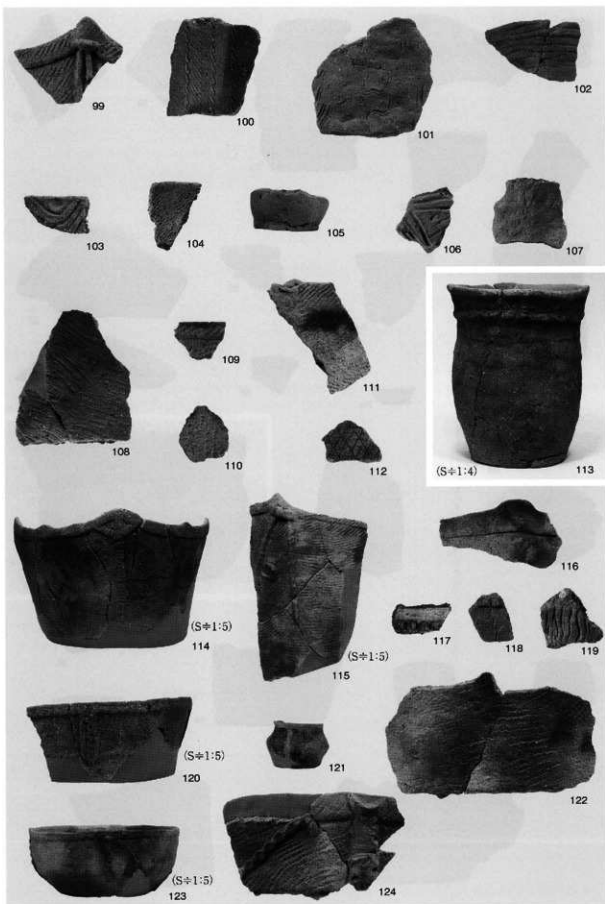
写真図版59 出土遺物(2)



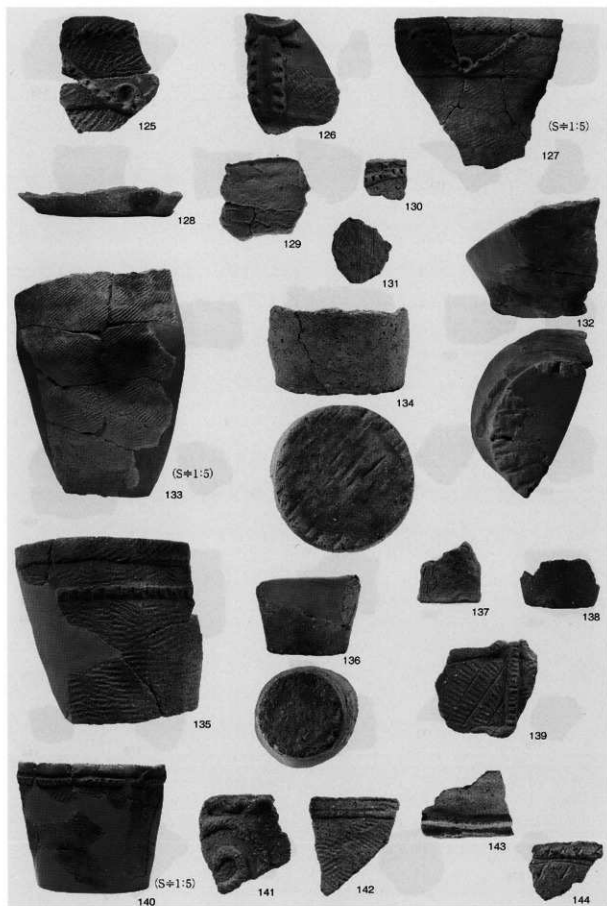
写真図版60 出土遺物(3)



写真図版61 出土遺物(4)

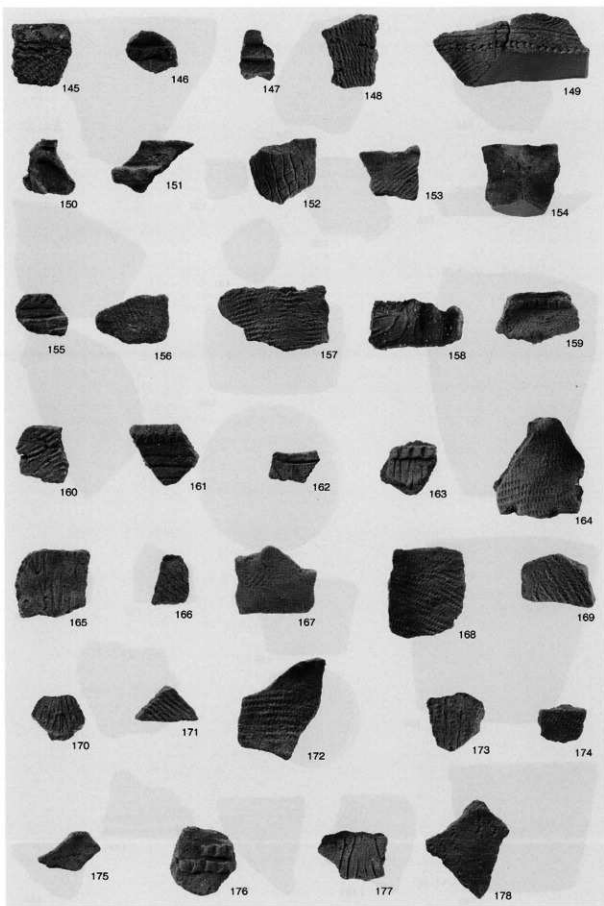


写真図版62 出土遺物 (5)

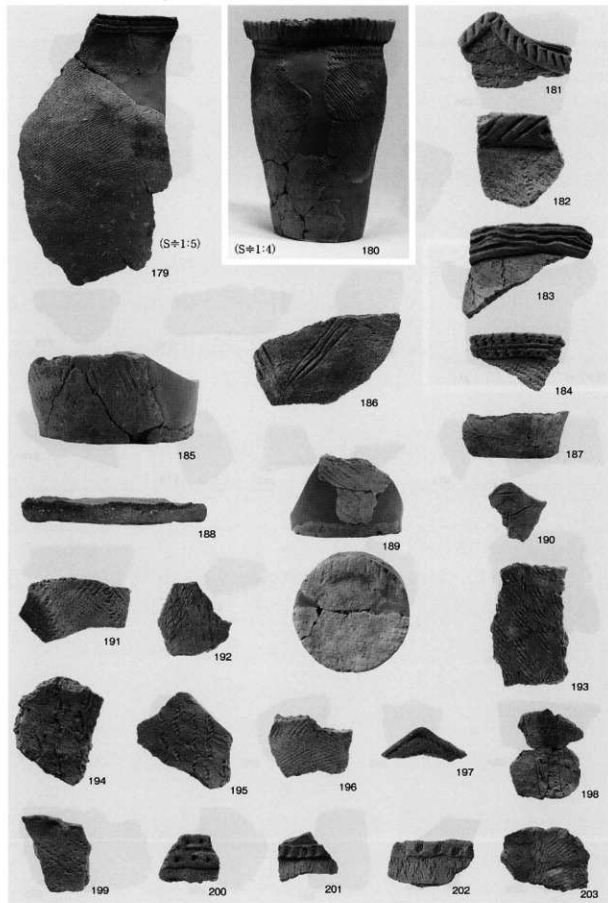


写真図版63 出土遺物(6)

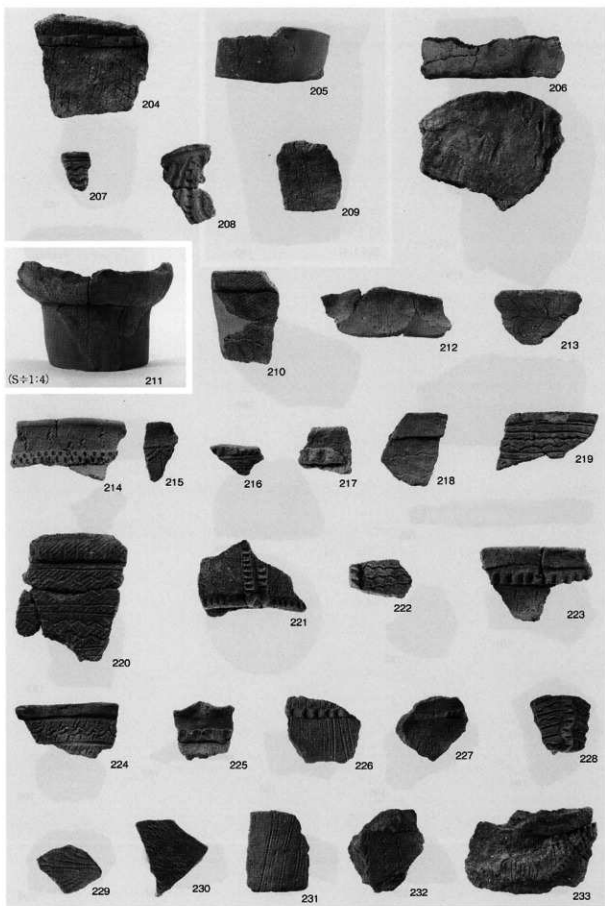




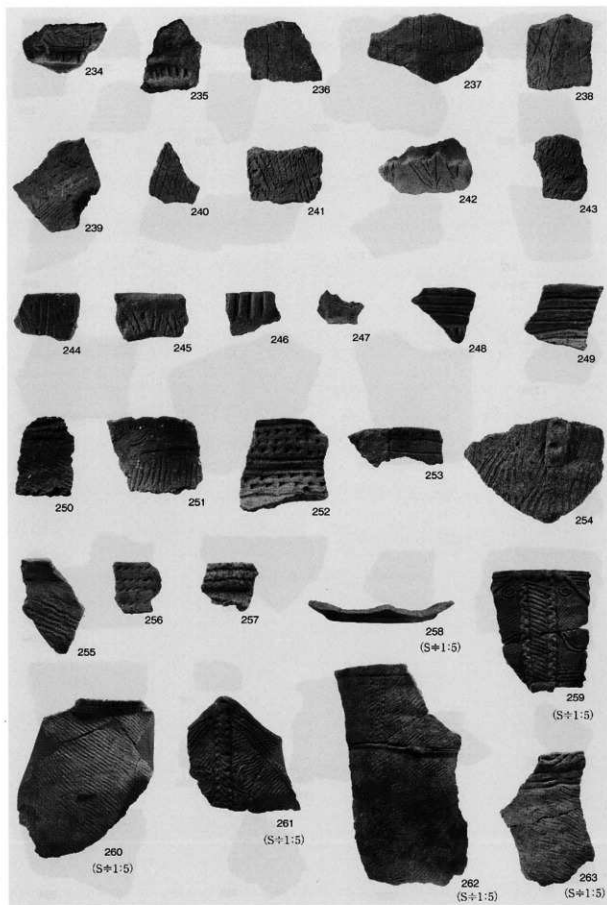
写真図版64 出土遺物(7)



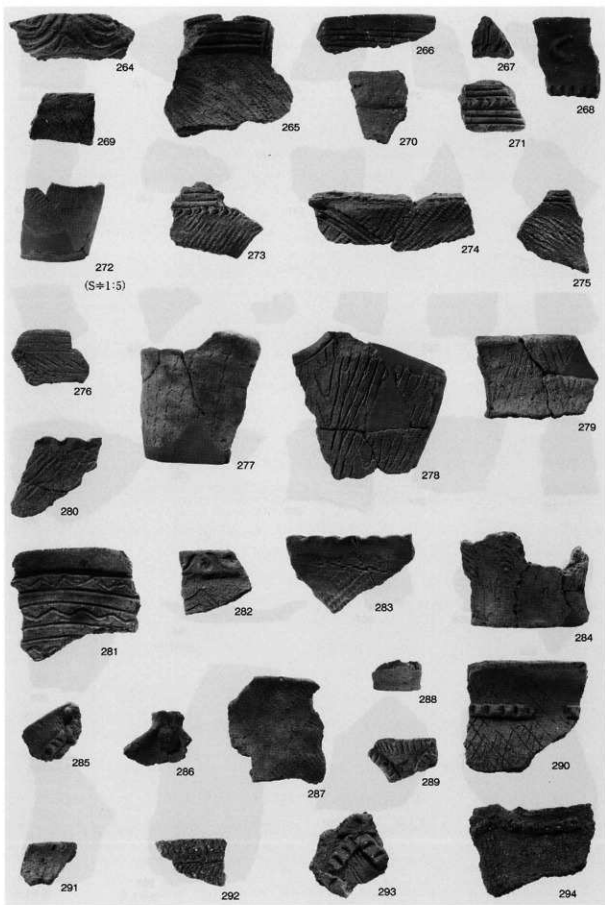
写真図版65 出土遺物(8)



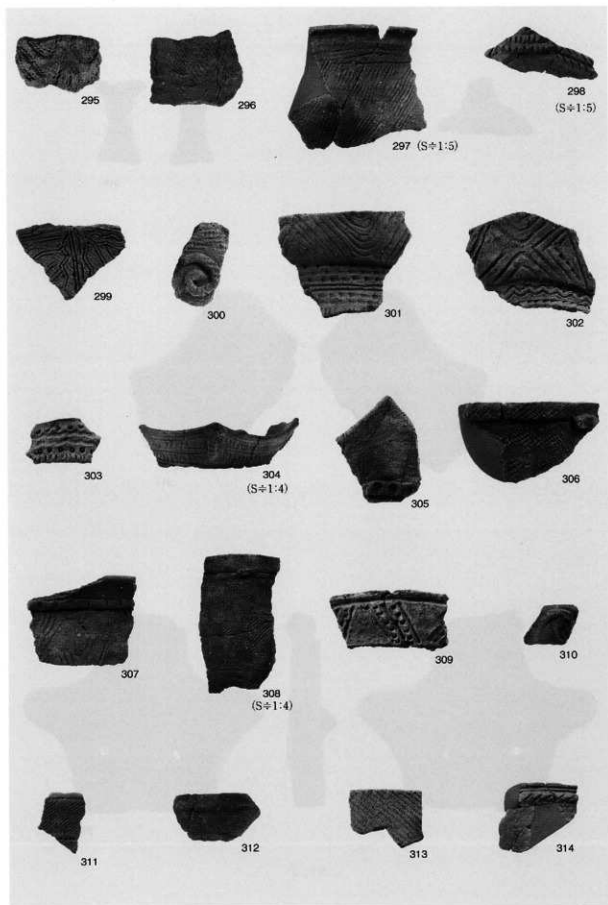
写真図版66 出土遺物(9)



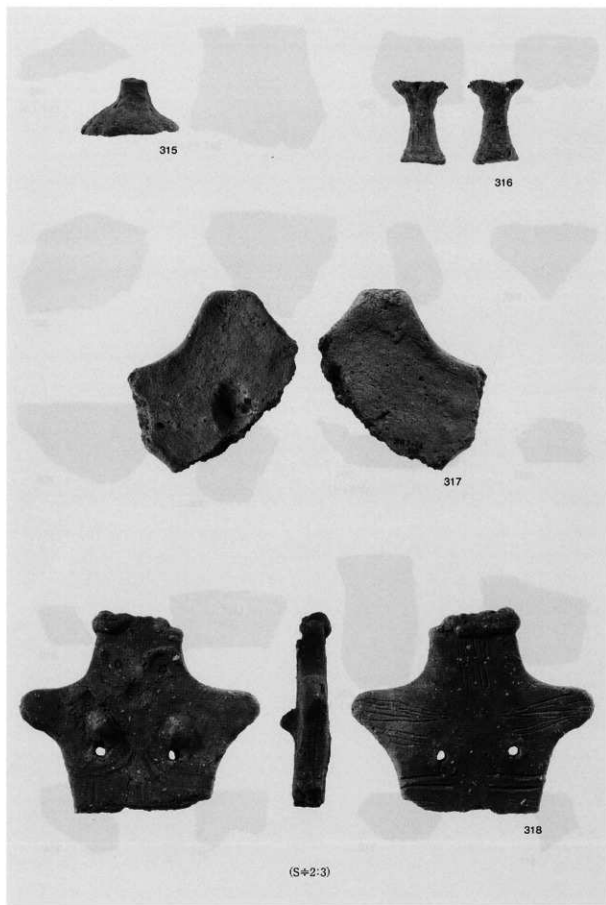
写真図版67 出土遺物 (10)



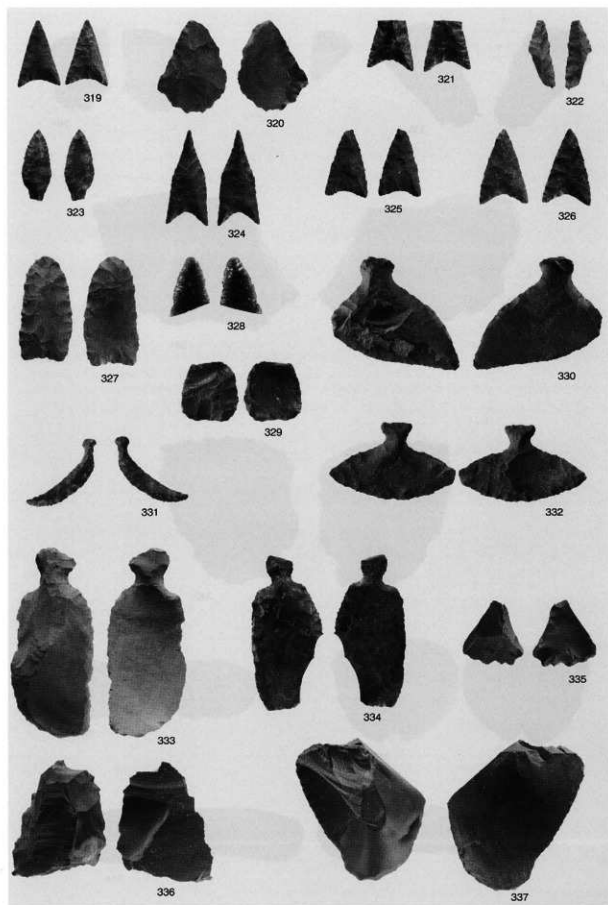
写真図版68 出土遺物 (11)



写真図版69 出土遺物 (12)

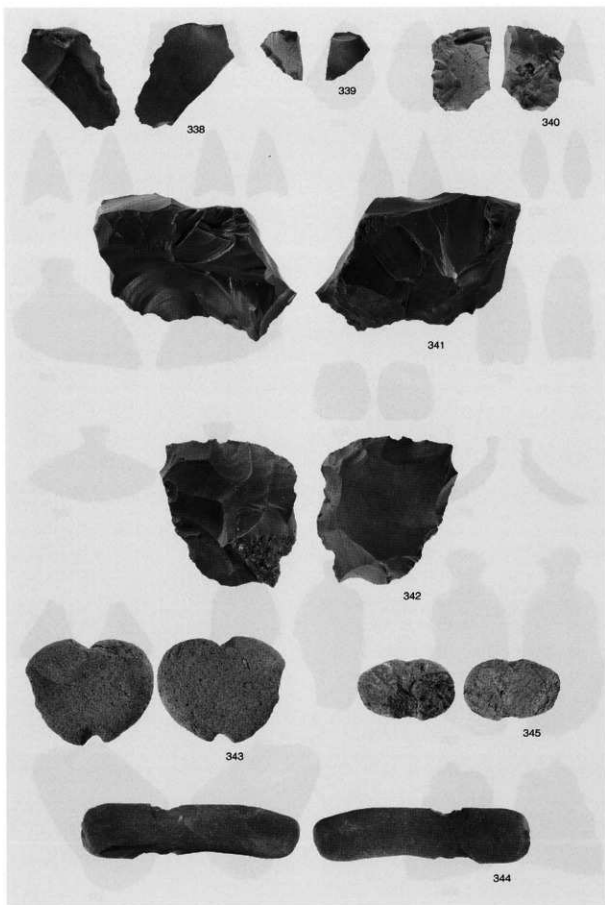


写真図版70 出土遺物 (13)

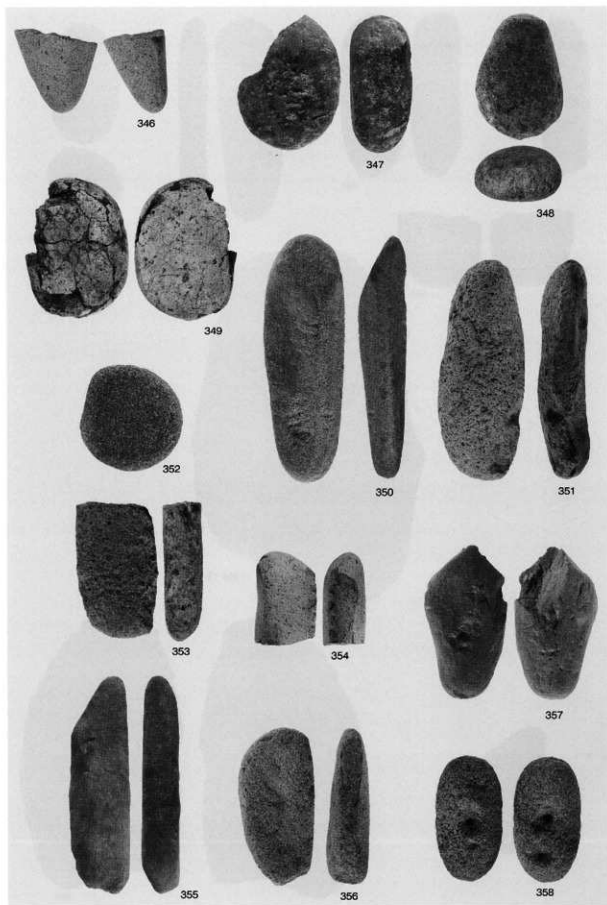


写真図版71 出土遺物 (14)

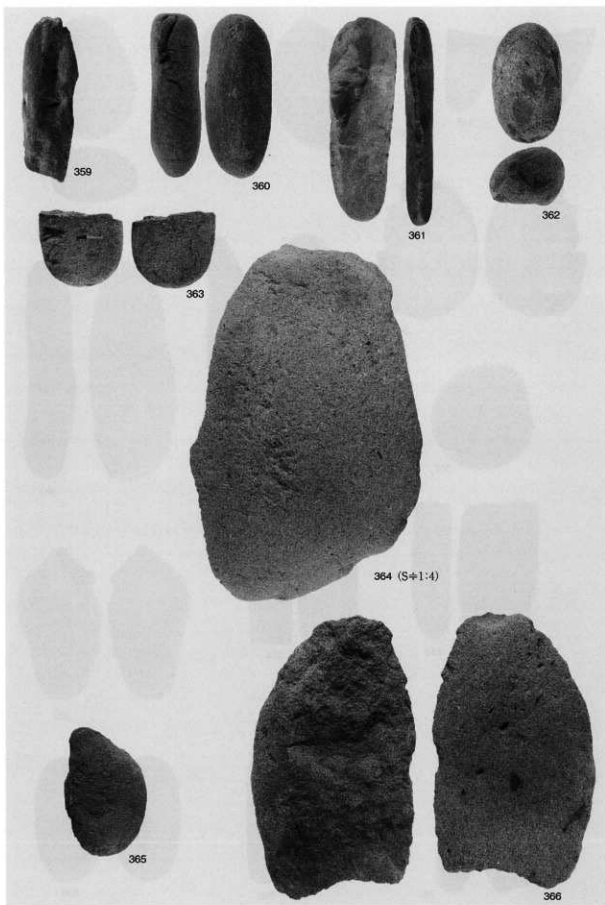




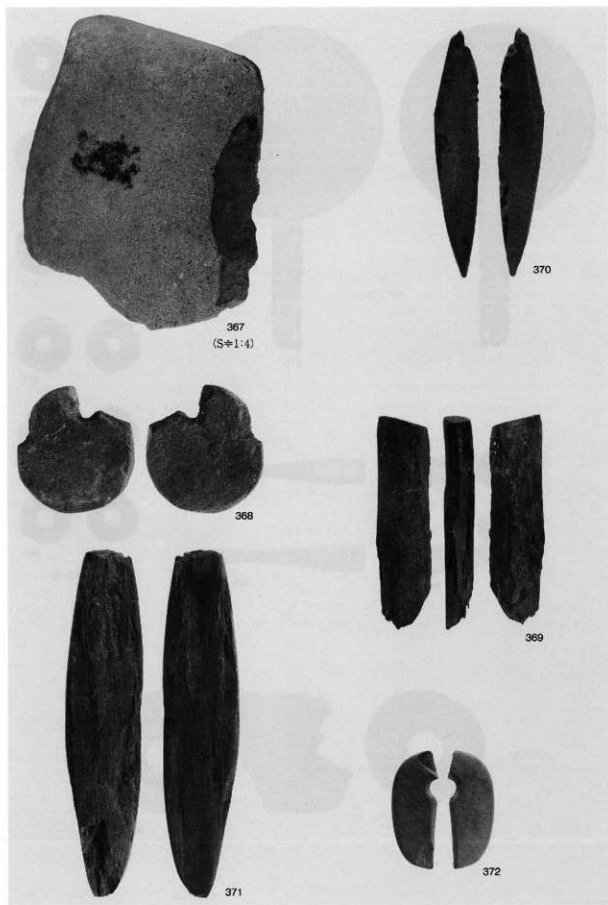
写真図版72 出土遺物 (15)



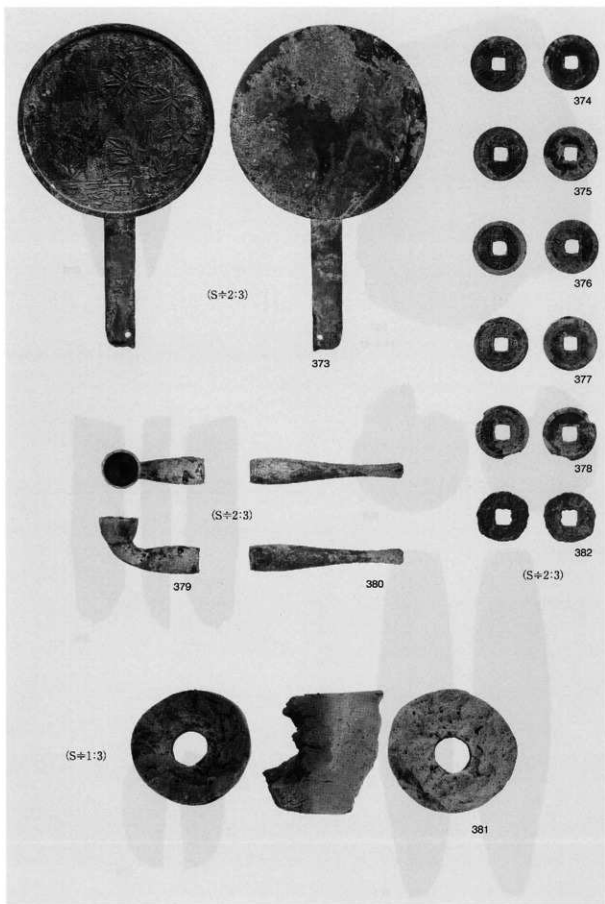
写真図版73 出土遺物 (16)



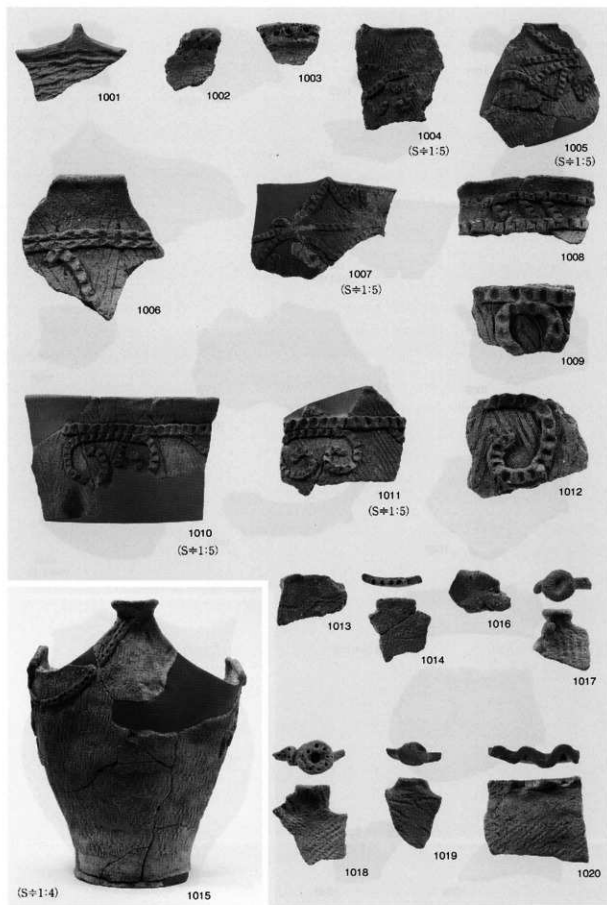
写真図版74 出土遺物 (17)



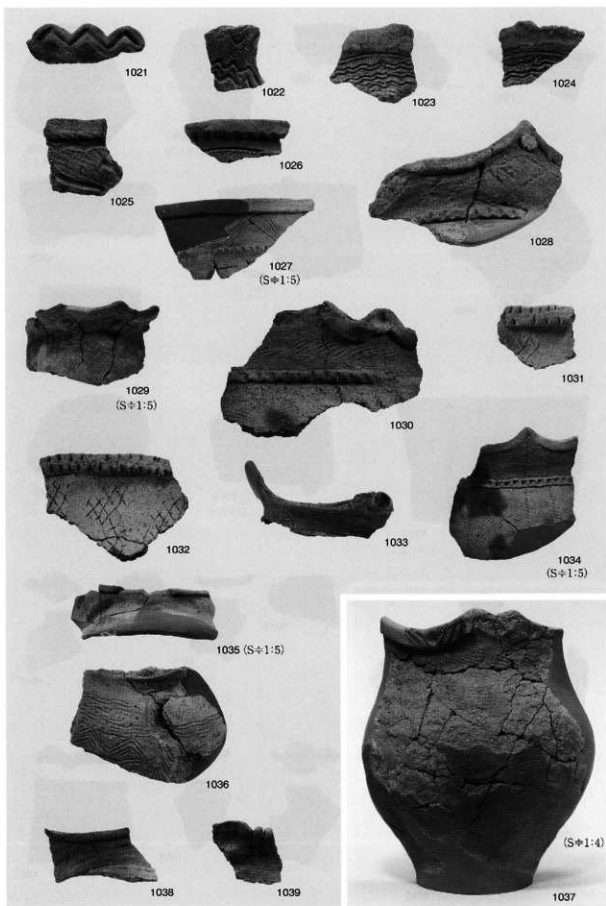
写真図版75 出土遺物 (18)



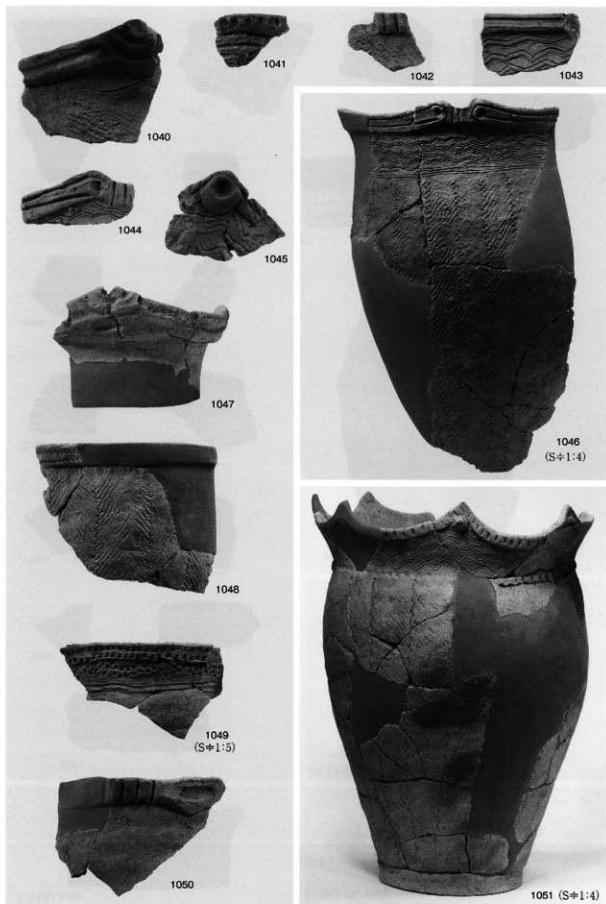
写真図版76 出土遺物 (19)



写真図版77 出土遺物 (20)



写真図版78 出土遺物 (21)

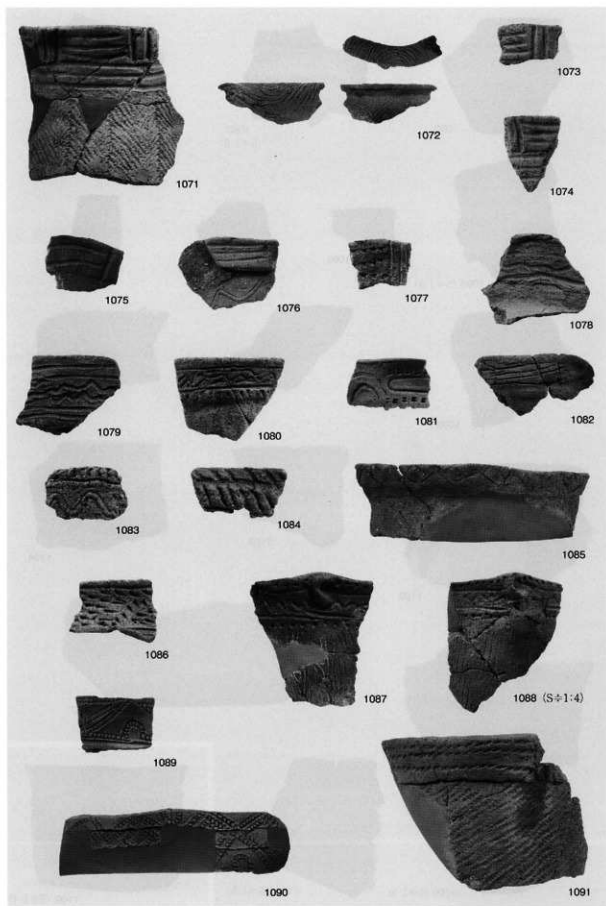


写真図版79 出土遺物 (22)

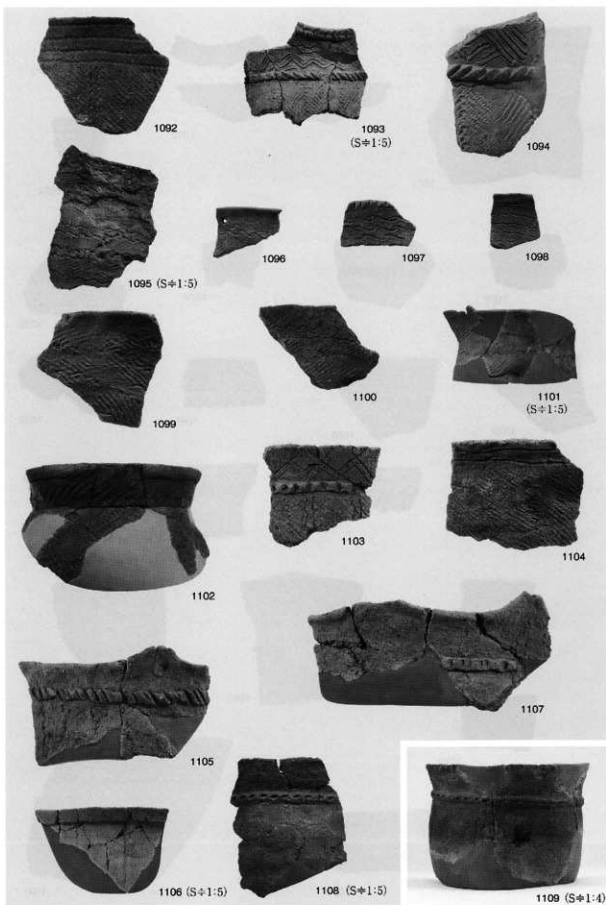




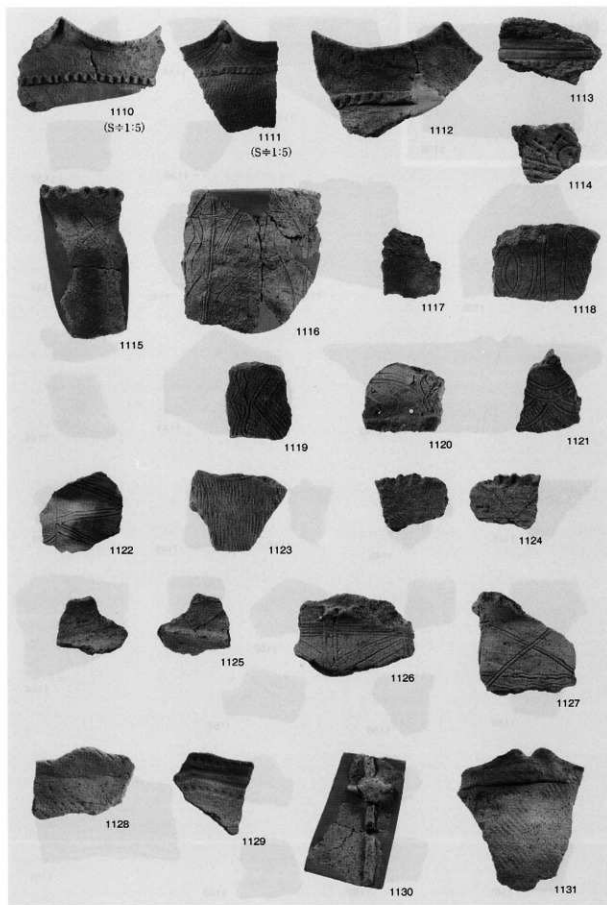
写真図版80 出土遺物 (23)



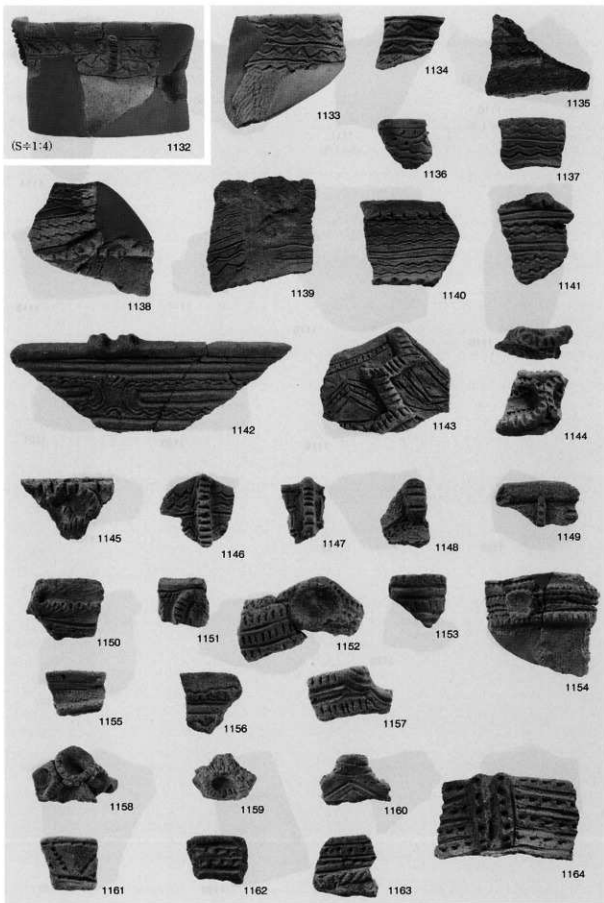
写真図版B1 出土遺物 (24)



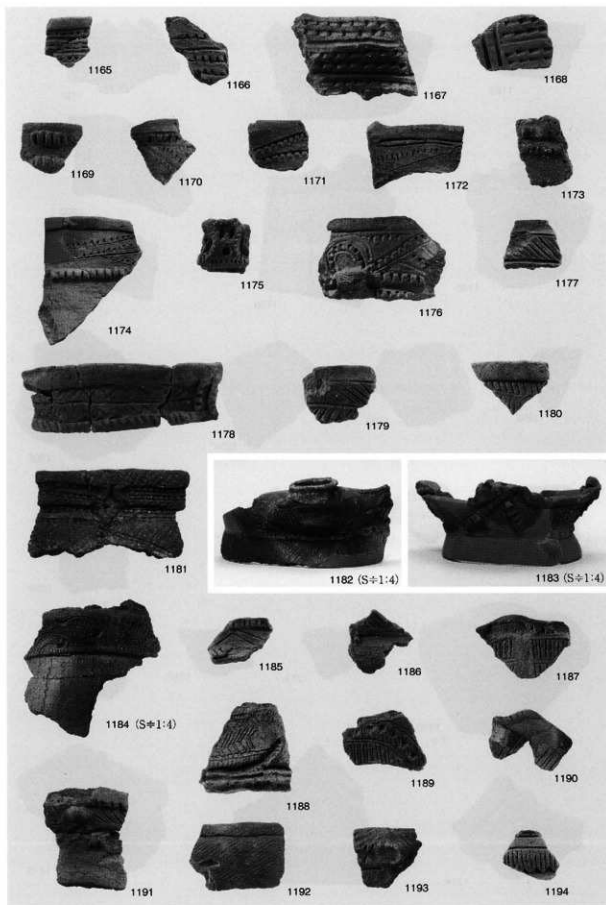
写真図版82 出土遺物 (25)



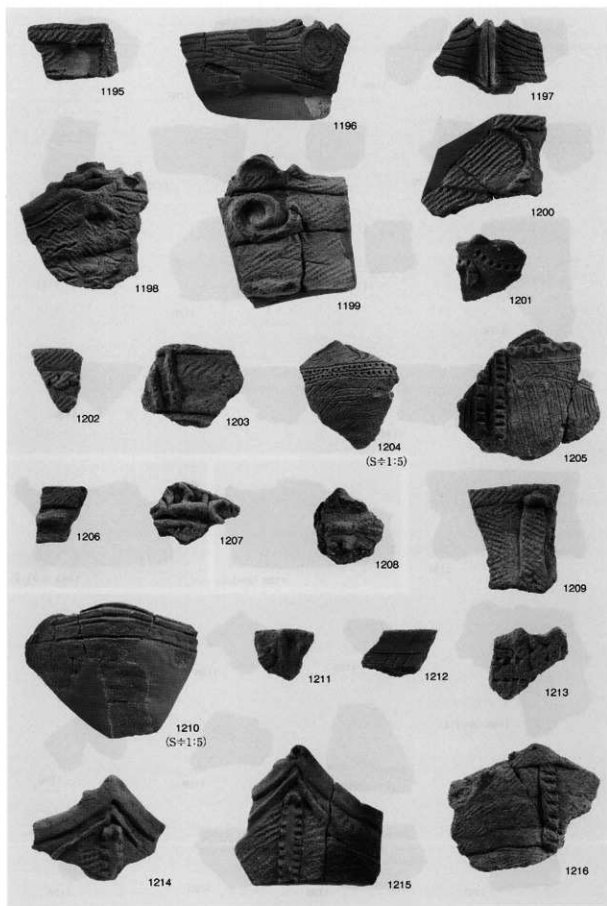
写真図版83 出土遺物 (26)



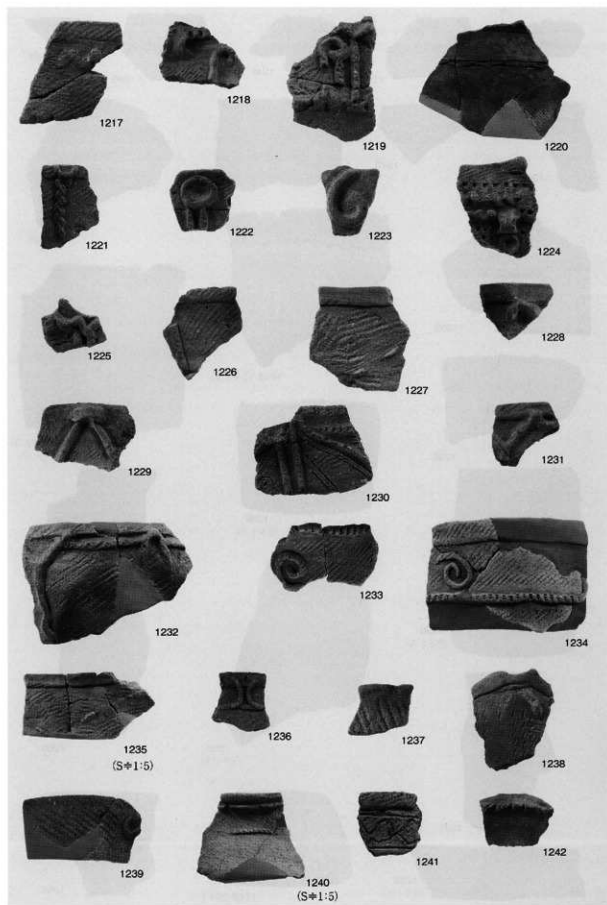
写真図版84 出土遺物 (27)



写真図版85 出土遺物 (28)

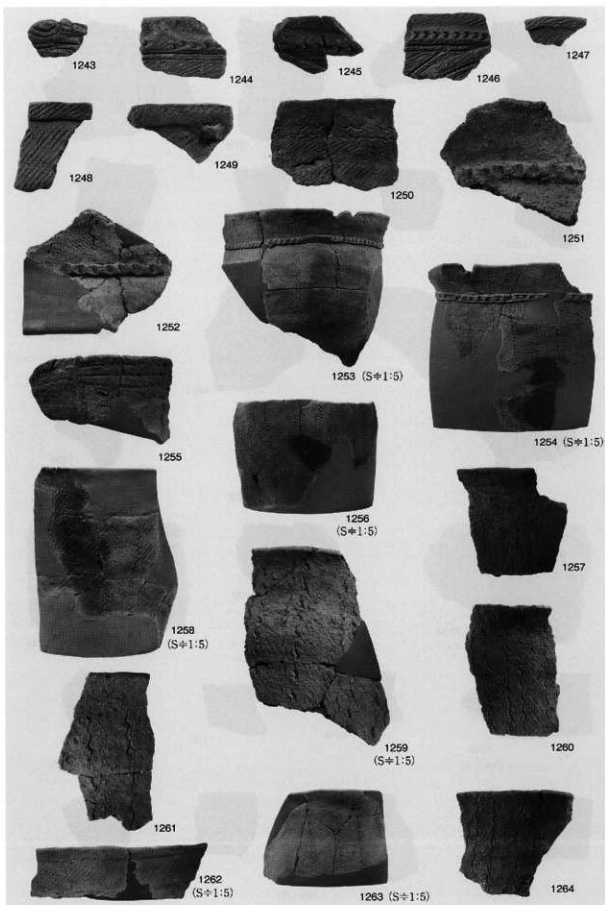


写真図版86 出土遺物 (29)

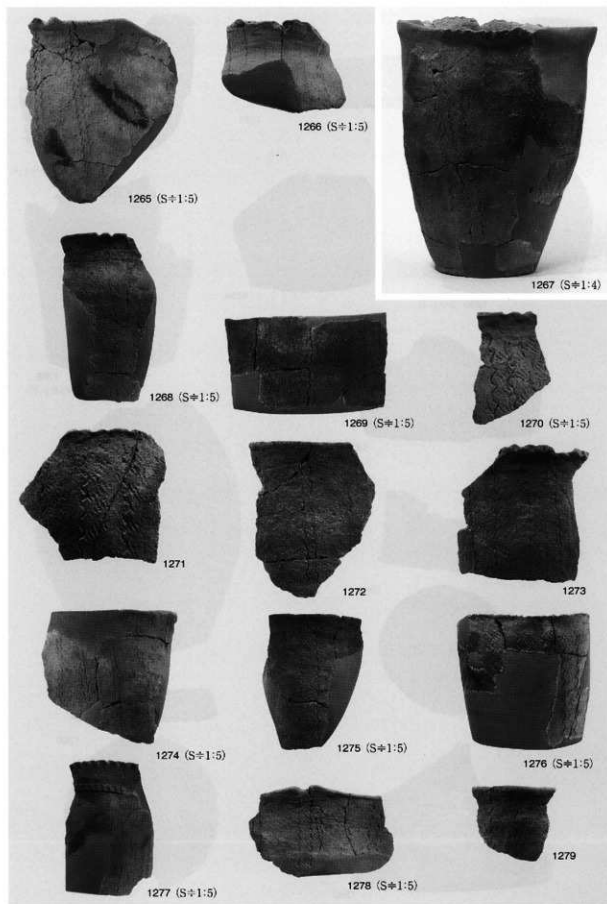


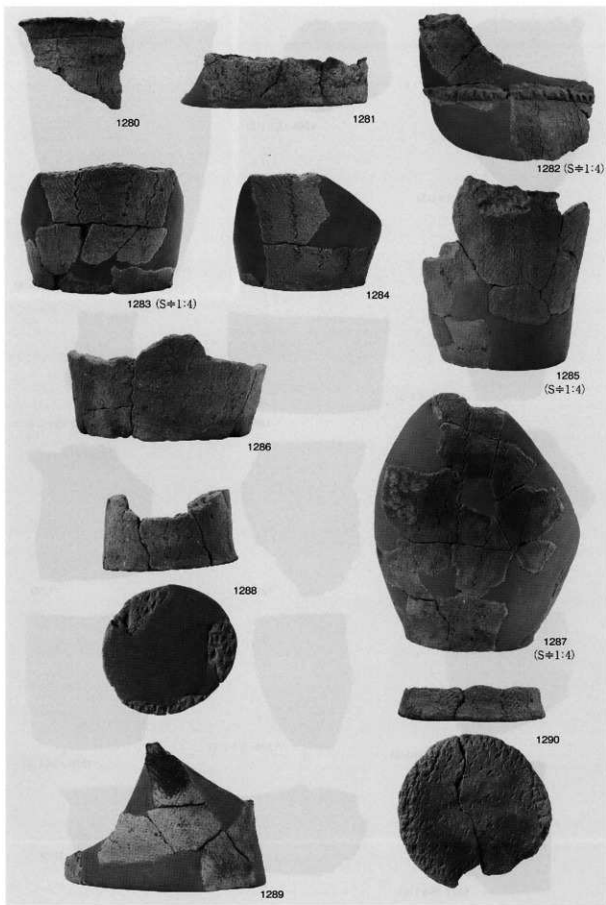
写真図版87 出土遺物 (30)



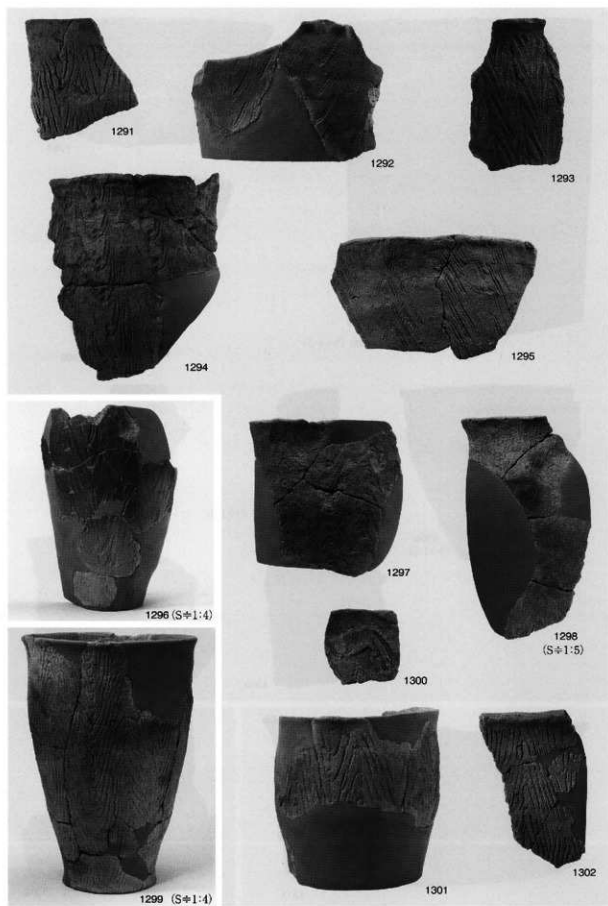


写真図版88 出土遺物 (31)

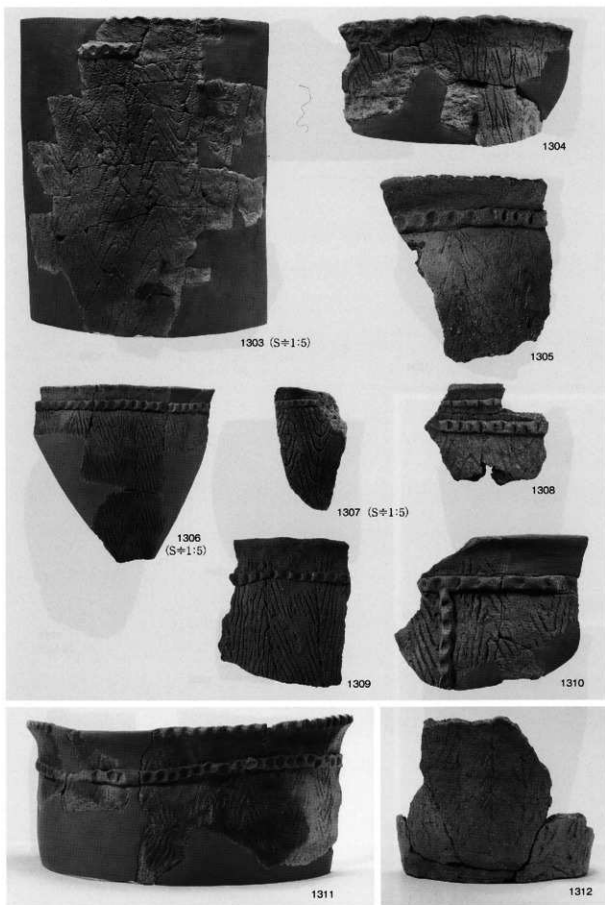




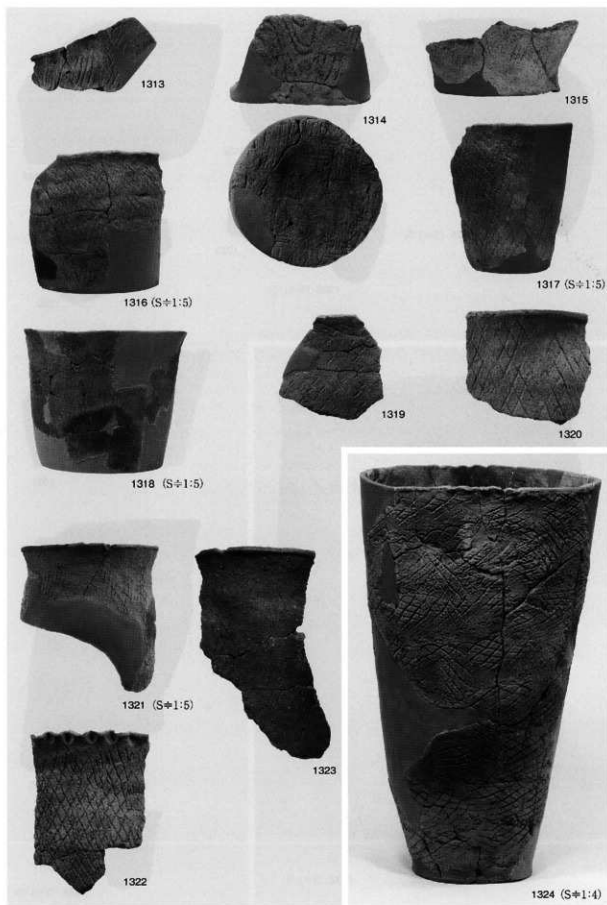
写真図版90 出土遺物 (33)



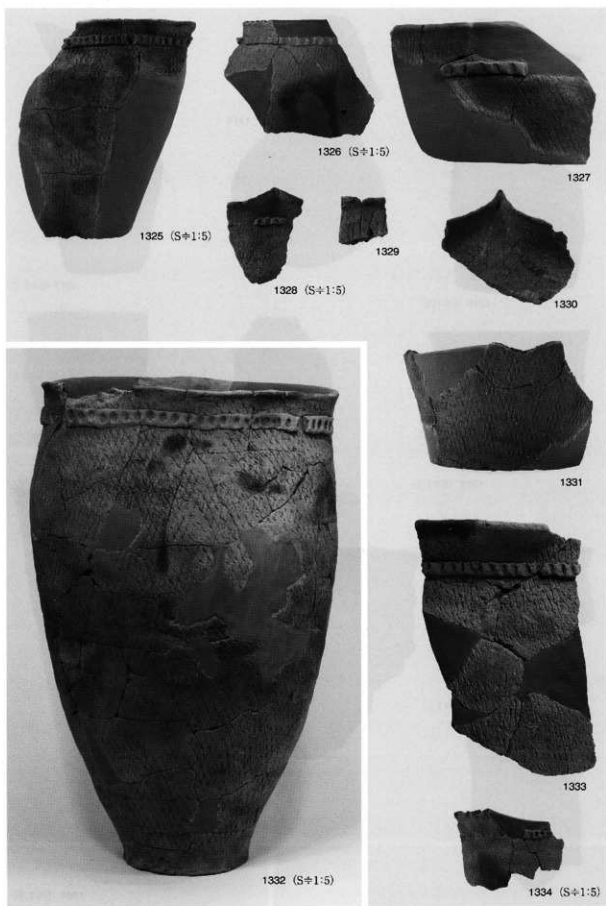
写真図版91 出土遺物 (34)



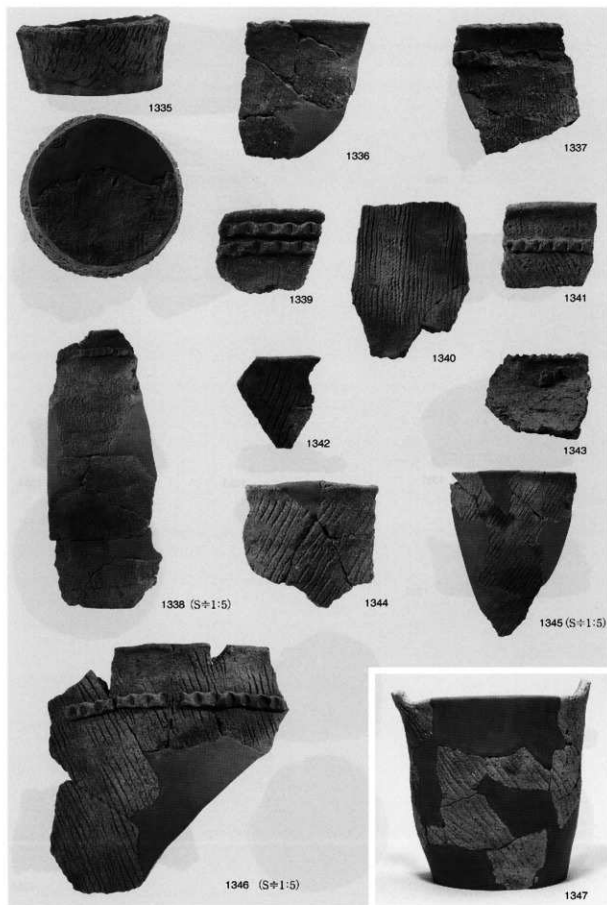
写真図版92 出土遺物 (35)



写真図版93 出土遺物 (36)

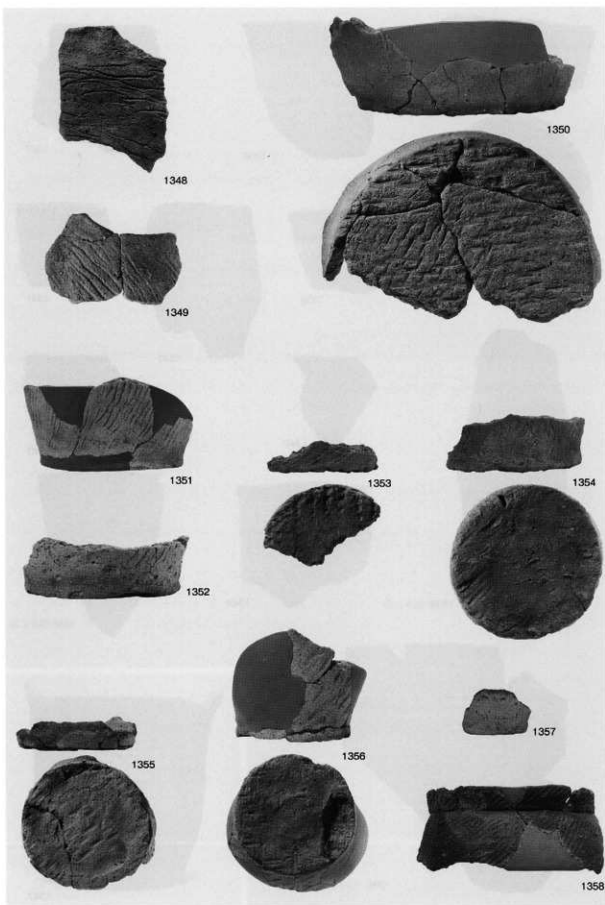


写真図版94 出土遺物 (37)

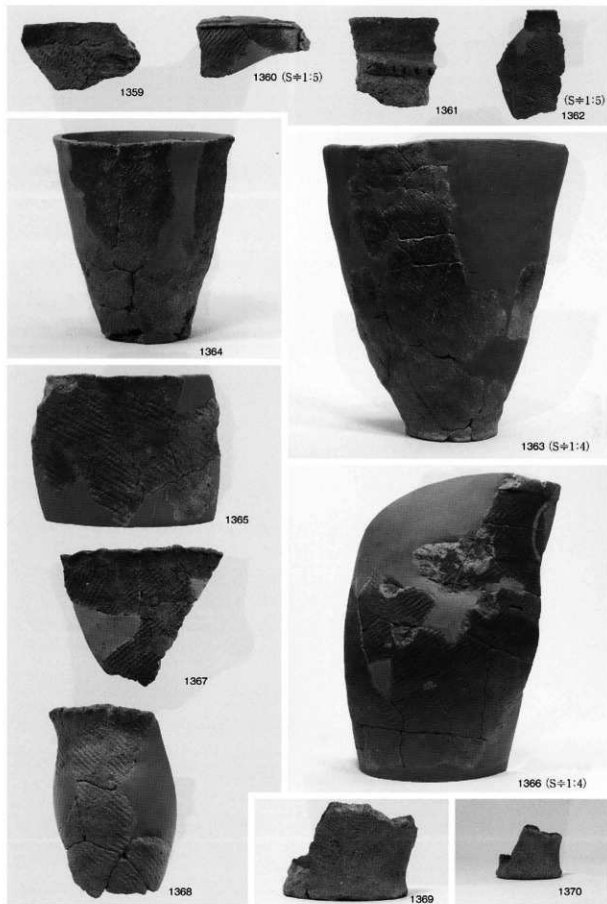


写真図版95 出土遺物 (38)

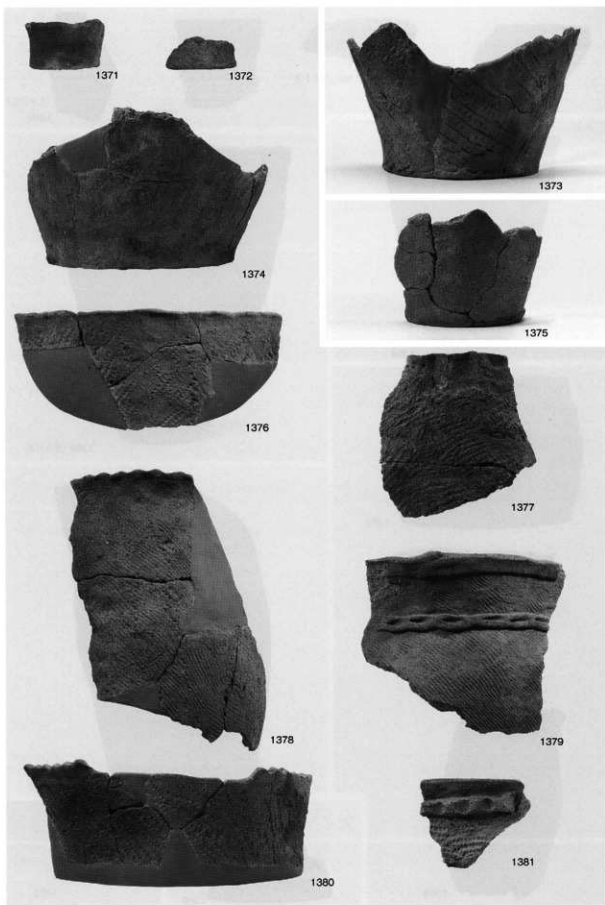




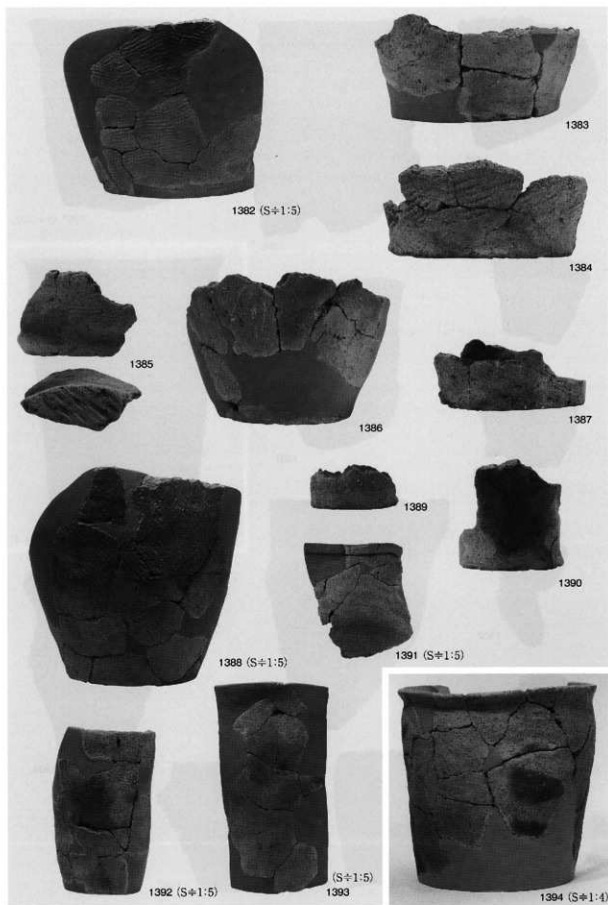
写真図版96 出土遺物 (39)



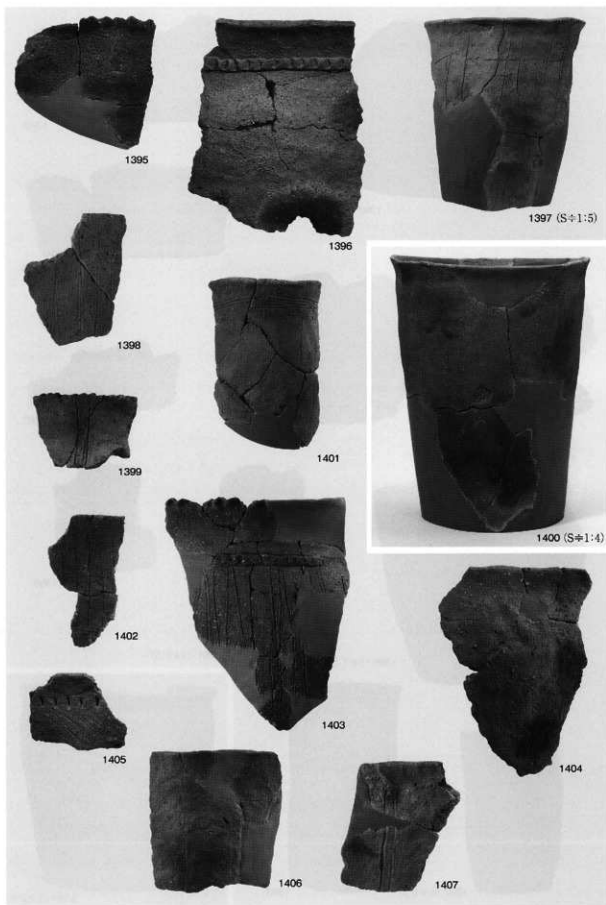
写真図版97 出土遺物 (40)



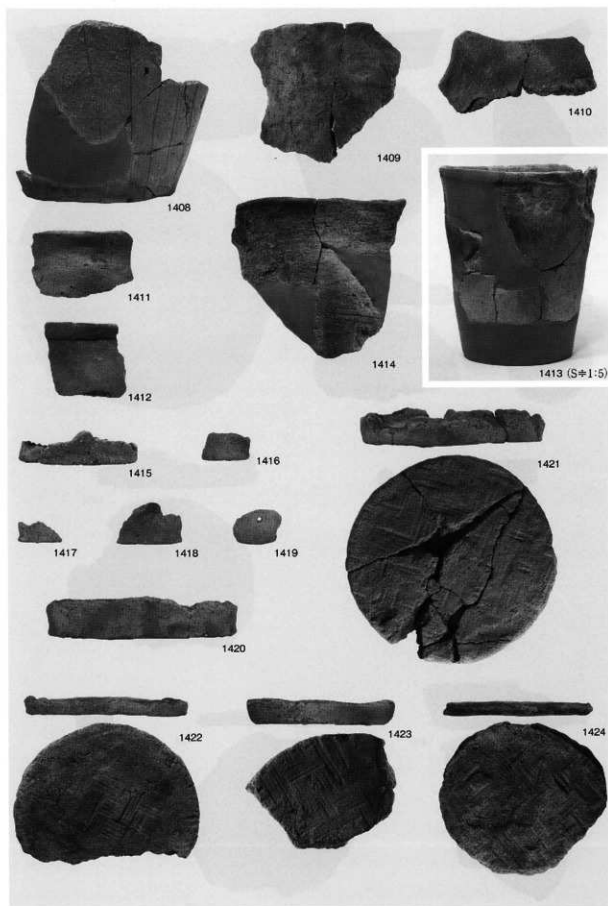
写真図版98 出土遺物 (41)



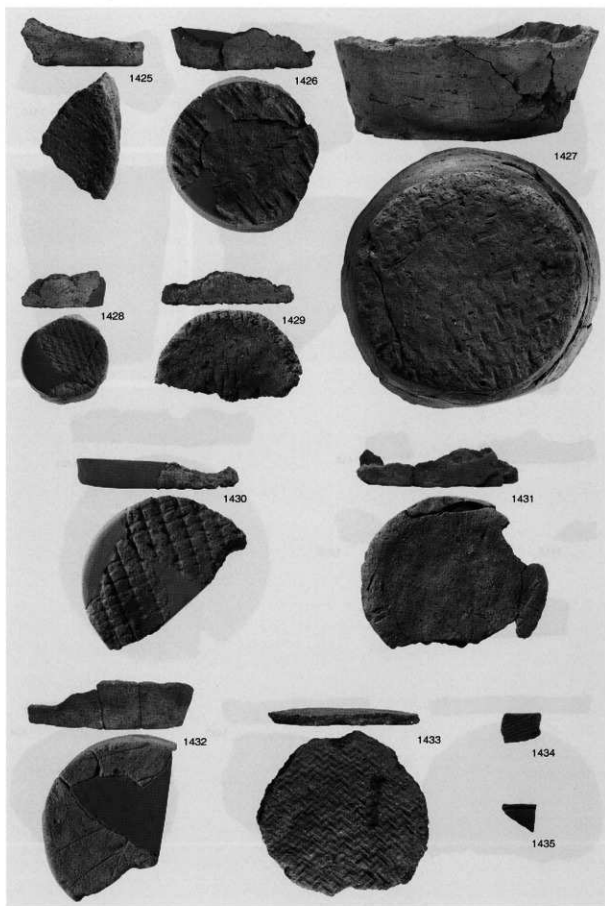
写真図版99 出土遺物 (42)



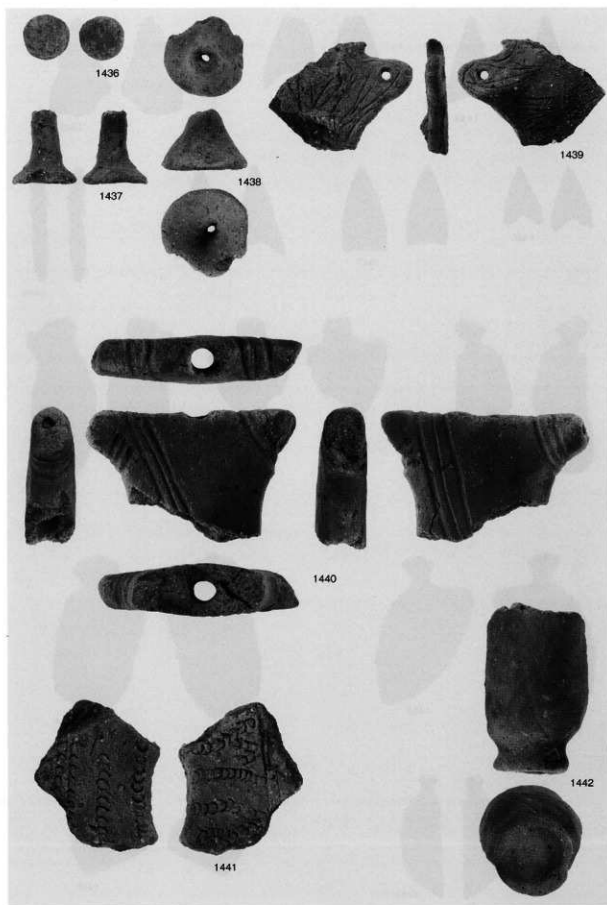
写真図版100 出土遺物 (43)



写真図版101 出土遺物 (44)

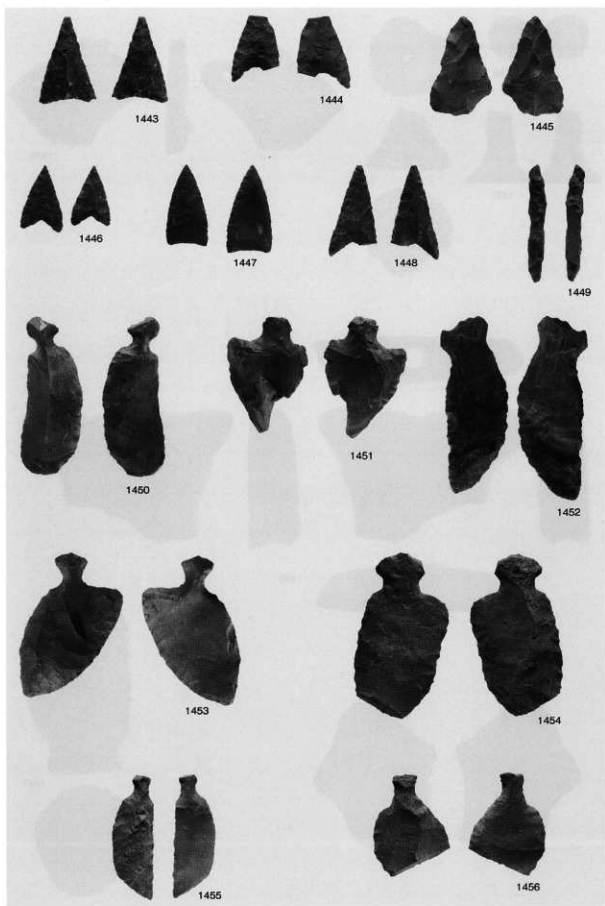


写真図版102 出土遺物(45)

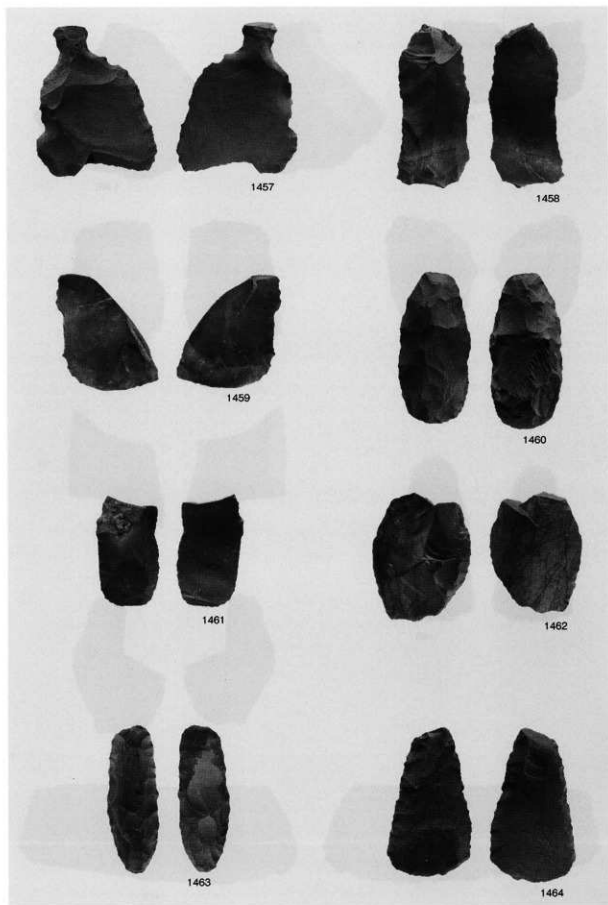


写真図版103 出土遺物 (46)

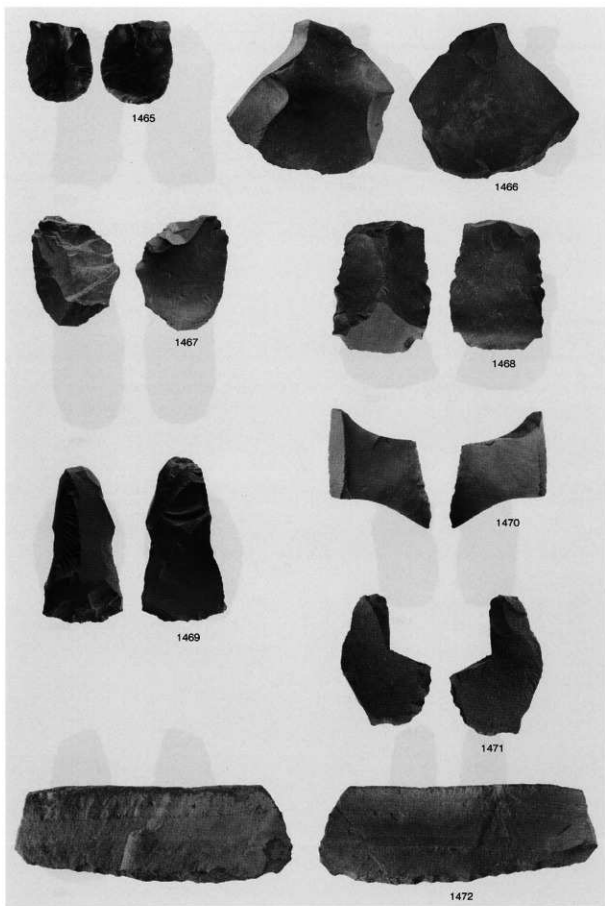




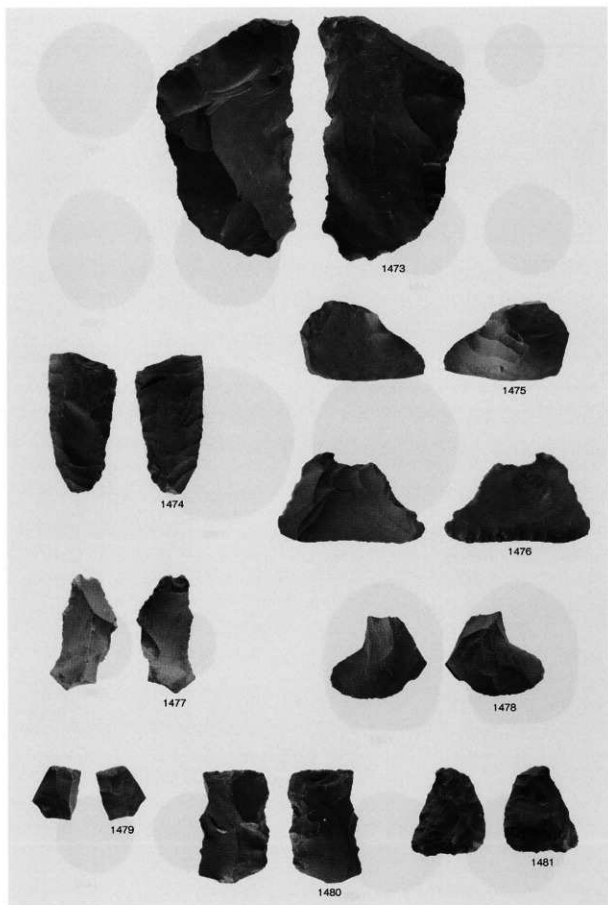
写真図版104 出土遺物 (47)



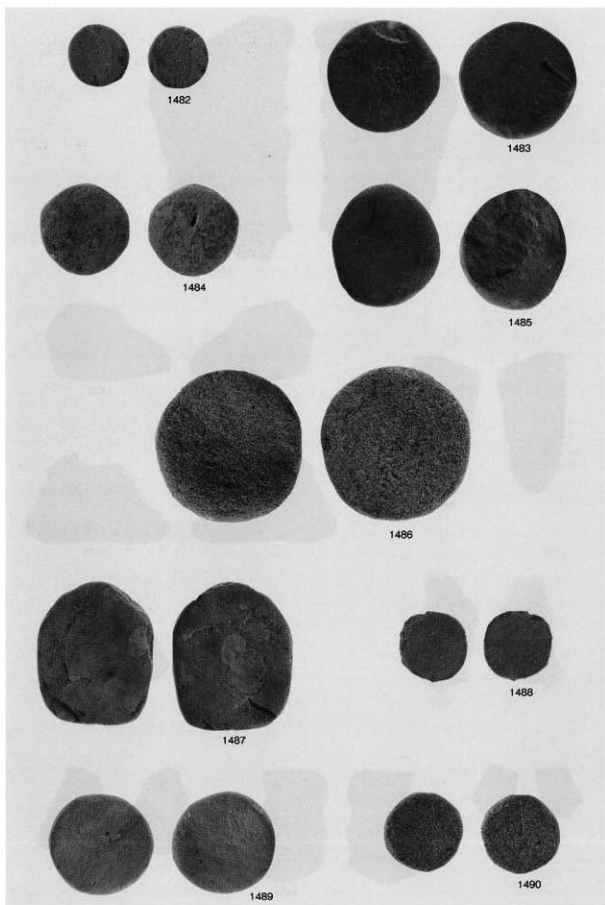
写真図版105 出土遺物 (48)



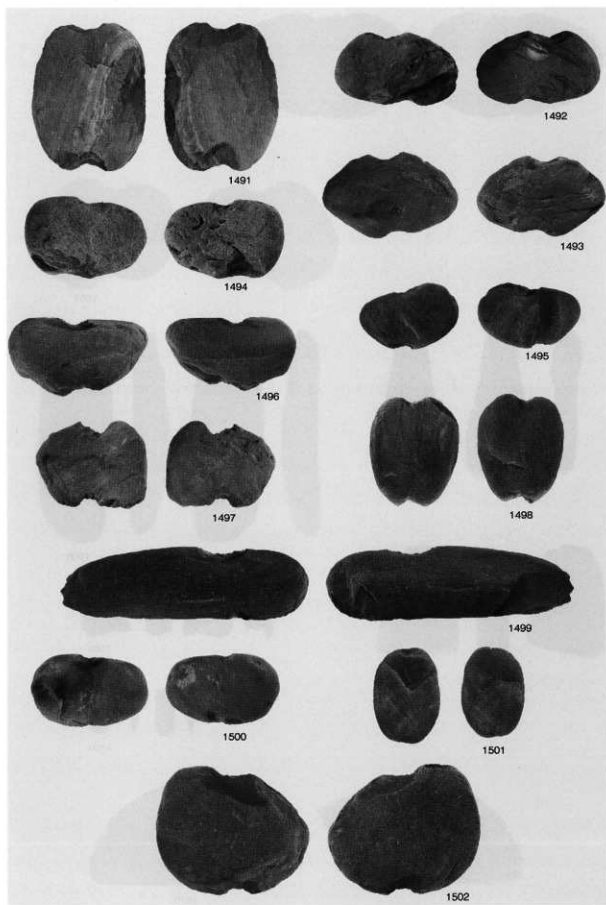
写真図版106 出土遺物 (49)



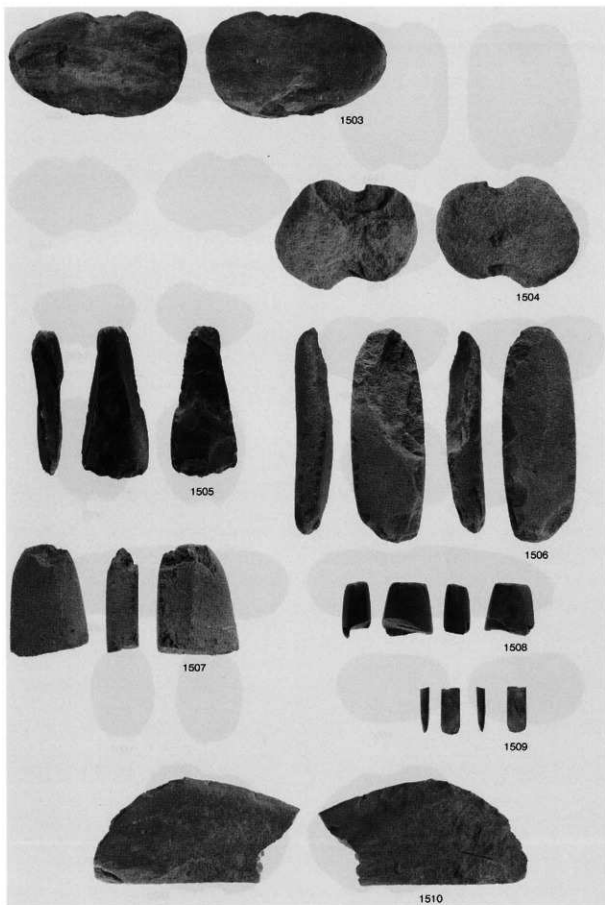
写真図版107 出土遺物 (50)



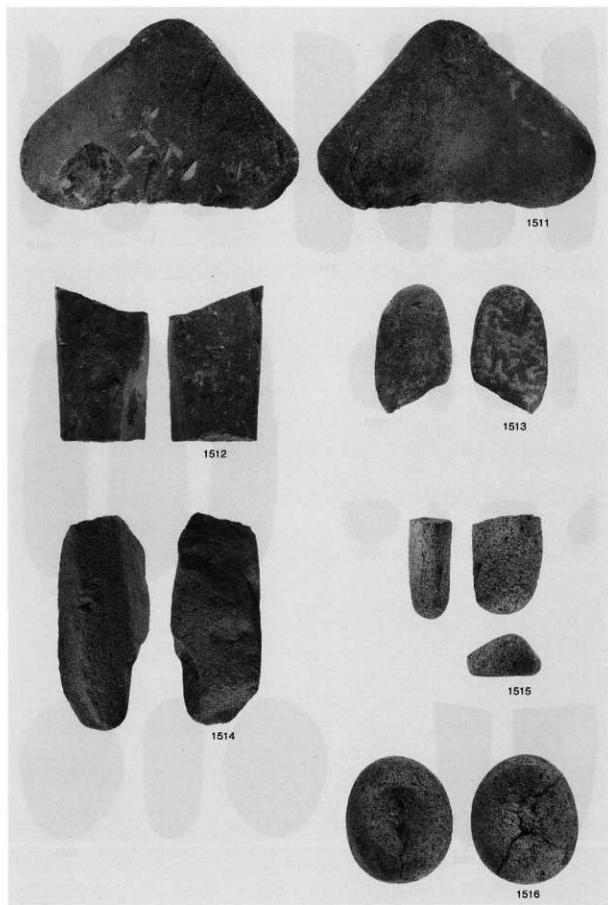
写真図版108 出土遺物 (51)



写真図版109 出土遺物 (52)

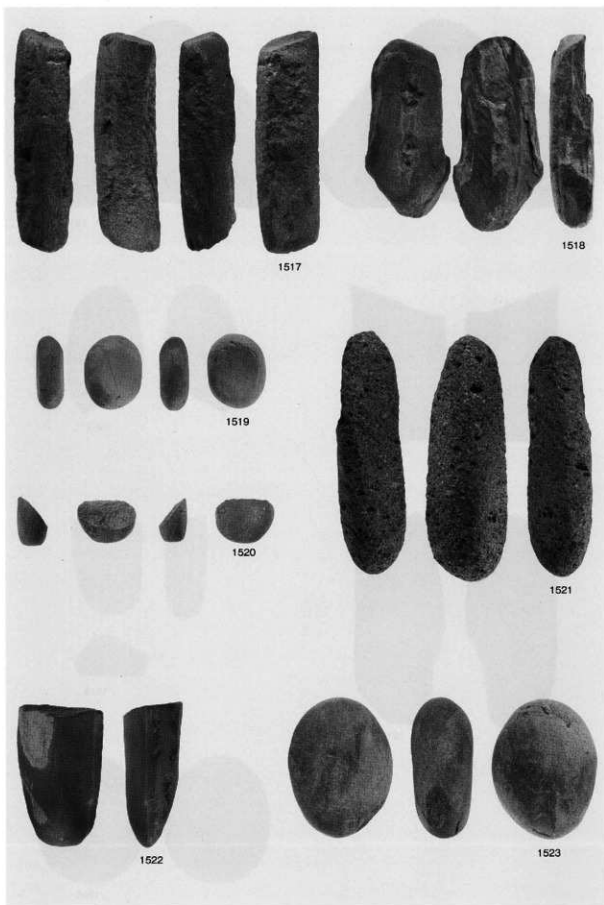


写真図版110 出土遺物 (53)

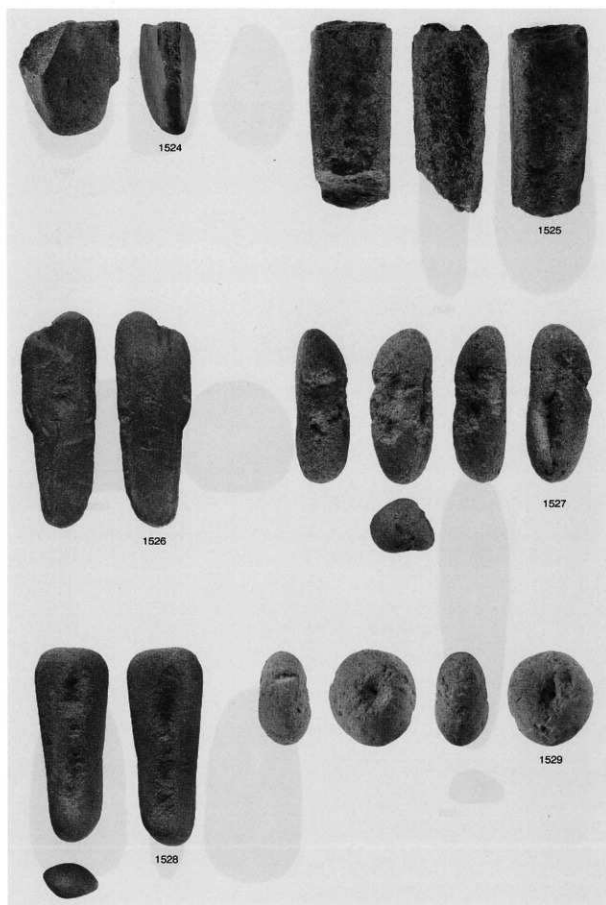


写真図版111 出土遺物 (54)

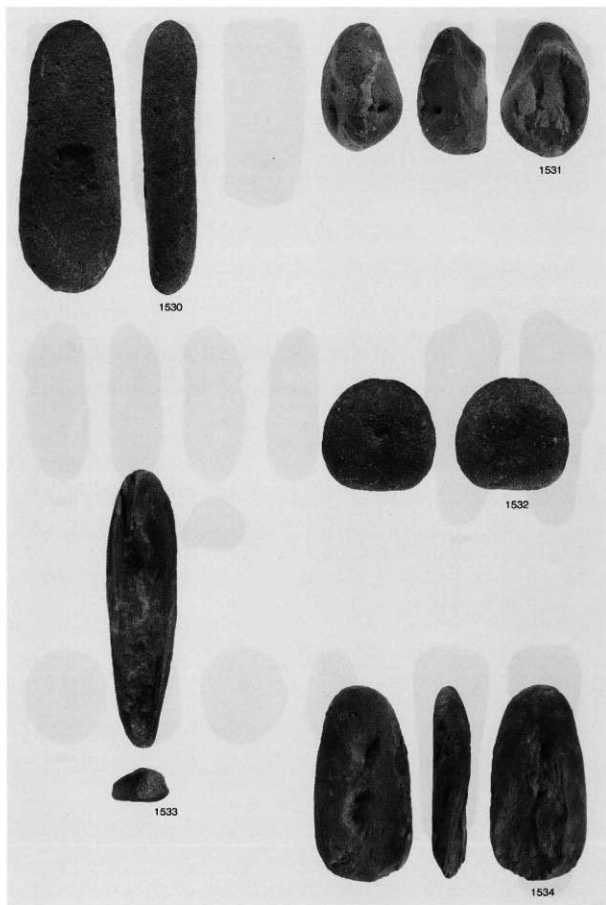




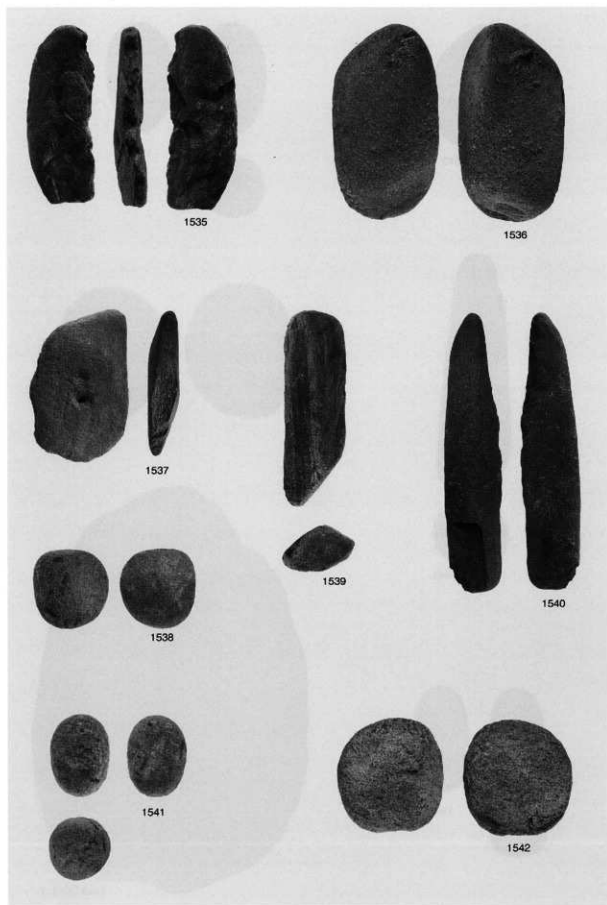
写真図版112 出土遺物 (55)



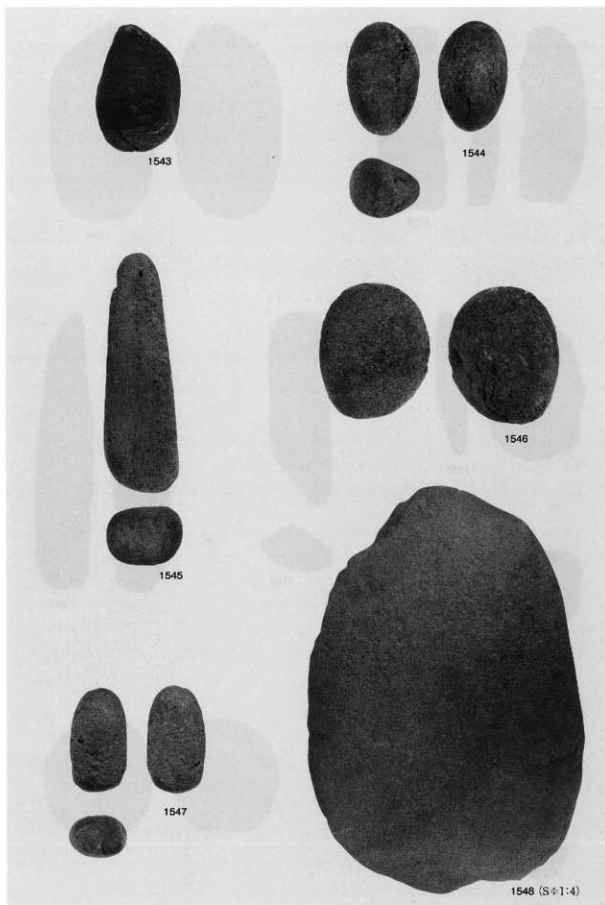
写真図版113 出土遺物 (56)



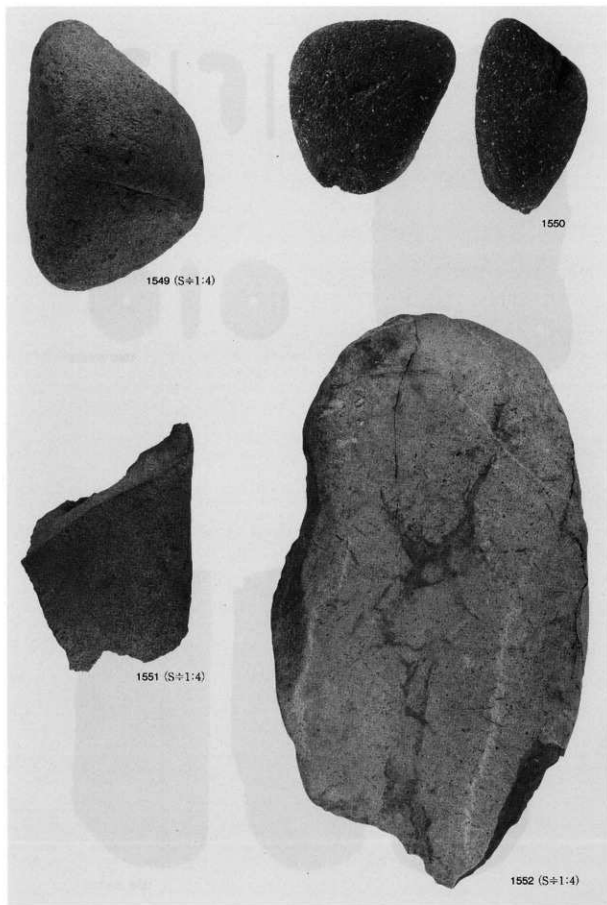
写真図版114 出土遺物 (57)



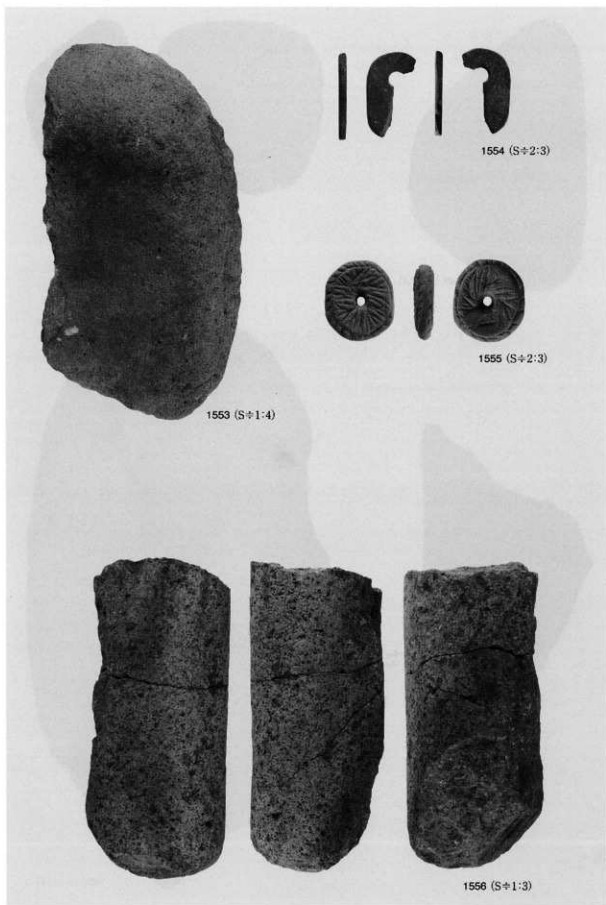
写真図版115 出土遺物 (58)



写真図版116 出土遺物 (59)



写真図版117 出土遺物 (60)



写真図版118 出土遺物 (61)

## 報告書抄録

ふりがな	しもなかい1・2 いせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書						
副書名	中山間地域総合整備事業関連遺跡発掘調査						
巻次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業用歴史文化財調査報告書						
シリーズ番号	第565集						
編著者名	米田 寛						
編集機関	岩手県文化振興事業用歴史文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2011年3月9日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
下中居Ⅰ遺跡	岩手県花巻市大迫町字外 川目第28地割125-1ほか	03205 MF00-1013	39度 27分 2秒	141度 17分 52秒	2008.07.01 ～ 2008.11.17	3,490㎡	中山間地域総合整備事業
下中居Ⅱ遺跡	岩手県花巻市大迫町字外 川目第28地割132-2ほか	MF00-1025	39度 27分 1秒	141度 17分 50秒	2008.07.01 ～ 2008.11.17	560㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
下中居Ⅰ遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 土坑 埴土遺構	5棟 17基 2基	縄文土器、土偶、耳筒、石製ペンダント、石鏃、石匙、敲着器、石皿など		縄文時代前期末～中期初頭の集落跡で大木6～7式土器が出土した。
		中世～ 近世初頭	竪穴建物跡	3棟	永楽通宝		
		近世以降	近世墓壇 掘立柱建物跡 柱穴列 土坑 探掘坑 土坑	12基 2棟 1条 2基 9基 19基	寛永通宝、銅鏡、キセル		
		不明					
下中居Ⅱ遺跡	集落跡	縄文	捨て場遺構	1ヵ所			
要約	下中居川東岸の河岸段丘面上に立地する。縄文時代前期末～中期初頭にかけての集落跡、中世～近世初頭の竪穴建物跡、近世以降の墓壇跡と探掘坑群などの調査を行った。縄文時代には、下中居Ⅰ遺跡は居住域、下中居Ⅱ遺跡は廃棄場であった。中世以降は旧道野街に沿いの村落であったと考えられる。						



---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第565集

**下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書**

中山間地域総合整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成23年3月4日

発行 平成23年3月9日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発行 岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センター  
〒024-8520 岩手県北上市芳町2-8  
電話 (0197) 65-5650

(財)岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印刷 杜陵高速印刷株式会社  
〒020-0811 岩手県盛岡市川目町23番2号  
電話 (019) 651-2110

---

